

高齢者保健福祉に関する調査
報告書

平成 29 年 3 月

愛知県 小牧市

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 調査期間.....	1
4. 調査方法.....	1
5. 回収状況.....	1
6. 調査結果の表示方法	1
II. 調査のまとめ	2
1. 一般高齢者実態調査	2
(1) 生活の状況.....	2
(2) 健康状態や健康についての関心.....	2
(3) 暮らし向きや生きがい	3
(4) 認知症について	4
(5) 介護が必要になった時の不安等（在宅医療、在宅介護）	4
2. 介護保険認定者実態調査	5
(1) 要介護者（認定者本人）の状況.....	5
(2) 介護保険サービスの利用状況や今後の利用意向	5
(3) その他のサービス等について.....	6
(4) 介護者.....	7
III. 一般高齢者実態調査	9
1. 回答者の属性.....	9
(1) 調査票の回答者（Q1）	9
(2) 本人の性別（Q2）	9
(3) 年齢構成（Q3）	10
(4) 住まいの小学校区（Q4）	10
(5) 世帯の人数（Q5）	11
(6) 同居者（Q6）	11
(7) 同居の状況（Q6-1）	12
(8) 居住形態（Q7）	12

2. 生活の状況..... 13

(1)	1週間あたりの外出頻度 (Q8)	13
(2)	外出を控えている理由 (Q8-1)	14
(3)	外出の目的 (Q8-2)	15
(4)	外出する際の移動手段 (Q9)	16
(5)	近所づきあいの程度(近くに住む家族・親戚を含む) (Q10)	17
(6)	何かあったときの相談 (Q11)	17
(7)	相談相手 (Q11-1)	18
(8)	過去1年間の特定健診・がん検診・人間ドックについて (Q12)	19
(9)	現在の健康状態 (Q13)	19
(10)	普段の生活での介護・介助について (Q14)	20
(11)	治療中の病気・症状 (Q15)	21
(12)	医師の治療の受け方 (Q15-1)	22
(13)	通院、往診の頻度 (Q15-1-1)	22
(14)	自分の「歯」の本数 (Q16)	23
(15)	歯や口の中の状態 (Q17)	24
(16)	毎日の歯みがきの有無 (Q18)	24
(17)	定期的な歯科検診の受診有無 (Q19)	25
(18)	定期的な歯石除去や歯面掃除 (Q20)	25
(19)	歯や口の中の治療有無 (Q21)	25
(20)	入れ歯の有無 (Q22)	26
(21)	入れ歯の噛み合わせ (Q22-1)	26
(22)	1日の食事回数 (Q23)	27
(23)	誰かと食事をともにする頻度 (Q24)	27
(24)	健康についての考え方 (Q25)	28
(25)	介護を受けなくてもよい生活(介護予防)のために強化する必要があるもの (Q26)	28

3. 暮らし向きや仕事や生きがいについて..... 29

(1)	収入について (Q27)	29
(2)	経済的にみた暮らしの状況 (Q28)	29
(3)	収入を得る仕事の有無 (Q29)	30
(4)	働いている理由 (Q29-1)	31
(5)	仕事をしたいか (Q29-2)	32
(6)	シルバー人材センターへの登録の有無 (Q30)	33
(7)	シルバー人材センターへ登録したいと思わない理由 (Q30-1)	33
(8)	楽しみや生きがいを感じていること (Q31)	34
(9)	今後、やってみたいこと (Q32)	36
(10)	老人クラブの加入の有無 (Q33)	37
(11)	老人クラブに加入していない理由 (Q33-1)	38
(12)	日常生活において感じる不安 (Q34)	40
(13)	ボランティアに求めたい手助け (Q35)	41
(14)	市内にあるサロンの参加の有無 (Q36)	42
(15)	市内のサロンの企画・運営へのかかわり (Q37)	42
(16)	「介護ボランティアポイント制度」の参加希望の有無 (Q38)	43
(17)	現在の幸福度 (Q39)	43

4. 在宅医療や介護について	44
(1) かかりつけ医の有無 (Q40)	44
(2) かかりつけ医のいない理由 (Q40-1)	45
(3) 認知症についてどの程度知っているか (Q41)	45
(4) 自身や家族が認知症になったとき (Q42)	46
(5) 認知症に気づいたときに、家族・親戚・知人以外で最初に相談する先 (Q43)	46
(6) 「在宅医療」の認知度 (Q44)	47
(7) 「在宅療養支援診療所」の認知度 (Q45)	47
(8) 在宅医療を利用したい環境について (Q46)	48
(9) 在宅医療を利用する場合の不安について (Q47)	49
(10) 介護が必要になったときに望む介護の方法 (Q48)	50
(11) 介護が必要になったときに、自宅で生活するために必要な支援 (Q49)	51
(12) 介護が必要になったときに、自宅で暮らし続けるために必要な整備 (Q50)	52
(13) 最期を迎えたい場所 (Q51)	53
(14) 介護保険料について (Q52)	53
(15) 現在、生活するうえで困っていること (Q53)	54
(16) 介護について、悩みを気軽に相談できる人や場所の有無 (Q54)	54
(17) 「地域包括支援センター」の認知度 (Q55)	55
(18) 担当の地域包括支援センターの認知度 (Q56)	55
(19) 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務の認知度 (Q56-1)	56
(20) 「日常生活自立支援事業」の認知度 (Q57)	58
(21) 高齢者虐待に関して、相談する機関 (Q58)	58
(22) 災害時の緊急避難場所の認知度 (Q59)	59
(23) 災害時の避難行動要支援者台帳への登録の有無 (Q60)	59
(24) 小牧市の保健・福祉サービスについて (Q61)	60

IV. 介護保険認定者実態調査

64

1. 回答者の属性

64

(1) 調査票の回答者 (Q1)	64
(2) 本人の性別 (Q2)	65
(3) 年齢構成 (Q3)	67
(4) 住まいの小学校区 (Q4)	68
(5) 同居者 (Q5)	69
(6) 同居の状況 (Q5-1)	70
(7) 居住形態 (Q6)	71

2. 生活の状況

72

(1) 1週間あたりの外出頻度(デイサービス等も含む) (Q7)	72
(2) 外出を控えている理由 (Q7-1)	74
(3) 近所づきあいの程度(近くに住む家族・親戚を含む) (Q8)	76
(4) 悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)の有無 (Q9)	79
(5) 具体的な相談相手・場所(機関) (Q9-1)	80
(6) 介護が必要となった原因 (Q10)	81
(7) 現在と1年前の要介護度 (Q11、Q12)	83
(8) 治療中の病気・症状 (Q13)	86

(9)	治療状況 (Q13-1)	89
(10)	自分の「歯」の本数 (Q14)	90
(11)	歯や口の中の状態 (Q15)	91
(12)	定期的な歯科検診の受診有無 (Q16)	93
(13)	服薬状況と薬の管理状況 (Q17、Q17-1、Q17-2)	94
(14)	1日の食事回数 (Q18)	97
(15)	誰かと食事をともにする頻度 (Q19)	98
(16)	身体状況が悪化した場合に望む、介護の方法 (Q20)	99
(17)	現在の幸福度 (Q21)	101

3. 介護サービスの利用などについて..... 102

(1)	介護者が一時的に不在の場合の対処法 (Q22)	102
(2)	特別養護老人ホーム等の施設への入所申し込み状況 (Q23、Q23-1)	104
(3)	居宅(在宅)介護サービスの利用有無 (Q24)	107
(4)	介護保険サービスの満足度 (Q24-1)	108
(5)	介護保険サービスを利用していない理由 (Q24-2)	109
(6)	夜間・早朝の訪問サービスの利用意向 (Q25)	111
(7)	今後利用したい介護サービス (Q26)	112
(8)	今後利用したい訪問介護(ホームヘルプサービス)の具体的内容 (Q26-1)	114
(9)	収入源 (Q27)	115
(10)	介護費用の負担状況 (Q28)	116
(11)	介護保険料について (Q29)	117
(12)	「地域包括支援センター」の認知度 (Q30)	118
(13)	住まいの地域を担当している地域包括支援センターの認知度 (Q31)	119
(14)	地域包括支援センターの高齢者に対する各業務の認知度 (Q31-1)	120

4. 介護保険サービス以外の保健・福祉サービスについて..... 123

(1)	保健・福祉サービスの今後の利用意向 (Q32)	123
(2)	生活上で困っていること (Q33)	128
(3)	ボランティアに手助けしてほしいこと (Q34)	130
(4)	自宅で暮らし続けていくために、充実する必要があるもの (Q35)	132
(5)	市内のサロンへの参加経験 (Q36)	133
(6)	市内のサロンへの参加意向 (Q37)	133
(7)	日常生活自立支援事業の利用・認知度 (Q38)	134
(8)	かかりつけ医の有無と、かかりつけ医がない理由 (Q39、Q39-1)	134
(9)	在宅医療の認知度 (Q40)	135
(10)	在宅療養支援診療所の認知度 (Q41)	135
(11)	在宅医療利用にあたって整ってほしい環境 (Q42)	136
(12)	在宅医療を利用する場合の不安要素 (Q43)	137
(13)	災害時の緊急避難場所の認知度 (Q44)	139
(14)	災害時の避難行動要支援者台帳への登録状況 (Q45)	140
(15)	最期を迎えたい場所 (Q46)	141

5. ケアマネジャー(居宅サービス計画をつくる人)について.....	142
(1) ケアマネジャー・居宅サービス計画に関する満足度 (Q47)	142
(2) ケアマネジャー・居宅サービス計画に「満足・やや満足」と思う理由 (Q47-1)	143
(3) ケアマネジャーによる、介護サービス以外の福祉サービスの提案有無 (Q48)	144
(4) ケアマネジャーの訪問頻度 (Q49)	144
6. 主な家族介護者について.....	145
(1) 主な家族介護者と本人との続柄 (Q50)	145
(2) 主な家族介護者の性別 (Q51)	146
(3) 主な家族介護者の年齢 (Q52)	146
(4) 主な家族介護者と本人の同居状況 (Q53)	147
(5) 主な家族介護者の仕事の有無 (Q54)	148
(6) 介護のための、働き方の調整状況 (Q54-1)	149
(7) 今後、働きながら介護を続けられるか (Q54-2)	151
(8) 介護のために離職・転職した経験の有無 (Q55)	152
(9) 家族や親族による介護頻度(同居していない子どもや親族等からの介護を含む) (Q56)	153
(10) 居宅サービス利用による、主な家族介護者の生活の変化 (Q57)	154
(11) 介護を身近にサポートしてくれる人の有無 (Q58)	155
(12) 介護者向けサービスや活動の、現在の利用状況と今後の利用意向 (Q59)	155
(13) 介護者に必要な支援 (Q60)	157

資料編

- (1) 一般高齢者調査票
- (2) 介護保険認定者調査票

1. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、平成 30 年度を初年度とする第 7 次小牧市高齢者保健福祉計画を策定するにあたって、市民の生活状況や要望等を把握し、計画の基礎資料とするものです。

2. 調査対象

一般高齢者実態調査：65 歳以上で介護保険の要介護認定を受けていない方 2,000 人を無作為に抽出

介護保険認定者実態調査：介護保険の要介護（要支援）認定を受けている方 2,000 人を無作為に抽出

3. 調査期間

平成 28 年 11 月 1 日を基準日とし、平成 28 年 12 月 9 日から平成 28 年 12 月 31 日にかけて調査しました。

4. 調査方法

郵送による配布、回収

5. 回収状況

	配布数	回収数	無効票	有効票	回収率
一般高齢者	2,000	1,393	2	1,391	69.7%
介護保険認定者	2,000	1,171	1	1,170	58.6%

6. 調査結果の表示方法

回答結果は、小数第 2 位を四捨五入した有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計値が 100.0%にならない場合があります。

II. 調査のまとめ

1. 一般高齢者実態調査

(1) 生活の状況

【調査結果】

- ・ひとり暮らしは約1割とかわらないものの、2人暮らしは約5割を占め、前回調査に比べて約5ポイント増えています。高齢者夫婦世帯が多いことがうかがえます。(Q5,6)
- ・近所づきあいについては、毎日話をする人は減っているものの、気軽に相談したり助け合ったりしている相手がいる人や、家族ぐるみでつきあう相手がいる人は微増しており、頻度の高いつきあいより、いざというときに助け合える密なつきあいに少しずつ変化してきていることがうかがえます。(Q10)
- ・日常生活について感じている不安として、自身や家族の健康や社会保障制度のことをあげる人が多く、また前回、前々回に比べて大幅に(約7~10ポイント)増加しています。(Q34)

【課題】

- ・高齢者の2人暮らしの世帯が増加しており、家族構成の変化等もあり、近所とのつきあい方も変化しつつあります。変化しつつある家族構成や地域との関わり方などを踏まえた施策等の検討が必要となっています。
- ・家族構成の変化等もあり、漠然とした不安を抱える高齢者が増えており、気軽にできる相談機関の充実や地域での日常の見守りや支え合いなどの活動の充実が求められています。

(2) 健康状態や健康についての関心

【調査結果】

- ・4割が良好、4割が普通と大半の人が健康としており、前回調査とほとんど変わらない状況にあります。一方で、約8%の人が何らかの介護を必要としています。(Q13,Q14)
- ・大半の人が通院しており、月1,2回の通院が多くなっています。(Q15-1,Q15-1-1)
- ・半数の人が定期的な歯科検診を受診しており、受診率も前回に比べて約4ポイント増加しています。(Q19)
- ・健康については、前回調査同様に、日頃から歩くななどの健康に良いことは取り入れて実践している人や自分の健康状態を把握するようにしている人がそれぞれ約65%と多く、依然として健康への関心の高さが継続していることがうかがえます。(Q25)

【課題】

- ・定期的な通院(前回比約27ポイント)や健診・検診(前回比約5ポイント)を受診する高齢者が増えており、健康に対する関心が高い人が多いことがうかがえ、今後も健康への関心や健康づくりの実践を継続してもらえよう、地域における活動と健康づくりなどを連携しながら気軽に健康づくりができるよう支援していくことが重要です。

(3) 暮らし向きや生きがい

【調査結果】

- ・約7割の人は毎日外出しています。外出の目的としては、買い物(約71%)、散歩(約33%)、通院(約26%)が上位にあがっており、また、仕事(前回比約2ポイント)、スポーツ(前回比約4ポイント)、農作業(前回比約3ポイント)は前回、前々回より増え、よりアクティブな高齢者が増えています。(Q8,Q8-2)
- ・現在の暮らし向きでは、約4分の1が苦しいとするも、多くの人々が普通またはゆとりがあるとしており、比較的経済的にゆとりがある人が多いです。(Q28)
- ・また、3割弱の人が何らかの仕事をしているものの、仕事をしている割合は年々減少しています。一方で、楽しみや生きがいとして、趣味の活動(約42%)、スポーツ(約24%)などをあげる人が多くなっています。(Q29,Q31)
- ・今後やってみたいこととしては、経年と大きな違いはみられないものの、趣味の活動、スポーツなどが上位にあがっています。(Q32)
- ・シルバー人材センターに登録しているのは2%、老人クラブへの加入者は2割をきり、ともに年々登録・加入している割合が微減しています。登録・加入していない理由としては、他の趣味活動のクラブ等に参加しているためとする人が約26%と多く、現在の高齢者のニーズと、シルバー人材センターや老人クラブの活動が異なってきていることがうかがえます。(Q30,Q30-1,Q33,Q33-1)
- ・現在、市内のサロンに参加している、参加したことがある人は約8%にとどまり、大半がサロンに参加したことが無い状況です。また、今後のサロンの企画・運営への関与を希望する人は1割にとどまっています。また、介護ボランティアポイントへの参加意向は2割弱となっています。(Q36,Q37,Q38)

【課題】

- ・さまざまな趣味を持ちアクティブに活動する高齢者が増えていることから、趣味等を活かしながら地域で活躍してもらえるよう、地域活動への関心や参加の機会を増やすことが重要です。
- ・就労したい人やシルバー人材センターや老人クラブなど既存の組織に所属したいとする人が減少していますが、地域におけるシルバー人材センター等への期待などもあることから、変化する高齢者のニーズに対応したシルバー人材センターや老人クラブの在り方についての検討を行う必要があります。
- ・近年本市においては、地域におけるサロンの位置づけや期待が高まっていることから、多くの高齢者等がサロンの運営等に参加してもらえるよう、参加インセンティブを含めサロンに対する理解を深め、参加する機会の充実を図ることが求められています。

(4) 認知症について

【調査結果】

- ・認知症の知識はあるものの、具体的な相談先としては、7割強が医療機関としていますが、1割弱がどこに相談してよいかわからないとしています。また、認知症について、知らないとする人も約2割います。(Q41,Q43)

【課題】

- ・認知症に対する関心は高まっているものの、認知症に対する正しい理解が十分でない人もおり、認知症に対する不安を感じている人もみられます。認知症サポーターを養成し、関係機関と連携を図りながら、認知症への正しい理解の普及や相談機関の充実を図り、早期発見・早期対応ができるようにすることが重要です。

(5) 介護が必要になった時の不安等（在宅医療、在宅介護）

【調査結果】

- ・介護が必要になった時に、自宅で暮らし続けるために必要な整備として、介護サービスや自宅で受けられる医療を望む人が前回に比べて高く（それぞれ約8ポイント、5ポイント）なっており、在宅介護サービスや在宅医療への意識が高まってきていることがうかがえます。(Q50)
- ・介護について、悩みを気軽に相談できる人や場所があるとする人は4割強にとどまり、さまざまな情報が溢れるなか、前回に比べて約18ポイント大幅に減少しています。(Q54)
- ・地域包括支援センターの認知度は3割弱にとどまっています。また、自分の地域担当の地域包括支援センターの認知度は3.5割となっており、前回に比べて約9ポイント低くなっています。(Q55)
- ・在宅医療の認知度は4割弱、「在宅療養支援診療所」の認知度は2割と低いこともあり、在宅医療を利用するとした場合の不安として、約4割の人が介護をしてくれる家族への負担や経済的な負担、症状が急変した時への対応をあげています。(Q44,Q45,Q47)
- ・介護が必要になった時の希望として、現在の居住状況を変えずに、介護サービスを利用して暮らすことを希望する人が3割、施設等への入居希望が約2割となっています。また、介護が必要となった場合に在宅で生活するために必要な支援として、家族や親族を頼るより、家族以外の人や機関・サポート体制に期待する人が約8～12ポイント高く、特に緊急時に対応してくれる機関や在宅医療体制などに対する期待が高くなっています。(Q48,Q49)

【課題】

- ・介護が必要になった時に、在宅で生活するために必要な支援として緊急時や在宅医療体制に対する期待が高くなっていることから、介護と医療の連携を強化すると共に、日常の高齢者の生活を支援できるよう、地域住民やボランティアなど地域における支え合い活動などインフォーマルなサービスの活性化を図ることが求められています。
- ・在宅医療に対する認知度を高め、利用する場合の不安を解消することが重要です。
- ・介護に対する不安等を解消できるよう、引き続き、地域包括支援センターなど身近な場所での相談機関の充実を図ることが求められています。

2. 介護保険認定者実態調査

(1) 要介護者（認定者本人）の状況

【調査結果】

- ・要介護者の8割は75歳以上が占めています、中でも85歳以上が4.5割を占めており、前回に比べて在宅介護では85歳以上が約5ポイント増えています。(Q3)
- ・ひとり暮らしの人は約1割、同居している人のうち、昼間独居の人は約2割います。(Q5,Q5-1)
- ・約3割がほとんど外出しないとしています。その理由としては、身体の状態が悪い、介護施設に入所となっています。(Q7,Q7-1)
- ・介護が必要となった要因は、認知症、高齢による衰弱、脳卒中、事故が多く、在宅施設等別にみると、施設等入所者では認知症の割合が高くなっています。(Q10)
- ・現在の要介護度は軽度者（要支援1,2）が4割、重度者（要介護4,5）が2割となっています。1年前と比べると、要支援1,2や要介護4,5では大半が1年前と現在の要介護度とが変わらない状況となっています。一方、要介護1～3では1年前と同じ要介護度の人は5～6割にとどまり、1年前より現在の要介護度の方が軽くなった人は2割となっています。(Q11,Q12)
- ・治療中の病気や症状のある人のうち、7割が通院、2割が往診・訪問診療を受けており、前回に比べて入院している人は微減、通院している人は微増しています。(Q13-1)
- ・歯科検診を受けている人は約4割となっています。(Q16)
- ・薬を飲んでいる人は約9割と、大半の人が服薬管理はできているものの、3分の2の人が家族やその他の人が服薬管理をしています。(Q17,Q17-1,Q17-2)

【課題】

- ・85歳以上の要介護者が約5ポイント増加していることもあり、1年後の要介護度は維持の人が多くなっています。一方で、要介護1～3の約2割は要介護度が改善していることもあり、軽度者などが維持・改善できるよう、介護サービスだけでなく、地域活動や健康関連の活動など、身近に地域全体で取組める体制づくりが重要です。
- ・大半の人が服薬管理はできているものの、ひとり暮らしの人や昼間独居の人などが増えていることから、自分では服薬管理がしづらい人への対応が求められており、日常の見守りを含めて支援できる体制が必要となっています。

(2) 介護保険サービスの利用状況や今後の利用意向

【調査結果】

- ・今後の介護の希望としては、介護サービスを利用しながら在宅で生活することを希望する人が約36%と多く、前回（在宅介護）より4ポイント弱増えています。施設等へ申し込んでいる人は要介護者全体の約6%にとどまっています。(Q20,Q23)
- ・在宅介護サービスを利用している人は4.5割（在宅要介護者に対する割合）、うち半数の人がサービスに満足しています。一方、サービスを利用していない人の理由としては、サービスを利用するほどの状態ではないが3割と最も多いものの、家族が介護をする、本人が希望し

ないという人も1～1.5割います。(Q24,Q24-1,Q24-2)

- ・現在、在宅介護サービスを利用している、利用していないに関わらず、今後夜間・早朝の訪問サービスを利用したい人(利用したいときもあるを含む)は、回答者全体の1.5割となっています。また、在宅要介護者では、利用したいとする人が2割弱にとどまっている一方で、必要ないとする人が前回に比べて8ポイント増えています。(Q25)
- ・今後利用したいサービスとしては、通所介護(約36%)、福祉用具の貸与(約30%)、訪問介護サービス(約24%)などが上位となっており、特に通所介護は在宅介護で半数を占めています。また、訪問介護サービスを希望する人の具体的なサービス内容としては、掃除や洗濯(約52%)、食事の準備(約42%)、買い物など(約38%)が上位にあがっていますが、これ以外に、入浴・洗身の介助や医療的なケアなど身体的介助や医療ケアを希望する人も訪問介護サービスを希望する人の約2.5～4割弱と比較的多くいます。(Q26,Q26-1)
- ・在宅医療は全体の3分の1の人が知っています。一方、「在宅医療支援診療所」については1.5割の認知度にとどまっています。在宅医療の利用では、気軽に往診(約5割)、緊急時に24時間体制での連絡(約4.5割)、症状が急変した時の受け入れ先の整備(4割強)などをあげる人が多くなっています。(Q40,Q41,Q43)
- ・要介護者は、半数が介護保険料の現状維持を希望しています。(Q29)

【課題】

- ・在宅で介護サービスを利用しながら生活することを希望する人が増えていることから、引き続き介護保険サービスの充実を図るとともに、介護保険サービスや行政の福祉サービス以外の住民主体のインフォーマルサービスが充実するよう、住民主体の活動の支援が求められています。
- ・介護保険サービスを利用している人の半数は利用しているサービスに満足していることから、今後も引き続き質の高いサービスが提供されるよう、サービス提供者の質の確保ができるよう支援を行うと共に、保険者として質の維持、向上を強化していくことが重要です。
- ・平成29年度より、要支援者へのサービス提供体制が変更されることもあり、円滑に移行できるよう、ケアマネジャー等と協力しながら、支援を行うことが重要です。また、多様なサービスが提供できるよう、新たなサービス主体が増えるような支援体制が求められています。
- ・要介護者で医療的ケアの必要な人が増えてきている一方で、在宅医療や「在宅医療支援診療所」の認知度が低いため、医療と介護の連携の促進を図るとともに、在宅医療などの周知を行うことが求められています。

(3) その他のサービス等について

【調査結果】

- ・地域包括支援センターの認知度は7割となっています。(Q30)
- ・悩みを気軽に相談できる人や場所については、在宅介護では8割の人がいるとしており、前回に比べて約10ポイント増加しています。また、相談相手として、「息子・娘」、「配偶者」に次いで、「地域包括支援センター」があげられています。(Q9,Q9-1)
- ・生活上で困っていることとしては、病院や公共機関への外出を2割の人があげています。ま

た、介護保険以外のサービスの利用については、全体的に利用したいとする割合が、在宅介護では前回、前々回に比べて減少しているものの（約 4 ポイント～12 ポイント）、紙おむつの給付、家族介護用品の支給、外出支援サービスは 4 割の人が希望しています。（Q32,Q33）

- ・災害時の避難行動要支援者台帳への登録は 1 割が「登録をしている」一方で、3 割が「手続きがわからないため登録していない」としています。（Q45）

【課題】

- ・約 7 割が悩み等を相談できる人がいるとしているものの、相談相手としては、配偶者や子ども等の家族が中心となっています。ひとり暮らしや高齢者夫婦世帯が増えていることもあり、家族等以外に気軽に相談できる体制が重要となっています。
- ・日常の生活で困っていることとしては、外出の対応をあげる人が 2 割となっています。市内での移動を円滑にできるよう、地域活動と連携を行いながら、外出支援サービスの充実の検討が求められています。
- ・災害時の避難行動要支援者台帳への登録は 1 割にとどまっている一方で、3 割が手続きがわからないとしており、対象者だけでなく、広く市民に避難行動要支援についての周知を図り、地域全体で対応していくことが求められています。

（4） 介護者

【調査結果】

- ・介護者として配偶者が 4.5 割、子ども・子どもの配偶者が 5 割となっています。配偶者は 6 割が女性、子どもも女性の割合が高くなっています。介護者の年齢としては、40～64 歳が 4 割、65 歳以上が 5.5 割、中でも 75 歳以上の後期高齢者が 2.5 割を占めています。（Q50,Q52）
- ・何らかの仕事をしている人は 3.5 割、そのうち介護のために何らかの調整を行った人は約 6 割います。中でも、労働時間の調整を行っている人が約 3 割となっています。（Q54,Q54-1）
- ・今後の仕事の継続については、約 7 割の人はなんとか継続できるとしていますが、続けることが難しいとする人は 2 割強います。また、転職経験がある人は 1.5 割おり、介護している人の要介護度が高い人では 2.5 割となっています。（Q54-2、Q55）
- ・居宅サービスを利用することでの家族介護者の生活の変化として、介護している人の要介護度が高い人ほど、身体的、精神的に楽になったとする人の割合が高く、3 割前後となっています。（Q57）
- ・現在、介護者向けのサービスを利用している人は 1～8%にとどまっているものの、今後利用したいと考えている人は 21～43%と大幅に増え、特にねたきり高齢者等の家族介護手当（43%）や徘徊高齢者家族支援サービス（33%）の希望が高くなっています。（Q59）
- ・介護者に必要な支援として、約 41%の人が介護方法への助言体制の充実、約 30%が介護者の心身のリフレッシュの機会の提供、約 27%が認知症に関する相談・情報提供の充実などとなっています。（Q60）

【課題】

- ・ 介護者の 4.5 割が配偶者であることや 75 歳以上の要介護者が約 8 割と、いわゆる老老介護の中でも比較的高齢の老老介護となっており、介護者の負担軽減を図るようなサポート体制の充実が必要です。
- ・ 就労している人の中でも、労働時間の調整を行いながら介護をしている介護者が就労継続できるよう、サービスの充実を図るとともに、周囲の理解の促進を行うことが重要です。また、介護者の精神的、身体的な負担軽減を図るため、介護者に対する支援の充実が求められています。

Ⅲ. 一般高齢者実態調査

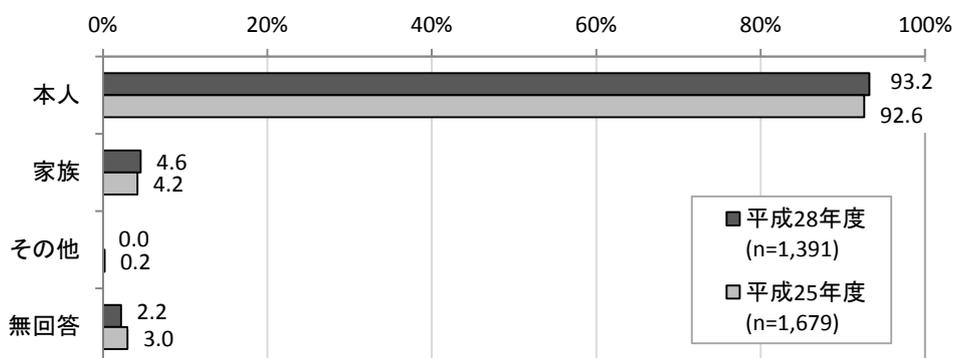
1. 回答者の属性

A 本人、家族の状況などについてお尋ねします (平成28年12月1日現在でお答えください)

(1) 調査票の回答者 (Q1)

調査票の回答者は、「本人」(93.2%)、「家族」(4.6%)となっています。
前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

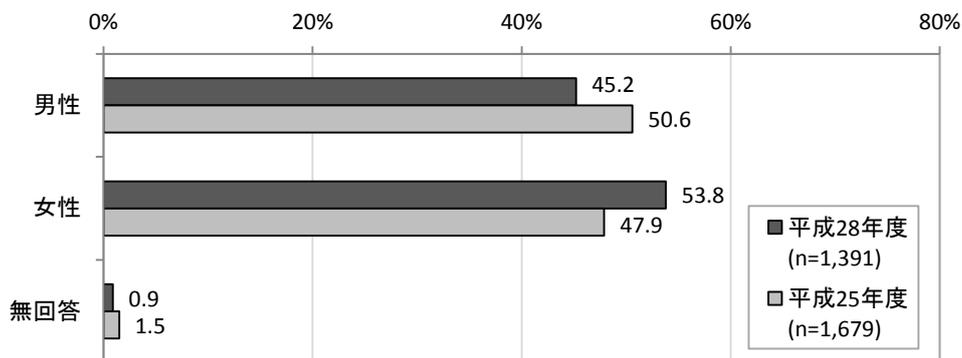
図表－1 調査票の回答者



(2) 本人の性別 (Q2)

本人の性別は、「男性」(45.2%)、「女性」(53.8%)となっています。
前回調査と比較すると、「男性」が低く、「女性」が高くなっています。

図表－2 本人の性別

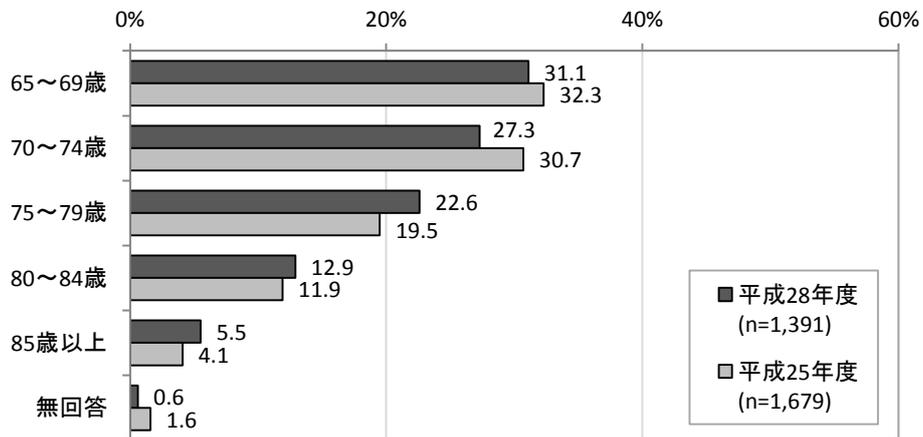


(3) 年齢構成 (Q3)

年齢構成は、「65～69歳」(31.1%)が最も高く、次いで、「70～74歳」(27.3%)、「75～79歳」(22.6%)、「80～84歳」(12.9%)、「85歳以上」(5.5%)となっています。

前回調査と比較すると、74歳以下が低くなる一方で、75歳以上の割合が高くなっています。

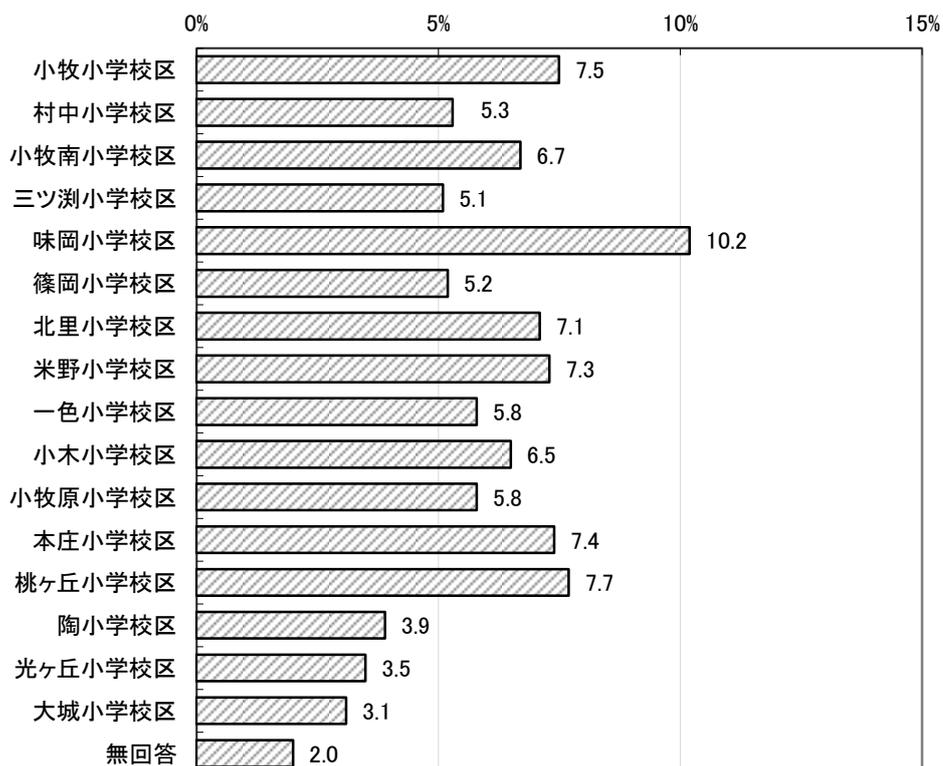
図表-3 年齢構成



(4) 住まいの小学校区 (Q4)

住まいの小学校区は、「味岡小学校区」(10.2%)が最も高く、次いで「桃ヶ丘小学校区」(7.7%)、「小牧小学校区」(7.5%)となっています。

図表-4 住まいの小学校区 (n=1,391)

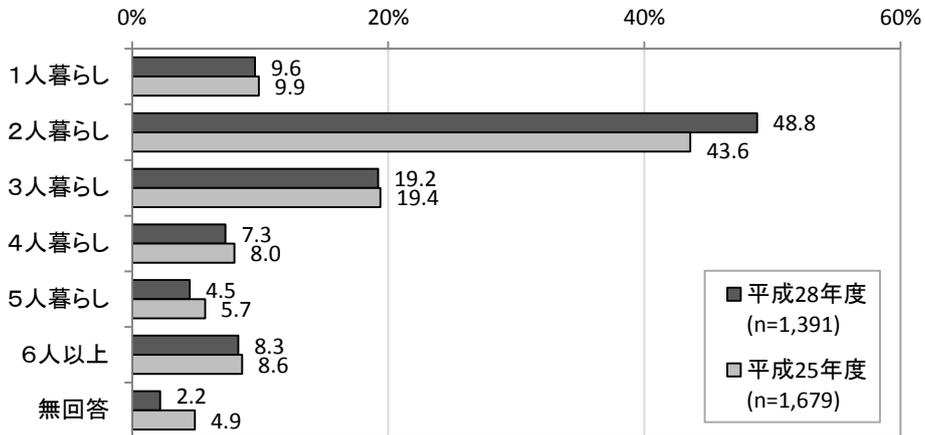


(5) 世帯の人数 (Q5)

世帯の人数は、「2人暮らし」(48.8%)が最も高く、次いで「3人暮らし」(19.2%)、「1人暮らし」(9.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「2人暮らし」の割合が高くなっています。

図表－ 5 同居している家族の人数

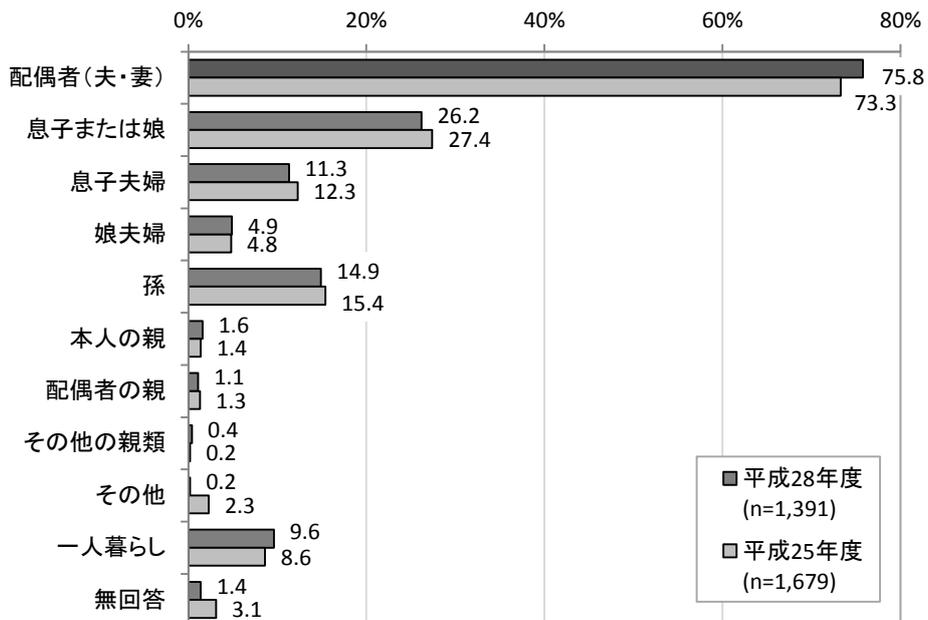


(6) 同居者 (Q6)

同居者は、「配偶者(夫・妻)」(75.8%)が最も高く、次いで「息子または娘」(26.2%)、「孫」(14.9%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

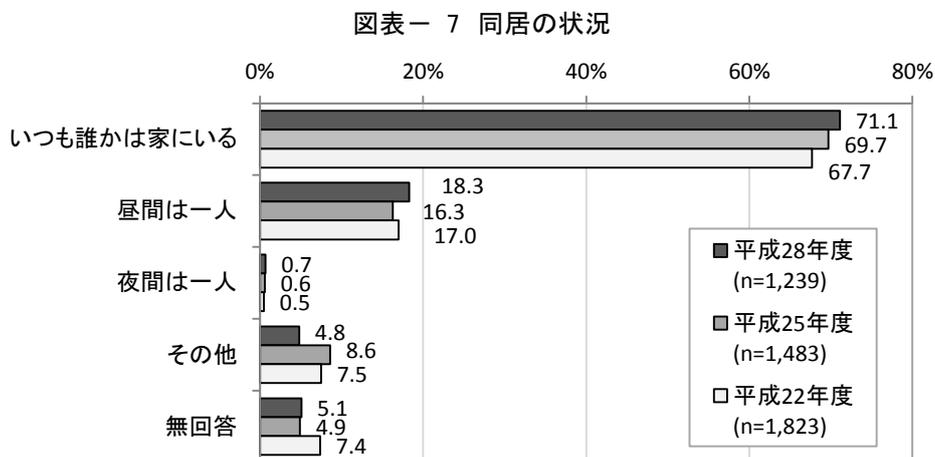
図表－ 6 同居者(複数回答)



(7) 同居の状況 (Q6-1)

誰かと同居している人に同居の状況についてきいたところ、「いつも誰かは家にいる」(71.1%)が最も高く、次いで「昼間は一人」(18.3%)となっています。

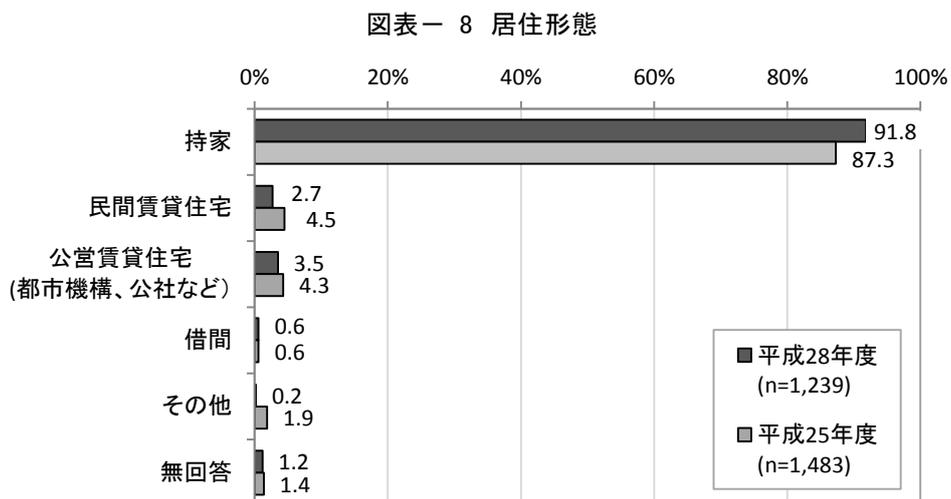
前回、前々回調査と比較すると、「いつも誰かは家にいる」の割合が微増しています。



(8) 居住形態 (Q7)

居住形態は、「持家」(91.8%)が最も高く、次いで「公営賃貸住宅(都市機構、公社など)」(3.5%)、「民間賃貸住宅」(2.7%)となっています。

前回調査と比較すると、「持家」の割合がやや高くなっています。



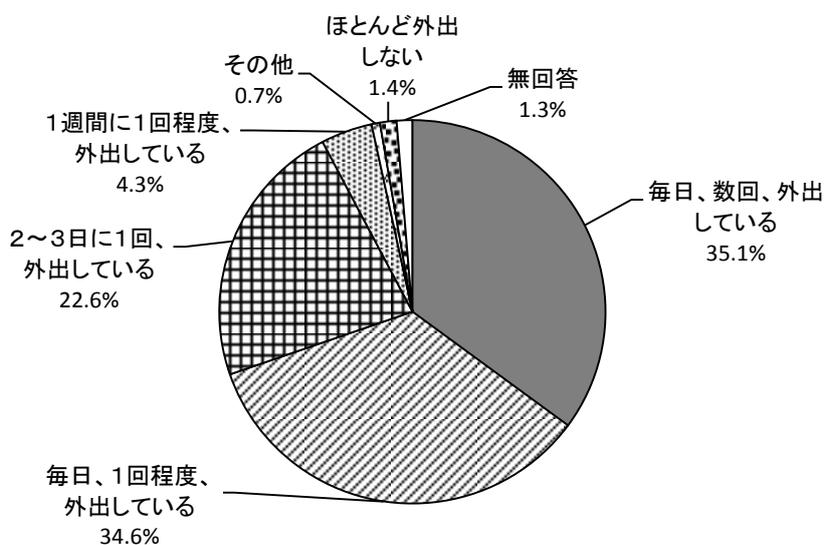
2. 生活の状況

(1) 1週間あたりの外出頻度 (Q8)

1週間あたりの外出頻度は、「毎日、数回、外出している」(35.1%)が最も高く、次いで「毎日、1回程度、外出している」(34.6%)、「2～3日に1回、外出している」(22.6%)となっています。

前期・後期高齢者別にみると、「毎日、数回、外出している」の割合は、前期高齢者が後期高齢者に比べて高くなっています。

図表－9 1週間あたりの外出頻度 (n=1,391)



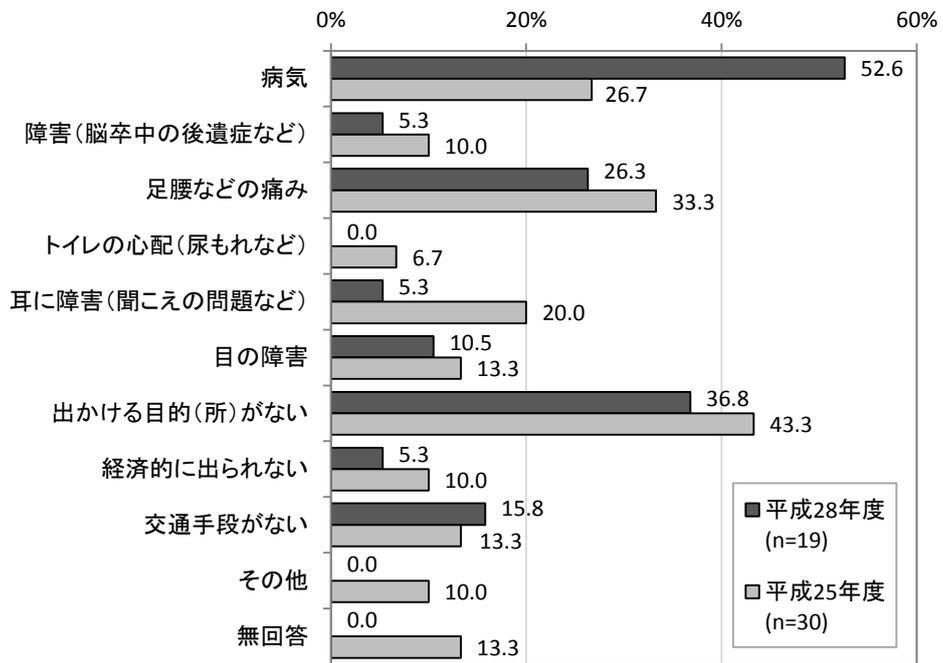
図表－10 前期・後期高齢者別 1週間あたりの外出頻度

(単位: %)

	全体 (n=)	毎日、数回、 外出している	毎日、1回 程度、外出 している	2～3日に 1回、外出 している	1週間に1回 程度、外出 している	その他	ほとんど 外出しな い	無回答
全体	1,391	35.1	34.6	22.6	4.3	0.7	1.4	1.3
前期高齢者	813	38.1	35.7	20.5	3.7	0.7	0.9	0.4
後期高齢者	570	31.2	33.3	26.0	5.3	0.7	2.1	1.4
無回答	8	-	12.5	-	-	-	-	87.5

(2) 外出を控えている理由 (Q8-1)

図表－ 11 外出を控えている理由(複数回答)



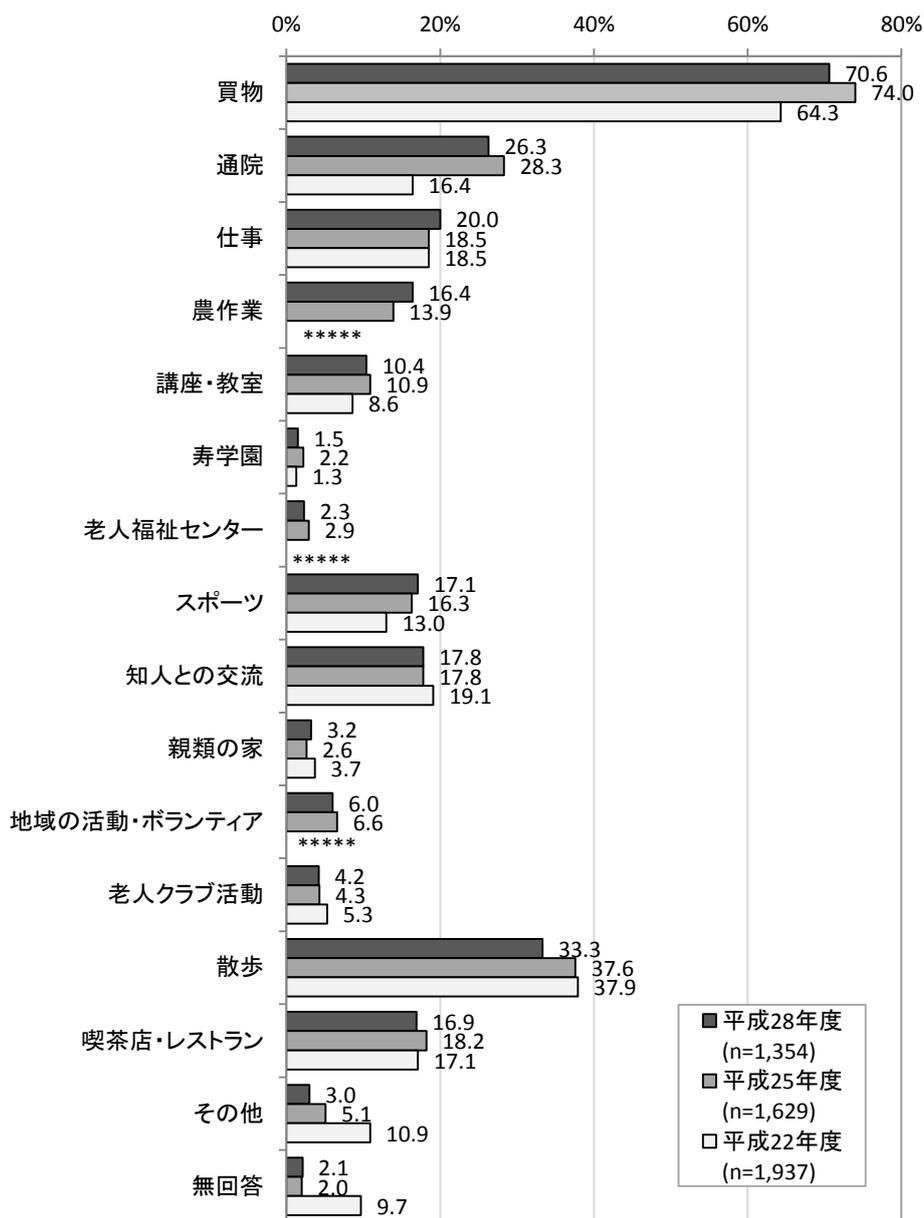
※サンプル数が少ないため、参考値

(3) 外出の目的 (Q8-2)

「外出している」と回答した人の外出の目的は、「買物」(70.6%) が最も高く、次いで「散歩」(33.3%)、「通院」(26.3%) となっています。

前回調査と比較すると、仕事、スポーツ、農作業が微増しています。

図表- 12 外出の目的(3つまで)



※「農作業」「老人福祉センター」「地域の活動・ボランティア」は平成 22 年度の調査項目にありません。

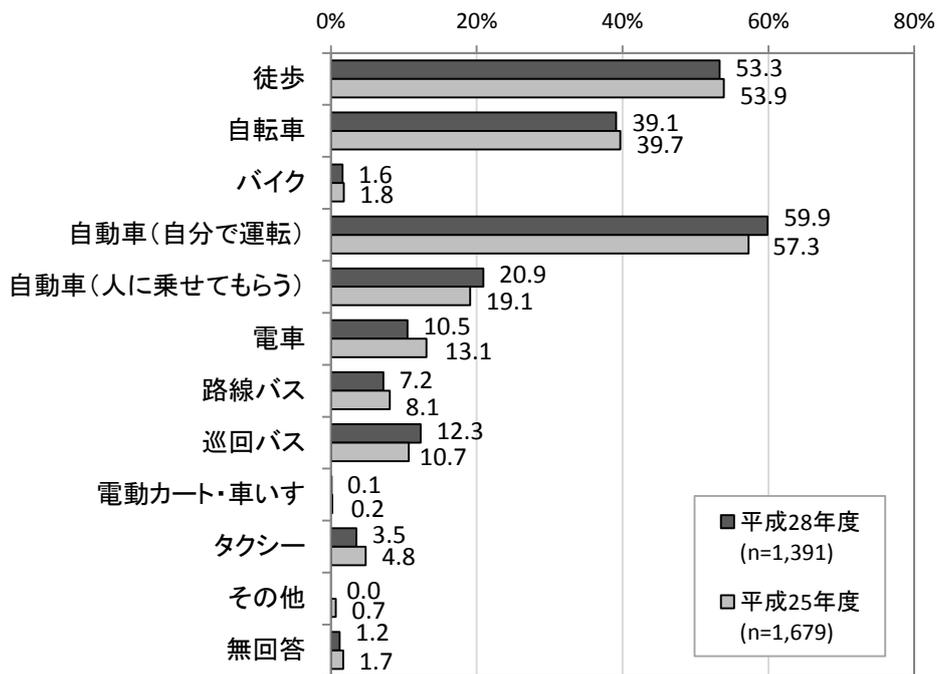
(4) 外出する際の移動手段 (Q9)

外出する際の移動手段は、「自動車(自分で運転)」(59.9%)が最も高く、次いで「徒歩」(53.3%)、「自転車」(39.1%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者は「自動車(自分で運転)」の割合が後期高齢者に比べて高く、後期高齢者は「徒歩」「自動車(人に乗せてもらう)」「巡回バス」「電車」が高くなっています。

図表-13 外出する際の移動手段(複数回答)



図表-14 前期・後期高齢者別 外出する際の移動手段(複数回答)

(単位:%)

	全体 (n=)	徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	電車
全体	1,391	53.3	39.1	1.6	59.9	20.9	10.5
前期高齢者	813	51.9	39.2	1.2	68.9	19.7	8.9
後期高齢者	570	56.1	39.5	2.1	47.7	23.0	13.0
無回答	8	-	-	-	12.5	-	-

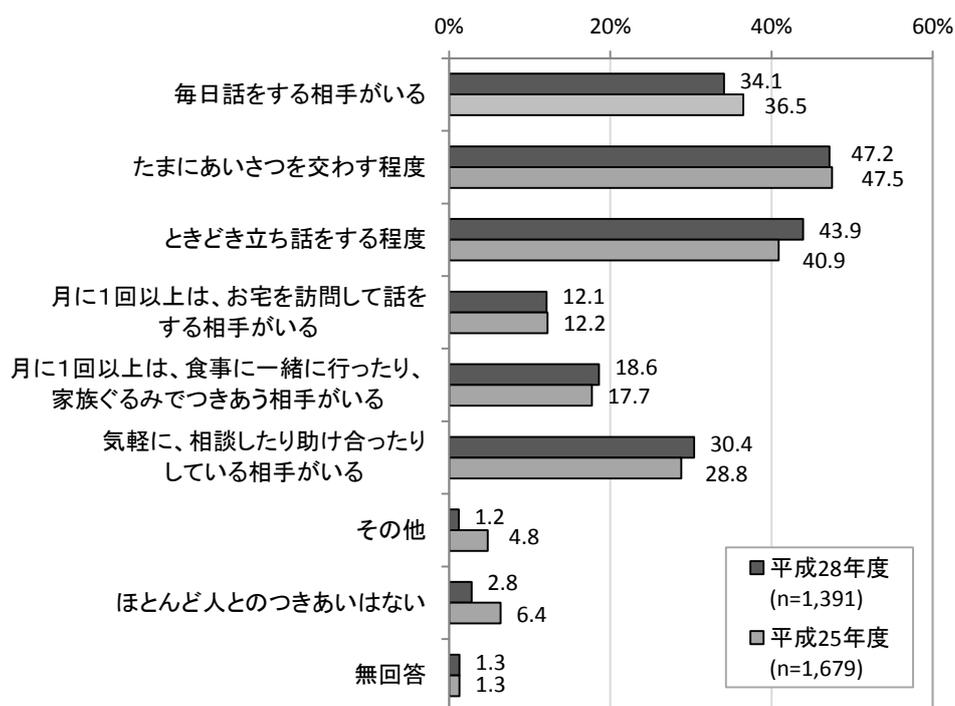
	全体 (n=)	路線バス	巡回バス	電動カート・車いす	タクシー	その他	無回答
全体	1,391	7.2	12.3	0.1	3.5	-	1.2
前期高齢者	813	6.3	9.5	-	1.7	-	0.2
後期高齢者	570	8.6	16.5	0.2	6.1	-	1.2
無回答	8	-	-	-	-	-	87.5

(5) 近所づきあいの程度（近くに住む家族・親戚を含む）（Q10）

となり近所とのつきあいの程度（近くに住む家族・親戚を含む）は、「たまにあいさつを交わす程度」（47.2%）が最も高く、次いで「ときどき立ち話をする程度」（43.9%）、「毎日話をする相手がいる」（34.1%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表－ 15 近所づきあいの程度（複数回答）

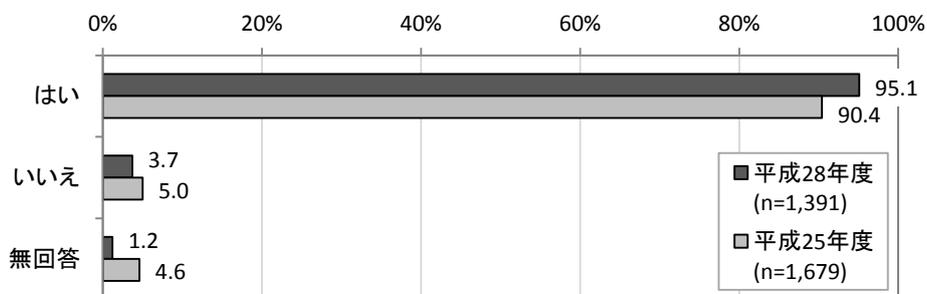


(6) 何かあったときの相談（Q11）

何かあったときに、家族や友人・知人などに相談しているかについては、「はい」（95.1%）、「いいえ」（3.7%）となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が高くなっています。

図表－ 16 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談しているか

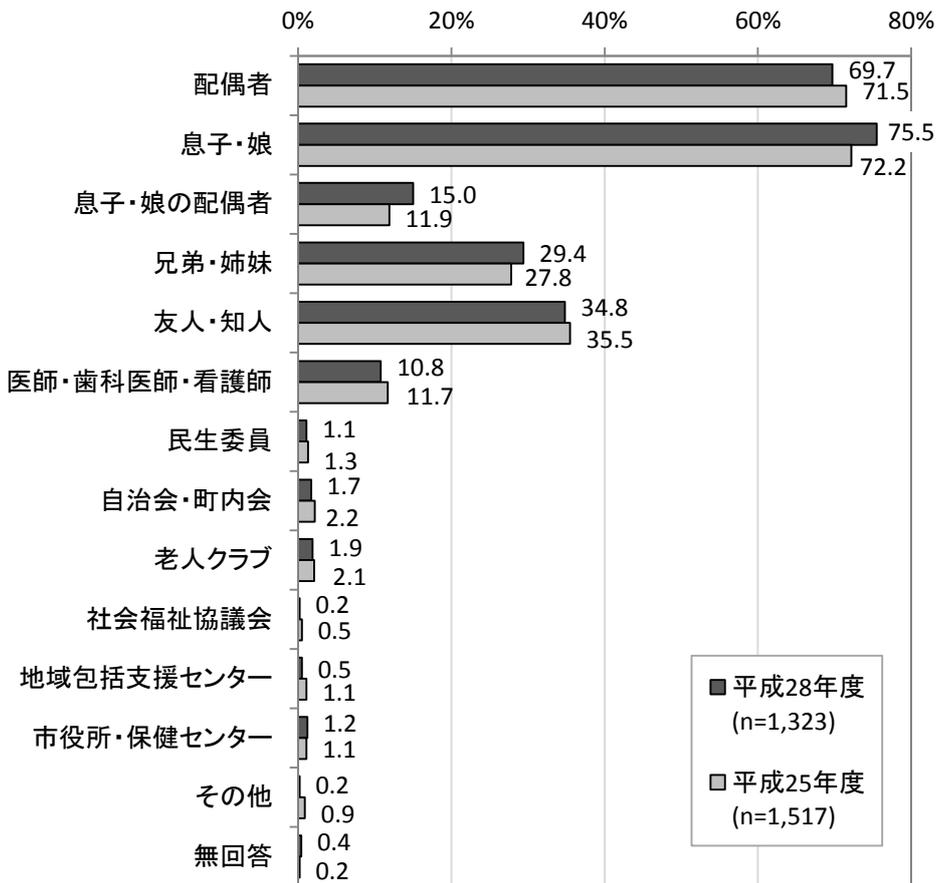


(7) 相談相手 (Q11-1)

何かあったときに相談していると回答した人の相談相手は、「息子・娘」(75.5%)が最も高く、次いで「配偶者」(69.7%)、「友人・知人」(34.8%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られないものの、「息子・娘」がやや高くなっています。

図表- 17 相談相手(複数回答)

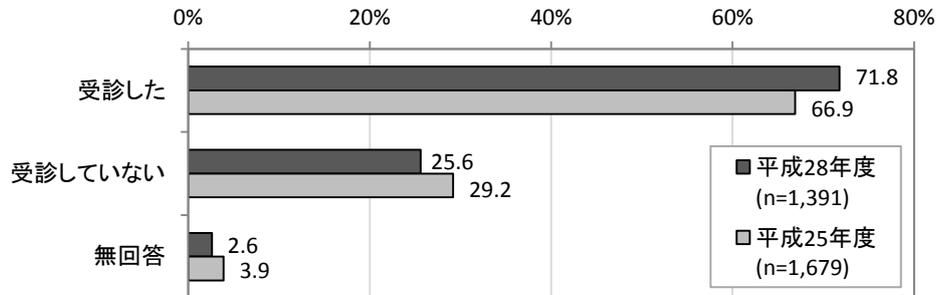


(8) 過去1年間の特定健診・がん検診・人間ドックについて (Q12)

過去1年間の特定健診・がん検診・人間ドックの検診状況は、「受診した」(71.8%)、「受診していない」(25.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「受診した」割合が高くなっています。

図表ー 18 過去1年間の特定健診・がん検診・人間ドック

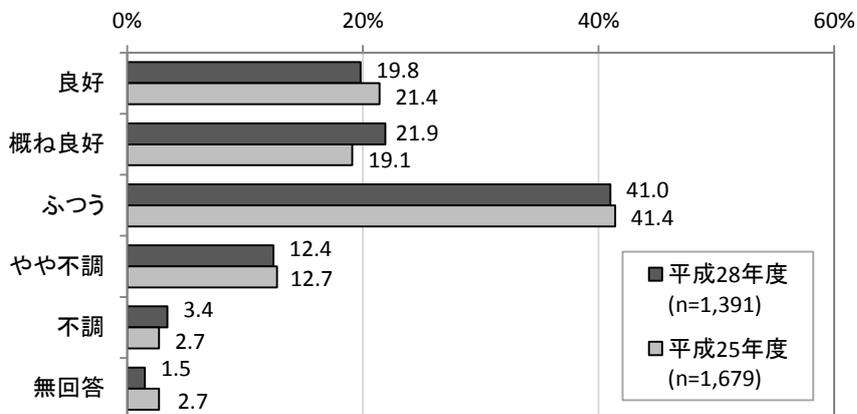


(9) 現在の健康状態 (Q13)

現在の健康状態は、「良好 (良好+概ね良好)」が 41.7%、「ふつう」が 41.0%、「不調 (やや不調+不調)」が 15.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表ー 19 現在の健康状態

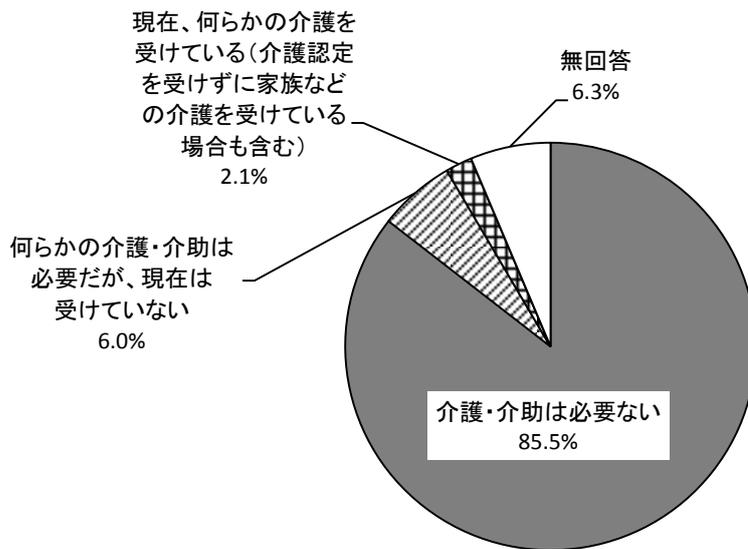


(10) 普段の生活での介護・介助について (Q14)

普段の生活でどなたかの介護・介助が必要かについては、「介護・介助の必要はない」(85.5%)、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(6.0%)、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(2.1%)となっています。

前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者は「介護・介助は必要ない」が約91%であるのに対し、後期高齢者では約78%となっています。

図表-20 普段の生活での介護・介助 (n=1,391)



図表-21 前期・後期高齢者別 普段の生活での介護・介助

(単位: %)

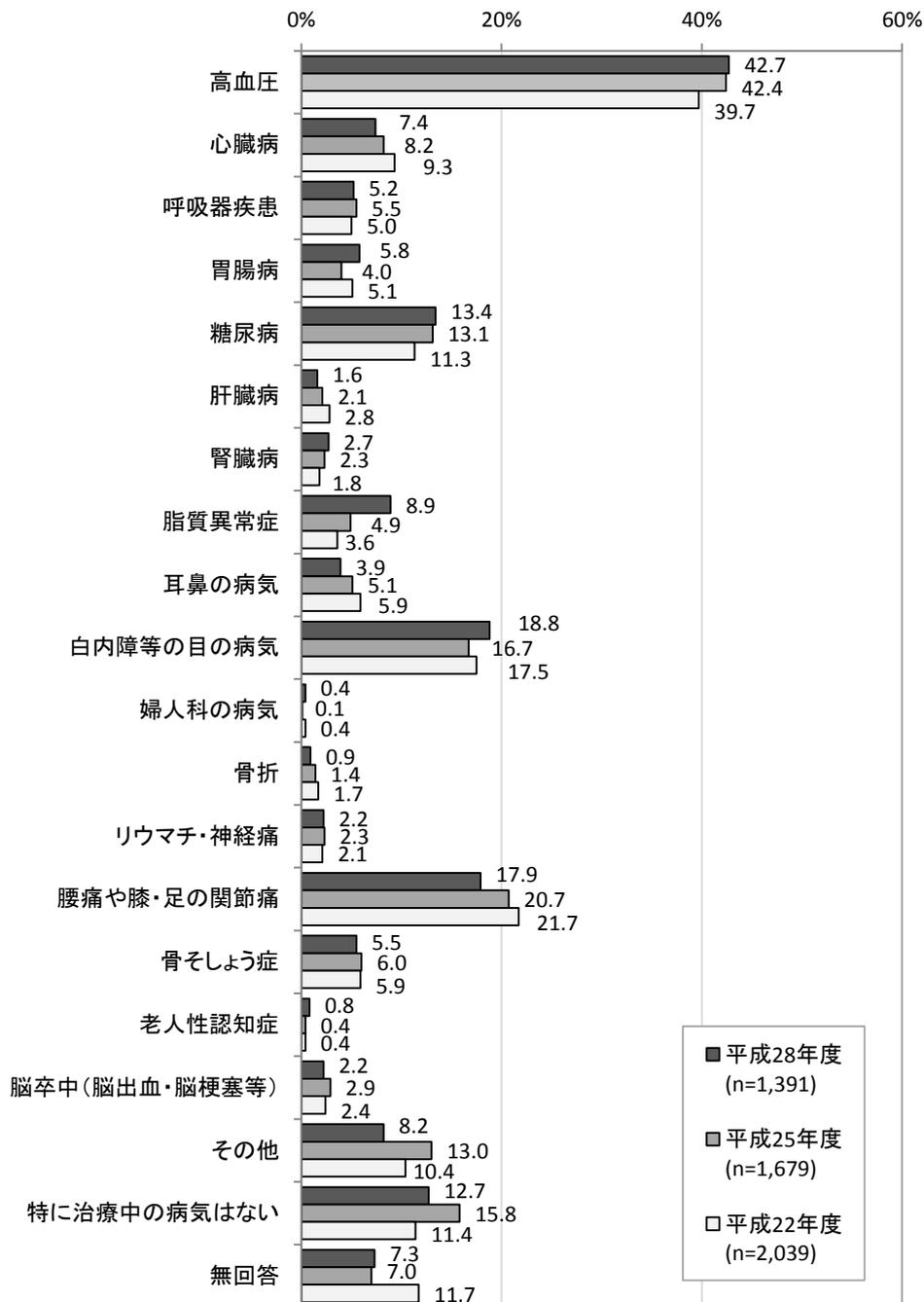
	全体 (n=)	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	無回答
全体	1,391	85.5	6.0	2.1	6.3
前期高齢者	813	90.9	3.2	2.1	3.8
後期高齢者	570	77.7	10.2	2.1	10.0
無回答	8	100.0	-	-	-

(11) 治療中の病気・症状 (Q15)

治療中の病気・症状は、「高血圧」(42.7%)が最も高く、次いで「白内障等の目の病気」(18.8%)、「腰痛や膝・足の関節痛」(17.9%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「腰痛や膝・足の関節痛」の割合がやや低くなり、「脂質異常症」がやや高くなっています。

図表一 22 治療中の病気・症状(複数回答)

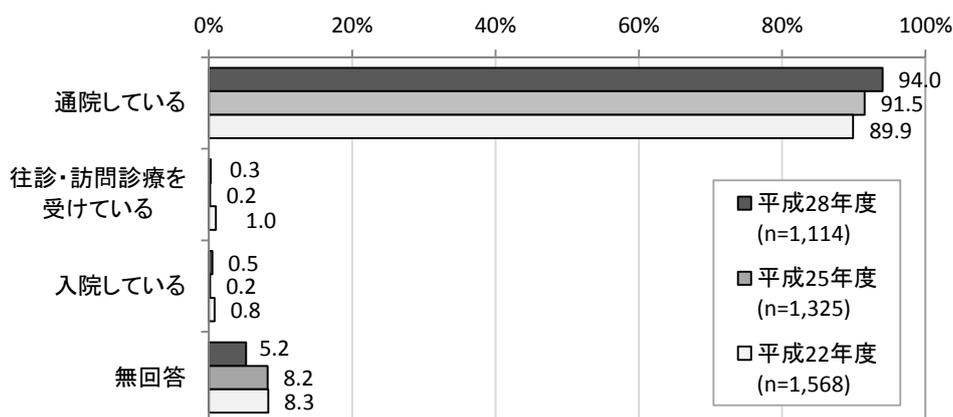


(12) 医師の治療の受け方 (Q15-1)

治療中の病気・症状があると回答した人に、医師の治療の方法についてきいてみると、「通院している」(94.0%)、「往診・訪問診療を受けている」(0.3%)、「入院している」(0.5%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「通院している」の割合が毎回微増しています。

図表－ 23 医師の治療の受け方

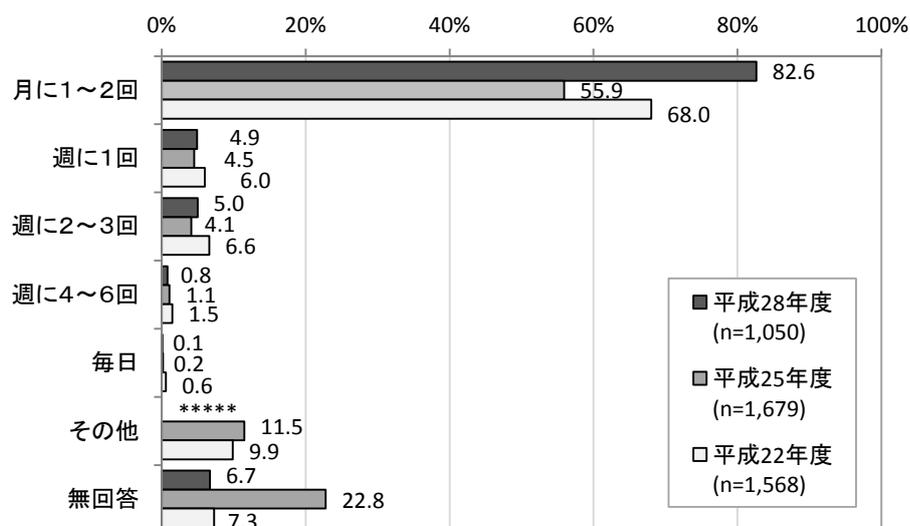


(13) 通院、往診の頻度 (Q15-1-1)

通院、往診と回答した人の、その頻度は、「月に1～2回」(82.6%)が最も高く、次いで「週に2～3回」(5.0%)、「週に1回」(4.9%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「月に1～2回」の割合が前回は低くなったものの、今回は大幅に高くなり8割を超えています。

図表－ 24 通院、往診の頻度



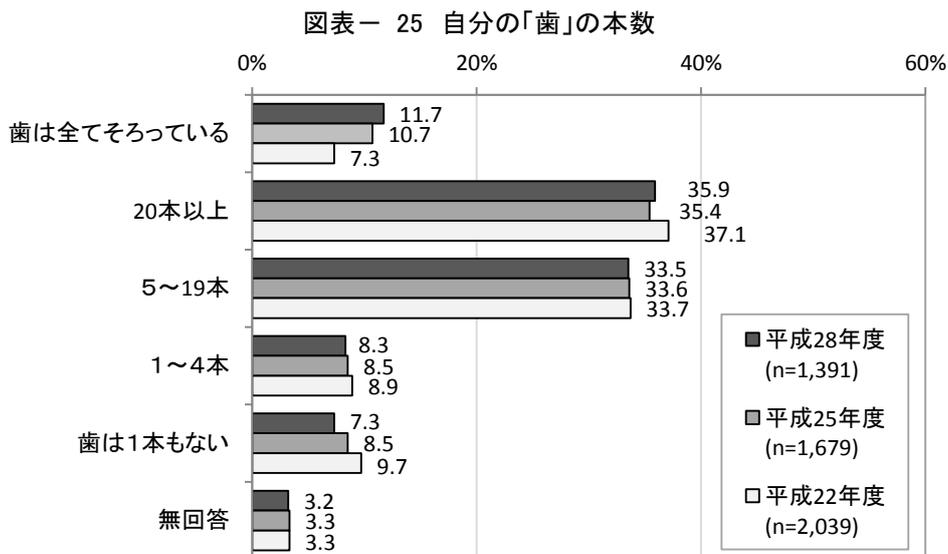
※「その他」は平成28年度の調査項目にありません。

(14) 自分の「歯」の本数 (Q16)

自分の「歯」の本数は、「20本以上」(35.9%)が最も高く、次いで「5～19本」(33.5%)、「歯は全てそろっている」(11.7%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「歯は全てそろっている」の割合がやや高くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、「歯は全てそろっている」と「20本以上」を合わせた割合は、前期高齢者では54.3%であるのに対し、後期高齢者では38.2%にとどまり、「歯は1本もない」が13.3%となっています。



図表-26 前期・後期高齢者別 自分の「歯」の本数

(単位: %)

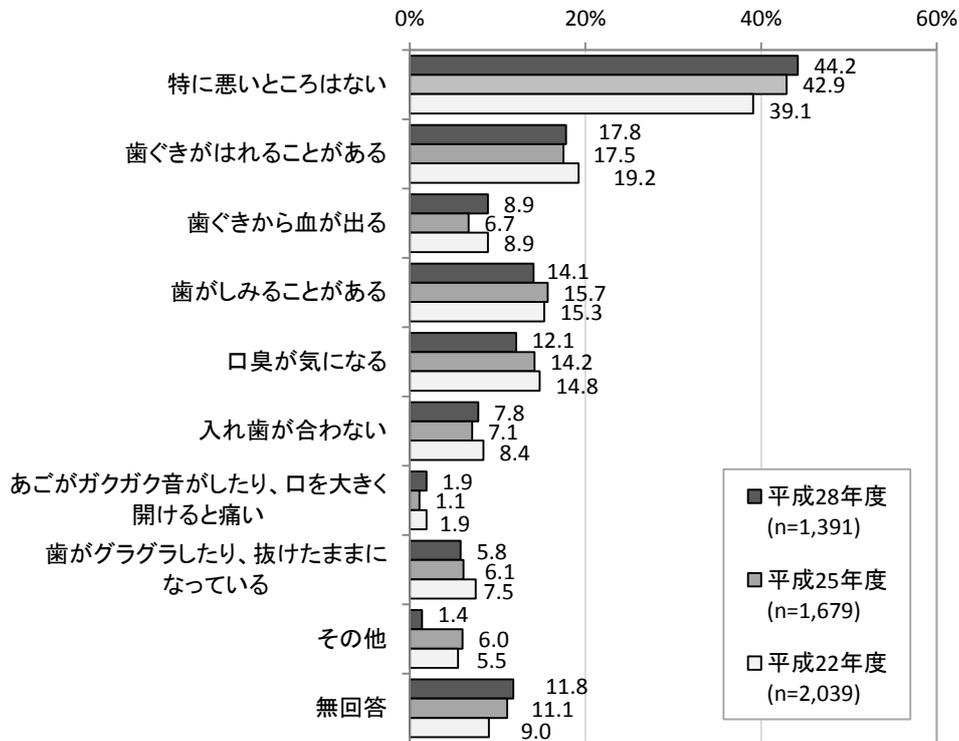
	全体 (n=)	歯は全てそろっている	20本以上	5～19本	1～4本	歯は1本もない	無回答
全体	1,391	11.7	35.9	33.5	8.3	7.3	3.2
前期高齢者	813	13.7	40.6	32.7	7.4	3.1	2.6
後期高齢者	570	8.9	29.3	34.7	9.6	13.3	4.0
無回答	8	12.5	37.5	25.0	12.5	-	12.5

(15) 歯や口の中の状態 (Q17)

歯や口の中の状態は、「特に悪いところはない」(44.2%) が最も高く、次いで「歯ぐきがはれることがある」(17.8%)、「歯がしみることがある」(14.1%) となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「特に悪いところはない」の割合が毎回微増しています。

図表－ 27 歯や口の中の状態(複数回答)

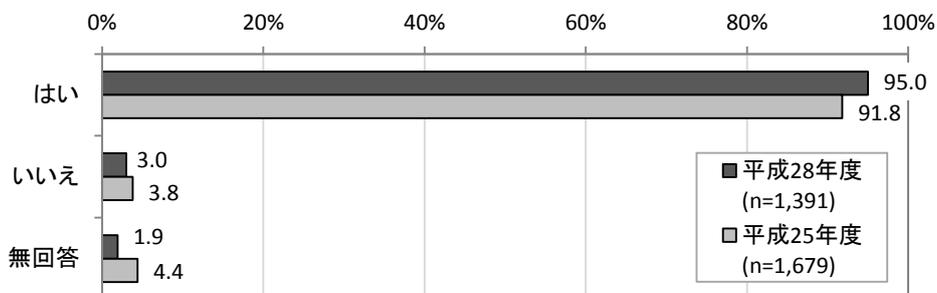


(16) 毎日の歯みがきの有無 (Q18)

毎日、歯みがきをしているかについては、「はい」(95.0%)、「いいえ」(3.0%) となっています。

前回調査と比較すると、「はい」の割合がやや高くなっています。

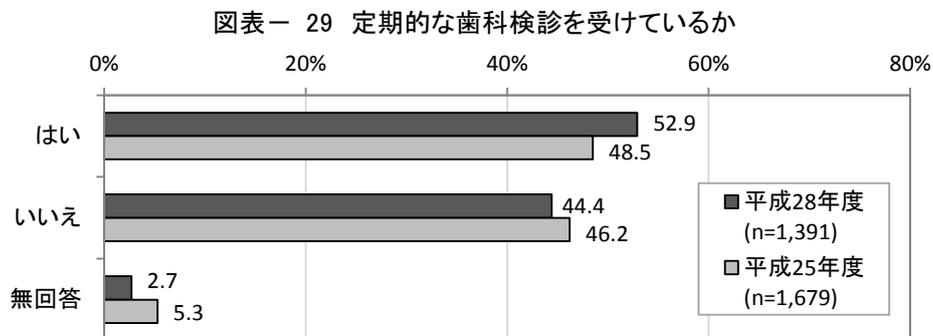
図表－ 28 毎日、歯みがきをしているか



(17) 定期的な歯科検診の受診有無 (Q19)

定期的な歯科検診を受けているかについては、「はい(受診した)」(52.9%)、「いいえ(受診していない)」(44.4%)となっています。

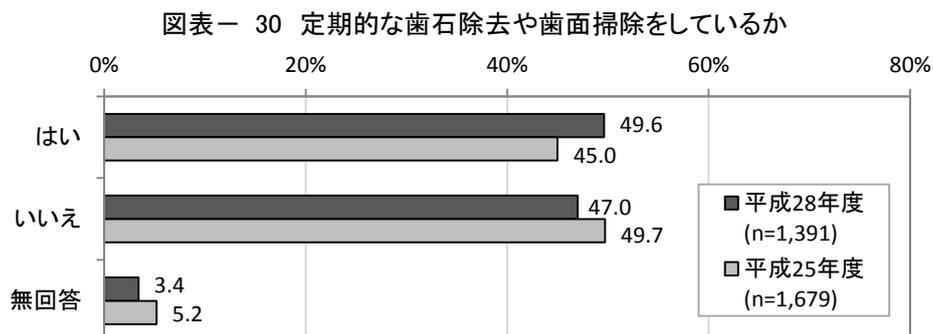
前回調査と比較すると、「はい」の割合がやや高くなっています。



(18) 定期的な歯石除去や歯面掃除 (Q20)

定期的に歯石除去や歯面掃除をしているかについては、「はい」(49.6%)、「いいえ」(47.0%)となっています。

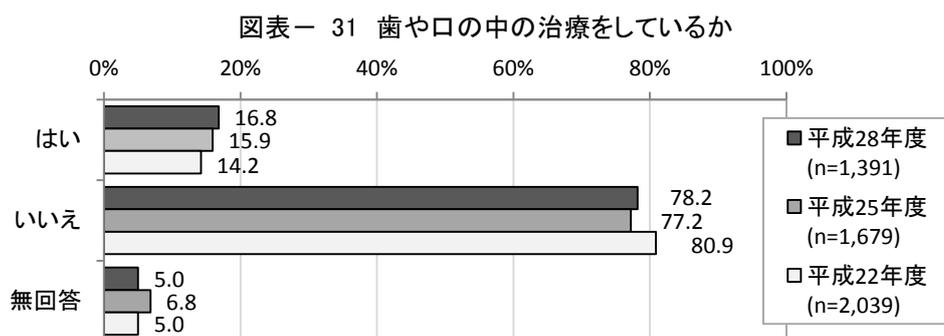
前回調査と比較すると、「はい」の割合がやや高くなっています。



(19) 歯や口の中の治療有無 (Q21)

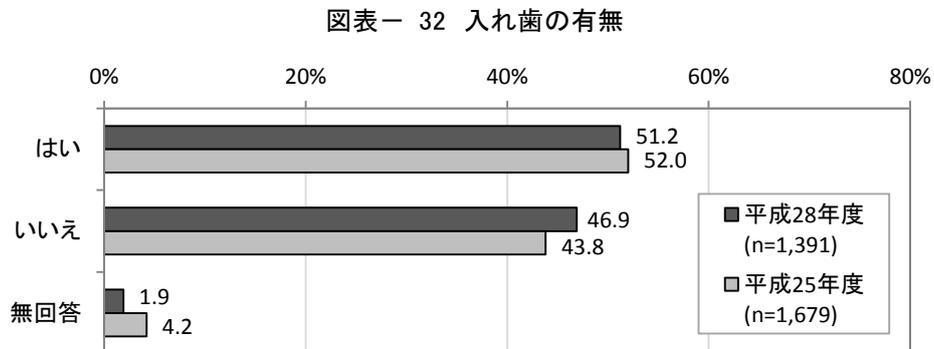
歯や口の中の治療有無については、「はい(治療中)」(16.8%)、「いいえ」(78.2%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「はい」の割合が毎回微増しています。



(20) 入れ歯の有無 (Q22)

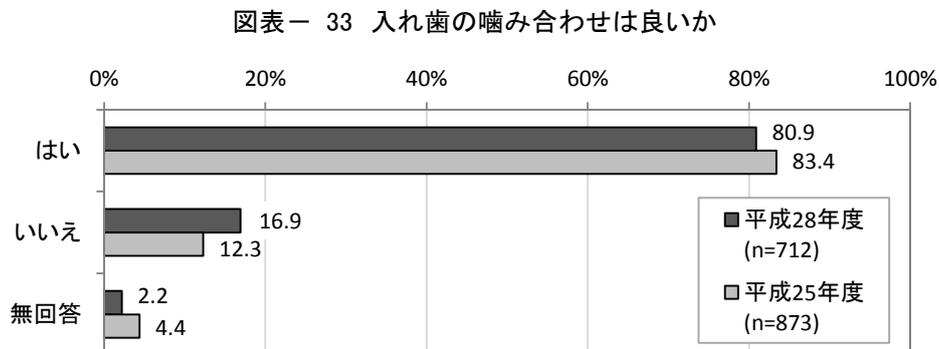
入れ歯をしているかについては、「はい」(51.2%)、「いいえ」(46.9%)となっています。前回調査と比較すると、「いいえ」の割合がやや高くなっています。



(21) 入れ歯の噛み合わせ (Q22-1)

入れ歯をしていると回答した人に、入れ歯の噛み合わせは良いかきいたところ、「はい」(80.9%)、「いいえ」(16.9%)となっています。

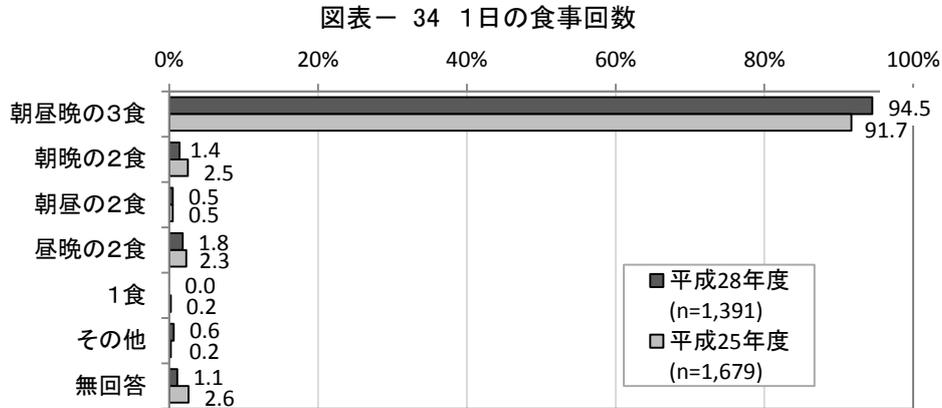
前回調査と比較すると、「いいえ」の割合がやや高くなっています。



(22) 1日の食事回数 (Q23)

1日の食事回数は、「朝昼晩の3食」(94.5%)、「昼晩の2食」(1.8%)、「朝晩の2食」(1.4%)、「朝昼の2食」(0.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「朝昼晩の3食」の割合がやや高くなっています。

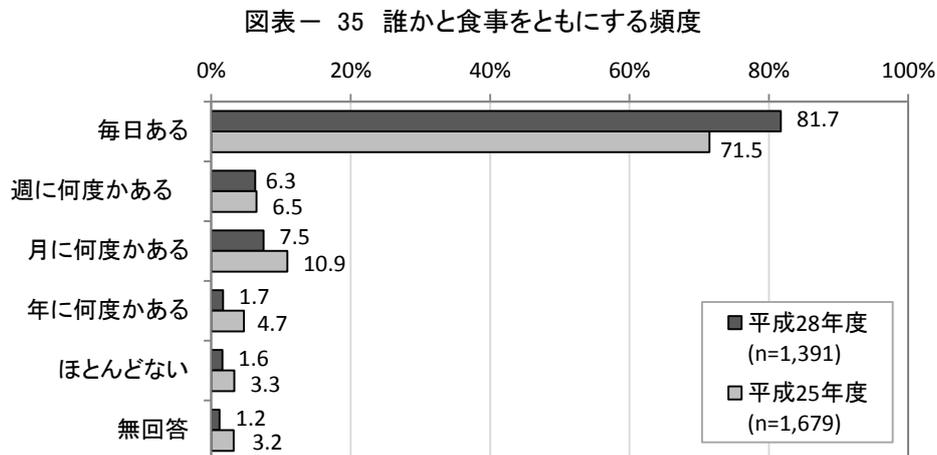


(23) 誰かと食事をとる頻度 (Q24)

自分一人だけでなく、誰かと食事をとる機会は、「毎日ある」(81.7%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(7.5%)、「週に何度かある」(6.3%)となっています。

前回調査と比較すると、「毎日ある」の割合が高くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、「毎日ある」が前期高齢者では約85%であるのに対し、後期高齢者では約77%と低くなっています。



図表-36 前期・後期高齢者別 誰かと食事をとる頻度

(単位: %)

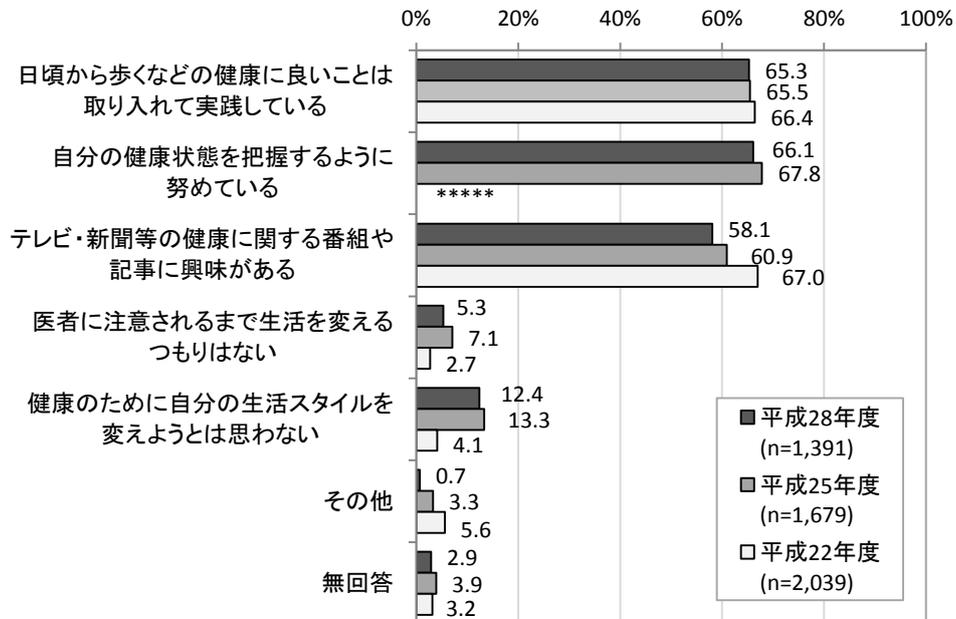
	全体 (n=)	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体	1,391	81.7	6.3	7.5	1.7	1.6	1.2
前期高齢者	813	84.7	6.0	5.5	1.4	1.6	0.7
後期高齢者	570	77.2	6.8	10.4	2.1	1.6	1.9
無回答	8	87.5	-	12.5	-	-	-

(24) 健康についての考え方 (Q25)

健康についての考え方は、「自分の健康状態を把握するように努めている」(66.1%)が最も高く、次いで「日頃から歩くなどの健康に良いことは取り入れて実践している」(65.3%)、「テレビ・新聞等の健康に関する番組や記事に興味がある」(58.1%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表ー 37 健康についての考え方(複数回答)



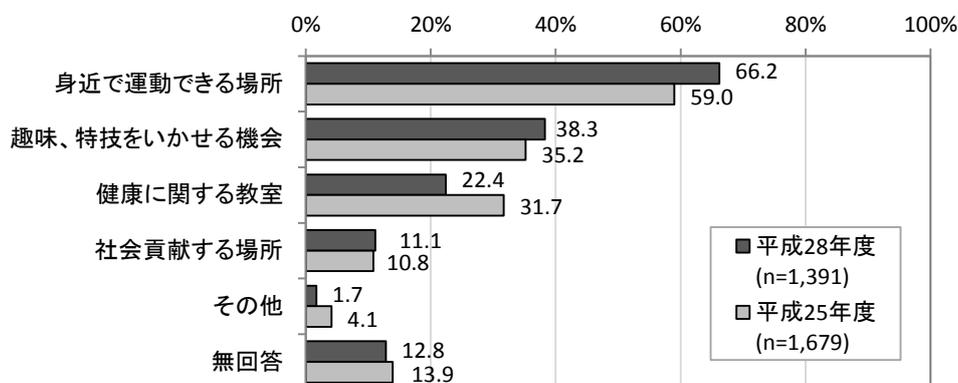
※「自分の健康状態を把握するように努めている」は平成22年度の調査項目にありません。

(25) 介護を受けなくてもよい生活(介護予防)のために強化する必要があるもの(Q26)

いつまでも元気で、介護を受けなくても良い生活(介護予防)のために、強化する必要があると思われるものは、「身近で運動できる場所」(66.2%)が最も高く、次いで「趣味、特技をいかせる機会」(38.3%)、「健康に関する教室」(22.4%)となっています。

前回調査と比較すると、「身近で運動できる場所」の割合が高く、「健康に関する教室」が低くなっています。

図表ー 38 介護を受けなくてもよい生活(介護予防)のために強化する必要があるもの(複数回答)



3. 暮らし向きや仕事や生きがいについて

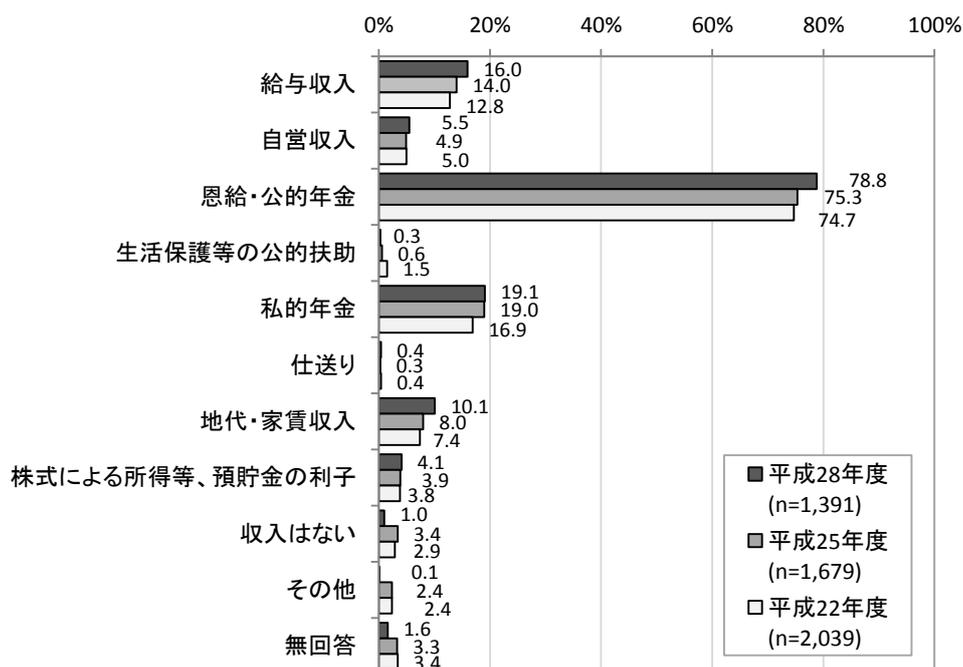
B 暮らし向きや仕事や生きがいについてお尋ねします

(1) 収入について (Q27)

収入については、「恩給・公的年金」(78.8%)が最も高く、次いで「私的年金」(19.1%)、「給与収入」(16.0%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

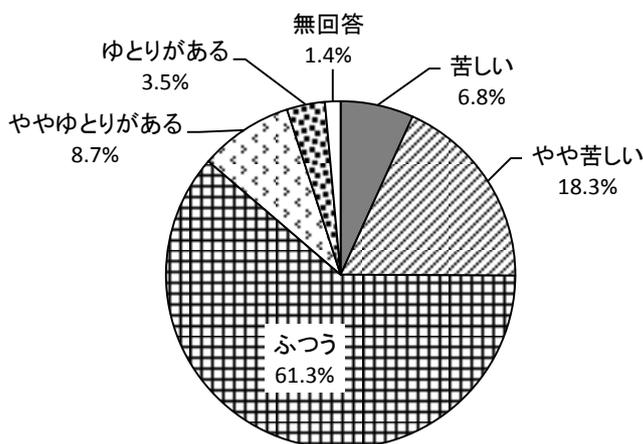
図表-39 収入(複数回答)



(2) 経済的にみた暮らしの状況 (Q28)

現在の暮らしの状況を経済的にみて、どのように感じるかについては、「苦しい(苦しい+やや苦しい)」が25.1%、「ふつう」が61.3%、「ゆとりがある(ややゆとりがある+ゆとりがある)」が12.2%となっています。

図表-40 経済的にみた暮らしの状況 (n=1,391)



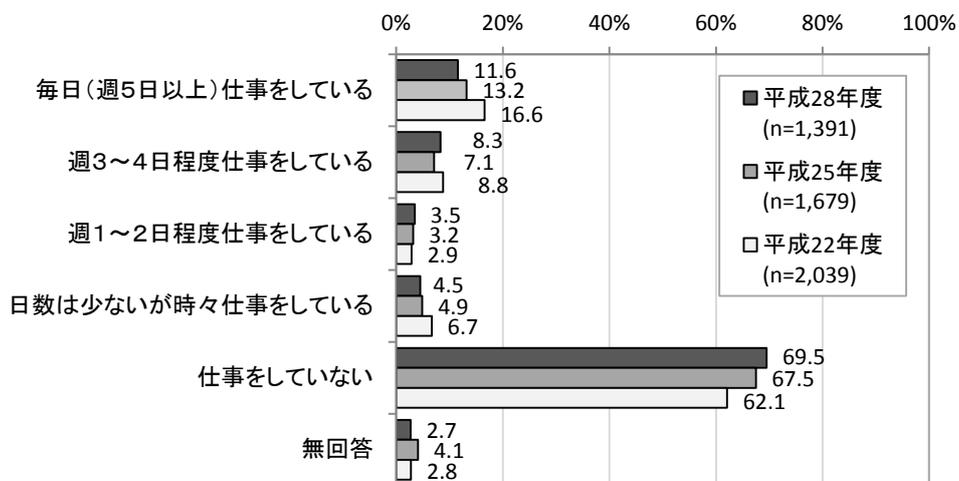
(3) 収入を得る仕事の有無 (Q29)

収入を得る仕事については、「仕事をしていない」が 69.5%、何らかの仕事をしているのは 27.9%となっています。仕事をしている中では、「毎日(週5日以上)仕事をしている」が 11.6%、「週3～4日程度仕事をしている」8.3%となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「仕事をしていない」の割合が毎回微増しています。

前期・後期高齢者別にみると、何らかの仕事をしているのは、前期高齢者では 36.8%であるのに対し、後期高齢者では 15.1%にとどまっています。一方、「仕事をしていない」は、前期高齢者では約 6割、後期高齢者では約 8割となっています。

図表－ 41 収入を得る仕事の有無



図表－42 前期・後期高齢者別 収入を得る仕事の有無

(単位: %)

	全体 (n=)	毎日(週5日以上)仕事をしている	3～4日程度仕事をしている	週1～2日程度仕事をしている	日数は少ないが時々仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全体	1,391	11.6	8.3	3.5	4.5	69.5	2.7
前期高齢者	813	15.9	11.3	4.7	4.9	61.9	1.4
後期高齢者	570	5.4	4.0	1.8	3.9	80.5	4.4
無回答	8	12.5	12.5	-	-	62.5	12.5

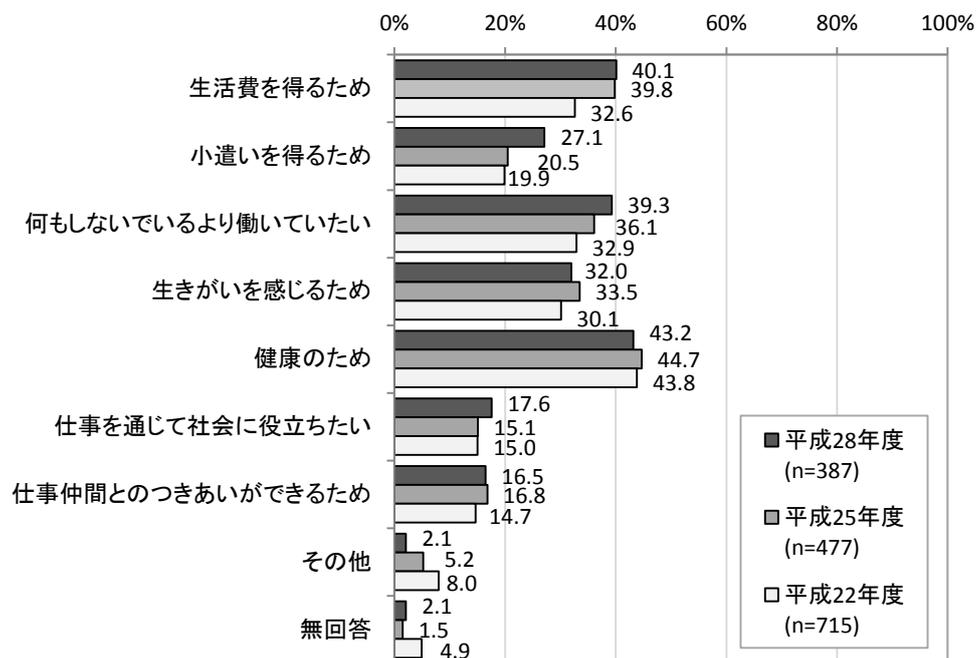
(4) 働いている理由 (Q29-1)

仕事をしていると回答した人に、働いている理由をきいたところ、「健康のため」(43.2%)が最も高く、次いで「生活費を得るため」(40.1%)、「何もしないでいるより働いていたい」(39.3%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「小遣いを得るため」の割合が前回よりも高くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者では「生活費を得るため」が、後期高齢者では「生きがいを感じるため」の割合が他方に比べて特に高くなっています。

図表－ 43 働いている理由(3つまで)



図表－44 前期・後期高齢者別 働いている理由(3つまで)

(単位:%)

	全体 (n=)	生活費を得るため	小遣いを得るため	何もしないでいるより働いていたい	生きがいを感じるため	健康のため
全体	387	40.1	27.1	39.3	32.0	43.2
前期高齢者	299	43.8	29.8	40.5	29.1	41.8
後期高齢者	86	26.7	17.4	34.9	41.9	48.8
無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-

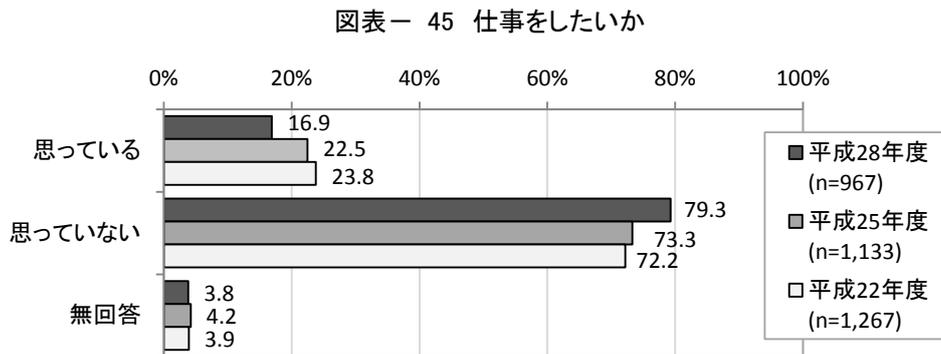
	全体 (n=)	仕事を通じて社会に役立ちたい	仕事仲間とのつきあいができるため	その他	無回答
全体	387	17.6	16.5	2.1	2.1
前期高齢者	299	17.4	17.1	2.0	0.7
後期高齢者	86	18.6	15.1	2.3	7.0
無回答	2	-	-	-	-

(5) 仕事をしたいか (Q29-2)

仕事をしていないと回答した人に、仕事をしたいと思うかきいたところ、「思っていない」(79.3%)、「思っている」(16.9%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「思っていない」の割合が毎回高くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、「思っている」が前期高齢者では約22%、後期高齢者では約12%となっています。



図表－46 前・後期高齢者別 仕事をしたいか

(単位: %)

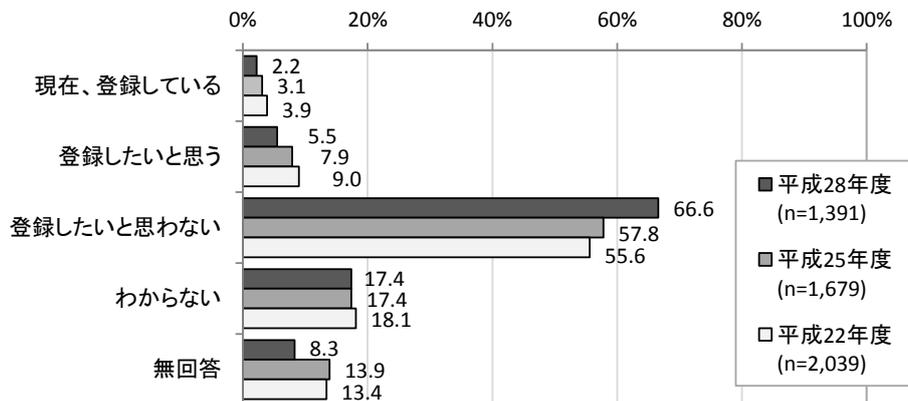
	全体(n=)	思っている	思っていない	無回答
全体	967	16.9	79.3	3.8
前期高齢者	503	21.5	75.5	3.0
後期高齢者	459	11.8	83.4	4.8
無回答	5	20.0	80.0	-

(6) シルバー人材センターへの登録の有無 (Q30)

シルバー人材センターへの登録については、「登録したいと思わない」(66.6%)が最も高く、次いで「わからない」(17.4%)、「登録したいと思う」(5.5%)となっています。一方、「現在、登録している」は2.2%にとどまっています。

前回、前々回調査と比較すると、「登録したいと思わない」の割合が毎回高くなっています。

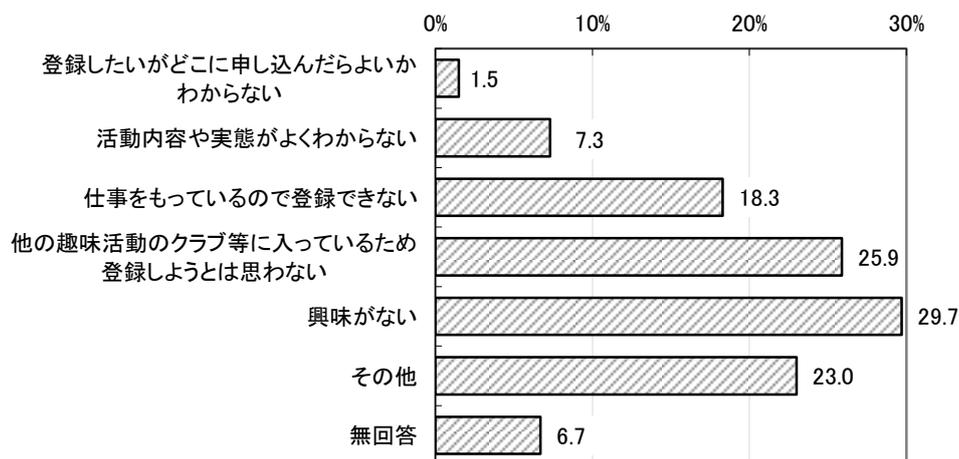
図表- 47 シルバー人材センターへの登録



(7) シルバー人材センターへ登録したいと思わない理由 (Q30-1)

シルバー人材センターへ登録したいと思わないと回答した人に、その理由をきいてみたところ、「興味がない」(29.7%)が最も高く、次いで「他の趣味活動のクラブ等に入っているため登録しようとは思わない」(25.9%)、「その他」(23.0%)となっています。

図表- 48 シルバーセンターへ登録したいと思わない理由(複数回答) (n=926)



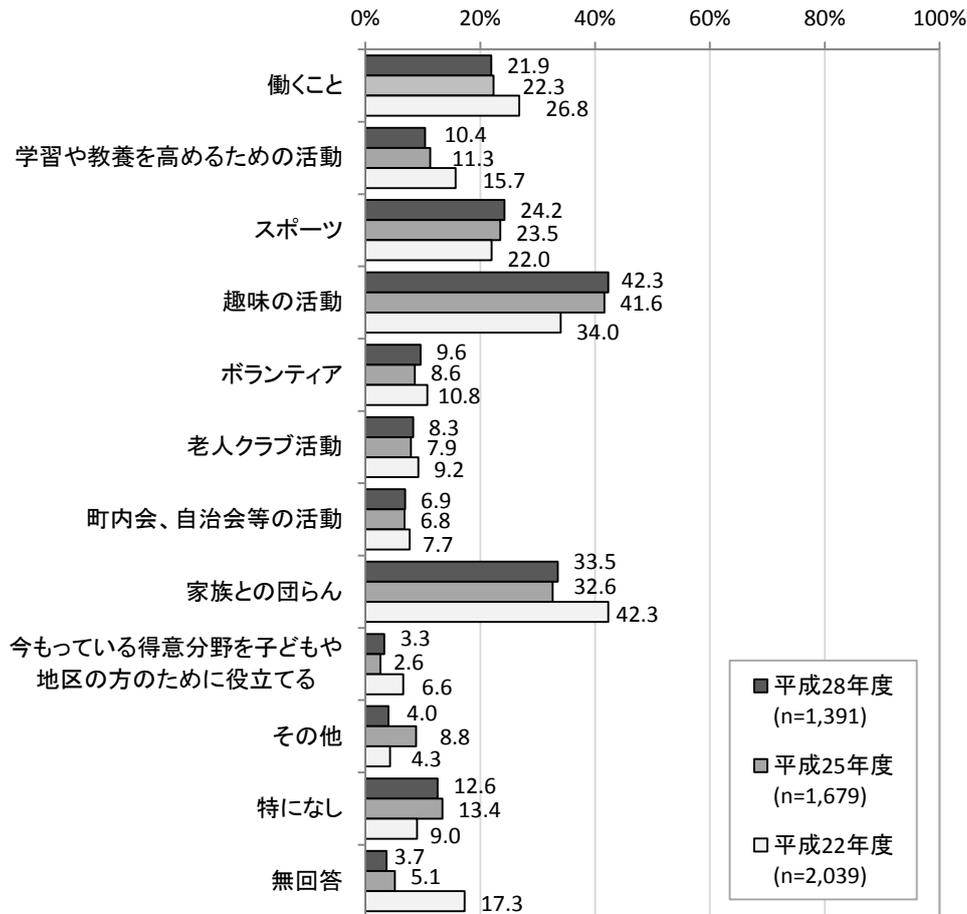
(8) 楽しみや生きがいを感じていること (Q31)

現在、楽しみや生きがいを感じていることについては、「趣味の活動」(42.3%) が最も高く、次いで「家族との団らん」(33.5%)、「スポーツ」(24.2%) となっています。

前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

前期・後期高齢者別にみると、ほとんどの項目で後期高齢者は前期高齢者に比べて低くなっていますが、「老人クラブ活動」は後期高齢者が前期高齢者に比べて高くなっています。

図表－ 49 楽しみや生きがいを感じていること(複数回答)



図表－50 前期・後期高齢者別 楽しみや生きがいを感じていること(複数回答)

(単位:%)

	全体 (n=)	働くこと	学習や教養 を高めるた めの活動	スポーツ	趣味の活動	ボランティア	老人クラブ 活動
全体	1,391	21.9	10.4	24.2	42.3	9.6	8.3
前期高齢者	813	25.7	10.8	26.8	45.1	10.3	3.8
後期高齢者	570	16.7	9.5	20.5	38.1	8.2	14.6
無回答	8	12.5	25.0	25.0	62.5	37.5	12.5

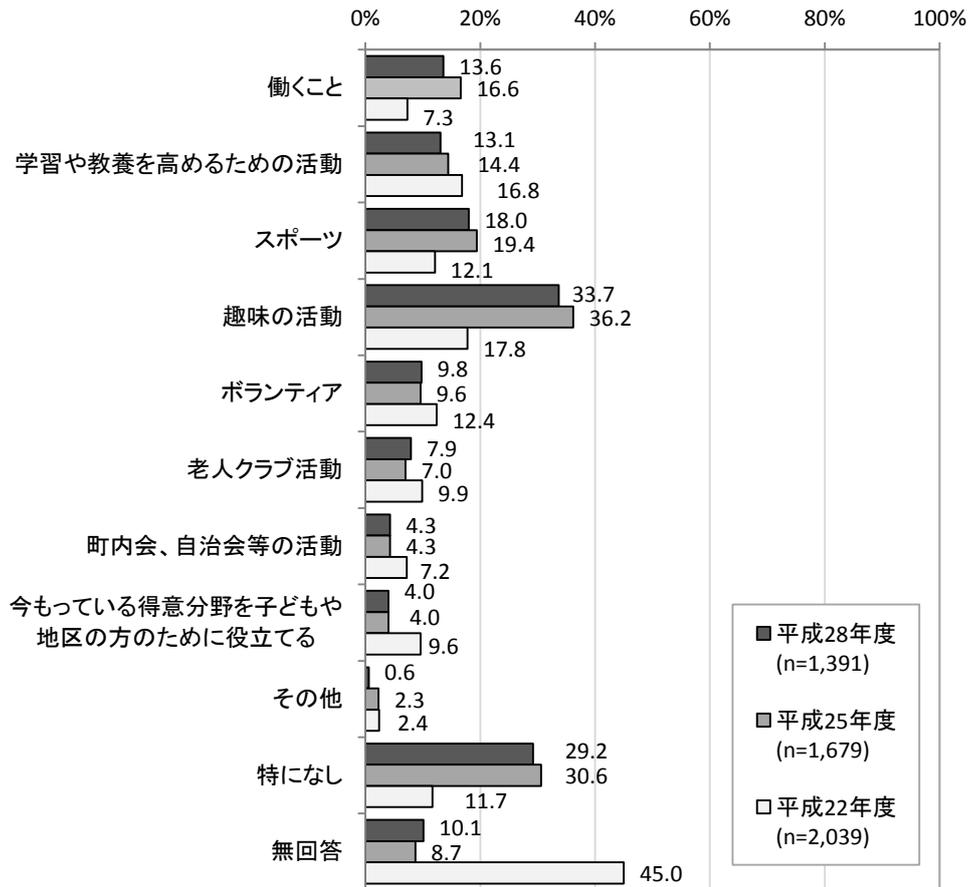
	全体 (n=)	町内会、 自治会等 の活動	家族との団 らん	今もっている 得意分野を子 どもや地区の 方のために役 立てる	その他	特になし	無回答
全体	1,391	6.9	33.5	3.3	4.0	12.6	3.7
前期高齢者	813	6.9	35.8	3.6	3.7	10.9	2.2
後期高齢者	570	6.8	29.8	2.8	4.6	15.1	6.0
無回答	8	12.5	62.5	12.5	-	-	-

(9) 今後、やってみたいこと (Q32)

今後、やってみたいことについては、「趣味の活動」(33.7%)が最も高く、次いで「スポーツ」(18.0%)、「働くこと」(13.6%)、「学習や教養を高めるための活動」(13.1%)などとなっています。一方、「特になし」(29.2%)が約3割となっています。

前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表－ 51 今後、やってみたいこと(複数回答)

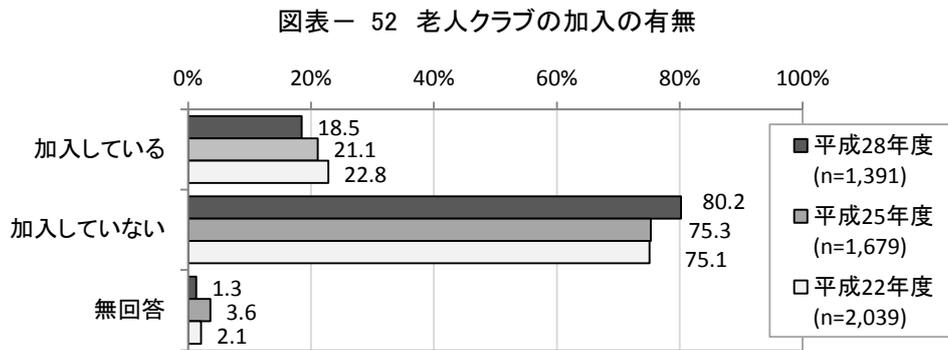


(10) 老人クラブの加入の有無 (Q33)

老人クラブについては、「加入していない」(80.2%)、「加入している」(18.5%) となっています。

前回、前々回調査と比較すると、前回より「加入していない」が高くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、「加入している」は前期高齢者では約1割、後期高齢者では約3割となっています。



図表-53 前期・後期高齢者別 老人クラブの加入の有無

(単位: %)

	全体(n=)	加入している	加入していない	無回答
全体	1,391	18.5	80.2	1.3
前期高齢者	813	10.5	89.3	0.2
後期高齢者	570	30.2	67.0	2.8
無回答	8	12.5	87.5	-

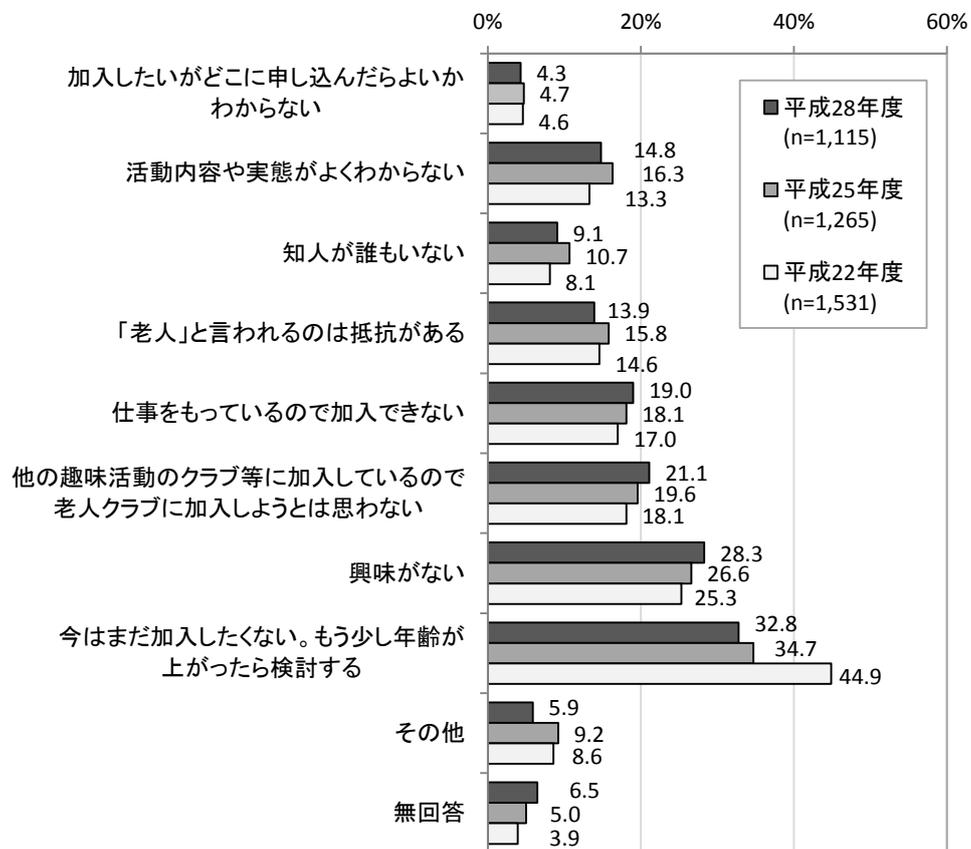
(11) 老人クラブに加入していない理由 (Q33-1)

老人クラブに加入していないと回答した人に、その理由をきいたところ、「今はまだ加入したくない。もう少し年齢が上がったら検討する」(32.8%)が最も高く、次いで「興味がない」(28.3%)、「他の趣味活動のクラブ等に参加しているので老人クラブに参加しようとは思わない」(21.1%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「今はまだ加入したくない。もう少し年齢が上がったら検討する」の割合が毎回低くなっています。一方、「興味がない」「他の趣味活動のクラブ等に参加しているので老人クラブに参加しようとは思わない」が微増しています。

前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者では「今はまだ加入したくない。もう少し年齢が上がったら検討する」が、後期高齢者では「興味がない」が最も高くなっています。

図表- 54 老人クラブに加入していない理由(複数回答)



図表－55 前期・後期高齢者別 老人クラブに加入していない理由(複数回答)

(単位:%)

	全体 (n=)	加入したいが どこに申し込ん だらよいかわ からない	活動内容や実 態がよくわか らない	知人が誰もい ない	「老人」と言わ れるのは抵抗 がある	仕事をもってい るので加入で きない
全体	1,115	4.3	14.8	9.1	13.9	19.0
前期高齢者	726	4.1	15.6	8.7	16.0	23.6
後期高齢者	382	4.7	13.6	9.9	9.4	10.2
無回答	7	-	-	-	42.9	28.6

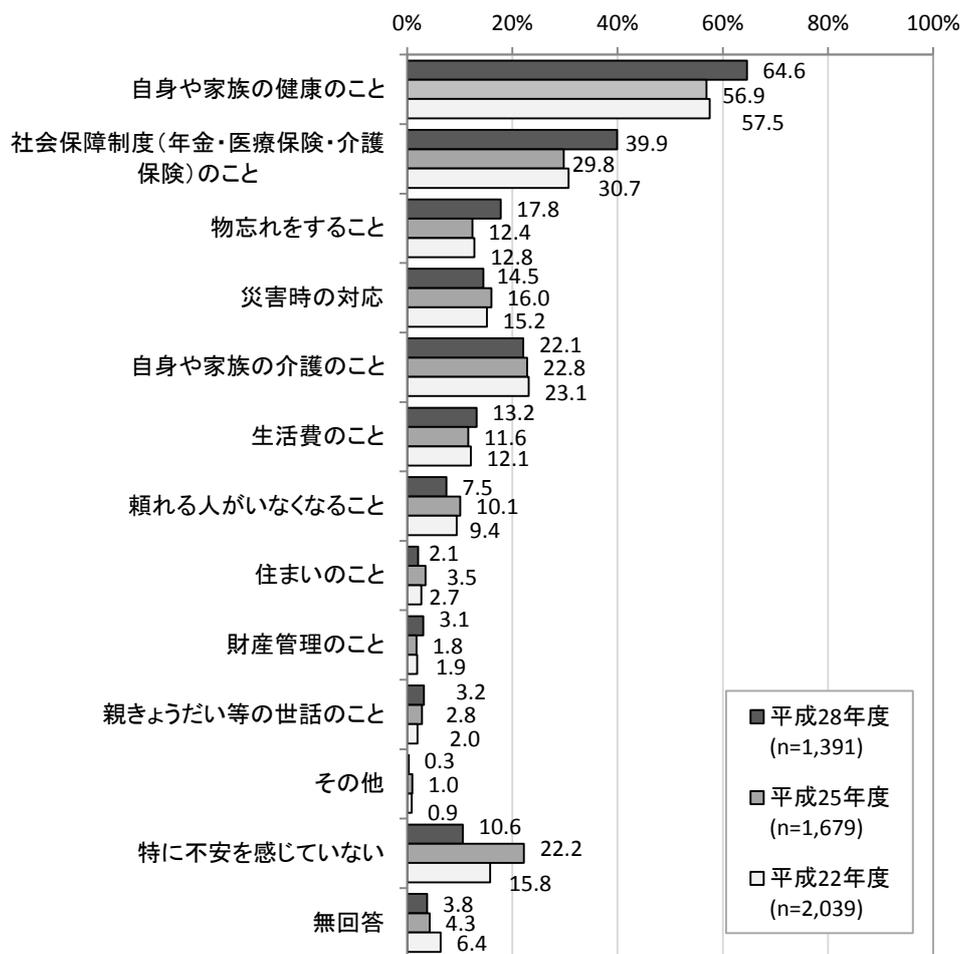
	全体 (n=)	他の趣味活動 のクラブ等に 加入している ので老人クラ ブに加入しよ うとは思わな い	興味がない	今はまだ加入 したくない。も う少し年齢が 上がったなら 検討する	その他	無回答
全体	1,115	21.1	28.3	32.8	5.9	6.5
前期高齢者	726	21.3	26.2	42.4	4.8	4.1
後期高齢者	382	20.4	32.5	14.7	8.1	11.3
無回答	7	28.6	14.3	28.6	-	-

(12) 日常生活において感じる不安 (Q34)

日常生活においてどのような不安を感じるかについては、「自身や家族の健康のこと」(64.6%)が最も高く、次いで「社会保障制度(年金・医療保険・介護保険)のこと」(39.9%)、「自身や家族の介護のこと」(22.1%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「社会保障制度(年金・医療保険・介護保険)のこと」「自身や家族の健康のこと」の割合が高くなっています。その他、「物忘れをすること」がやや高くなっています。

図表- 56 日常生活において感じる不安(3つまで)

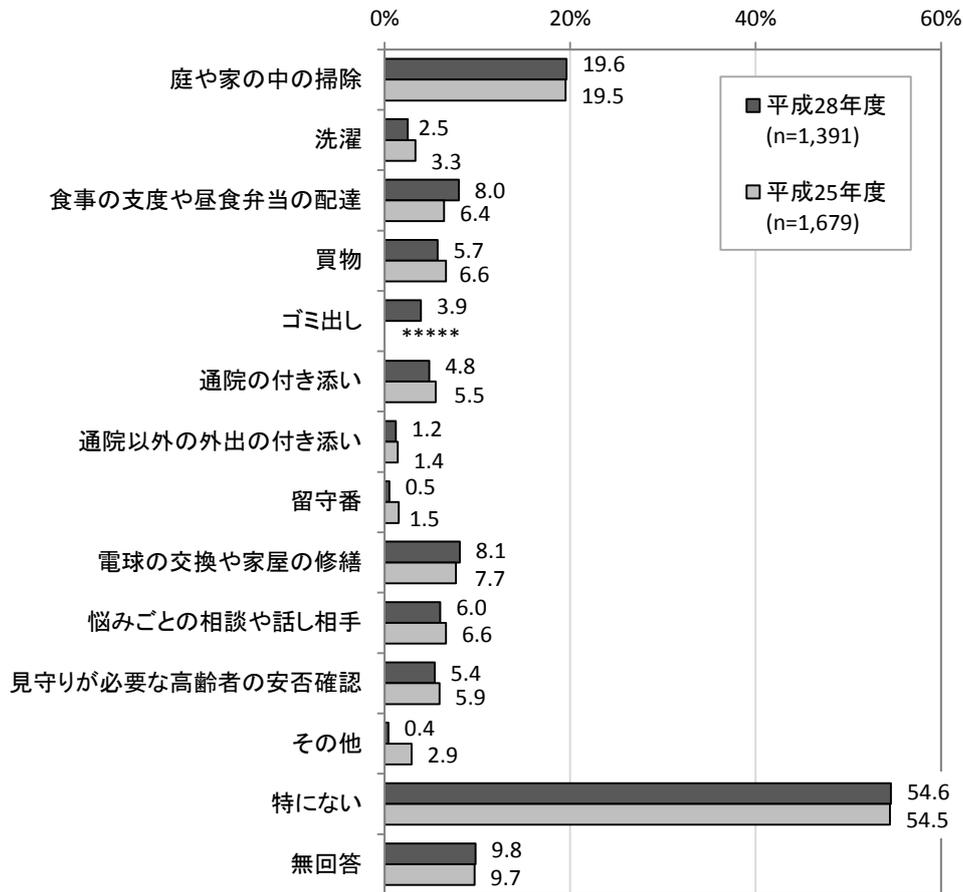


(13) ボランティアに求めたい手助け (Q35)

ボランティアの人が気軽に家庭を訪問し、手助けをしてくれるとしたらどのようなことについて手助けを求めたいと思うかについては、「特にない」(54.6%)が最も高く、次いで「庭や家の中の掃除」(19.6%)、「電球の交換や家屋の修繕」(8.1%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表－ 57 ボランティアに求めたい手助け(3つまで)

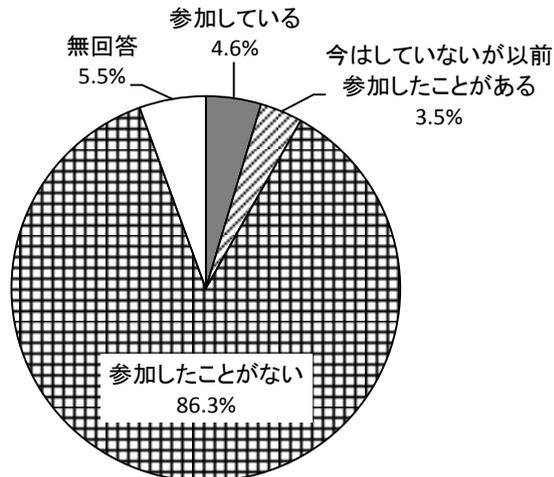


※「ゴミ出し」は平成25年度の調査項目にありません。

(14) 市内にあるサロンの参加の有無 (Q36)

市内にあるサロン(48か所)に参加したことがあるかについては、「参加したことがない」(86.3%)、「参加している」(4.6%)、「今はしていないが、以前参加したことがある」(3.5%)となっています。

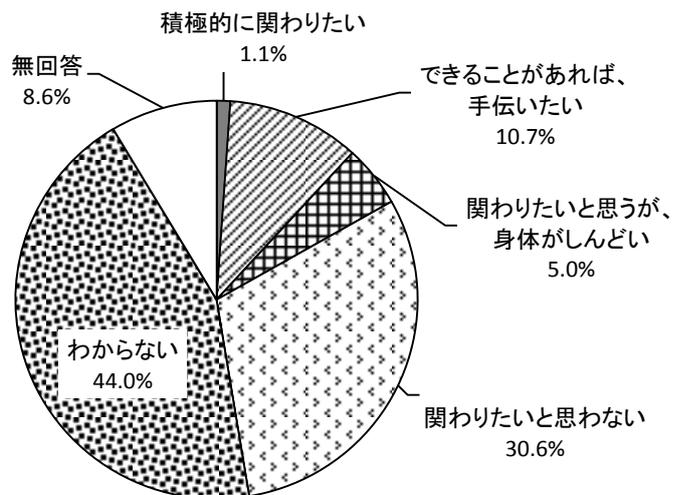
図表-58 市内にあるサロンの参加の有無 (n=1,391)



(15) 市内のサロンの企画・運営へのかかわり (Q37)

市内のサロンの企画・運営にかかわりたいと思うかきいたところ、「わからない」(44.0%)が最も高く、次いで「関わりたいと思わない」(30.6%)、「できることがあれば、手伝いたい」(10.7%)となっています。

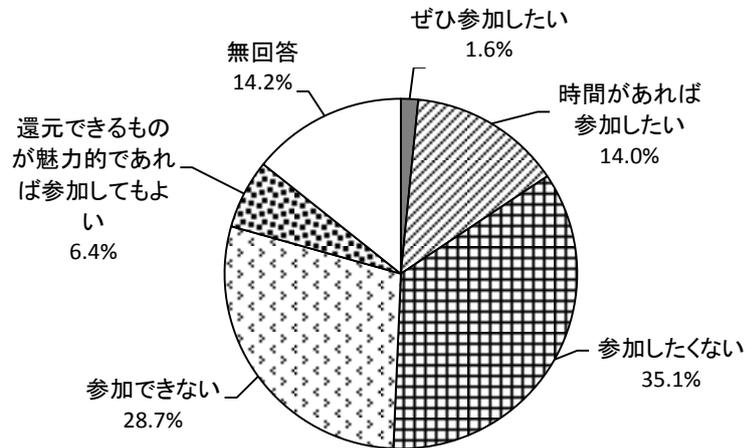
図表-59 市内のサロンの企画・運営へのかかわり (n=1,391)



(16) 「介護ボランティアポイント制度」の参加希望の有無 (Q38)

「介護ボランティアポイント制度」について、参加を希望するかきいたところ、「参加したくない」(35.1%)が最も高く、次いで「参加できない」(28.7%)、「時間があれば参加したい」(14.0%)となっています。

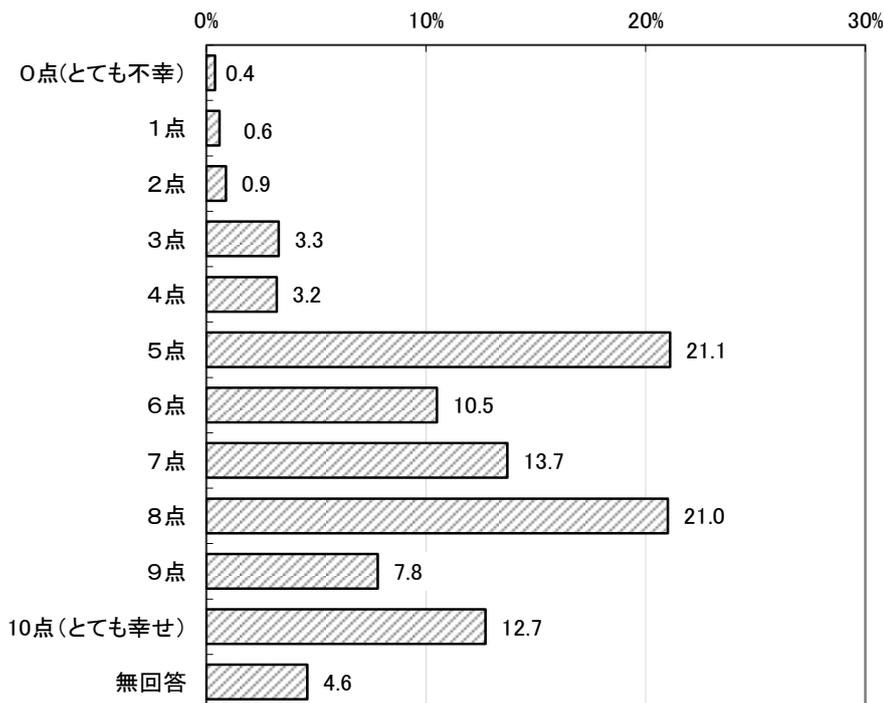
図表-60 「介護ボランティアポイント制度」の参加希望の有無 (n=1,391)



(17) 現在の幸福度 (Q39)

現在どの程度幸せかについて、0点(とても不幸)~10点(とても幸せ)できいたところ、「5点」(21.1%)の割合が最も高く、次いで「8点」(21.0%)、「7点」(13.7%)となっています。平均は6.56点となっています。

図表-61 現在の幸福度 (n=1,391)



4. 在宅医療や介護について

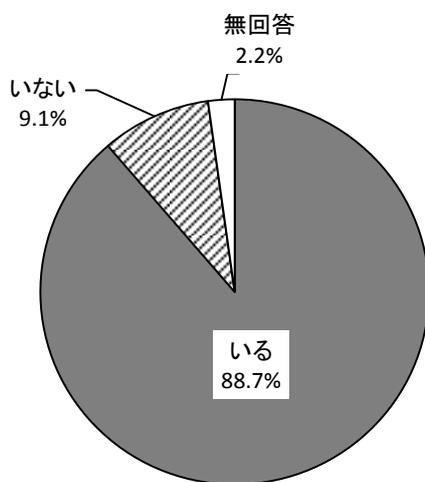
C 在宅医療や介護についてお尋ねします

(1) かかりつけ医の有無 (Q40)

かかりつけ医は、「いる」が88.7%、「いない」が9.1%となっています。

前期・後期高齢者別にみると、後期高齢者では「いる」割合が、前期高齢者に比べてやや高くなっています。

図表-62 かかりつけ医の有無 (n=1,391)



図表-63 前期・後期高齢者別 かかりつけ医の有無

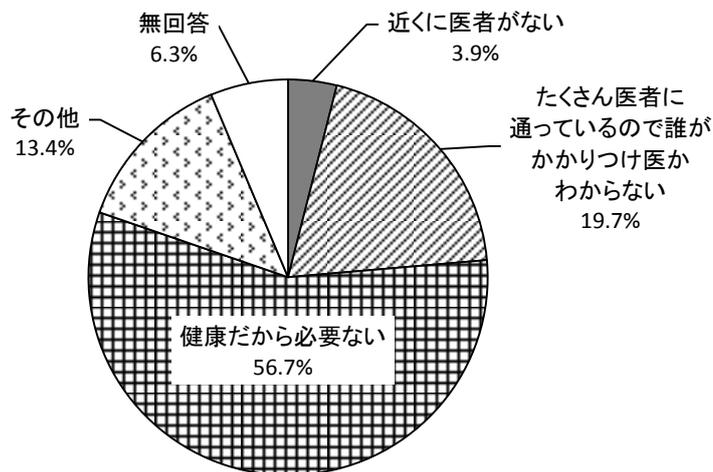
(単位: %)

	全体(n=)	いる	いない	無回答
全体	1,391	88.7	9.1	2.2
前期高齢者	813	86.7	11.8	1.5
後期高齢者	570	91.6	5.4	3.0
無回答	8	87.5	-	12.5

(2) かかりつけ医のいない理由 (Q40-1)

かかりつけ医はいないと回答した人に、その理由をきいたところ、「健康だから必要ない」(56.7%)が最も高く、次いで「たくさんの医者に通っているので誰がかかりつけ医かわからない」(19.7%)、「その他」(13.4%)となっています。

図表-64 かかりつけ医のいない理由 (n=127)

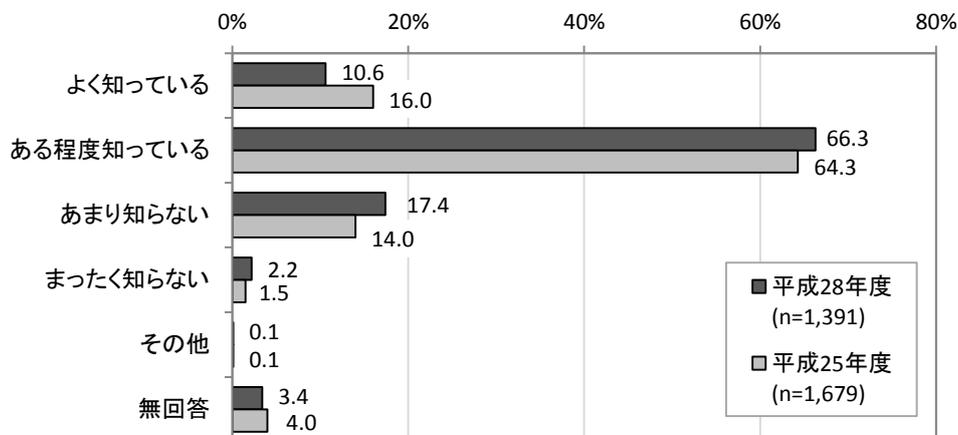


(3) 認知症についてどの程度知っているか (Q41)

認知症についてどの程度知っているかきいたところ、「ある程度知っている」(66.3%)が最も高く、次いで「あまり知らない」(17.4%)、「よく知っている」(10.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「よく知っている」の割合が低く、「あまり知らない」が高くなっています。

図表-65 認知症についてどの程度知っているか

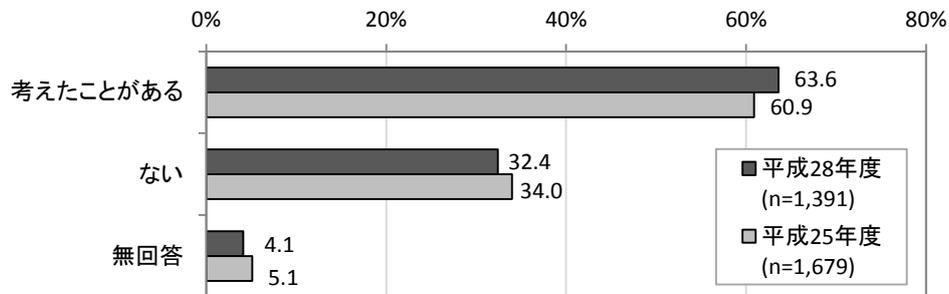


(4) 自身や家族が認知症になったとき (Q42)

自身や家族が認知症になったときに、どうしたらよいか考えたことがあるか聞いたところ、「考えたことがある」(63.6%)、「ない」(32.4%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

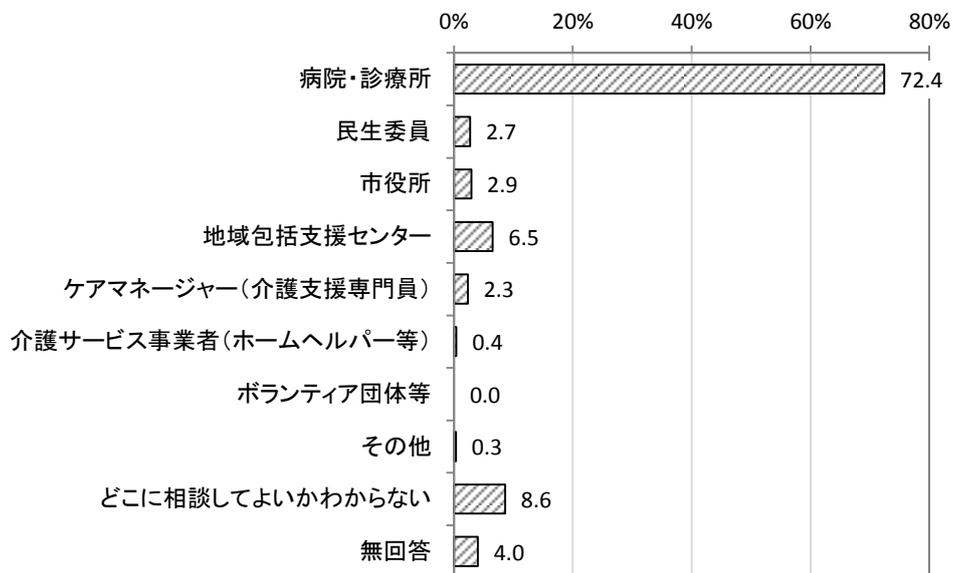
図表一 66 認知症になったときに、どうしたらよいか考えたことがあるか



(5) 認知症に気づいたときに、家族・親戚・知人以外で最初に相談する先 (Q43)

認知症の症状に気づいたときに、家族・親戚・知人以外で最初に相談（または受診）する先は、「病院・診療所」(72.4%)が最も高く、次いで「どこに相談してよいかわからない」(8.6%)、「地域包括支援センター」(6.5%)となっています。

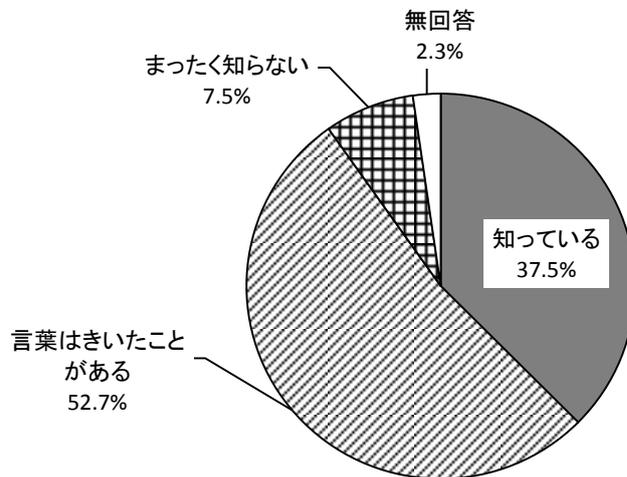
図表一 67 認知症に気づいたときに、家族・親戚・知人以外で最初に相談する先



(6) 「在宅医療」の認知度 (Q44)

「在宅医療」の認知度については、「言葉は聞いたことがある」(52.7%)、「知っている」(37.5%)、「まったく知らない」(7.5%) となっています。

図表-68 「在宅医療」の認知度 (n=1,391)

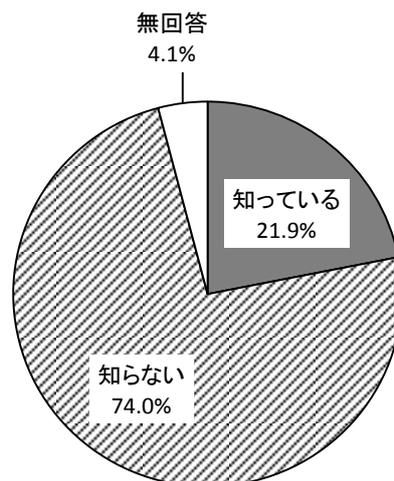


※在宅医療とは、医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅での生活を望む方が、引き続き自宅での生活が継続できるよう、医師だけでなく歯科医、薬剤師、看護師などのほか、介護サービスも含め他職種が連携してサービスが提供される体制のことです。

(7) 「在宅療養支援診療所」の認知度 (Q45)

「在宅療養支援診療所」については、「知らない」(74.0%)、「知っている」(21.9%) となっています。

図表-69 「在宅療養支援診療所」の認知度 (n=1,391)

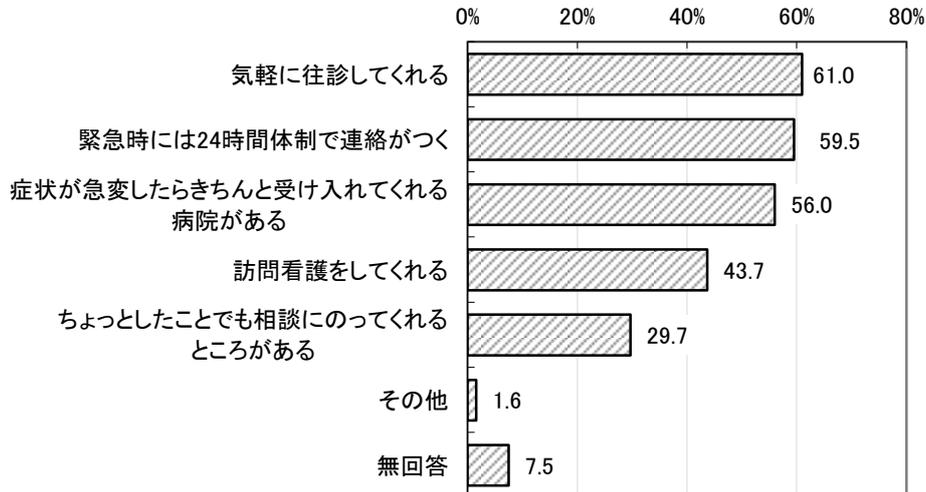


※在宅療養支援診療所とは、地域において在宅医療を支える 24 時間の窓口として、他の病院、診療所等と連携を図りつつ、24 時間往診、訪問看護等を提供する診療所のことです。

(8) 在宅医療を利用したい環境について (Q46)

どのような環境を整えれば在宅医療を利用したいと思うかについては、「気軽に往診してくれる」(61.0%) が最も高く、次いで「緊急時には24時間体制で連絡がつく」(59.5%)、「症状が急変したらきちんと受け入れてくれる病院がある」(56.0%) となっています。

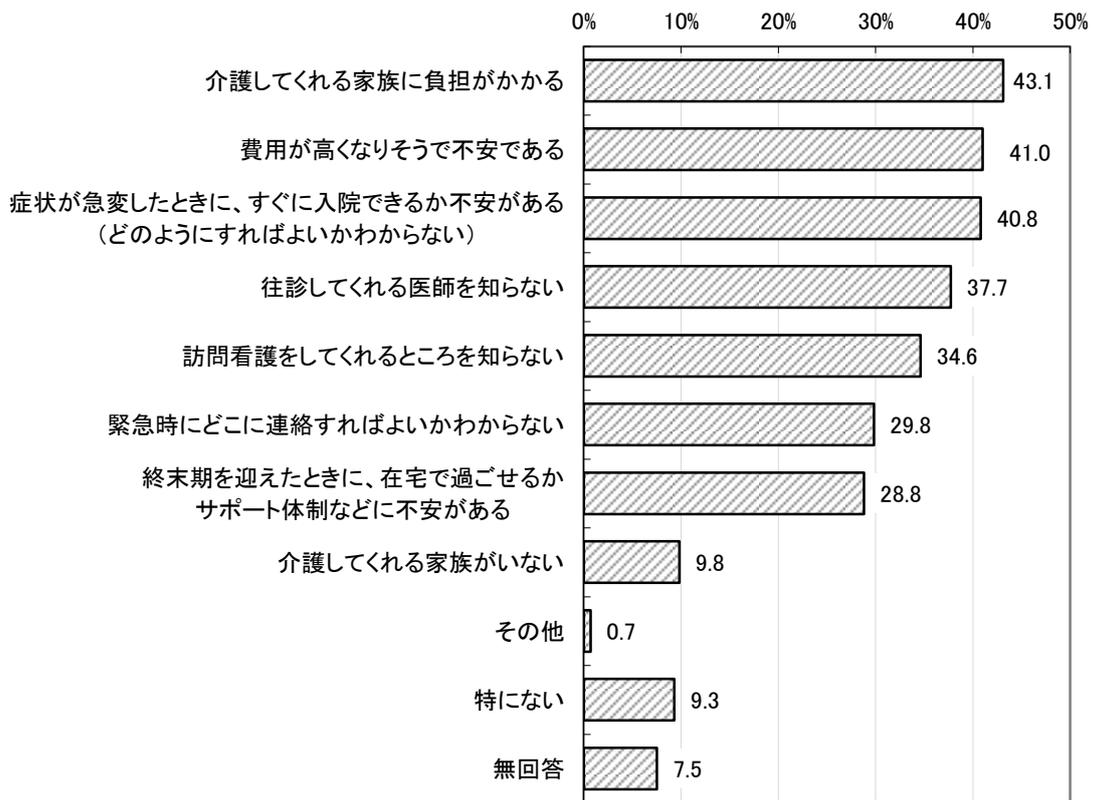
図表-70 在宅医療を利用したい環境(複数回答) (n=1,391)



(9) 在宅医療を利用する場合の不安について (Q47)

あなたや家族が在宅医療を利用する場合の不安については、「介護してくれる家族に負担がかかる」(43.1%)が最も高く、次いで「費用が高くなりそうで不安である」(41.0%)、「症状が急変したときに、すぐに入院できるか不安がある(どのようにすればよいかわからない)」(40.8%)となっています。

図表-71 家族が在宅医療を利用する場合の不安(複数回答) (n=1,391)

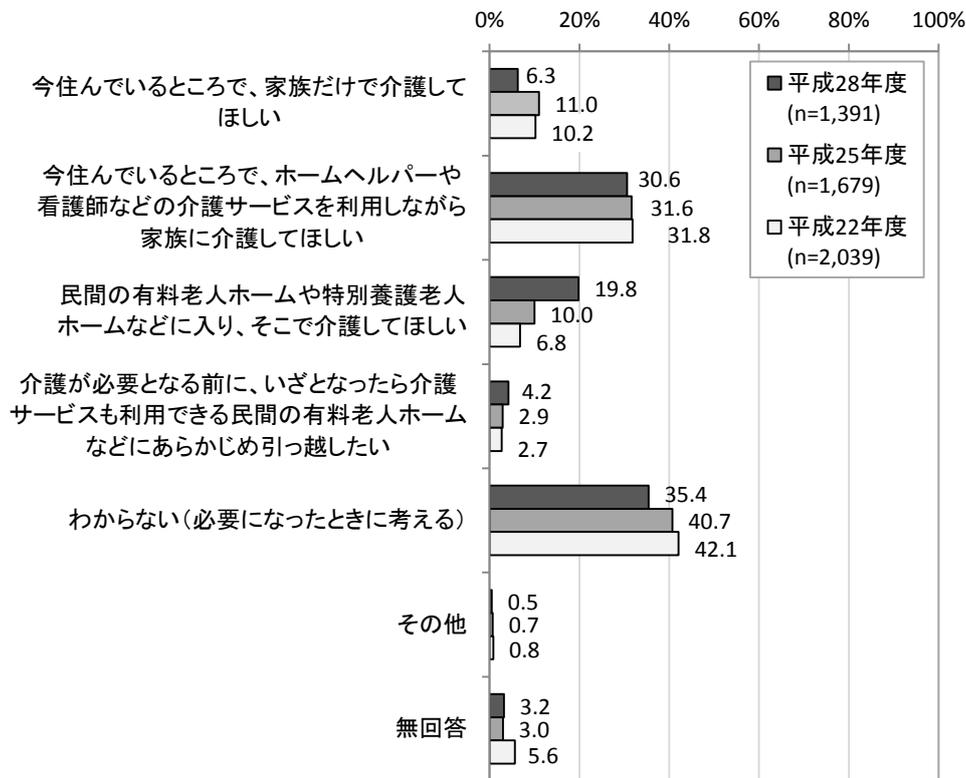


(10) 介護が必要になったときに望む介護の方法 (Q48)

今後、もし介護が必要になった場合に、どのような方法での介護を望むかについては、「わからない(必要になったときに考える)」(35.4%)が最も高く、次いで「今住んでいるところで、ホームヘルパーや看護師などの介護サービスを利用しながら家族に介護してほしい」(30.6%)、「民間の有料老人ホームや特別養護老人ホームなどに入り、そこで介護してほしい」(19.8%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「民間の有料老人ホームや特別養護老人ホームなどに入り、そこで介護してほしい」の割合が高くなっています。

図表- 72 介護が必要になったときに望む介護の方法

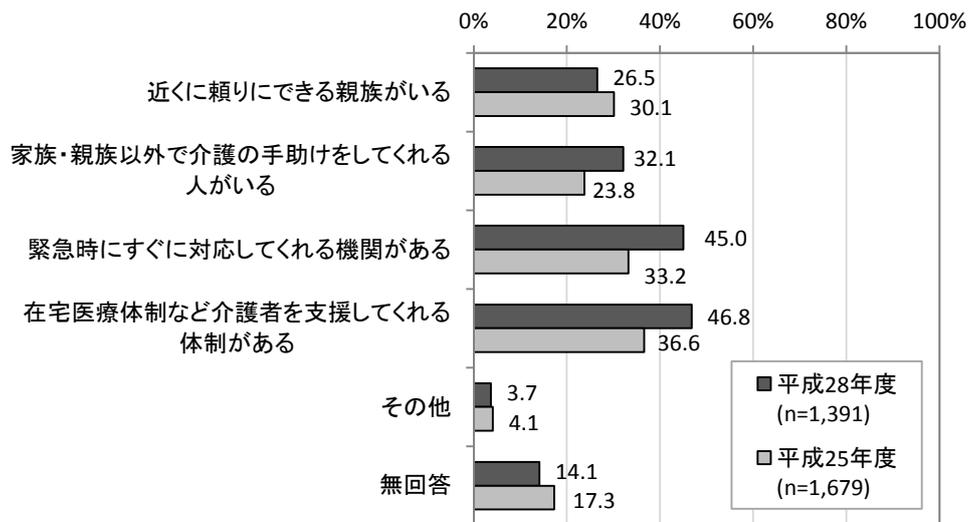


(11) 介護が必要になったときに、自宅で生活するために必要な支援 (Q49)

介護が必要になったときに、どのような支援があれば自宅で生活ができると思うか聞いたところ、「在宅医療体制など介護者を支援してくれる体制がある」(46.8%)が最も高く、次いで「緊急時にすぐに対応してくれる機関がある」(45.0%)、「家族・親族以外で介護の手助けをしてくれる人がいる」(32.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「緊急時にすぐに対応してくれる機関がある」「在宅医療体制など介護者を支援してくれる体制がある」の割合が高くなっています。

図表ー 73 介護が必要になったときに、自宅で生活するために必要な支援(複数回答)



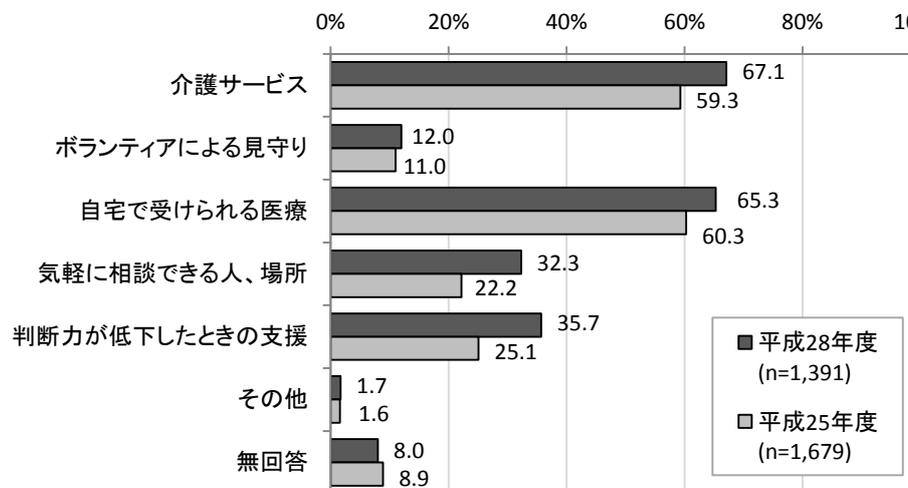
(12) 介護が必要になったときに、自宅で暮らし続けるために必要な整備 (Q50)

介護が必要になったときに自宅で暮らし続けるために、整備が必要だと思われるものについては、「介護サービス」(67.1%)が最も高く、次いで「自宅で受けられる医療」(65.3%)、「判断力が低下したときの支援」(35.7%)となっています。

前回調査と比較すると、「介護サービス」「気軽に相談できる人、場所」「判断力が低下したときの支援」の割合が高くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、どの項目においても、前期高齢者の割合が後期高齢者より高くなっていますが、特に「介護サービス」は前期高齢者の割合が高くなっています。

図表-74 介護が必要になったときに、自宅で暮らし続けるために必要な整備(複数回答)



図表-75 前期・後期高齢者別 介護が必要になったときに、自宅で暮らし続けるために必要な整備(複数回答)

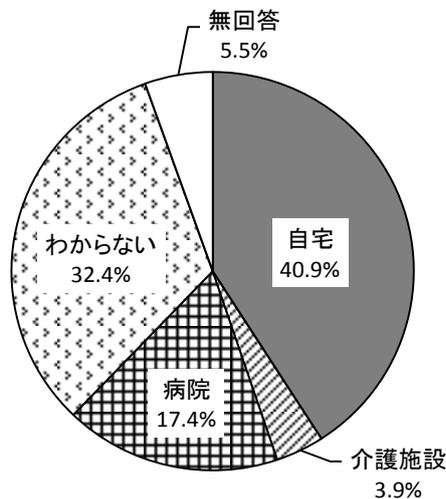
(単位:%)

	全体 (n=)	介護サービス	ボランティアによる見守り	自宅で受けられる医療	気軽に相談できる人、場所	判断力が低下したときの支援	その他	無回答
全体	1,391	67.1	12.0	65.3	32.3	35.7	1.7	8.0
前期高齢者	813	72.1	13.0	66.7	33.6	38.1	1.7	5.3
後期高齢者	570	60.0	10.7	63.5	30.2	32.3	1.6	11.9
無回答	8	75.0	-	50.0	50.0	37.5	-	-

(13) 最期を迎えたい場所 (Q51)

最期はどこで迎えたいと思うかについては、「自宅」(40.9%)が最も高く、次いで「わからない」(32.4%)、「病院」(17.4%)、「介護施設」(3.9%)となっています。

図表-76 最後を迎えたい場所 (n=1,391)

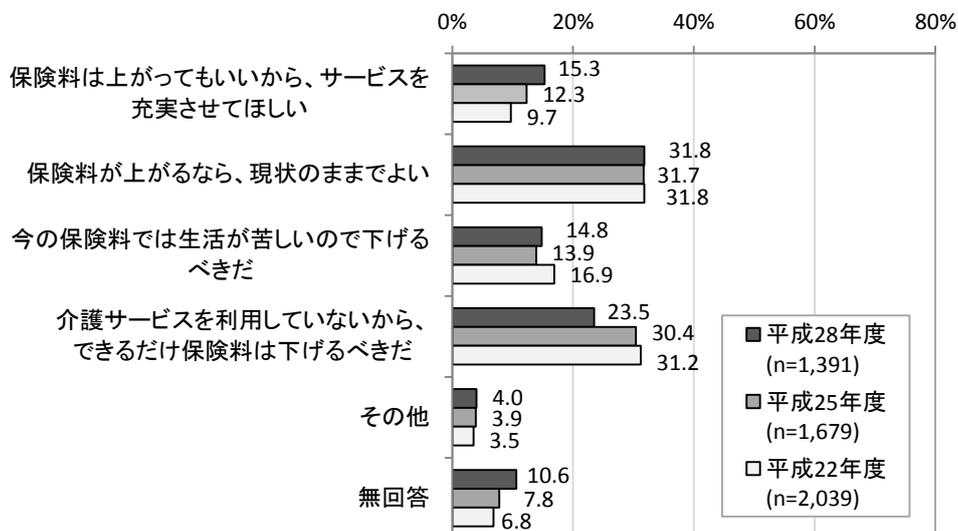


(14) 介護保険料について (Q52)

介護保険料について、どのように感じているかについては、「保険料が上がるなら、現状のままでよい」(31.8%)が最も高く、次いで「介護サービスを利用していないから、できるだけ保険料は下げるべきだ」(23.5%)、「保険料は上がってもいいから、サービスを充実させてほしい」(15.3%)となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「保険料は上がってもいいから、サービスを充実させてほしい」が、毎回微増し、「介護サービスを利用していないから、できるだけ保険料は下げるべきだ」の割合が低くなっています。

図表-77 介護保険料について

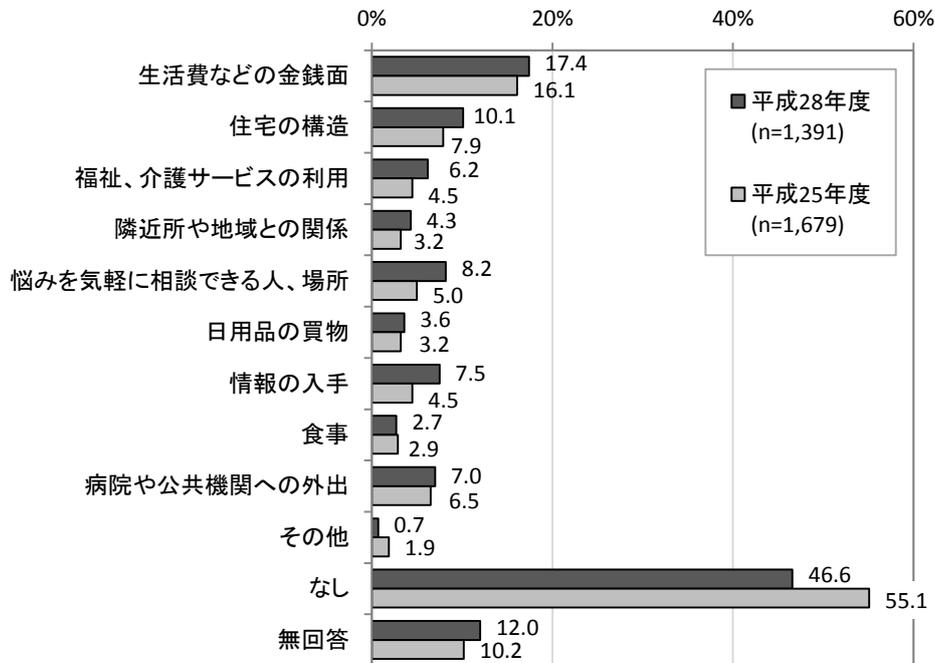


(15) 現在、生活するうえで困っていること (Q53)

現在、生活するうえで困っていることについては、「なし」(46.6%)が最も高く、次いで「生活費などの金銭面」(17.4%)、「住宅の構造」(10.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「なし」の割合が低くなっています。

図表ー 78 現在、生活するうえで困っていること(複数回答)

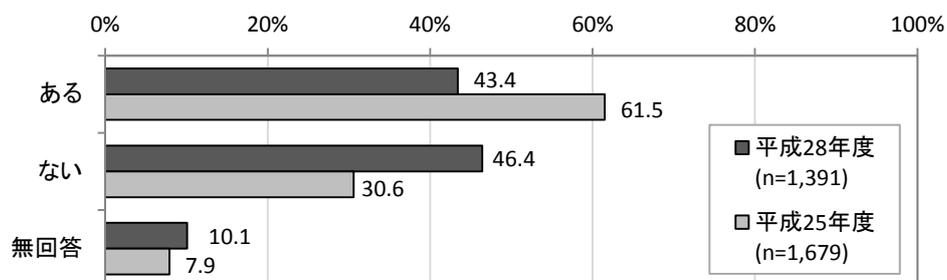


(16) 介護について、悩みを気軽に相談できる人や場所の有無 (Q54)

介護について、悩みを気軽に相談できる人や場所は、「ない」(46.4%)、「ある」(43.4%)、となっています。

前回調査と比較すると、「ある」の割合が約18ポイント低くなった一方で、「ない」の割合が高くなっています。

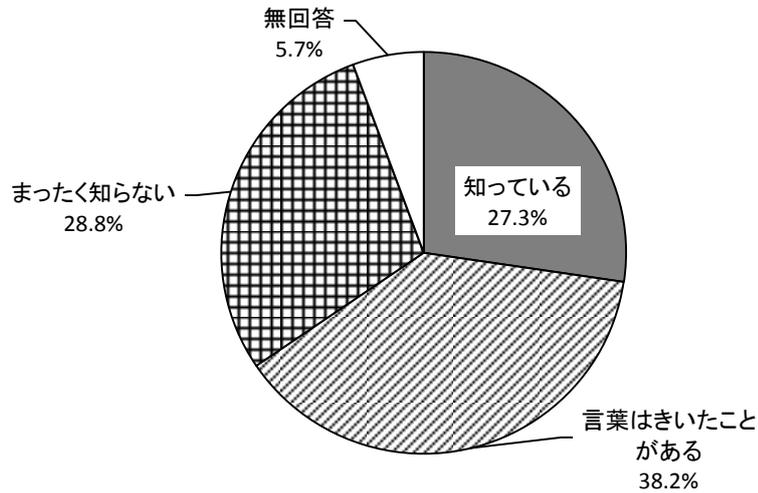
図表ー 79 介護について、悩みを気軽に相談できる人や場所の有無



(17) 「地域包括支援センター」の認知度 (Q55)

「地域包括支援センター」の認知については、「知っている」(27.3%)、「言葉は聞いたことがある」(38.2%)、「まったく知らない」(28.8%)、となっています。

図表－ 80 「地域包括支援センター」の認知度

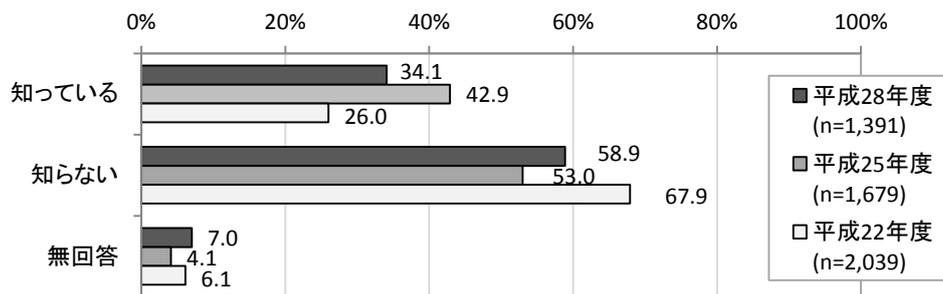


(18) 担当の地域包括支援センターの認知度 (Q56)

自分の住まいの地域を担当している地域包括支援センターの認知については、「知らない」が58.9%、「知っている」が34.1%となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「知っている」の割合が前回高くなったものの今回低くなり、「知らない」の割合が前回低くなったものの今回高くなっています。

図表－81 担当の地域包括支援センターの認知度 (n=1,391)



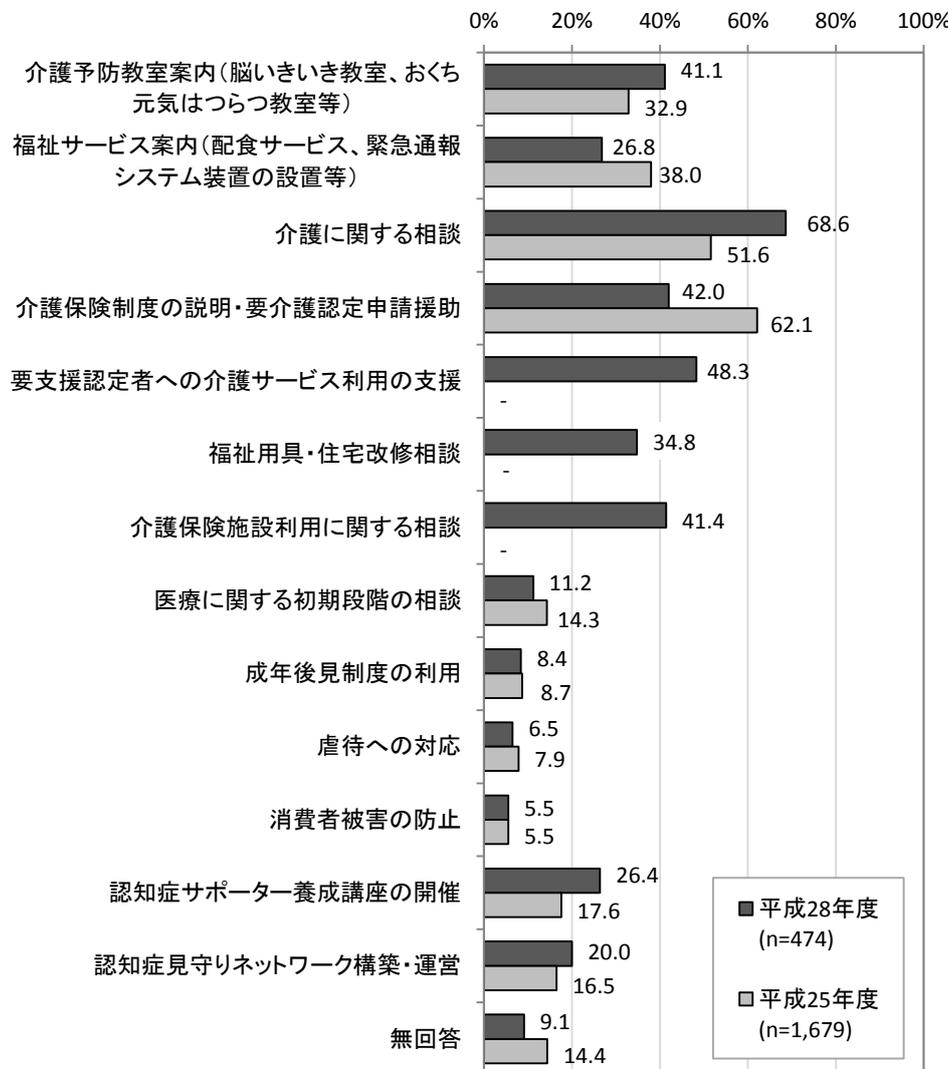
(19) 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務の認知度 (Q56-1)

自分の住まいの地域を担当している地域包括支援センターを知っていると回答した人に、地域包括支援センターの高齢者に対する業務について知っているか聞いたところ、「介護に関する相談」(68.6%)が最も高く、次いで「要支援認定者への介護サービス利用の支援」(48.3%)、「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」(42.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「介護に関する相談」「介護予防教室案内」「認知症サポーター養成講座の開催」の割合が高くなっている一方で、「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」「福祉サービス案内(配食サービス、緊急通報システム装置の設置等)」の割合が低くなっています。

前期・後期高齢者別にみると、ほとんどの項目において前期高齢者の割合が後期高齢者より高くなっていますが、「介護予防教室案内」は後期高齢者の割合が高くなっています。

図表- 82 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務で知っているもの(複数回答)



※「要支援認定者への介護サービス利用の支援」「福祉用具・住宅改修相談」「介護保険施設利用に関する相談」は平成25年度の調査項目にありません。

図表－83 前期・後期高齢者別 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務で知っているもの(複数回答)

(単位:%)

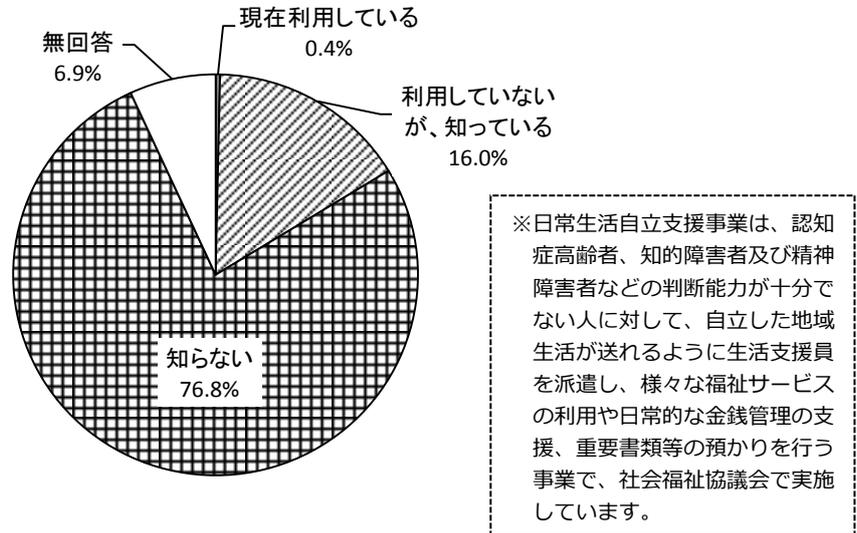
	全体 (n=)	介護予防 教室案内 (脳いき いき教室、お くち元気は つつ教室 等)	福祉サー ビス案内(配 食サービ ス、緊急通 報システム 装置の設 置等)	介護に関 する相談	介護保険 制度の説 明・要介護 認定申請 援助	要支援認 定者への 介護サー ビス利用の 支援	福祉用具・ 住宅改修 相談	介護保険施 設利用に関 する相談
全体	474	41.1	26.8	68.6	42.0	48.3	34.8	41.4
前期高齢者	255	39.2	30.2	72.2	47.5	53.7	38.0	42.4
後期高齢者	216	43.1	22.2	63.9	35.2	41.2	30.6	39.4
無回答	3	66.7	66.7	100.0	66.7	100.0	66.7	100.0

	全体 (n=)	医療に関 する初期段 階の相談	成年後見制 度の利用	虐待への 対応	消費者被 害の防止	認知症サ ポーター養 成講座の 開催	認知症見 守りネット ワーク構 築・運営	無回答
全体	474	11.2	8.4	6.5	5.5	26.4	20.0	9.1
前期高齢者	255	11.8	7.8	7.8	4.7	31.8	23.9	5.1
後期高齢者	216	10.2	8.8	4.6	6.0	19.4	15.3	13.9
無回答	3	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	-

(20) 「日常生活自立支援事業」の認知度 (Q57)

「日常生活自立支援事業」については、「知らない」が76.8%、「利用していないが、知っている」が16.0%、「現在利用している」が0.4%となっています。

図表-84 「日常生活自立支援事業」の認知度 (n=1,391)

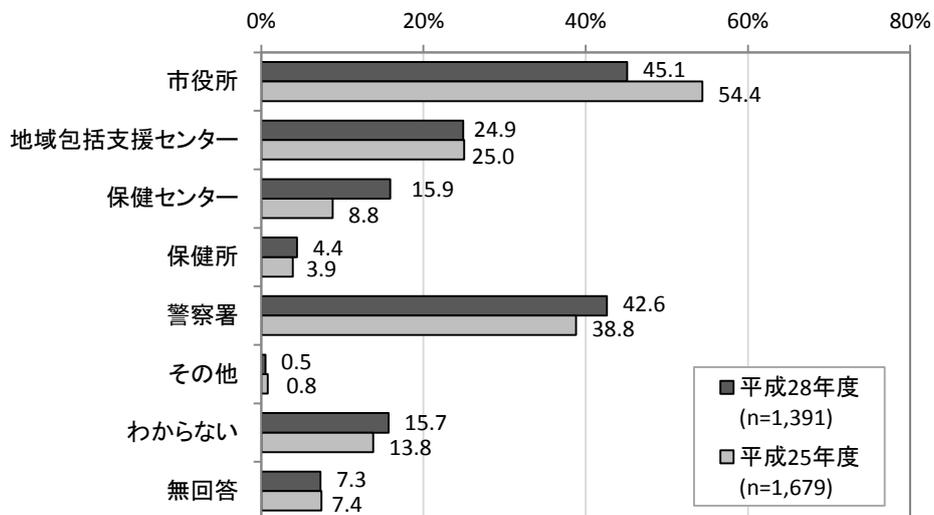


(21) 高齢者虐待に関して、相談する機関 (Q58)

身近で高齢者虐待に関することがあったら、どのような機関に相談するかについては、「市役所」(45.1%)が最も高く、次いで「警察署」(42.6%)、「地域包括支援センター」(24.9%)となっています。

前回調査と比較すると、「市役所」が低く、「保健センター」と「警察署」が高くなっています。

図表-85 高齢者虐待に関して、相談する機関(複数回答)

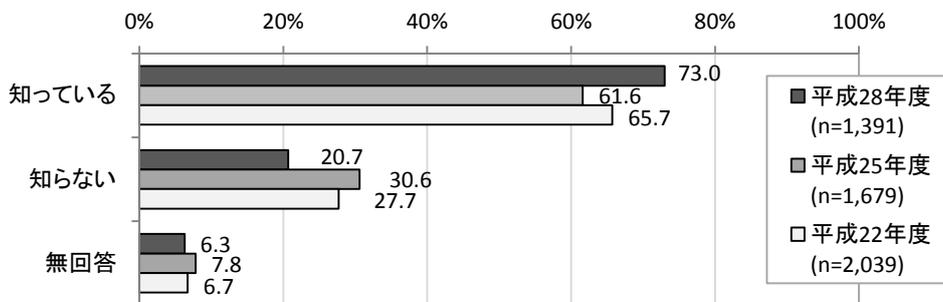


(22) 災害時の緊急避難場所の認知度 (Q59)

災害時の緊急避難場所の認知については、「知っている」が 73.0%、「知らない」が 20.7% となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「知っている」の割合が前回よりも高くなっています。

図表－ 86 災害時の緊急避難場所の認知度

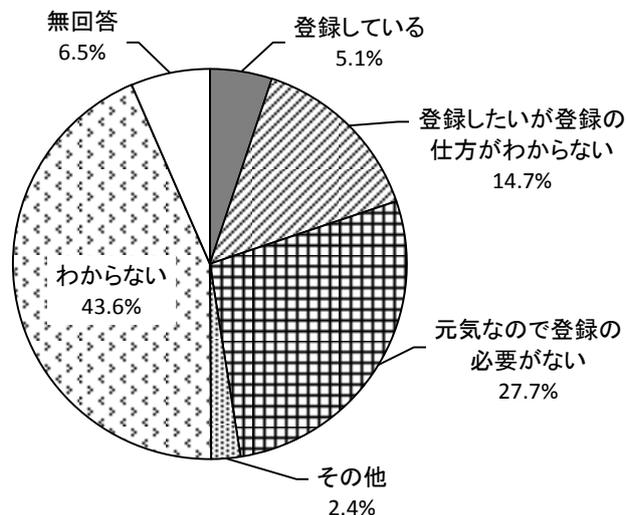


(23) 災害時の避難行動要支援者台帳への登録の有無 (Q60)

災害時の避難行動要支援者台帳への登録については、「わからない」(43.6%) が最も高く、次いで「元気なので登録の必要がない」(27.7%)、「登録したいが登録の仕方がわからない」(14.7%) となっています。

一方、「登録している」人は 5.1% となっています。

図表－87 災害時の避難行動要支援者台帳への登録の有無 (n=1,391)



(24) 小牧市の保健・福祉サービスについて (Q61)

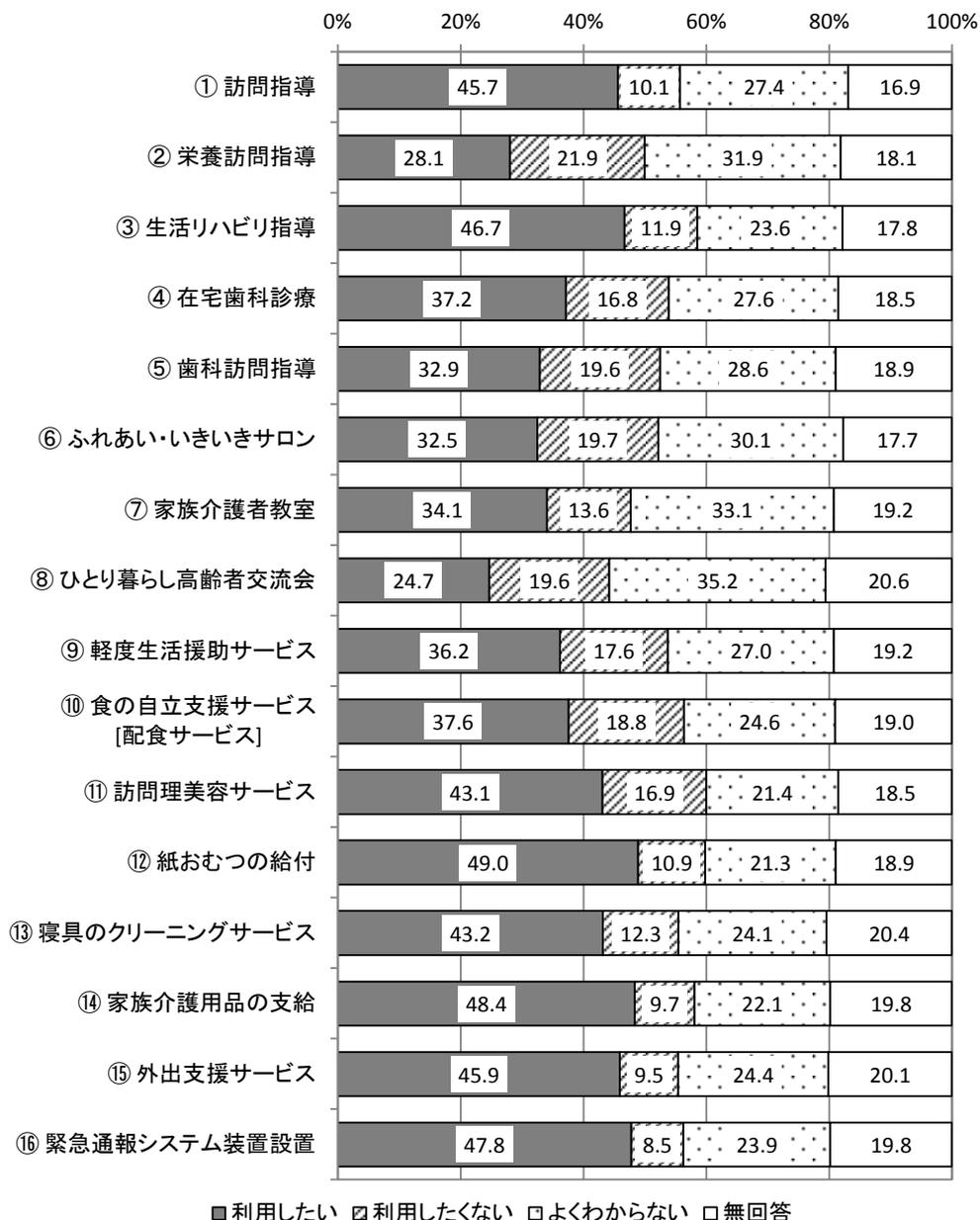
小牧市の保健・福祉サービスについて、「利用したい」では、「⑫紙おむつの給付」(49.0%) 「⑭家族介護用品の支給」(48.4%)、「⑯緊急通報システム装置設置」(47.8%) が5割近くになっています。

「利用したくない」では、「②栄養訪問指導」(21.9%)、「⑥ふれあい・いきいきサロン」(19.7%)、「⑤歯科訪問指導」(19.6%)、「⑧ひとり暮らし高齢者交流会」(19.6%) が2割前後となっています。

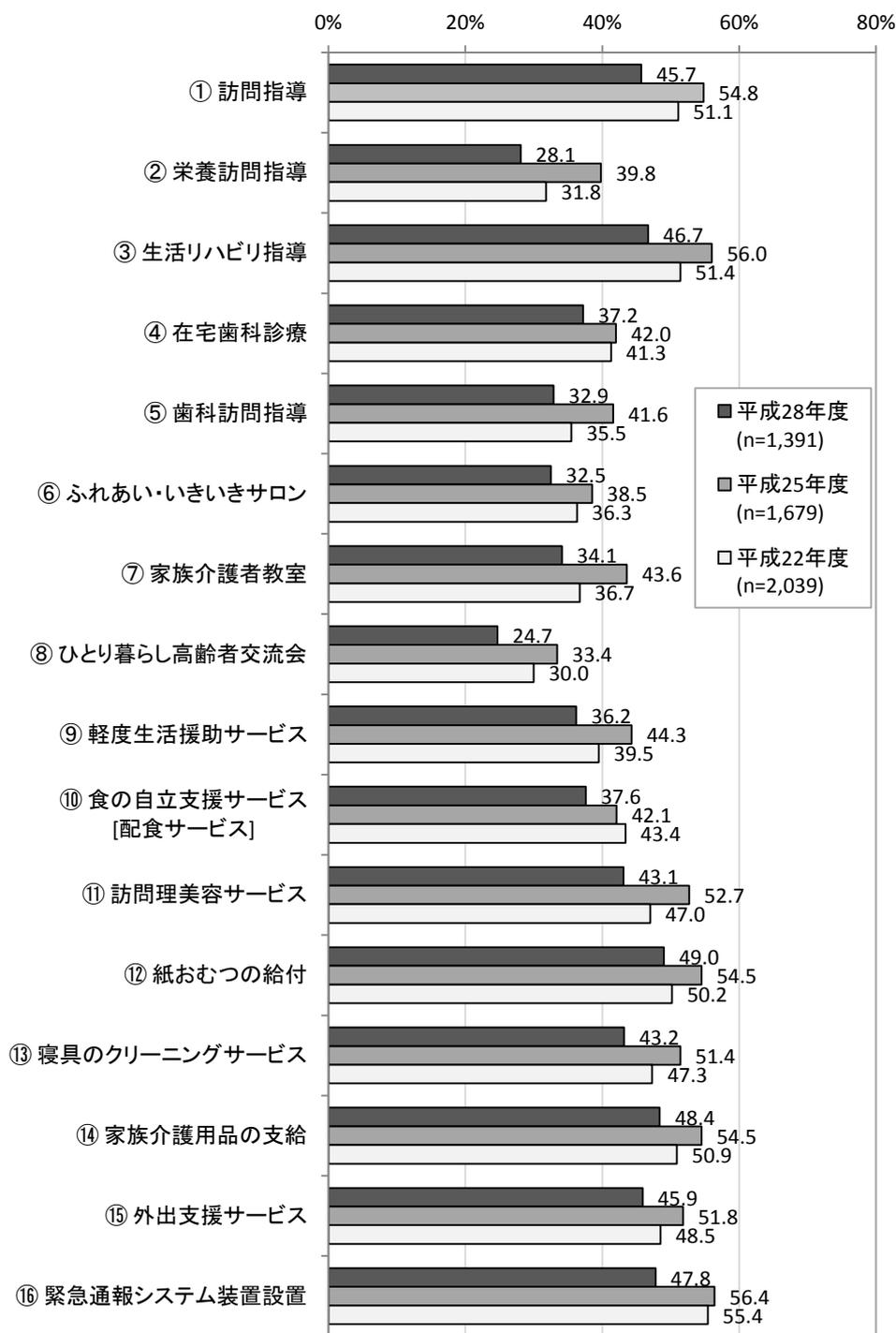
前回、前々回調査と比較すると、「利用したい」割合が、全ての項目で前回より低くなっていますが、特に「①訪問指導」「②栄養訪問指導」「③生活リハビリ指導」「⑦家族介護者教室」「⑪訪問理美容サービス」が前回より低くなっています。

図表ー 88 小牧市の保健・福祉サービスについて

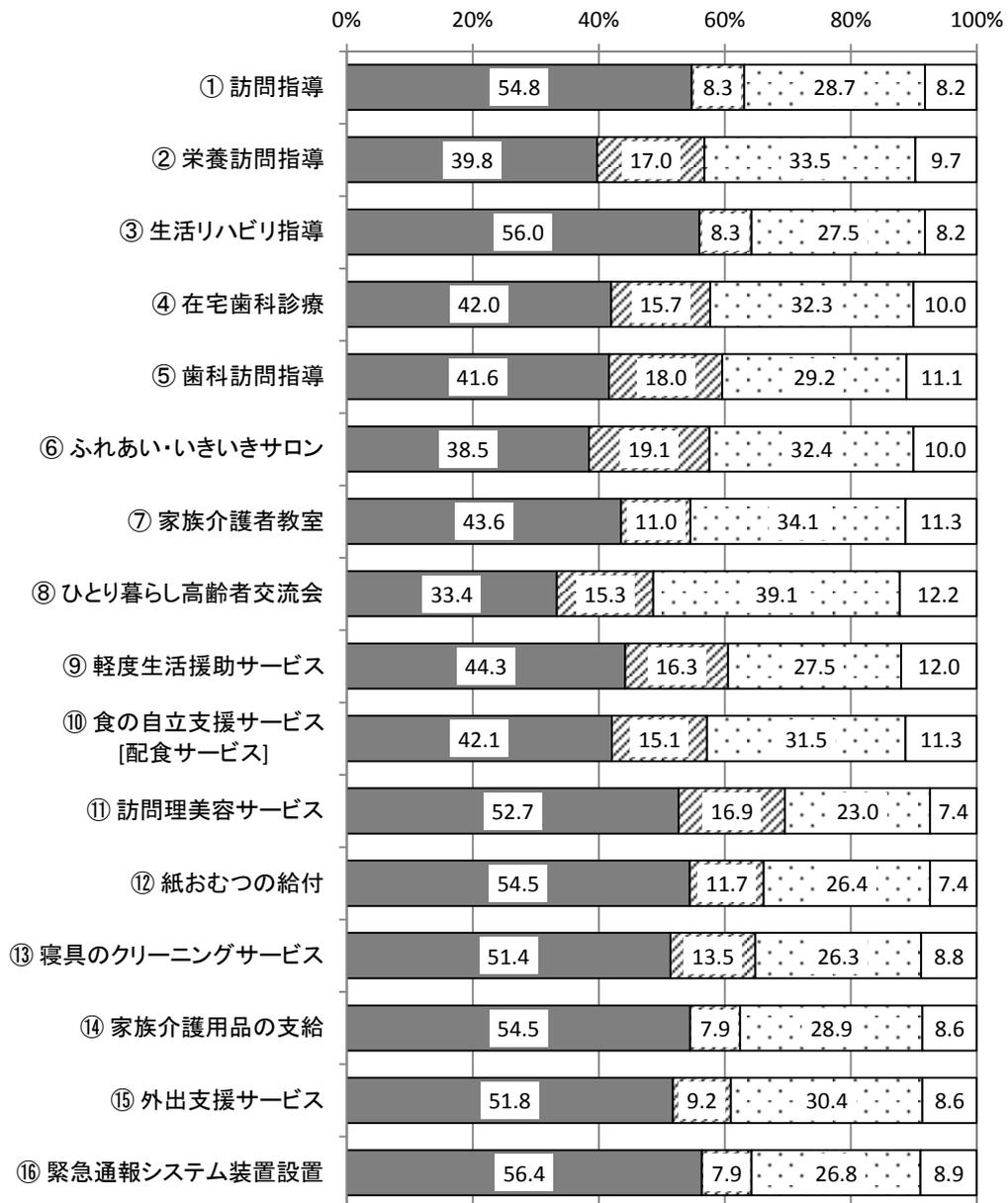
【平成 28 年度調査】 (n=1,391)



図表一 89 小牧市の保健・福祉サービスについて「利用したい」のみ

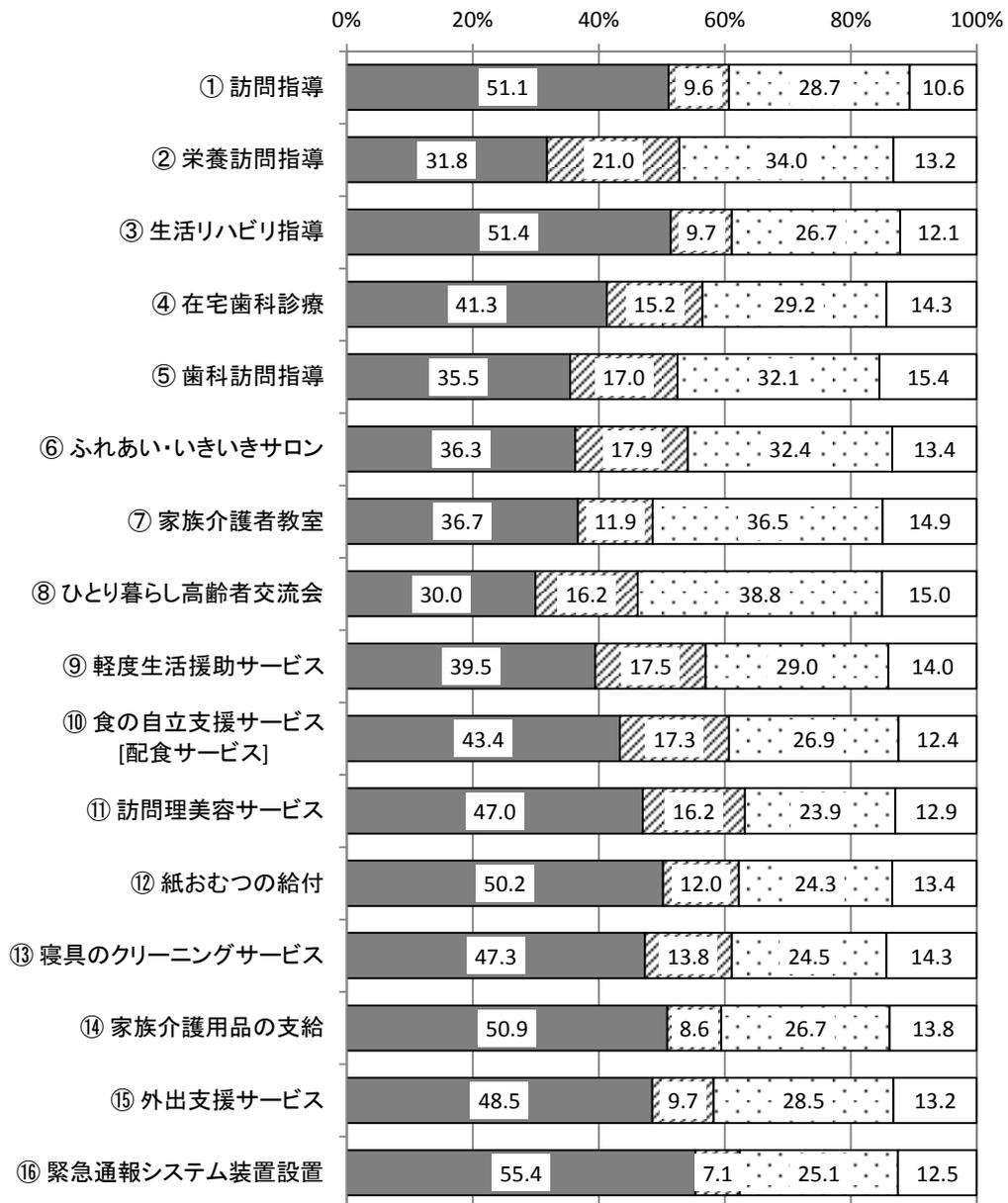


【平成 25 年度調査】 (n=1,679)



■ 利用したい □ 利用したくない □ よくわからない □ 無回答

【平成 22 年度調査】 (n=2,039)



■ 利用したい □ 利用したくない □ よくわからない □ 無回答

IV. 介護保険認定者実態調査

* 今回の調査対象は、在宅介護者、介護施設入居者を問わず介護保険認定者全体(n=1,170)であるため、問5同居者の回答において、「介護保険施設に入所」と「無回答」を除いたものを「在宅介護」(n=809)、「介護保険施設に入所」を「施設等入所」(n=347)と表記しています。

* 前回、前々回調査の介護保険認定者(在宅介護)と比較においては、「在宅介護」(n=809)の数値で比較しています。

1. 回答者の属性

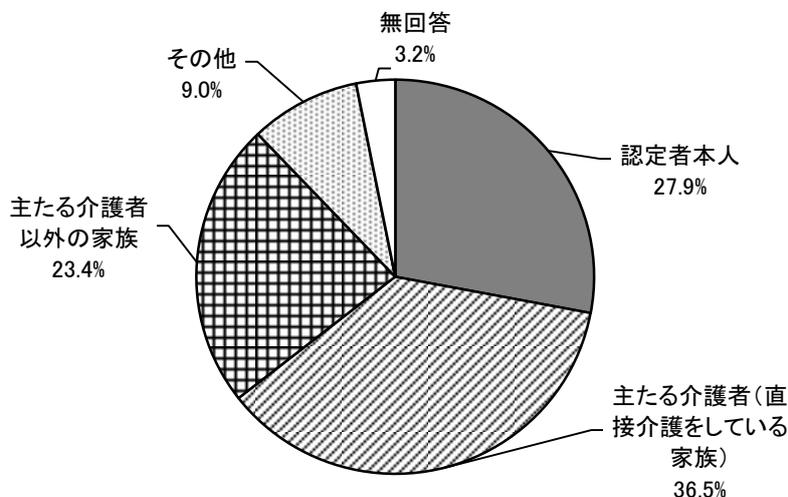
A 認定者本人、家族の状況などについてお尋ねします (平成 28 年 12 月 1 日現在でお答えください)

(1) 調査票の回答者 (Q1)

調査票の回答者は、「主たる介護者(直接介護をしている家族)」(36.5%)が最も高く、次いで「認定者本人」(27.9%)、「主たる介護者以外の家族」(23.4%)となっています。

在宅施設等別にみると、居宅介護では、「主たる介護者(直接介護をしている家族)」(52.7%)が、施設等入所者では「主たる介護者以外の家族」(68.3%)が、最も高くなっています。

図表-90 調査票の回答者 (n=1,170)



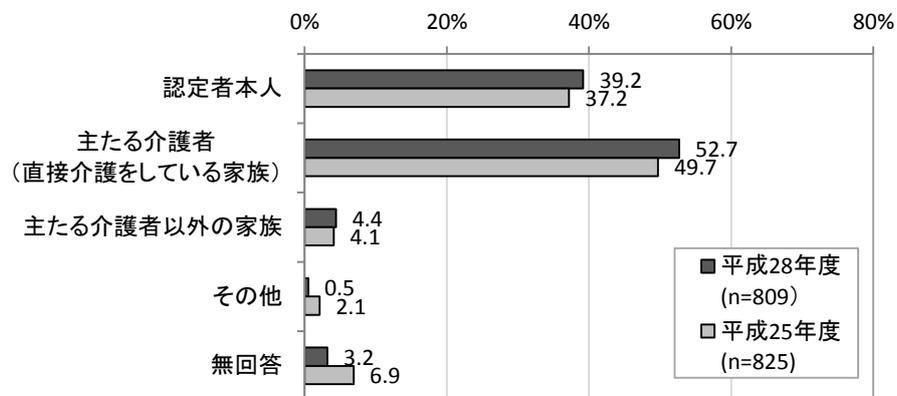
図表-91 在宅施設等別 調査票の回答者

(単位: %)

	全体 (n=)	認定者 本人	主たる介護者 (直接介護をし ている家族)	主たる介護者 以外の家族	その他	無回答
全体	1,170	27.9	36.5	23.4	9.0	3.2
在宅介護	809	39.2	52.7	4.4	0.5	3.2
施設等入所	347	-	-	68.3	29.1	2.6
無回答	14	71.4	7.1	7.1	-	14.3

在宅介護について前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

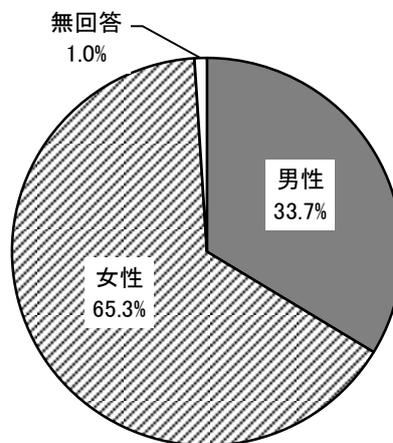
図表－92 【在宅介護】 調査票の記入者



(2) 本人の性別 (Q2)

認定者本人の性別は、「男性」が33.7%、「女性」が65.3%となっています。要介護度別にみると、「要介護4、5」で「女性」の割合が高くなっています。在宅施設等別にみると、「施設等入所」で「女性」の割合が高くなっています。

図表－93 本人の性別 (n=1,170)



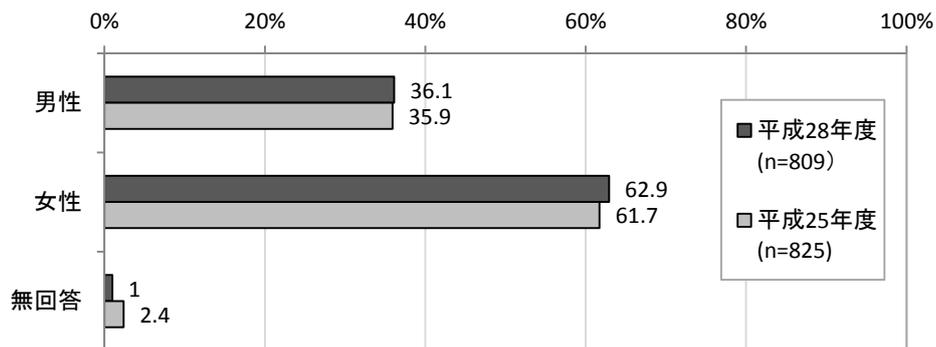
図表－94 要介護度別・在宅施設等別 本人の性別

(単位:%)

		全体(n=)	男性	女性	無回答
全体		1,170	33.7	65.3	1.0
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	590	34.1	64.9	1.0
	要介護 2、3	271	39.5	59.4	1.1
	要介護 4、5	253	24.9	74.3	0.8
	無回答	56	41.1	57.1	1.8
在宅施設等別	在宅介護	809	36.1	62.9	1.0
	施設等入所	347	27.7	71.2	1.2
	無回答	14	42.9	57.1	-

在宅介護について前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表－95 【在宅介護】 本人の性別



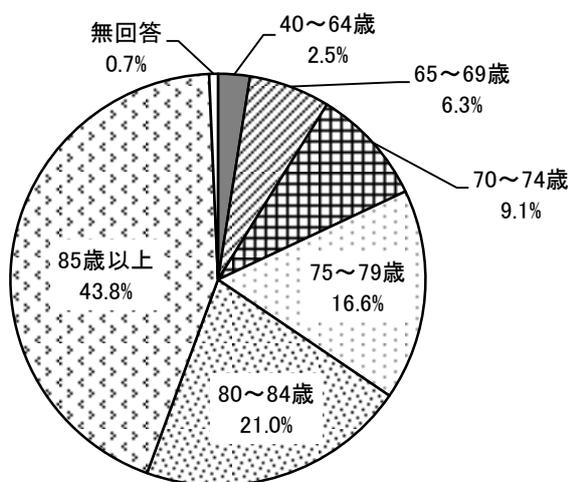
(3) 年齢構成 (Q3)

認定者本人の年齢構成は、4割強が「85歳以上」(43.8%)となっています。次いで、「80～84歳」(21.0%)、「75～79歳」(16.6%)となっており、全体の8割以上が後期高齢者となっています。

要介護度別にみると、「要介護2、3」の約46%、「要介護4、5」の約56%が「85歳以上」となっています。

在宅施設等別にみると、「施設等入所」の55%が「85歳以上」となっています。

図表-96 年齢構成 (n=1,170)



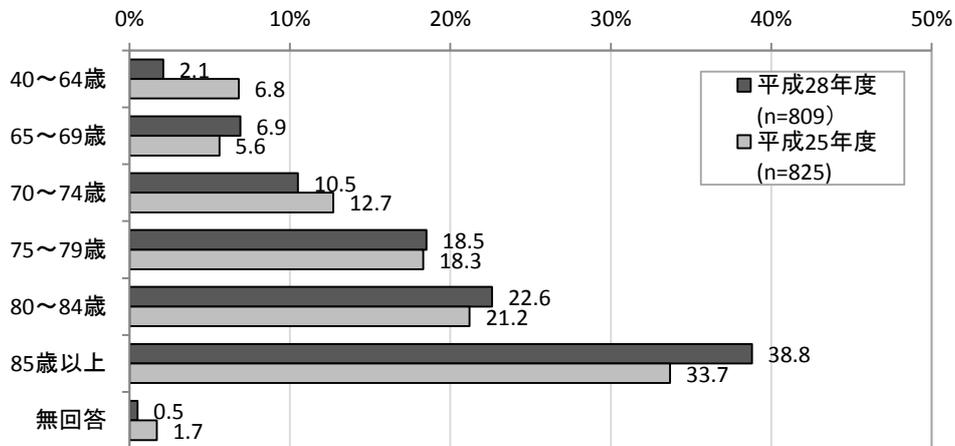
図表-97 要介護度別・在宅施設等別 年齢

(単位: %)

		全体 (n=)	40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
全体		1,170	2.5	6.3	9.1	16.6	21.0	43.8	0.7
要介護度別	要支援1、2と要介護1	590	1.5	7.1	8.0	18.6	26.1	38.0	0.7
	要介護2、3	271	3.3	5.9	8.9	17.3	17.7	46.1	0.7
	要介護4、5	253	3.6	5.5	8.3	11.9	14.2	55.7	0.8
	無回答	56	3.6	3.6	26.8	12.5	14.3	39.3	-
在宅施設等別	在宅介護	809	2.1	6.9	10.5	18.5	22.6	38.8	0.5
	施設等入所	347	3.5	4.6	6.3	12.4	17.3	55.0	0.9
	無回答	14	-	14.3	-	7.1	21.4	50.0	7.1

在宅介護について前回調査と比較すると、85歳以上が高くなっています。

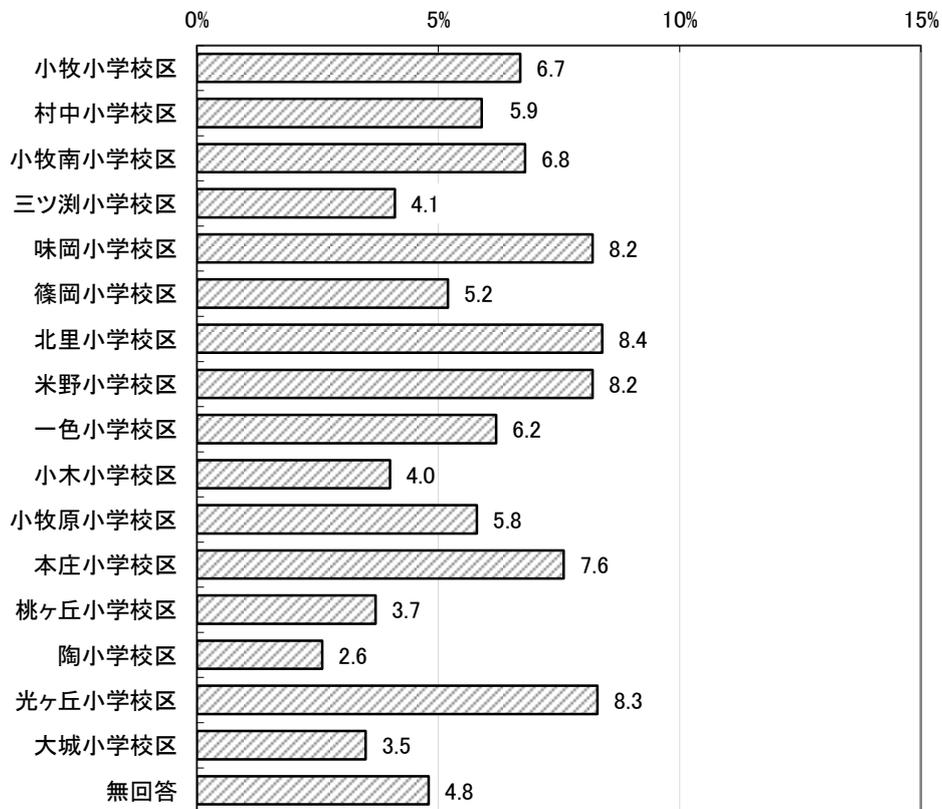
図表-98 【在宅介護】 年齢



(4) 住まいの小学校区 (Q4)

住まいの小学校区は、おおむねどの小学校区も同様の割合となっていますが、「北里」「光ヶ丘」「味岡」「米野」がやや高くなっています。

図表-99 住まいの小学校区 (n=1,170)

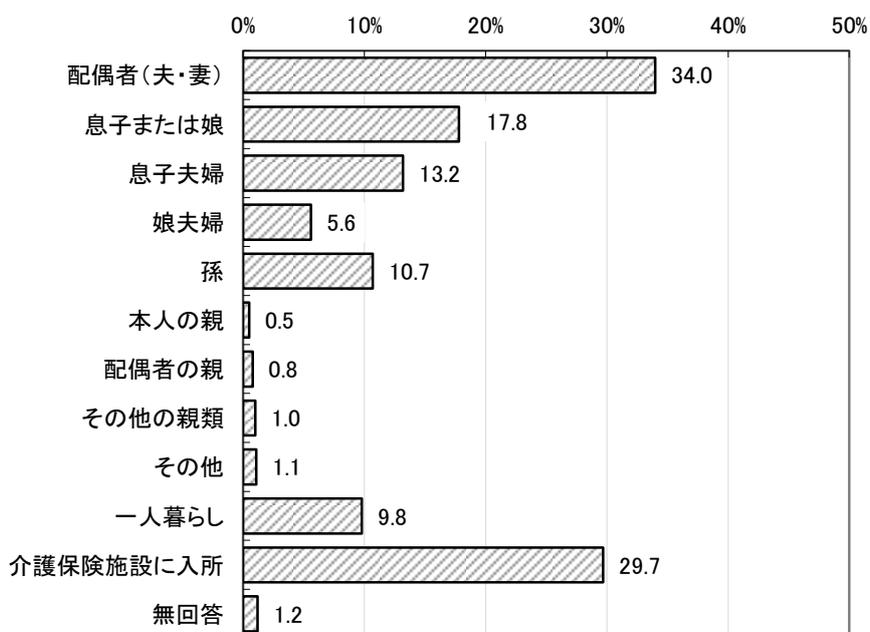


(5) 同居者 (Q5)

同居者は、「配偶者(夫・妻)」(34.0%)が最も高く、次いで「息子または娘」(17.8%)、「息子夫婦」(13.2%)となっています。

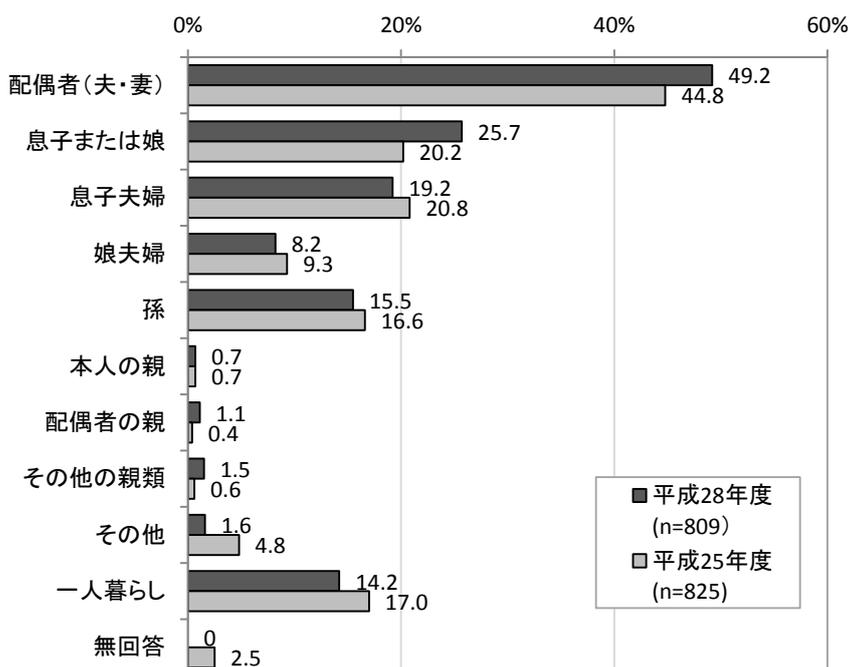
一方、約3割が「介護保険施設に入所」(29.7%)、約1割が「一人暮らし」(9.8%)となっています。

図表-100 同居者(複数回答) (n=1,170)



在宅介護について前回調査と比較すると、「配偶者(夫・妻)」「息子または娘」がやや高くなっています。

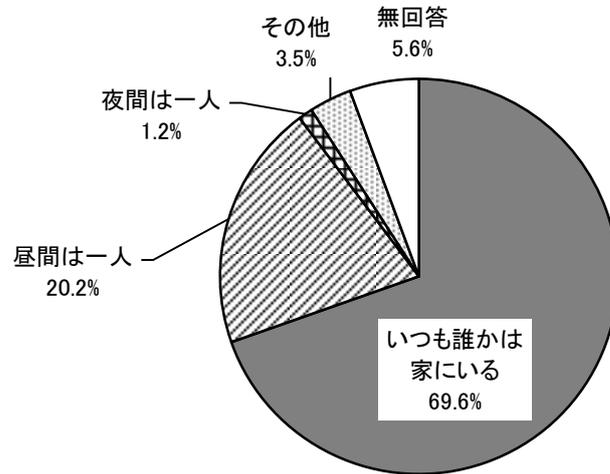
図表-101 【在宅介護】同居者(複数回答)



(6) 同居の状況 (Q5-1)

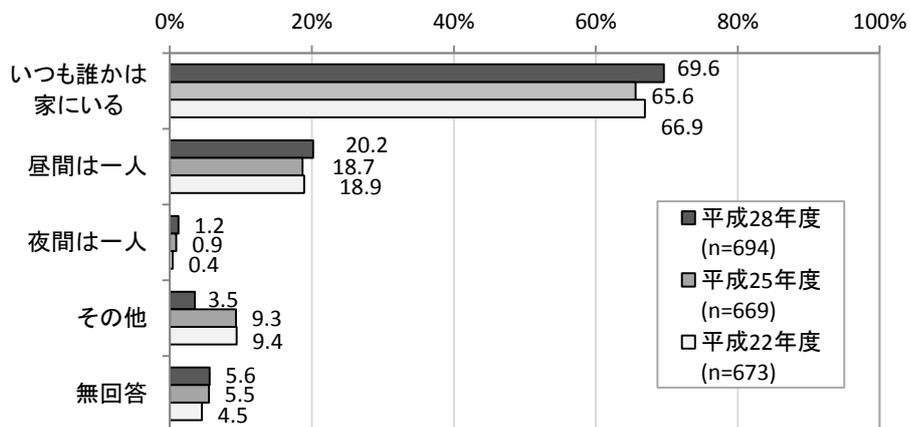
「一人暮らし」と「介護保険施設に入所」以外の人に、同居者の状況についてきいたところ、「いつも誰かは家にいる」(69.6%) が約7割、「昼間は一人」(20.2%) が約2割となっています。

図表-102 同居の状況 (n=694)



在宅介護について前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表-103 【在宅介護】同居の状況

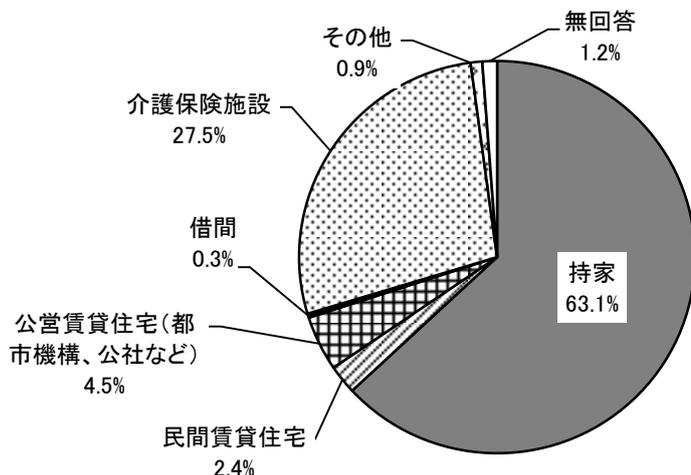


(7) 居住形態 (Q6)

居住形態は、6割強が「持ち家」(63.1%)、3割弱が「介護保険施設」(27.5%)となっています。

「在宅介護」では9割近くが「持家」(88.3%)となっています。

図表-104 居住形態 (n=1,170)



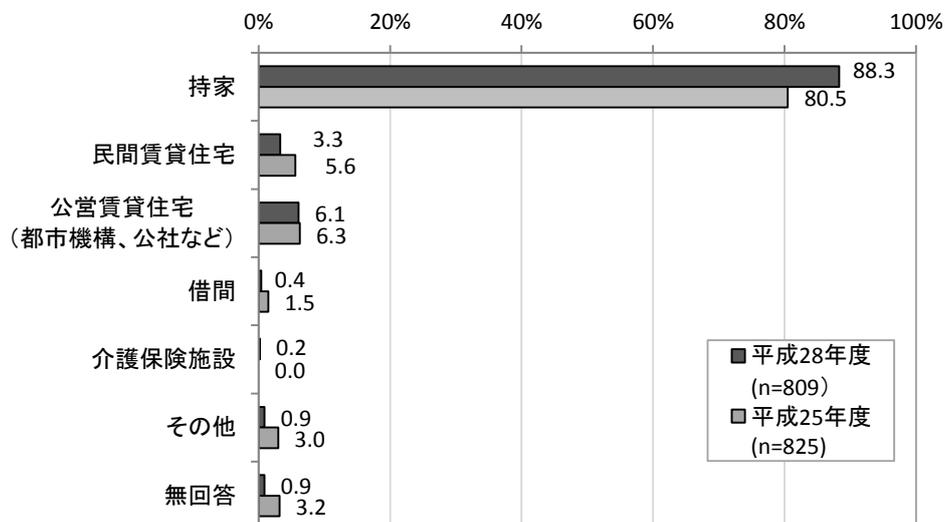
図表-105 在宅施設等別 居住形態

(単位: %)

	全体 (n=)	持家	民間賃貸住宅	公営賃貸住宅(都市機構、公社など)	借間	介護保険施設	その他	無回答
全体	1,170	63.1	2.4	4.5	0.3	27.5	0.9	1.2
在宅介護	809	88.3	3.3	6.1	0.4	0.2	0.9	0.9
施設等入所	347	4.9	0.3	0.9	-	91.9	1.2	0.9
無回答	14	50.0	-	7.1	7.1	7.1	-	28.6

在宅介護について前回調査と比較すると、「持ち家」の割合がやや高くなっています。

図表-106 【在宅介護】 居住形態



2. 生活の状況

(1) 1週間あたりの外出頻度（デイサービス等も含む）（Q7）

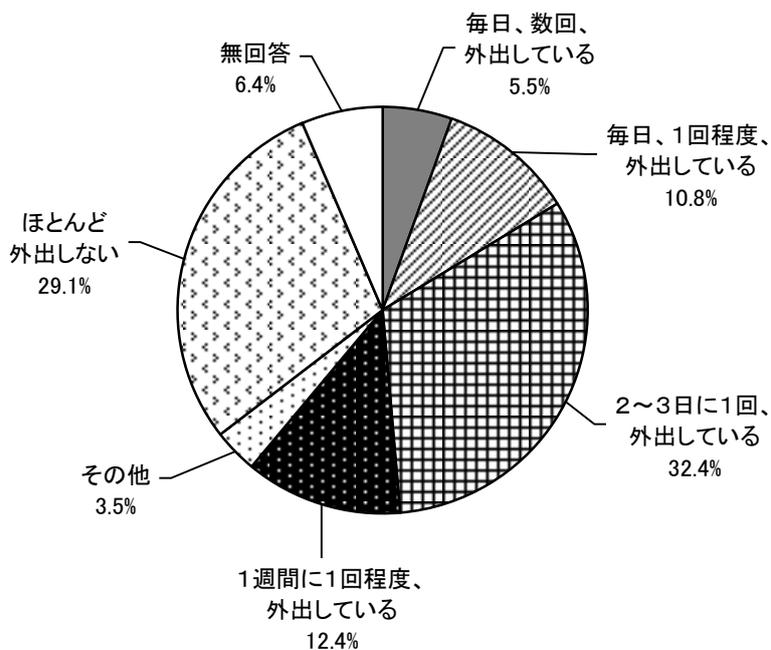
1週間あたりの外出頻度（デイサービス等も含む）は、「2～3日に1回、外出している」が32.4%と最も高く、次いで、「毎日外出している」（「毎日数回」と「毎日1回程度」の計16.3%）、「1週間に1回程度、外出している」（12.4%）となっています。

一方、「ほとんど外出しない」（29.1%）が約3割となっています。

要介護度別にみると、「要支援1、2と要介護1」では「2～3日に1回、外出している」（44.2%）が最も高くなっていますが、「要介護2、3」と「要介護4、5」では「ほとんど外出しない」が高くなっています。（36.5%、65.2%）

在宅施設等別では、「在宅介護」では「2～3日に1回、外出している」（43.8%）が最も高くなっていますが、「施設等入所」では約64%が「ほとんど外出しない」となっています。

図表－107 1週間あたりの外出頻度（n=1,170）



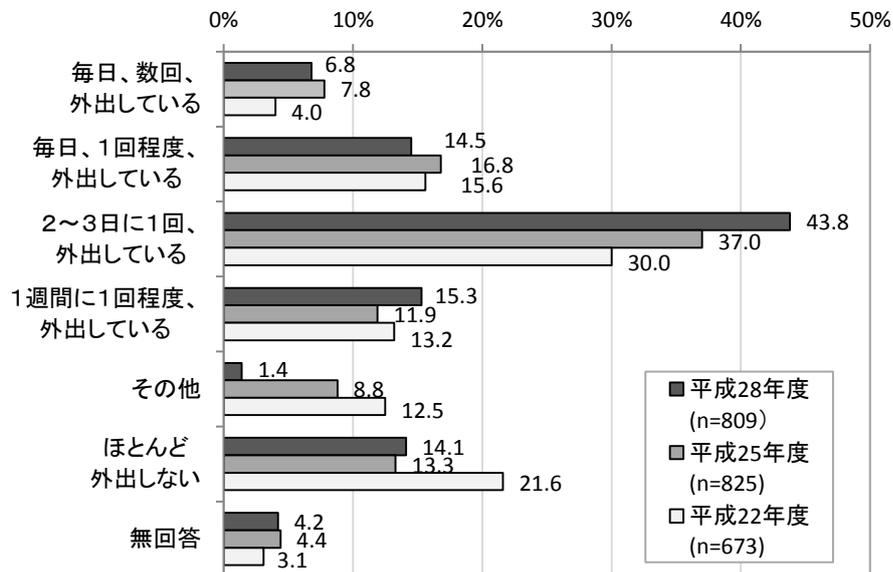
図表－108 要介護度別 1週間あたりの外出頻度

(単位:%)

		全体 (n=)	毎日、数回、 外出している	毎日、1回程 度、外出して いる	2～3日に1 回、外出して いる	1週間に1回 程度、外出 している	その他	ほとんど 外出しない	無回答
全体		1,170	5.5	10.8	32.4	12.4	3.5	29.1	6.4
要介護度別	要支援1、2と要介護1	590	6.9	13.9	44.2	19.5	1.2	11.9	2.4
	要介護2、3	271	4.1	10.3	29.5	7.0	6.6	36.5	5.9
	要介護4、5	253	3.6	4.0	11.1	2.4	5.5	65.2	8.3
	無回答	56	5.4	10.7	17.9	8.9	3.6	10.7	42.9
在宅施設等別	在宅介護	809	6.8	14.5	43.8	15.3	1.4	14.1	4.2
	施設等入所	347	2.3	2.6	6.1	5.2	8.6	64.3	11.0
	無回答	14	7.1	-	28.6	21.4	-	21.4	21.4

在宅介護について前々回、前回調査と比較すると、「2～3日に1回、外出している」の割合が毎回高くなっています。

図表－109 【在宅介護】 1週間あたりの外出頻度

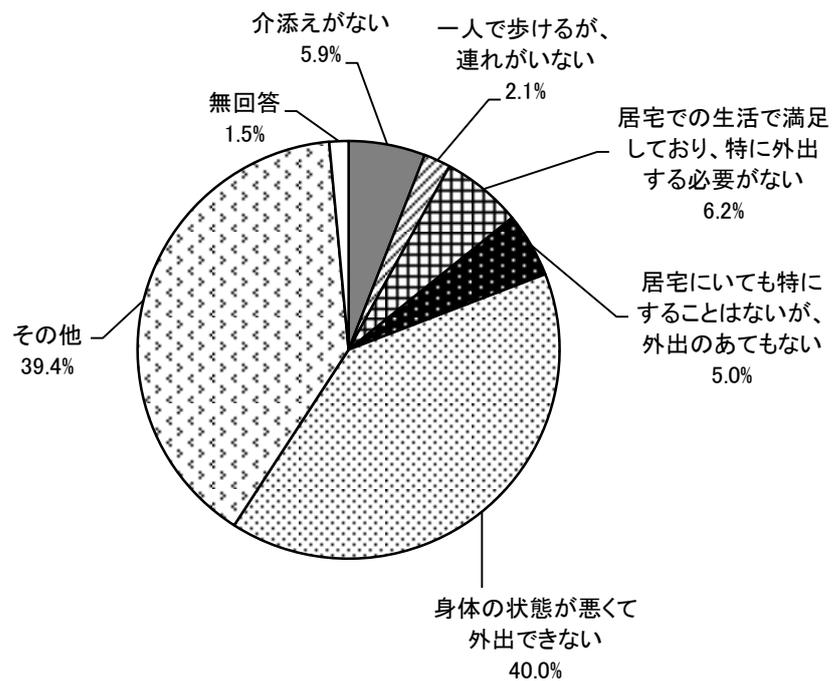


(2) 外出を控えている理由 (Q7-1)

「ほとんど外出しない」と回答した人に外出しない理由をきいたところ、「身体の状態が悪くて外出できない」が40.0%と最も高くなっています。また、「その他」(39.4%)の大半は、「介護施設入所や入院中のため」となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「身体の状態が悪くて外出できない」が約54%と高くなっています。

図表-110 外出を控えている理由 (n=340)



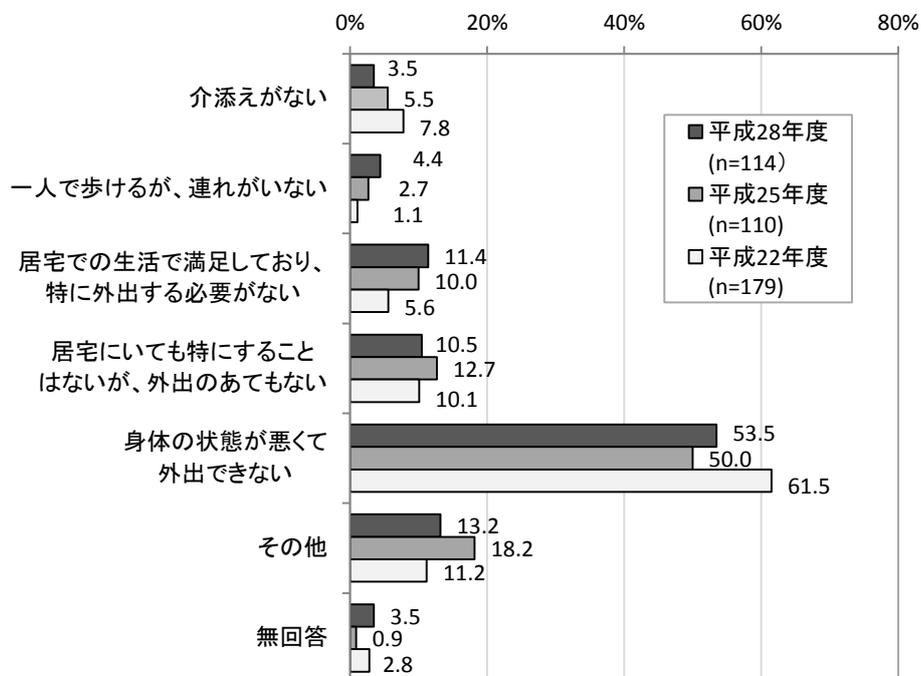
図表-111 在宅施設等別 外出を控えている理由

(単位: %)

	全体 (n=)	介添えがない	一人で歩けるが、 連れがいない	居宅での生活で満足 しており、特に外 出する必要がない	居宅にいても特にす ることはないが、外 出のあてもない	身体の状態が悪く て外出できない	その他	無回答
全体	340	5.9	2.1	6.2	5.0	40.0	39.4	1.5
在宅介護	114	3.5	4.4	11.4	10.5	53.5	13.2	3.5
施設等入所	223	7.2	0.9	3.1	2.2	33.2	53.4	-
無回答	3	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3

在宅介護について、前回調査と比較すると、大きな差異は見られませんが、前々回と比べると、「身体の状態が悪くて外出できない」が低くなっており、「居宅での生活で満足しており、特に外出する必要がない」がやや高くなっています。

図表－112 【在宅介護】外出を控えている理由 (n=340)



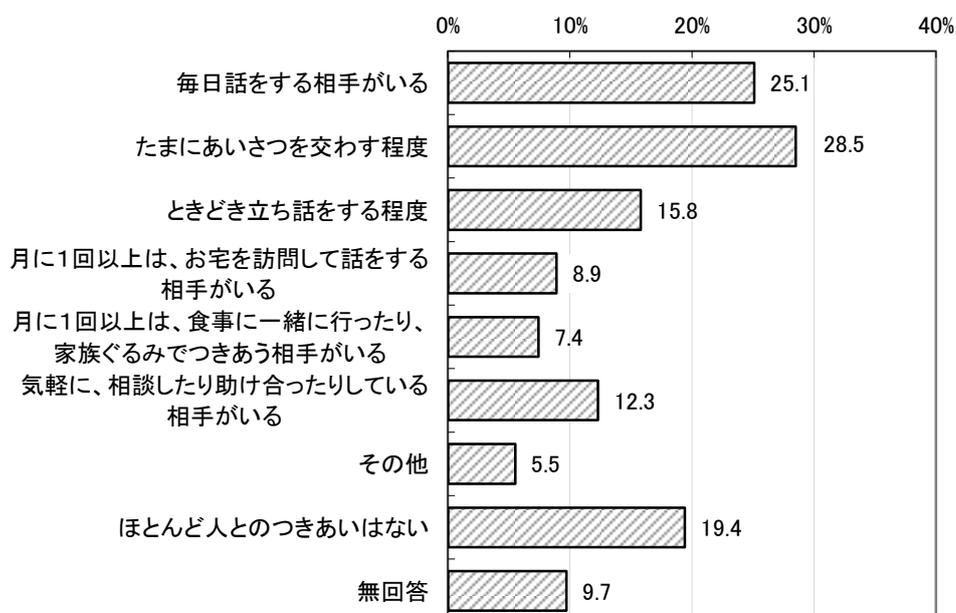
(3) 近所づきあいの程度（近くに住む家族・親戚を含む） (Q8)

近所づきあいの程度（近くに住む家族・親戚を含む）は、「たまにあいさつを交わす程度」が28.5%と最も高く、次いで「毎日話をする相手がいる」(25.1%)となっています。一方、「ほとんど人とのつきあいはない」は19.4%となっています。

要介護度別にみると、「要支援1、2と要介護1」では、「たまにあいさつを交わす程度」と「ときどき立ち話をする程度」の割合が、全体に比べて高くなっています。要介護が高くなるにつれ、「毎日話をする相手がいる」と「ほとんど人とのつきあいはない」の割合が高くなっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「たまにあいさつを交わす程度」と「ときどき立ち話をする程度」の割合が「施設等入所」に比べて高くなっています。「施設等入所」では「毎日話をする相手がいる」と「ほとんど人とのつきあいはない」の割合が「在宅介護」に比べて高くなっています。

図表－113 近所づきあいの程度（近くに住む家族・親戚を含む）（n=1,170）



図表－114 在宅施設等別・要介護度別 近所づきあいの程度(近くに住む家族・親戚を含む)

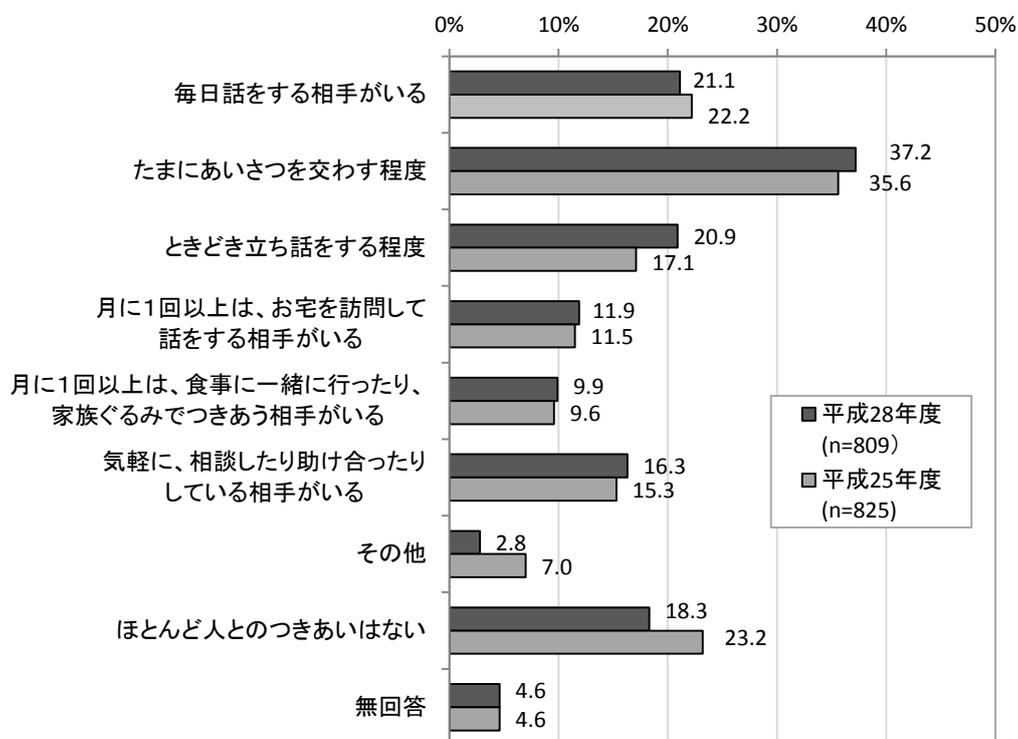
(単位:%)

		全体 (n=)	毎日話をする 相手がいる	たまにあいさ つを交わす 程度	ときどき立ち 話をする程度	月に1回以 上は、お宅 を訪問して 話をする相 手がいる	月に1回以上 は、食事に一 緒に行ったり、家族ぐる みでつきあう 相手がいる
全体		1,170	25.1	28.5	15.8	8.9	7.4
要 介 護 度 別	要支援 1、2と要介護 1	590	22.0	40.3	24.9	11.0	11.4
	要介護 2、3	271	25.8	22.9	7.4	10.3	5.5
	要介護 4、5	253	31.6	11.1	4.3	2.4	1.2
	無回答	56	25.0	10.7	12.5	8.9	1.8
在 宅 施 設 等 別	在宅介護	809	21.1	37.2	20.9	11.9	9.9
	施設等入所	347	34.9	8.6	3.7	1.4	1.7
	無回答	14	14.3	21.4	21.4	21.4	-

		全体 (n=)	気軽に、相談 したり助け合 ったりしてい る相手がいる	その他	ほとんど人 とのつきあ いはない	無回答
全体		1,170	12.3	5.5	19.4	9.7
要 介 護 度 別	要支援 1、2と要介護 1	590	18.0	2.4	15.4	3.9
	要介護 2、3	271	9.6	8.5	22.1	8.5
	要介護 4、5	253	2.8	10.3	27.7	17.4
	無回答	56	8.9	1.8	10.7	41.1
在 宅 施 設 等 別	在宅介護	809	16.3	2.8	18.3	4.6
	施設等入所	347	2.6	11.8	21.9	21.0
	無回答	14	21.4	-	21.4	21.4

在宅介護について前回調査と比較すると、「たまにあいさつを交わす程度」が高くなっており、「ほとんど人とのつきあい」が低くなっています。

図表－115 【在宅介護】 近所づきあいの程度(近くに住む家族・親戚を含む)

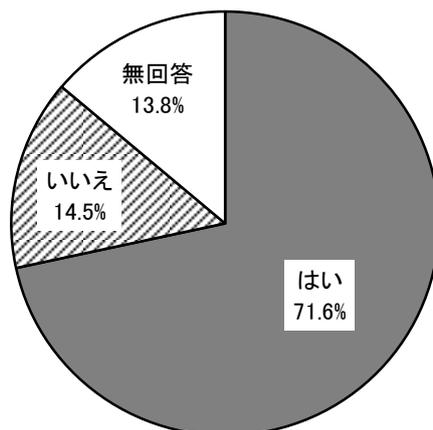


(4) 悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)の有無 (Q9)

悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)の有無については、ある(「はい」と回答)が71.6%、ない(「いいえ」と回答)が14.5%となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では相談できる人や場所があるが80.5%となっているのに対し、「施設等入所」では51.3%となっています。

図表-116 悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)があるか (n=1,170)



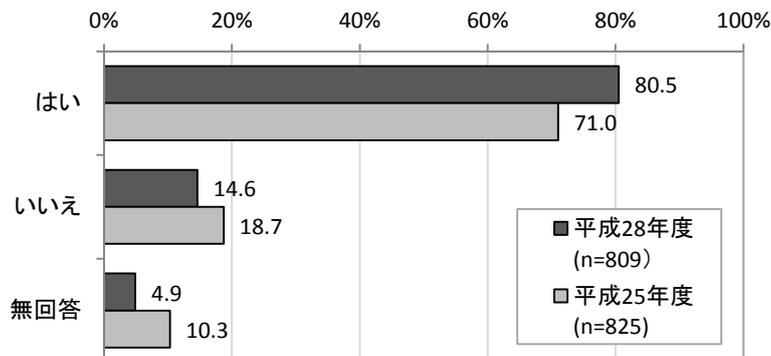
図表-117 在宅施設等別 悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)があるか

(単位: %)

	全体 (n=)	はい	いいえ	無回答
全体	1,170	71.6	14.5	13.8
在宅介護	809	80.5	14.6	4.9
施設等入所	347	51.3	14.4	34.3
無回答	14	64.3	14.3	21.4

在宅介護について、前回調査と比較すると、悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)がある人が高くなっています。

図表-118 【在宅介護】 悩みを気軽に相談できる人や場所(機関)があるか

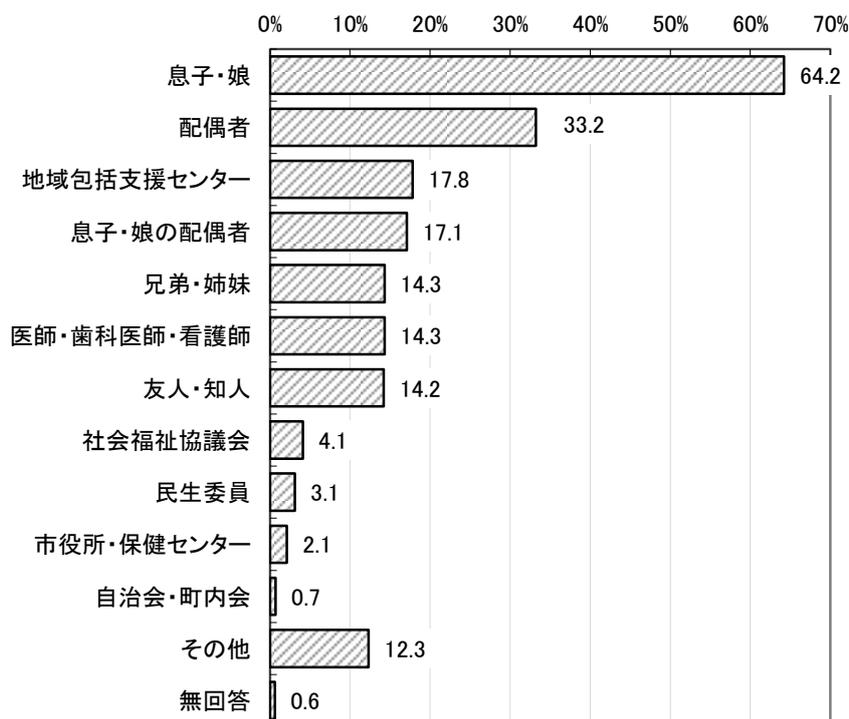


(5) 具体的な相談相手・場所（機関）（Q9-1）

悩みを気軽に相談できる人や場所（機関）があると回答した人に、具体的な相手・場所（機関）をきいたところ、「息子・娘」が64.2%と最も高く、次いで「配偶者」（33.2%）となっています。その他、「地域包括支援センター」（17.8%）、「息子・娘の配偶者」（17.1%）などとなっています。

在宅施設等別にみると、ほとんどの項目で「在宅介護」の方が「施設等入所」に比べて高くなっています。

図表－119 具体的な相談相手・場所（機関）（複数回答）（Q9-1）（n=838）



図表－120 在宅施設等別 具体的な相談相手・場所（機関）（複数回答）

(単位:%)

	全体 (n=)	配偶者	息子・娘	息子・娘の 配偶者	兄弟・姉妹	友人・知人	医師・ 歯科医師・ 看護師	民生委員
全体	838	33.2	64.2	17.1	14.3	14.2	14.3	3.1
在宅介護	651	38.1	67.0	17.2	15.4	16.3	15.5	3.2
施設等入所	178	15.7	54.5	17.4	9.6	5.6	10.7	1.7
無回答	9	22.2	55.6	-	33.3	33.3	-	22.2

	全体 (n=)	自治会・ 町内会	社会福祉 協議会	地域包括 支援センタ ー	市役所・保 健センター	その他	無回答
全体	838	0.7	4.1	17.8	2.1	12.3	0.6
在宅介護	651	0.6	4.5	19.2	2.3	7.1	0.5
施設等入所	178	0.6	2.2	11.8	1.1	31.5	1.1
無回答	9	11.1	11.1	33.3	11.1	11.1	-

(6) 介護が必要となった原因 (Q10)

介護が必要となった原因は、「認知症(アルツハイマー病等)」(26.6%)が最も高く、次いで「高齢による衰弱」(22.6%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(21.1%)、「事故(骨折・転倒、脊髄損傷)」(20.8%)となっています。

在宅施設等別にみると、「施設等入所」では「認知症(アルツハイマー病)」の割合が高くなっています。

図表-121 介護が必要となった原因(複数回答) (n=1,170)

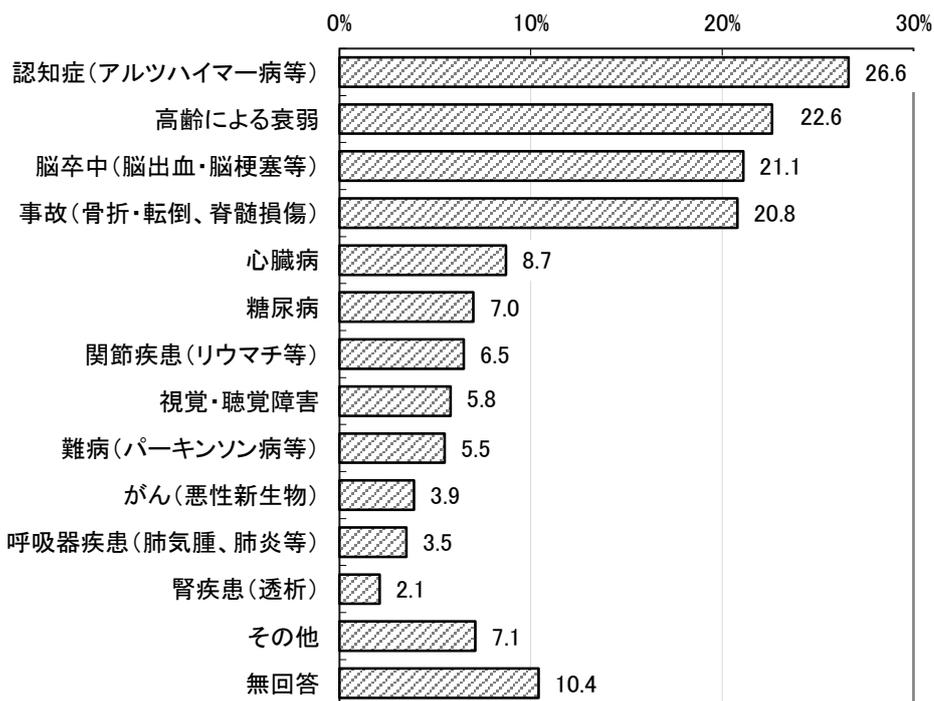


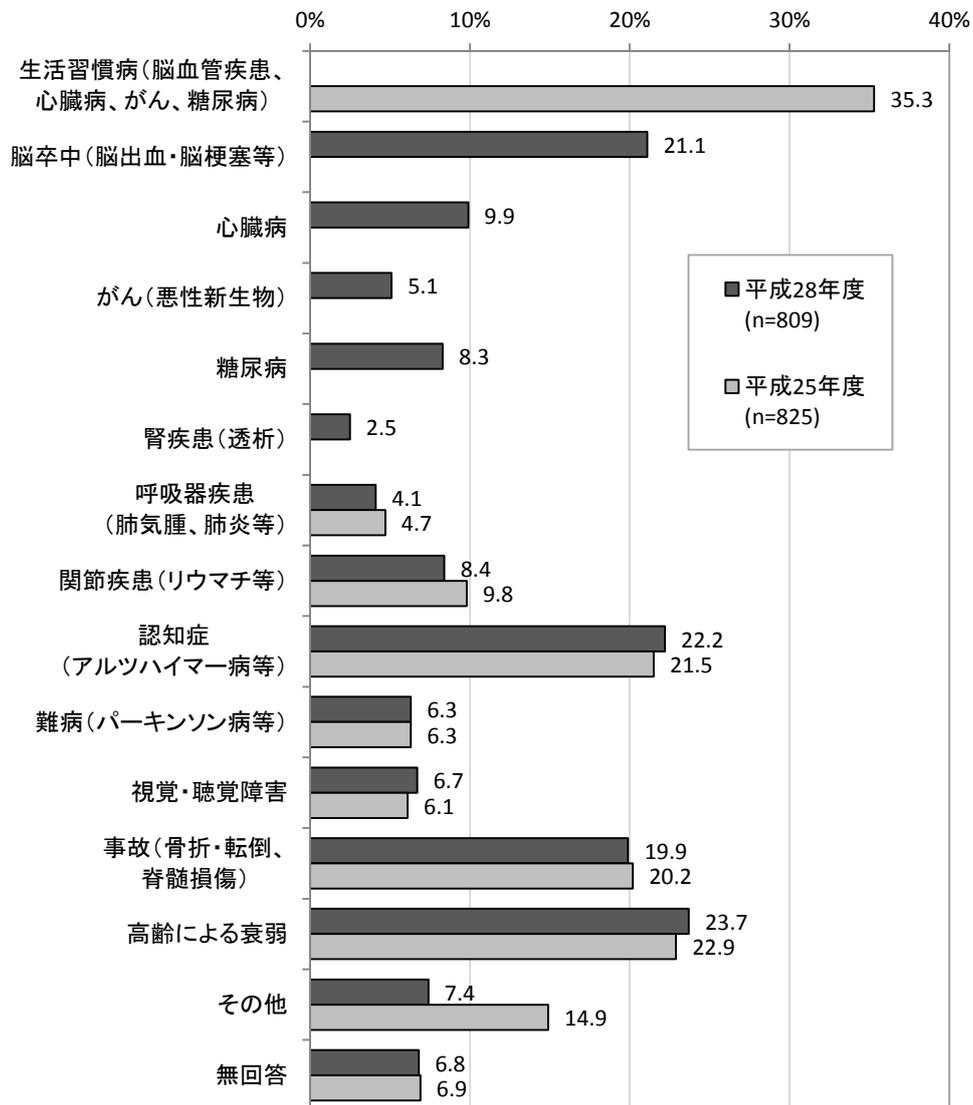
表-122 在宅施設等別 介護が必要となった原因(複数回答) (n=1,170)

(単位: %)

	全体 (n=)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	糖尿病	腎疾患(透析)	呼吸器疾患(肺気腫、肺炎等)	関節疾患(リウマチ等)
全体	1,170	21.1	8.7	3.9	7.0	2.1	3.5	6.5
在宅介護	809	21.1	9.9	5.1	8.3	2.5	4.1	8.4
施設等入所	347	21.3	6.1	1.2	4.0	1.4	2.0	2.0
無回答	14	14.3	7.1	7.1	7.1	-	7.1	7.1

	全体 (n=)	認知症(アルツハイマー病等)	難病(パーキンソン病等)	視覚・聴覚障害	事故(骨折・転倒、脊髄損傷)	高齢による衰弱	その他	無回答
全体	1,170	26.6	5.5	5.8	20.8	22.6	7.1	10.4
在宅介護	809	22.2	6.3	6.7	19.9	23.7	7.4	6.8
施設等入所	347	37.5	3.5	3.7	22.8	20.7	6.1	18.7
無回答	14	7.1	7.1	7.1	21.4	7.1	14.3	14.3

図表－123 【在宅介護】 介護が必要となった原因(複数回答)



※平成 25 年度の調査項目「生活習慣病(脳血管疾患、心臓病、がん、糖尿病)」は、平成 28 年度は「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」「心臓病」「がん」「糖尿病」の 4 項目に分割されました。

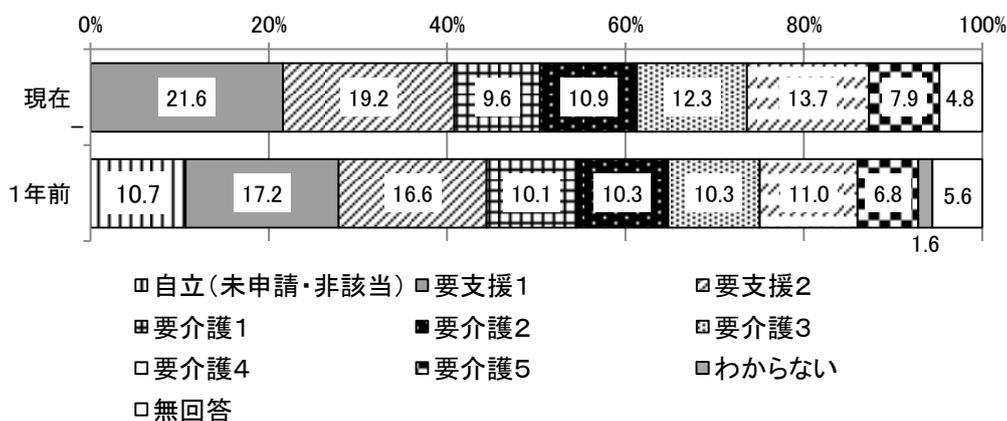
(7) 現在と1年前の要介護度 (Q11、Q12)

現在の要介護度は、「要支援1」(21.6%)と「要支援2」(19.2%)といった軽度者が40.8%となっています。また、「要介護4」(13.7%)と「要介護5」(7.9%)といった重度者が21.6%となっています。

1年前の要介護度は、「要支援1」(17.2%)と「要支援2」(16.6%)で33.8%となっています。また、「要介護4」(11.0%)と「要介護5」(6.8%)で17.8%となっています。一方、「自立(未申請・非該当)」が10.7%います。

現在の要介護度と1年前の要介護度を比較すると、要支援1,2や要介護4では3分の2の人が、要介護5では約8割が1年前と現在では要介護度が変わらない状況となっています。一方、要介護1～3では1年前と同じ要介護度の人はい半数強にとどまり、約18～20%が1年前より軽い要介護度となっています。

図表-124 現在と1年前の要介護度 (n=1,170)



図表-125 現在と1年前の要介護度

(単位: %)

	全体(件)	現在の要介護度								
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	
全体	1,170	21.6	19.2	9.6	10.9	12.3	13.7	7.9	4.8	
自立(未申請・非該当)	125	48.8	18.4	8.0	10.4	4.8	4.8	2.4	2.4	
1年前の要介護度										
要支援1	201	65.2	21.9	7.5	1.5	1.5	1.0	-	1.5	
要支援2	194	11.9	66.5	6.2	4.6	5.7	3.6	0.5	1.0	
要介護1	118	13.6	4.2	54.2	11.9	8.5	6.8	-	0.8	
要介護2	120	3.3	10.0	4.2	51.7	16.7	10.0	2.5	1.7	
要介護3	120	3.3	0.8	1.7	14.2	59.2	19.2	1.7	-	
要介護4	129	1.6	1.6	-	4.7	10.1	67.4	14.7	-	
要介護5	79	-	-	-	-	3.8	13.9	79.7	2.5	
わからない	19	15.8	10.5	10.5	5.3	26.3	21.1	5.3	5.3	
無回答	65	13.8	10.8	3.1	3.1	3.1	-	1.5	64.6	

在宅施設等別に現在の要介護度をみると、「在宅介護」では現在の要介護度が、「要支援1、2」で約55%となっていますが、「施設等入所」では「要介護4、5」が約52%となっています。

また、1年前の要介護度は、「在宅介護」では、「要支援1、2」が43%と高く、自立も約14%となっています。「施設等入所」では「要介護2、3」(30.3%)や「要介護4」(24.4%)が高くなっています。

表-126 在宅施設等別 現在の要介護度

(単位:%)

	全体 (n=)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体	1,170	21.6	19.2	9.6	10.9	12.3	13.7	7.9	4.8
在宅介護	809	29.4	25.3	11.0	11.9	7.8	6.2	2.8	5.6
施設等入所	347	2.9	4.9	6.1	8.4	23.3	31.7	20.2	2.6
無回答	14	35.7	21.4	14.3	14.3	-	-	-	14.3

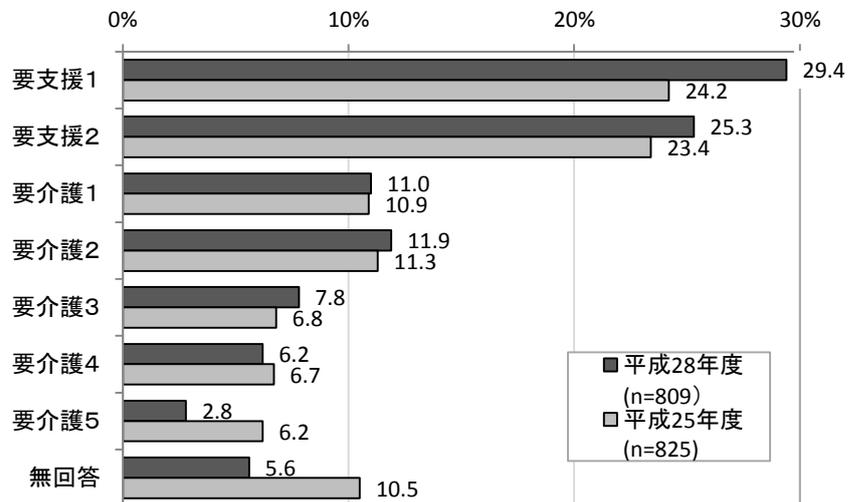
表-127 在宅施設等別 1年前の要介護度

(単位:%)

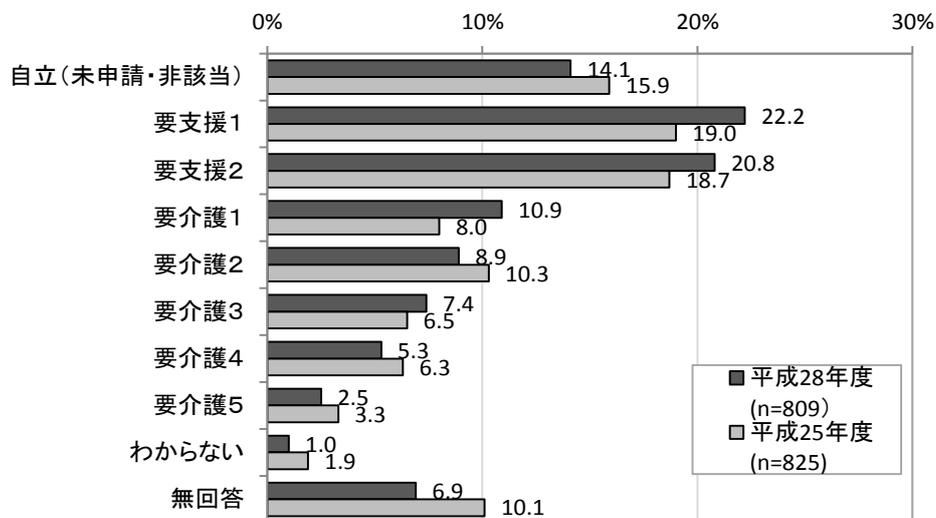
	全体 (n=)	自立(未 申請・非 該当)	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	わから ない	無回答
全体	1,170	10.7	17.2	16.6	10.1	10.3	10.3	11.0	6.8	1.6	5.6
在宅介護	809	14.1	22.2	20.8	10.9	8.9	7.4	5.3	2.5	1.0	6.9
施設等入所	347	2.9	4.6	7.2	8.4	13.0	17.3	24.8	17.0	2.9	2.0
無回答	14	7.1	35.7	7.1	7.1	21.4	-	-	-	7.1	14.3

前回調査と比較すると、現在の要介護度では「要支援1」「要支援2」が、1年前の要介護度では「要支援1」「要支援2」「要介護1」といった支援・介護の軽度がやや高くなっています。

図表-128 【在宅介護】 現在の要介護度



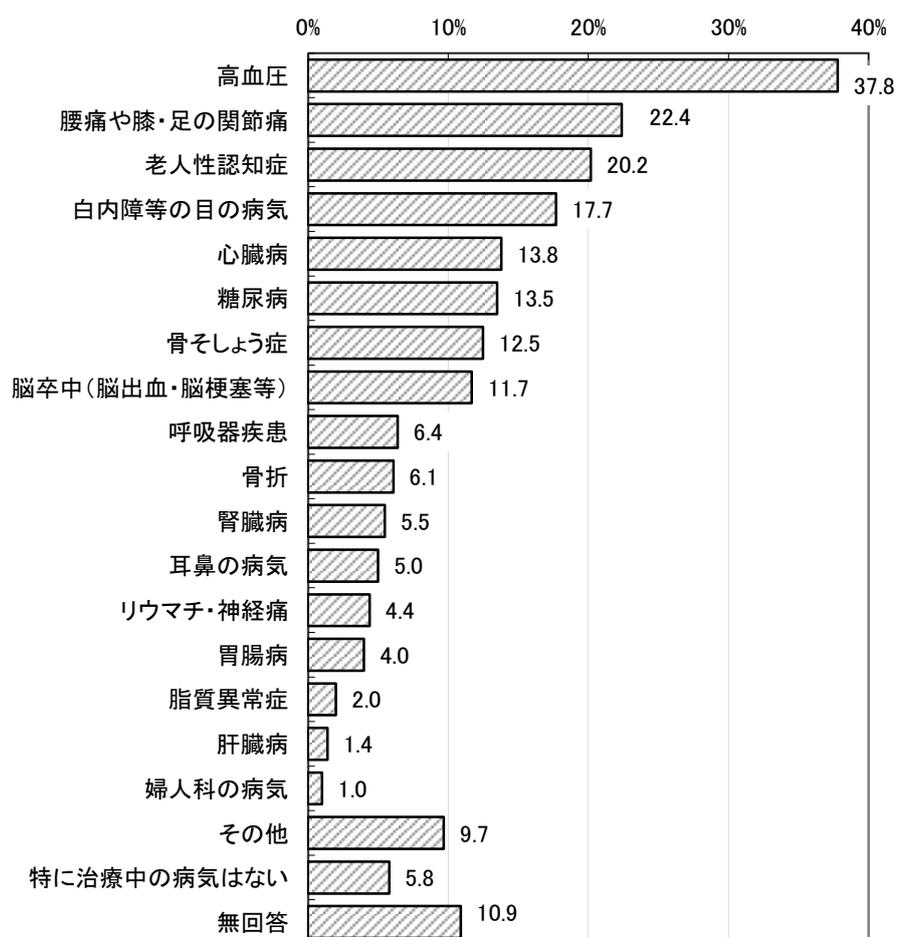
図表-129 【在宅介護】 1年前の要介護度



(8) 治療中の病気・症状 (Q13)

治療中の病気・症状は、「高血圧」(37.8%)が最も高く、次いで「腰痛や膝・足の関節痛」(22.4%)、「老人性認知症」(20.2%)、「白内障等の目の病気」(17.7%)となっています。一方、「特に治療中の病気はない」と回答した人は5.8%となっています。

図表-130 治療中の病気・症状(複数回答) (n=1,170)



要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」では、「高血圧」「白内障等の目の病気」「腰痛や膝・足の関節痛」の割合が高くなっています。一方、要介護度が上がるにつれ、「老人性認知症」の割合が高くなっています。また、「要介護 4、5」では「特に治療中の病気はない」が 11.1%となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「高血圧」「白内障等の目の病気」「腰痛や膝・足の関節痛」の割合が高くなっています。「施設等入所」では、「老人性認知症」の割合が高くなっています。

表-131 要介護度・在宅施設別 治療中の病気・症状(複数回答)

(単位:%)

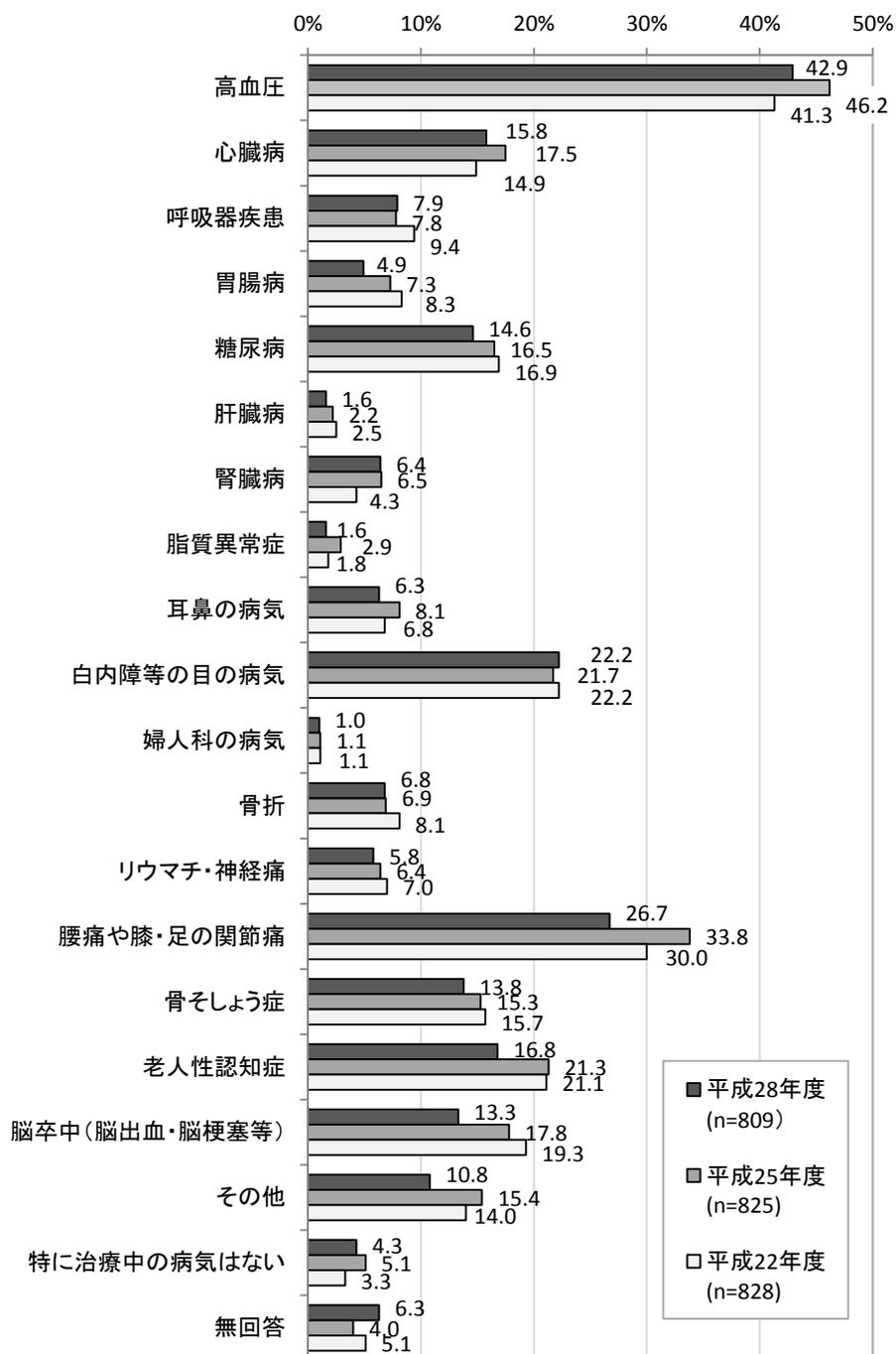
		全体 (n=)	高血圧	心臓病	呼吸器疾患	胃腸病	糖尿病	肝臓病	腎臓病
全体		1,170	37.8	13.8	6.4	4.0	13.5	1.4	5.5
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	590	47.1	16.8	7.1	5.3	15.6	1.7	7.1
	要介護 2、3	271	36.5	13.7	5.9	3.0	15.1	1.5	4.1
	要介護 4、5	253	22.5	8.7	5.1	2.8	8.3	0.8	4.0
	無回答	56	14.3	7.1	7.1	1.8	7.1	-	1.8
在宅施設等別	在宅介護	809	42.9	15.8	7.9	4.9	14.6	1.6	6.4
	施設等入所	347	26.2	9.5	3.2	1.7	11.5	0.9	3.2
	無回答	14	28.6	7.1	-	7.1	-	-	7.1

		全体 (n=)	脂質異常症	耳鼻の病気	白内障等の 目の病気	婦人科の 病気	骨折	リウマチ・ 神経痛	腰痛や膝・ 足の関節痛
全体		1,170	2.0	5.0	17.7	1.0	6.1	4.4	22.4
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	590	2.2	5.8	24.4	1.0	7.3	6.1	30.3
	要介護 2、3	271	1.1	7.0	13.3	1.8	5.5	4.1	18.5
	要介護 4、5	253	2.8	1.6	9.5	0.4	4.7	1.2	10.3
	無回答	56	-	3.6	5.4	-	1.8	1.8	12.5
在宅施設等別	在宅介護	809	1.6	6.3	22.2	1.0	6.8	5.8	26.7
	施設等入所	347	2.9	2.3	6.9	0.9	4.6	0.9	11.5
	無回答	14	-	-	21.4	7.1	-	7.1	42.9

		全体 (n=)	骨そしょう症	老人性 認知症	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	その他	特に治療中 の病気は ない	無回答
全体		1,170	12.5	20.2	11.7	9.7	5.8	10.9
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	590	16.4	15.3	11.4	10.2	3.9	3.6
	要介護 2、3	271	9.6	23.6	12.9	10.7	6.3	7.0
	要介護 4、5	253	7.1	30.8	12.3	9.1	11.1	22.9
	無回答	56	8.9	7.1	7.1	3.6	-	53.6
在宅施設等別	在宅介護	809	13.8	16.8	13.3	10.8	4.3	6.3
	施設等入所	347	9.5	28.8	8.1	7.2	9.5	21.3
	無回答	14	7.1	-	7.1	14.3	-	21.4

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「高血圧」「腰痛や膝・足の関節痛」「老人性認知症」「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が前回調査よりやや低くなっています。

図表－132 【在宅介護】 治療中の病気・症状(複数回答)

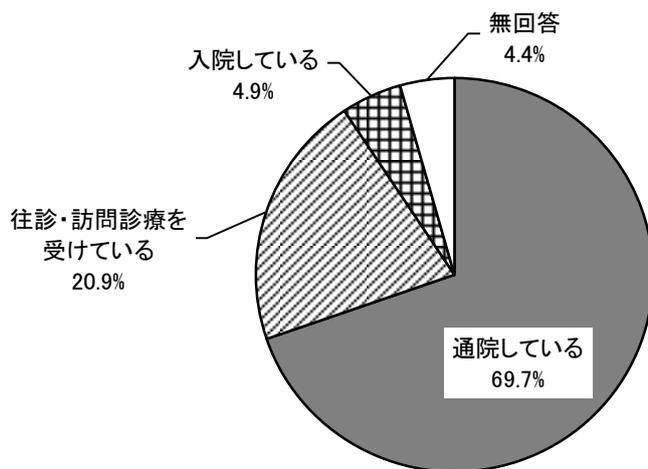


(9) 治療状況 (Q13-1)

治療中の病気・症状があると回答した人に、どのような方法で医師の治療を受けているかきいたところ、「通院している」が 69.7%となっています。「往診・訪問診療を受けている」が 20.9%、「入院している」が 4.9%となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「通院している」(83.4%)が、「施設等入所」では「往診・訪問診療を受けている」(53.8%)の割合が高くなっています。

図表-133 治療状況 (n=974)



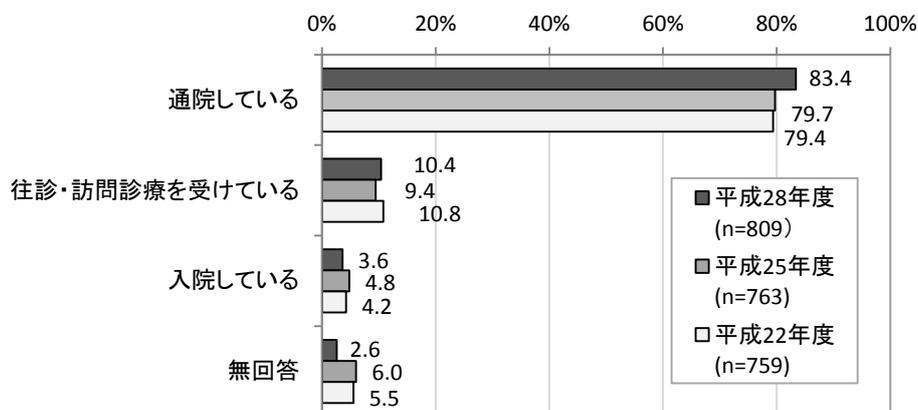
図表-134 在宅施設等別 治療状況 (n=974)

(単位: %)

	全体 (n=)	通院している	往診・訪問診療 を受けている	入院している	無回答
全体	974	69.7	20.9	4.9	4.4
在宅介護	723	83.4	10.4	3.6	2.6
施設等入所	240	28.3	53.8	9.2	8.8
無回答	11	72.7	-	-	27.3

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表-135 【在宅介護】治療状況

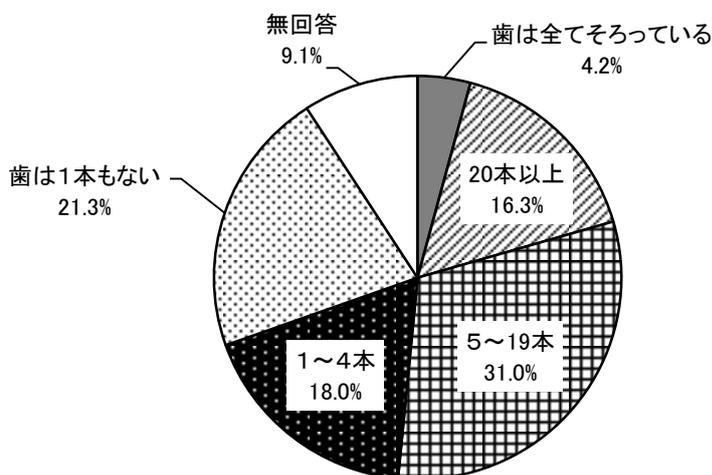


(10) 自分の「歯」の本数 (Q14)

自分の「歯」の本数は、「5～19本」(31.0%)が最も高く、次いで「歯は1本もない」(21.3%)となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「5～19本」(34.2%)の割合が高くなっています。

図表-136 自分の「歯」の本数 (n=1,170)



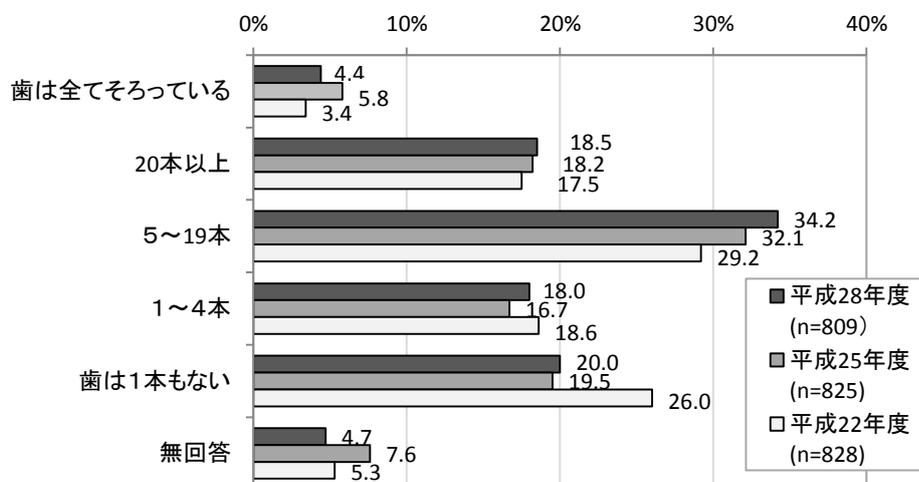
図表-137 在宅施設等別 自分の「歯」の本数

(単位: %)

	全体 (n=)	歯は全てそ ろっている	20本以上	5～19本	1～4本	歯は1本も ない	無回答
全体	1,170	4.2	16.3	31.0	18.0	21.3	9.1
在宅介護	809	4.4	18.5	34.2	18.0	20.0	4.7
施設等入所	347	3.5	11.5	23.1	18.2	24.2	19.6
無回答	14	7.1	7.1	42.9	14.3	21.4	7.1

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「歯が1本もない」の割合が前々回より低くなっています。一方、「5～19本」の割合が高くなっています。

図表-138 【在宅介護】 自分の「歯」の本数

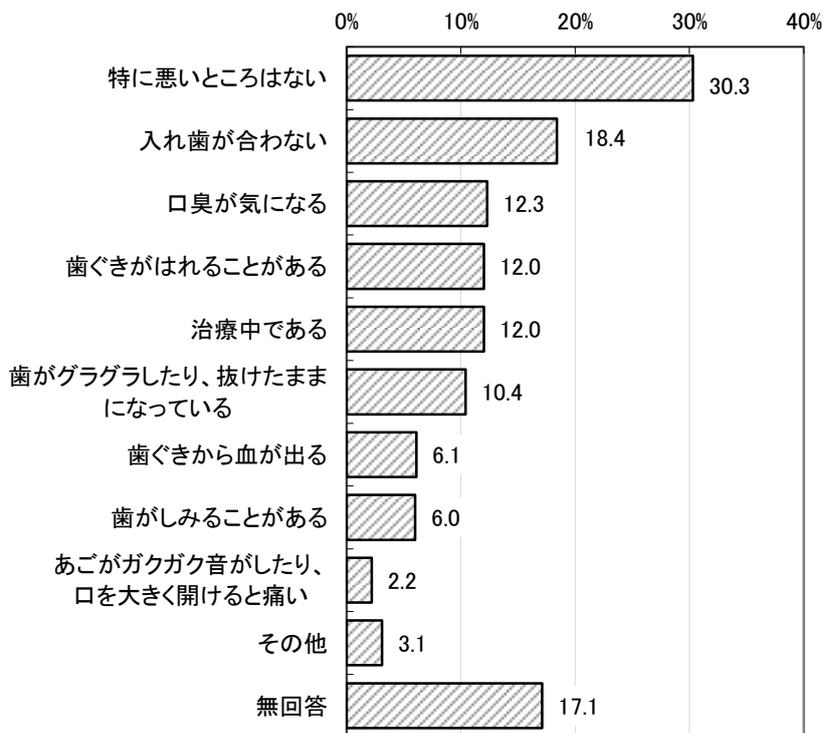


(11) 歯や口の中の状態 (Q15)

歯や口の中の状態は、「特に悪いところはない」(30.3%)が最も高く、次いで「入れ歯が合わない」(18.4%)となっています。

在宅施設等別にみると、「特に悪いところはない」は在宅介護の割合が高くなっています。

図表-139 歯や口の中の状態 (複数回答) (n=1,170)



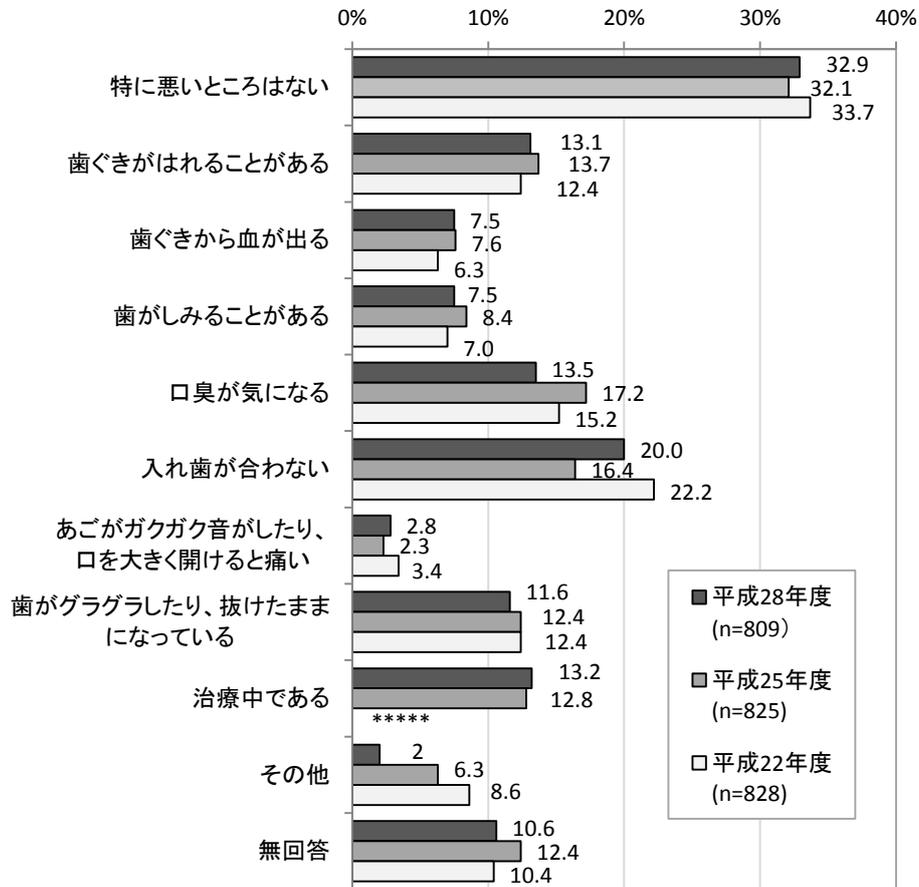
図表-140 在宅施設等別 歯や口の中の状態 (複数回答)

(単位: %)

	全体 (n=)	特に悪いところはない	歯ぐきがはれることがある	歯ぐきから血が出る	歯がしみることもある	口臭が気になる	入れ歯が合わない	あごがガクガク音がしたり、口を大きく開けると痛い	歯がグラグラしたり、抜けたままになっている	治療中である	その他	無回答
全体	1,170	30.3	12.0	6.1	6.0	12.3	18.4	2.2	10.4	12.0	3.1	17.1
在宅介護	809	32.9	13.1	7.5	7.5	13.5	20.0	2.8	11.6	13.2	2.0	10.6
施設等入所	347	24.8	9.8	2.9	2.3	10.1	14.7	0.9	8.1	9.2	4.9	31.7
無回答	14	21.4	-	-	7.1	-	14.3	-	-	7.1	21.4	28.6

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表－141 【在宅介護】 歯や口の中の状態由(複数回答)



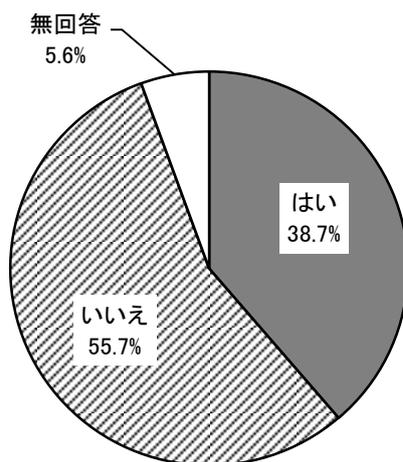
※「治療中である」は平成22年度の調査項目にありません。

(12) 定期的な歯科検診の受診有無 (Q16)

定期的に歯科健診を受けているかについては、受けていない人(「いいえ」と回答)は55.7%、受けている人(「はい」と回答)は38.7%となっています。

在宅施設等別にみると、「施設等入所」は受けている人(「はい」と回答)の割合が高くなっています。

図表-142 定期的に歯科検診を受けているか (n=1,170)



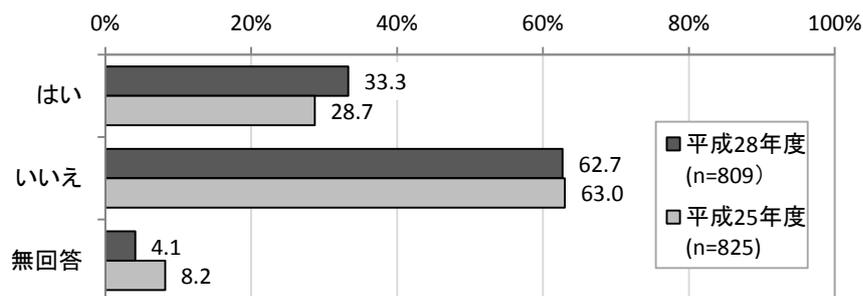
図表-143 在宅施設等別 定期的に歯科検診を受けているか (n=1,170)

(単位: %)

	全体 (n=)	はい	いいえ	無回答
全体	1,170	38.7	55.7	5.6
在宅介護	809	33.3	62.7	4.1
施設等入所	347	51.0	40.9	8.1
無回答	14	50.0	21.4	28.6

在宅介護について前回調査と比較すると、受けている人(「はい」と回答)の割合がやや高くなっています。

図表-144 【在宅介護】 定期的に歯科検診を受けているか



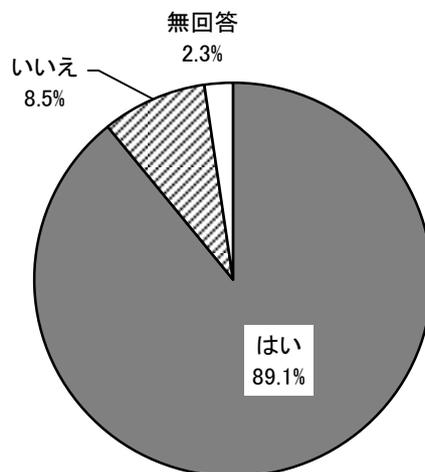
(13) 服薬状況と薬の管理状況 (Q17、Q17-1、Q17-2)

現在、薬を飲んでいる人（「はい」と回答）は89.1%となっています。

要介護度別にみると、要介護度の低い方が薬を飲んでいる割合が高くなっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」の方が、薬を飲んでいる割合がやや高くなっています。

図表-145 薬を服用しているか(n=1,170)



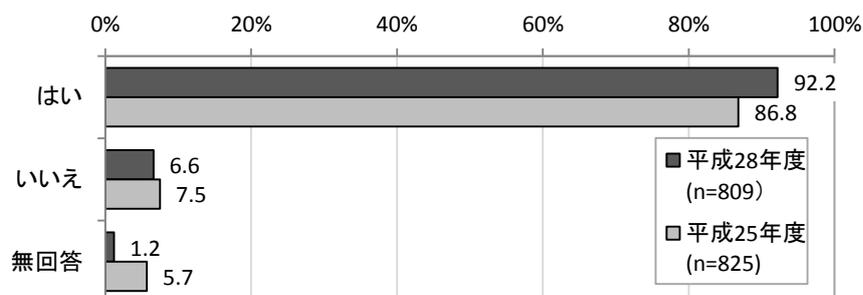
図表-146 要介護度別・在宅施設等別 薬を服用しているか

(単位: %)

		全体 (n=)	はい	いいえ	無回答
全体		1,170	89.1	8.5	2.3
要介護度別	要支援1、2と要介護1	590	92.9	5.6	1.5
	要介護2、3	271	91.1	6.6	2.2
	要介護4、5	253	78.7	17.4	4.0
	無回答	56	87.5	8.9	3.6
在宅施設等別	在宅介護	809	92.2	6.6	1.2
	施設等入所	347	82.4	13.0	4.6
	無回答	14	78.6	14.3	7.1

在宅介護について前回調査と比較すると、薬を飲んでいる人の割合がやや高くなっています。

図表-147 【在宅介護】 薬を服用しているか

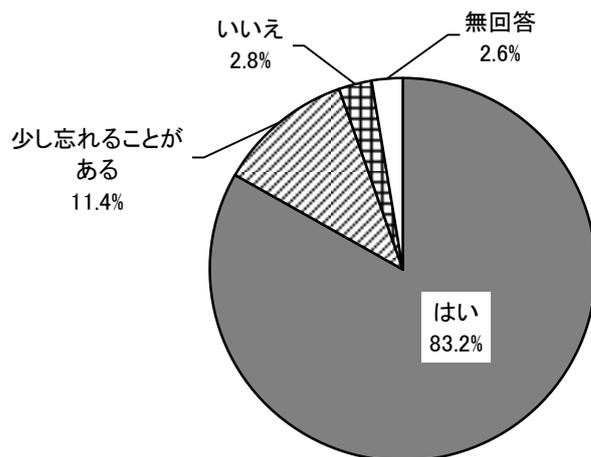


薬を飲んでいる人のうち、薬をきちんと飲むことができる（「はい」と回答）は83.2%、「少し忘れることがある」は11.4%となっています。

要介護度別にみると、要介護度が高い方ほど、薬をきちんと飲むことができる割合が高くなっています。「少し忘れることがある」が「要支援1、2と要介護1」では高くなっています。

在宅施設別にみると、「施設等入所」の方が薬をきちんと飲むことができる割合が高くなっています。

図表－148 薬をきちんと服用できるか(n=1,043)



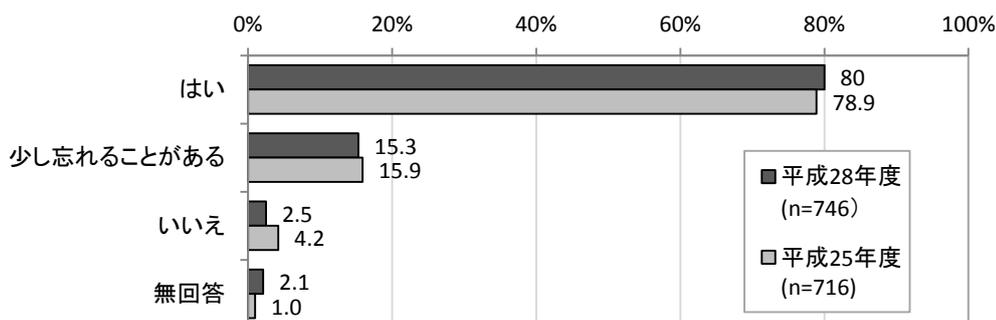
図表－149 要介護度別・在宅施設等別 薬をきちんと服用できるか(n=1,043)

(単位:%)

		全体 (n=)	はい	少し忘れる ことがある	いいえ	無回答
全体		1043	83.2	11.4	2.8	2.6
要 介 護 度 別	要支援1、2と要介護1	548	80.1	16.6	1.8	1.5
	要介護2、3	247	87.0	4.9	3.6	4.5
	要介護4、5	199	89.4	2.0	5.0	3.5
	無回答	49	73.5	24.5	-	2.0
在 宅 施 設 等 別	在宅介護	746	80.0	15.3	2.5	2.1
	施設等入所	286	91.3	1.4	3.5	3.8
	無回答	11	90.9	9.1	-	-

在宅介護について前回調査との比較では、大きな差異は見られません。

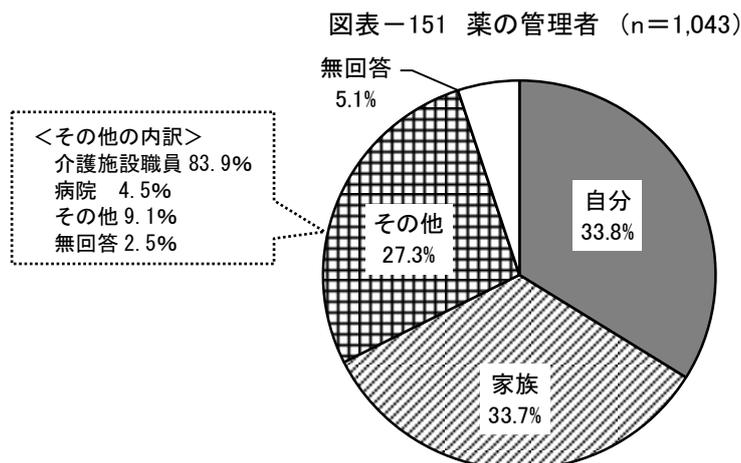
図表－150 【在宅介護】 薬をきちんと服用できるか



薬を管理している人については、「自分」（33.8%）と「家族」（33.7%）がほぼ同じ割合になっています。「その他」の大半は、介護施設の職員となっています。

要介護度別では、「要支援 1、2 と要介護 1」では「自分」が半数強となっています。「要介護 2、3」では「家族」と「その他」がそれぞれ4割程度、「要介護 4、5」では「その他」が7割近くになっています。

在宅施設別にみると、「在宅介護」では「自分」と「家族」が高く、「施設等入所」では約9割が「その他」（介護施設の職員等）となっています。



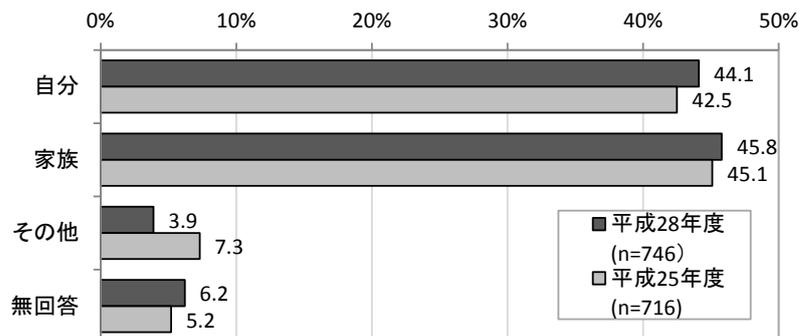
図表-152 要介護度別・在宅施設等別 薬の管理者

(単位: %)

	全体(n=)	自分	家族	その他	無回答	
全体	1043	33.8	33.7	27.3	5.1	
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	548	52.7	34.9	7.1	5.3
	要介護 2、3	247	15.4	39.7	40.1	4.9
	要介護 4、5	199	3.0	24.6	68.8	3.5
	無回答	49	40.8	28.6	20.4	10.2
在宅施設等別	在宅介護	746	44.1	45.8	3.9	6.2
	施設等入所	286	4.9	3.1	89.5	2.4
	無回答	11	90.9	9.1	-	-

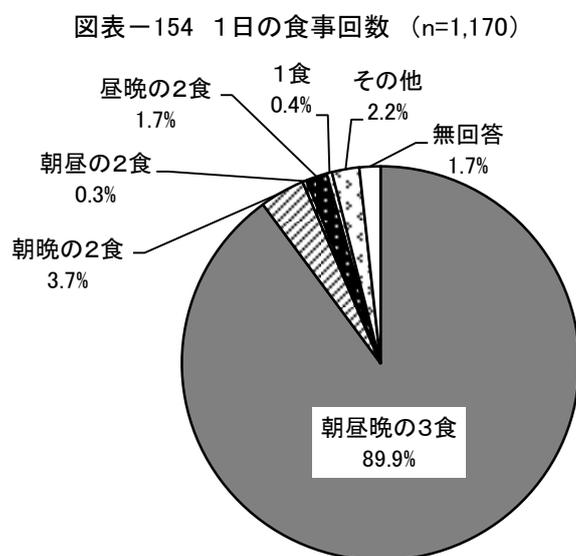
在宅介護について前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

図表-153 【在宅介護】薬の管理者



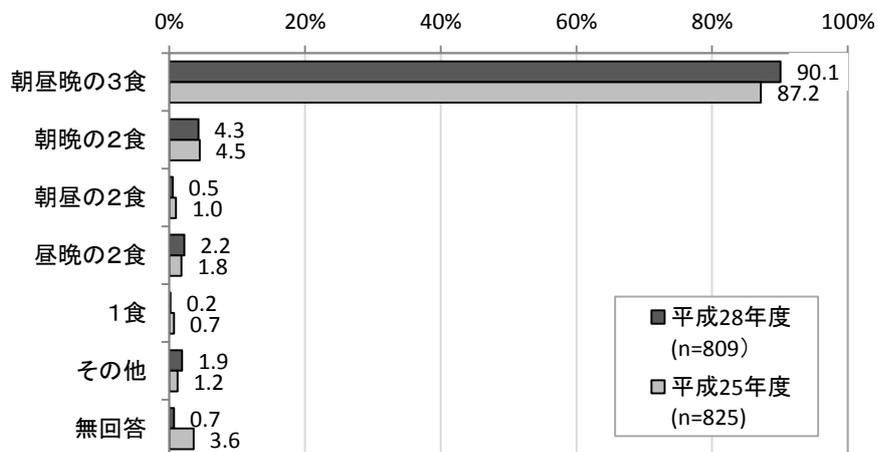
(14) 1日の食事回数 (Q18)

1日の食事回数は、大半が「朝昼晩の3食」(89.9%)となっています。



在宅介護について前回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

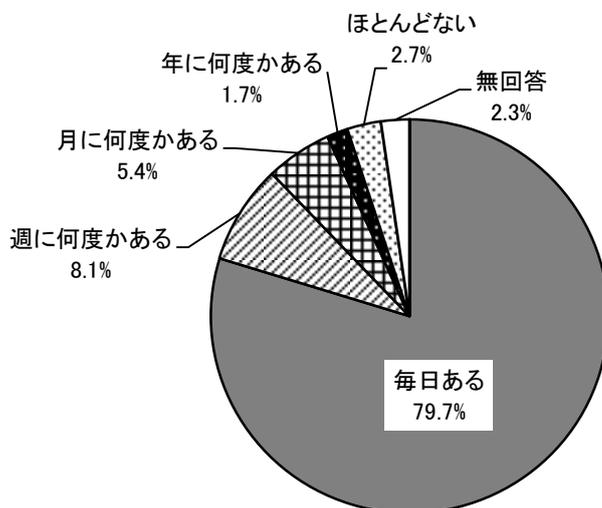
図表-155 【在宅介護】 1日の食事回数



(15) 誰かと食事をとる頻度 (Q19)

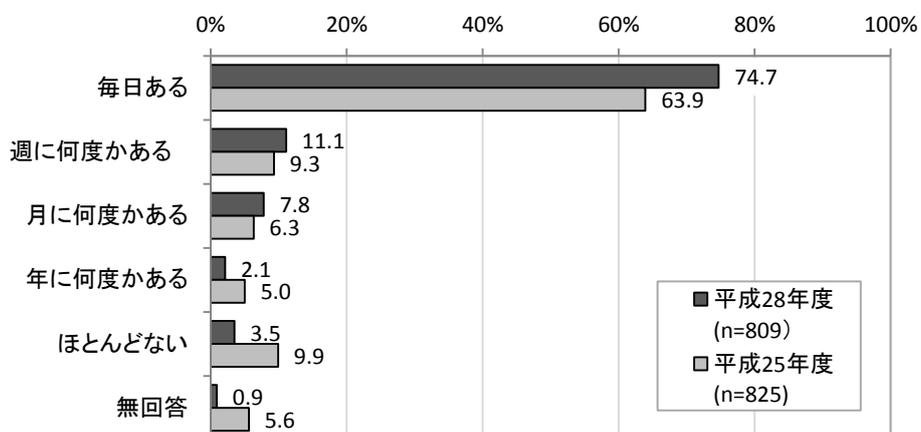
自分一人だけでなく、どなたかと食事をとる機会は、「毎日ある」(79.7%)が約8割を占めています。「週に何度かある」が8.1%、「月に何度かある」が5.4%となっています。

図表-156 誰かと食事をとる頻度 (n=1,170)



在宅介護について前回調査と比較すると、「毎日ある」が高くなっています。

図表-157 【在宅介護】 誰かと食事をとる機会



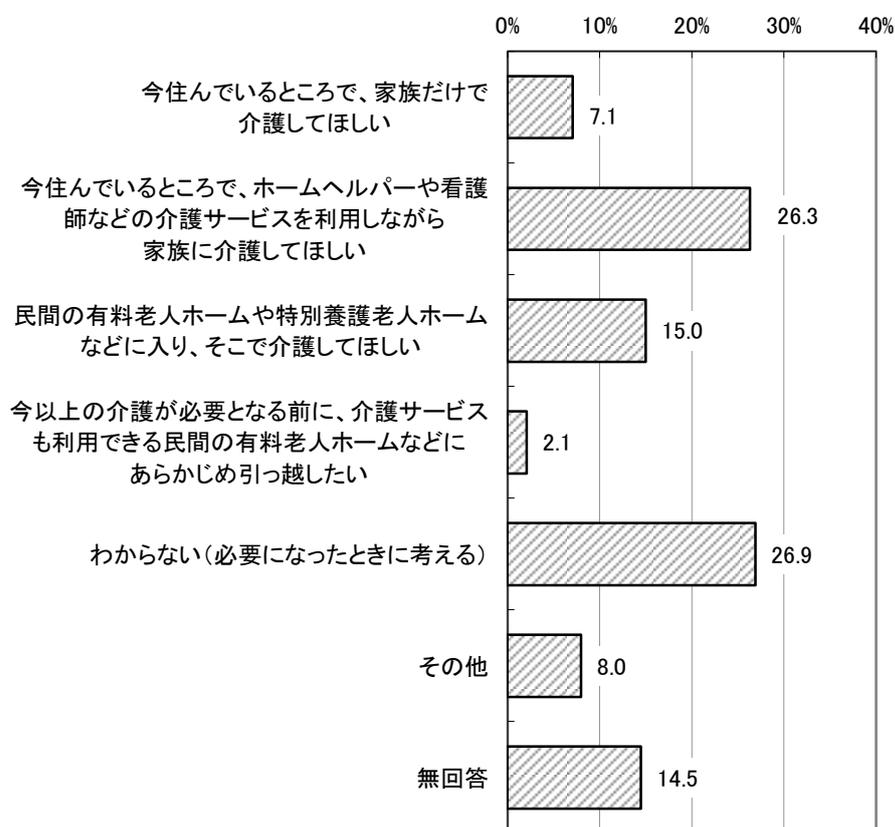
(16) 身体状況が悪化した場合に望む、介護の方法 (Q20)

現在の身体状況が悪化したら、どのような方法での介護を望むかについては、「わからない(必要になったときに考える)」(26.9%)、「今住んでいるところで、ホームヘルパーや看護師などの介護サービスを利用しながら家族に介護してほしい」(26.3%)が高くなっています。

また、「民間の有料老人ホームや特別養護老人ホームなどに入り、そこで介護してほしい」は15.0%、「今住んでいるところで、家族だけで介護してほしい」は7.1%となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」で「今住んでいるところで、ホームヘルパーや看護師などの介護サービスを利用しながら家族に介護してほしい」(36.1%)と「わからない(必要になったときに考える)」(32.4%)が高くなっています。「施設等入所」では、「民間の有料老人ホームや特別養護老人ホームなどに入り、そこで介護してほしい」(20.5%)と「その他」(23.9%)が高くなっています。

図表-158 身体状況が悪化した場合に望む、介護の方法 (n=1,170)



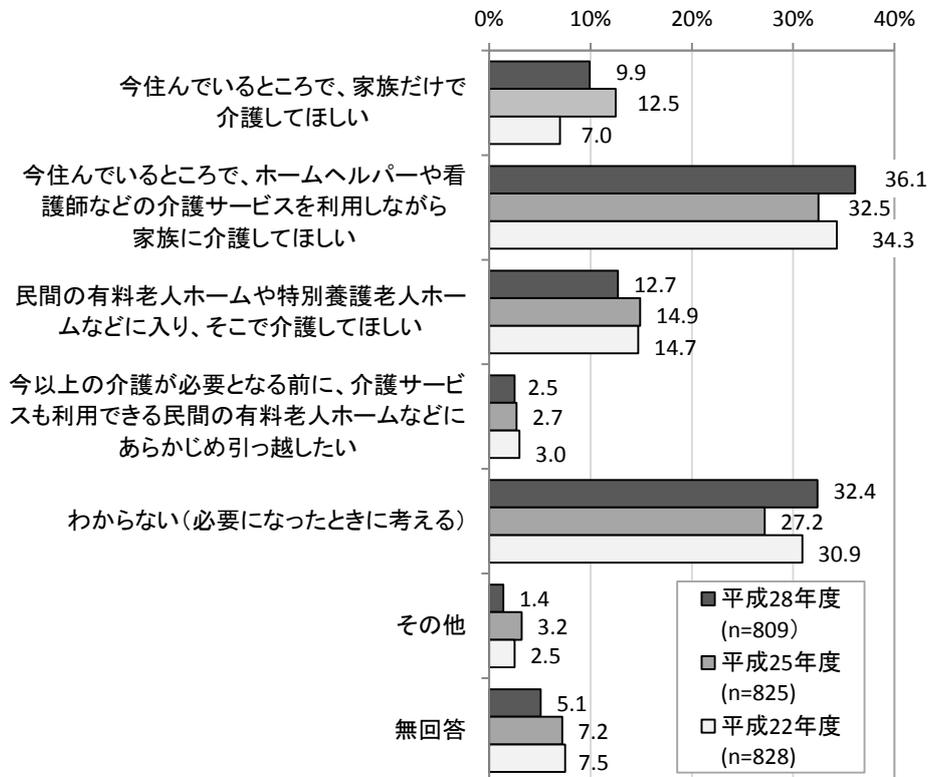
図表－159 在宅施設等別 身体状況が悪化した場合に望む、介護の方法

(単位:%)

	全体 (n=)	今住んでいるところで、家族だけで介護してほしい	今住んでいるところで、ホームヘルパーや看護師などの介護サービスを利用しながら家族に介護してほしい	民間の有料老人ホームや特別養護老人ホームなどに入り、そこで介護してほしい	今以上の介護が必要となる前に、介護サービスも利用できる民間の有料老人ホームなどにあらかじめ引っ越したい	わからない(必要になったときに考える)	その他	無回答
全体	1,170	7.1	26.3	15.0	2.1	26.9	8.0	14.5
在宅介護	809	9.9	36.1	12.7	2.5	32.4	1.4	5.1
施設等入所	347	0.6	3.7	20.5	1.2	14.4	23.9	35.7
無回答	14	7.1	21.4	14.3	-	21.4	-	35.7

在宅介護について前回調査と比較すると、「わからない(必要になったときに考える)」がやや高くなり、前々回と同程度になっています。

図表－160 【在宅介護】 身体状況が悪化した場合に望む、介護の方法

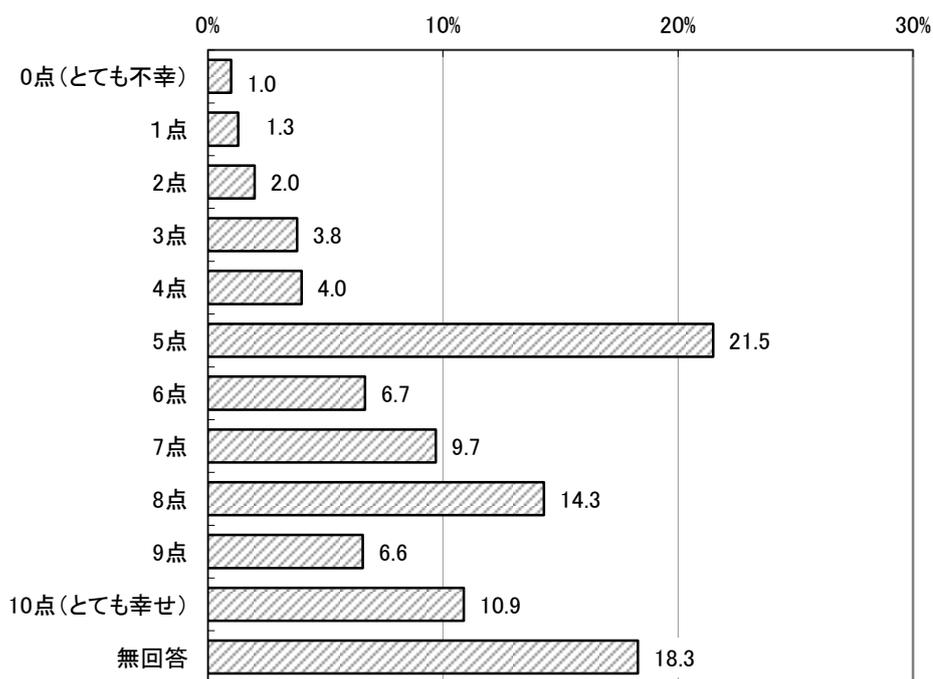


(17) 現在の幸福度 (Q21)

現在どの程度幸せかについて、0点(とても不幸)～10点(とても幸せ)できいたところ、「5点」(21.5%)の割合が最も高く、次いで「8点」(14.3%)、「10点」(10.9%)となっています。0点～4点の合計は12.1%、6点～10点の合計は48.2%となっています。平均は5.31点となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では5点以上の割合が高くなっています。「施設等入所」では無回答が4割強となっています。

図表-161 現在の幸福度 (n=1,170)



図表-162 在宅施設等別 現在の幸福度

(単位:%)

	全体 (n=)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体	1,170	1.0	1.3	2.0	3.8	4.0	21.5	6.7	9.7	14.3	6.6	10.9	18.3
在宅介護	809	1.4	1.1	2.0	4.1	4.2	22.4	6.7	11.1	17.2	7.9	14.0	8.0
施設等入所	347	0.3	1.4	2.0	3.2	3.7	18.7	6.9	6.6	6.9	3.7	4.0	42.4
無回答	14	-	7.1	-	-	-	35.7	-	7.1	28.6	-	7.1	14.3

3. 介護サービスの利用などについて

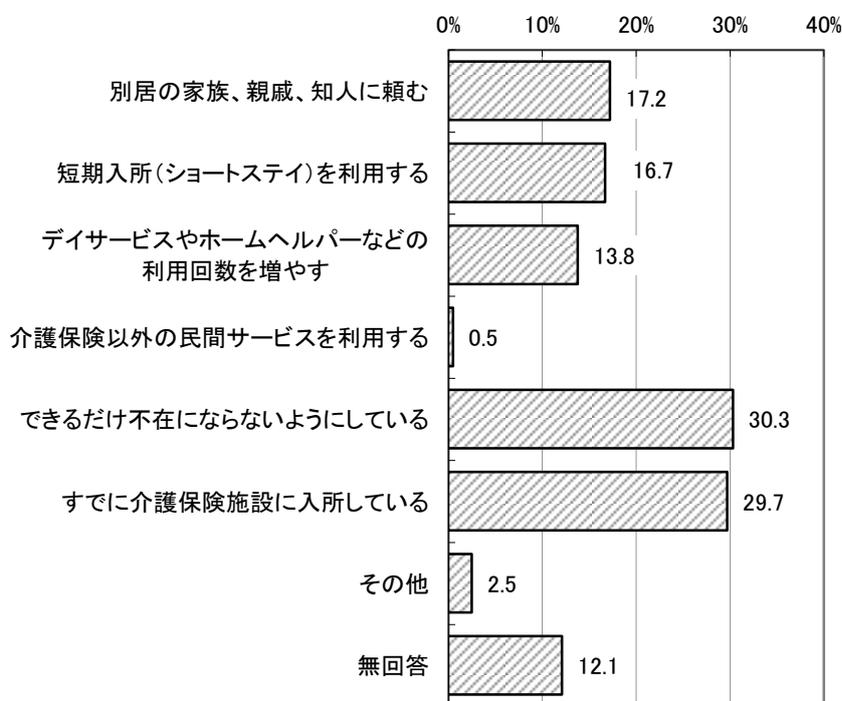
B 介護サービスの利用などについてお尋ねします

(1) 介護者が一時的に不在の場合の対処法 (Q22)

普段介護する人がいる人に、介護者が一時的に不在の場合にはどのようにしているか聞いたところ、「できるだけ不在にならないようにしている」(30.3%)が最も高くなっています。その他、「別居の家族、親戚、知人に頼む」が17.2%、「短期入所(ショートステイ)を利用する」が16.7%などとなっています。

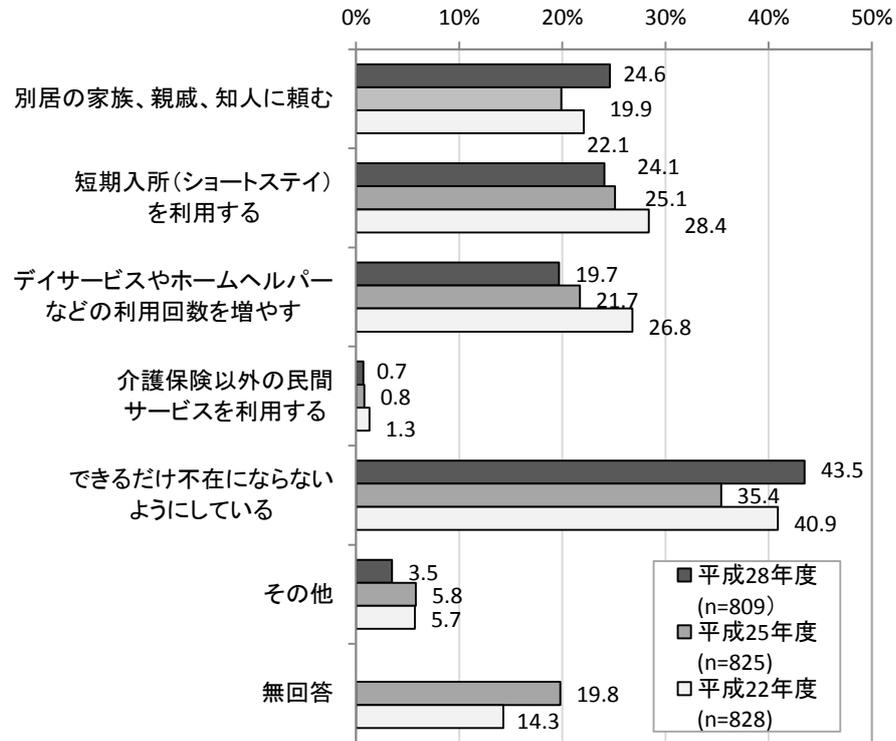
一方、「すでに介護保険施設に入所している」が29.7%となっています。

図表-163 介護者が一時的に不在の場合の対処法 (n=1,170)



在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「できるだけ不在にならないようにしている」が前回調査では前々回より低くなったものの、今回は再び高くなっています。「短期入所(ショートステイ)を利用する」「デイサービスやホームヘルパーなどの利用回数を増やす」は、継続して減少傾向にあります。

図表-164 【在宅介護】 介護者が一時的に不在の場合の対処法

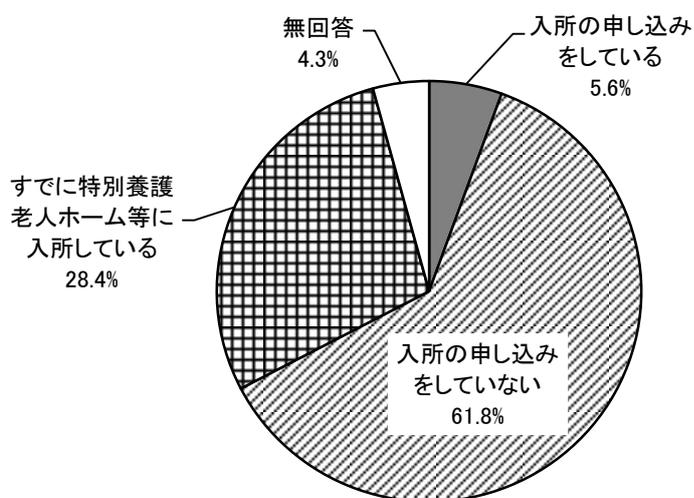


(2) 特別養護老人ホーム等の施設への入所申し込み状況 (Q23、Q23-1)

特別養護老人ホーム等の施設に入所の申し込みをしているかきいたところ、「入所の申し込みをしていない」(61.8%)が最も高く、「すでに特別養護老人ホーム等に入所している」が28.4%、「入所の申し込みをしている」が5.6%となっています。

要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」では「入所の申し込みをしていない」が8割強、「要介護 2、3」では約5割となっています。「要介護 4、5」では、「すでに特別養護老人ホーム等に入所している」が7割近くとなっています。

図表-165 特別養護老人ホーム等の施設への入所申し込み有無 (n=1,170)



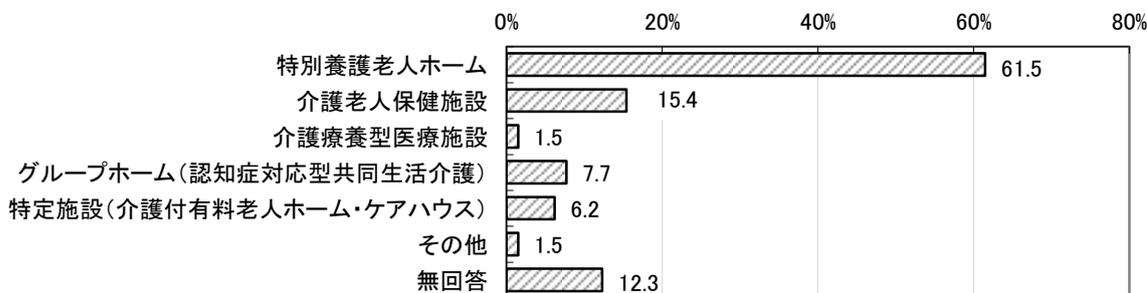
図表-166 要介護度別 特別養護老人ホーム等の施設への入所申し込み有無

(単位: %)

	全体(n=)	入所の申し込みをしている	入所の申し込みをしていない	すでに特別養護老人ホームに入所している	無回答
全体	1,170	5.6	61.8	28.4	4.3
要支援 1、2 と要介護 1	590	3.7	83.2	7.3	5.8
要介護 2、3	271	8.1	49.1	39.5	3.3
要介護 4、5	253	7.9	23.3	68.4	0.4
無回答	56	1.8	71.4	16.1	10.7

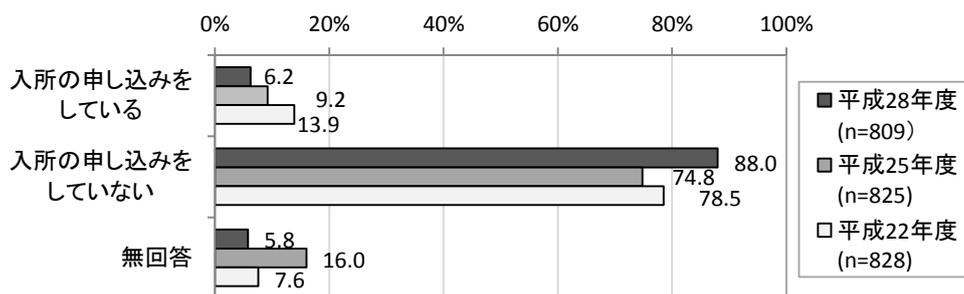
「入所の申し込みをしている」と回答した人に、施設の種別をきいたところ、「特別養護老人ホーム」(61.5%)が最も高く、次いで「介護老人保健施設」(15.4%)となっています。

図表-167 申し込んでいる施設(複数回答) (n=1,170)



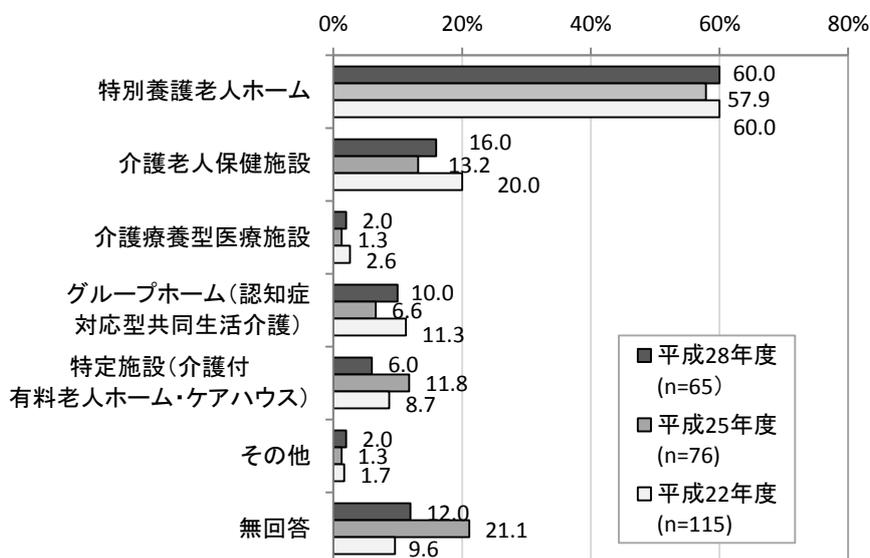
在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「入所の申し込みをしていない」の割合が高くなっています。申し込んでいる施設は、前回調査より「介護老人保健施設」の割合がやや高くなり、「特定施設(介護付有料老人ホーム・ケアハウス)」の割合が低くなっています。

図表-168 【在宅介護】 特別養護老人ホーム等の施設への入所申し込み有無



※平成28年度の結果では「すでに特別養護老人ホーム等に入所している」はグラフから除きました。

図表-169 【在宅介護】 申し込んでいる施設(複数回答)



図表－170 施設への申し込み時期（n=57）

（件数）

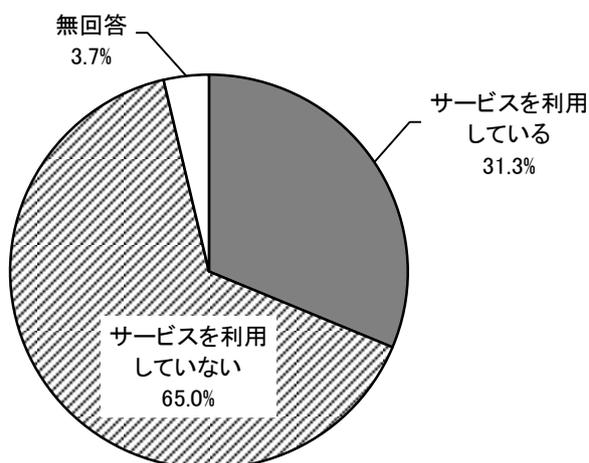
	回答数	H28年	H27年	H26年	H25年	H24年	H23年 以前	無回答
特別養護老人ホーム	40	16	5	3	4	2	3	7
介護老人保健施設	10	3		1	2	1		3
介護療養型医療施設	1	1						
グループホーム （認知症対応型共同生活介護）	5	3	2					
特定施設（介護付有料老人 ホーム・ケアハウス）	4	2				1		1
その他	1	1						

(3) 居宅（在宅）介護サービスの利用有無（Q24）

普段、居宅（在宅）の介護サービスを利用しているかについては、「サービスを利用していない」が65.0%、「サービスを利用している」が31.3%となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「サービスを利用している」が44.7%となっています。

図表－171 居宅(在宅)介護サービスの利用有無 (n=1,170)



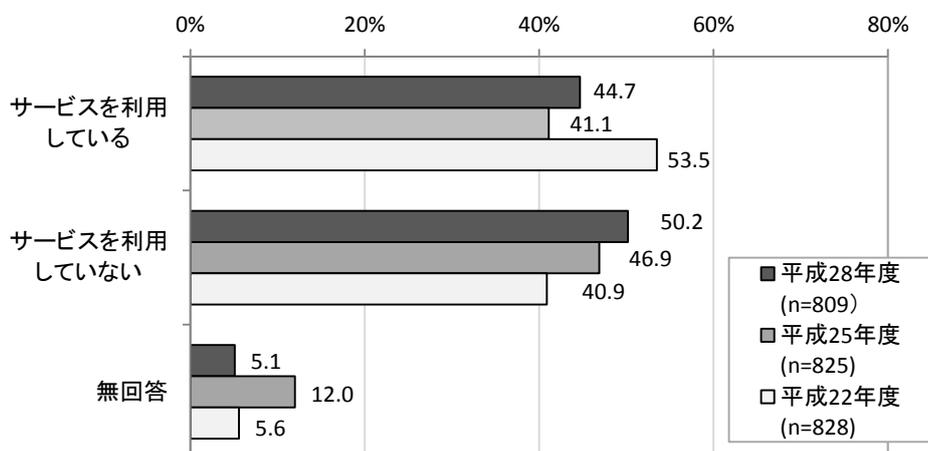
図表－172 在宅施設等別 居宅(在宅)介護サービスの利用有無

(単位: %)

	全体 (n=)	サービスを利用している	サービスを利用していない	無回答
全体	1,170	31.3	65.0	3.7
在宅介護	809	44.7	50.2	5.1
施設等入所	347	-	100.0	-
無回答	14	28.6	57.1	14.3

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「サービスを利用していない」が継続して高くなっています。

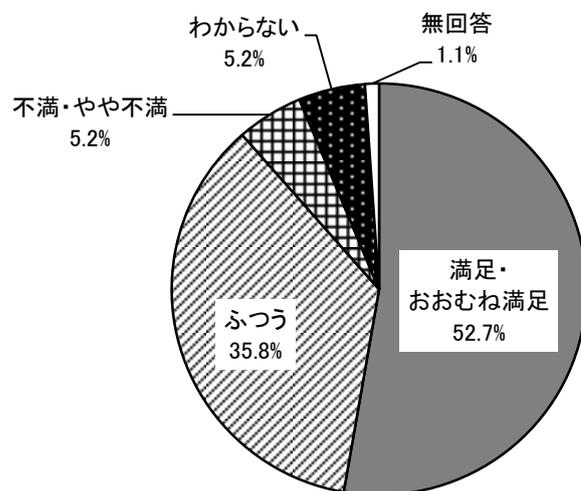
図表－173 【在宅介護】居宅(在宅)介護サービスの利用有無



(4) 介護保険サービスの満足度 (Q24-1)

「サービスを利用している」と回答した人に、介護保険サービスの満足度をきいたところ、「満足・おおむね満足」(52.7%) が最も高く、次いで「ふつう」(35.8%) となっています。

図表-174 介護保険サービスの満足度 (n=366)

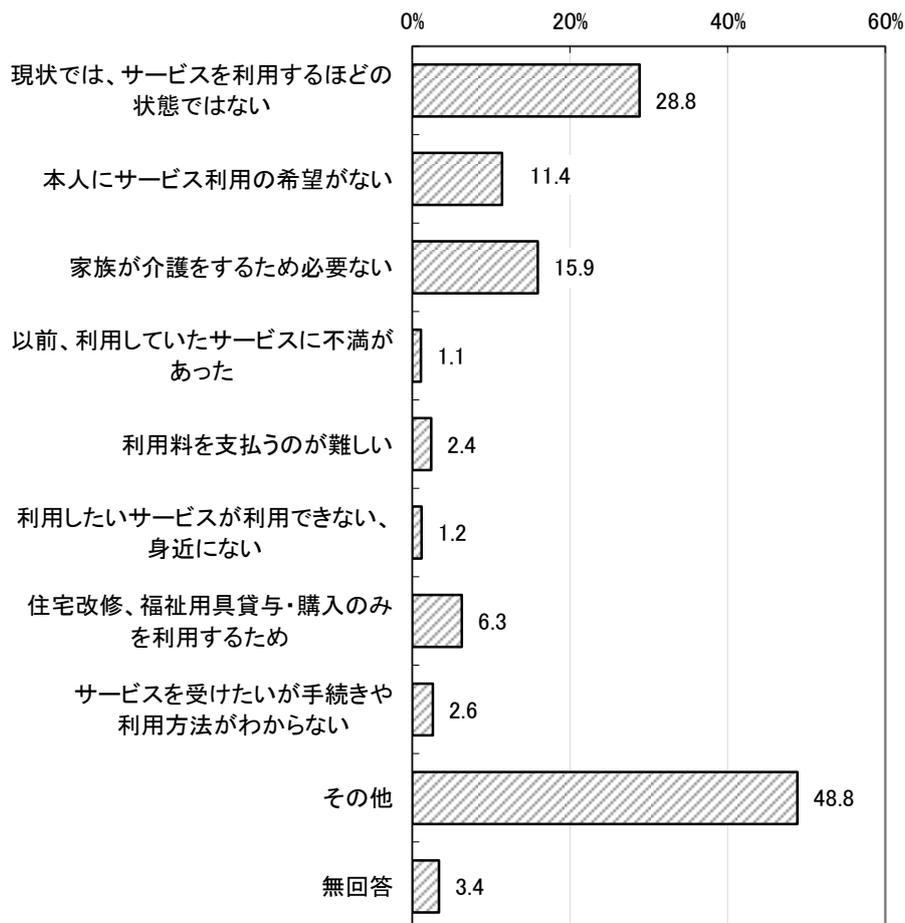


(5) 介護保険サービスを利用していない理由 (Q24-2)

「介護保険サービスを利用していない」と回答した人に、介護保険サービスを利用していない理由をきいたところ、「その他」をのぞいては、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(28.8%)が最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」(15.9%)、と「本人にサービス利用の希望がない」(11.4%)などとなっています。

「その他」(48.8%)の理由の大半は、「介護施設に入所しているため」となっています。

図表-175 介護保険サービスを利用していない理由(複数回答) (n=761)



要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が約 5 割、「家族が介護をするため必要ない」と「本人にサービス利用の希望がない」がいずれも 2 割強となっています。

図表－176 要介護度別 介護保険サービスを利用していない理由(複数回答)

(単位:%)

	全体 (n=)	現状では、 サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい
全体	761	28.8	11.4	15.9	1.1	2.4
要支援 1、2 と要介護 1	354	51.1	21.2	21.8	1.4	2.3
要介護 2、3	171	9.9	4.7	17.0	1.2	2.9
要介護 4、5	202	1.5	0.5	5.0	-	0.5
無回答	34	52.9	8.8	14.7	2.9	11.8

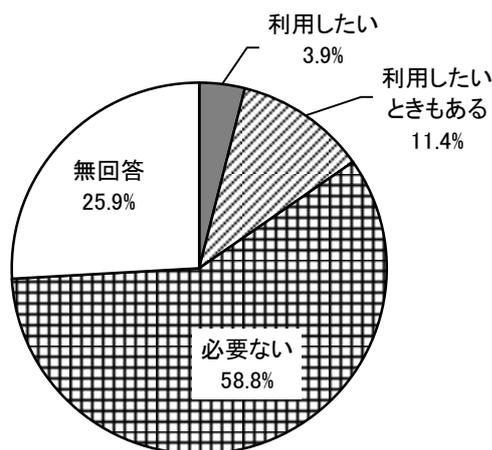
	全体 (n=)	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない	その他	無回答
全体	761	1.2	6.3	2.6	48.8	3.4
要支援 1、2 と要介護 1	354	2.0	9.3	4.5	15.8	4.8
要介護 2、3	171	1.2	5.8	0.6	69.6	2.3
要介護 4、5	202	-	1.5	-	92.1	2.0
無回答	34	-	5.9	8.8	29.4	2.9

(6) 夜間・早朝の訪問サービスの利用意向 (Q25)

夜間・早朝にホームヘルパーが自宅を訪問して、安否確認や体位交換などを行うサービスの利用意向をきいたところ、「必要ない」が58.8%、「利用したい(ときもある)」が15.3%（「利用したい(3.9%)」と「利用したいときもある(11.4%)」の計)となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「利用したいときもある」が14.5%となっています。

図表-177 夜間・早朝の訪問サービスの利用意向 (n=1,170)



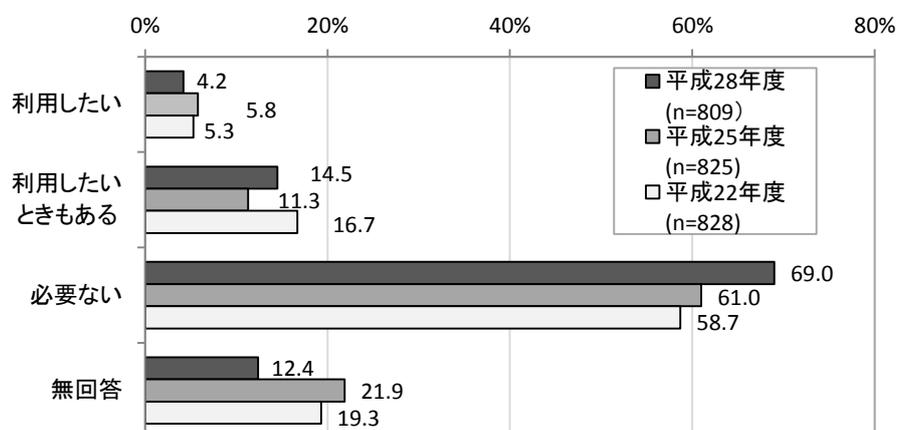
図表-178 在宅施設等別 夜間・早朝の訪問サービスの利用意向

(単位: %)

	全体 (n=)	利用したい	利用したいときもある	必要ない	無回答
全体	1,170	3.9	11.4	58.8	25.9
在宅介護	809	4.2	14.5	69.0	12.4
施設等入所	347	3.2	4.0	35.4	57.3
無回答	14	7.1	14.3	50.0	28.6

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「必要ない」が継続して高くなっています。

図表-179 【在宅介護】夜間・早朝の訪問サービスの利用意向



在宅施設等別にみると、ほとんどの項目で、「在宅介護」が「施設等入所」に比べ高くなっていますが、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」「介護老人保健施設(老人保健施設)」は、「施設等入所」の方が高くなっています。

図表-181 在宅施設等別 今後利用したい介護サービス(複数回答)

(単位:%)

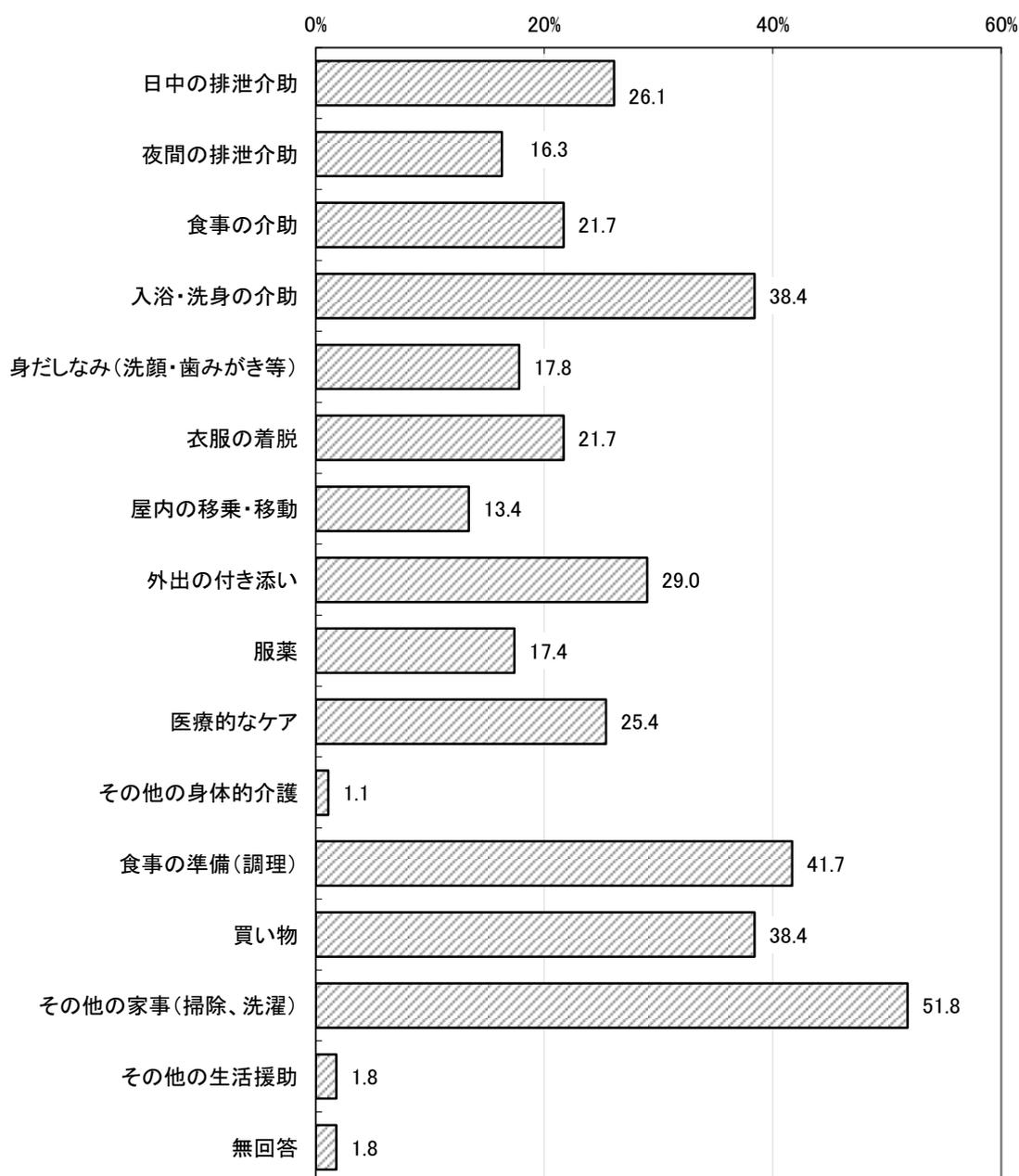
	全体 (n=)	訪問介護(ホームヘルプサービス)	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護(デイサービス)	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護
全体	1,170	23.6	8.8	9.8	13.8	8.5	35.6	17.2	12.7	10.1
在宅介護	809	30.3	11.5	13.0	18.9	11.2	49.1	22.4	17.6	14.3
施設等入所	347	7.2	2.9	2.6	2.3	2.6	4.9	5.2	2.0	0.6
無回答	14	42.9	-	7.1	7.1	-	14.3	14.3	-	-

	全体 (n=)	福祉用具の貸与	福祉用具購入費の支給	住宅改修費の支給	特定施設入居者生活介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	介護老人保健施設(老人保健施設)	介護療養型医療施設	無回答
全体	1,170	29.7	11.8	13.2	5.6	7.4	8.5	6.0	19.0	8.6	6.9	20.0
在宅介護	809	39.1	15.9	18.2	5.3	9.9	11.6	5.2	12.0	6.7	7.5	11.0
施設等入所	347	7.8	2.3	1.7	6.6	2.0	1.4	8.1	36.0	13.5	5.5	39.8
無回答	14	28.6	7.1	7.1	-	-	-	-	-	-	7.1	50.0

(8) 今後利用したい訪問介護（ホームヘルプサービス）の具体的内容（Q26-1）

「訪問介護（ホームヘルプサービス）」を利用したいと回答した人に、具体的な内容をきくと、「その他の家事（掃除、洗濯）」(51.8%)が最も高く、次いで「食事の準備（調理）」(41.7%)、「入浴・洗身の介助」（38.4%）、「買い物」（38.4%）となっています。

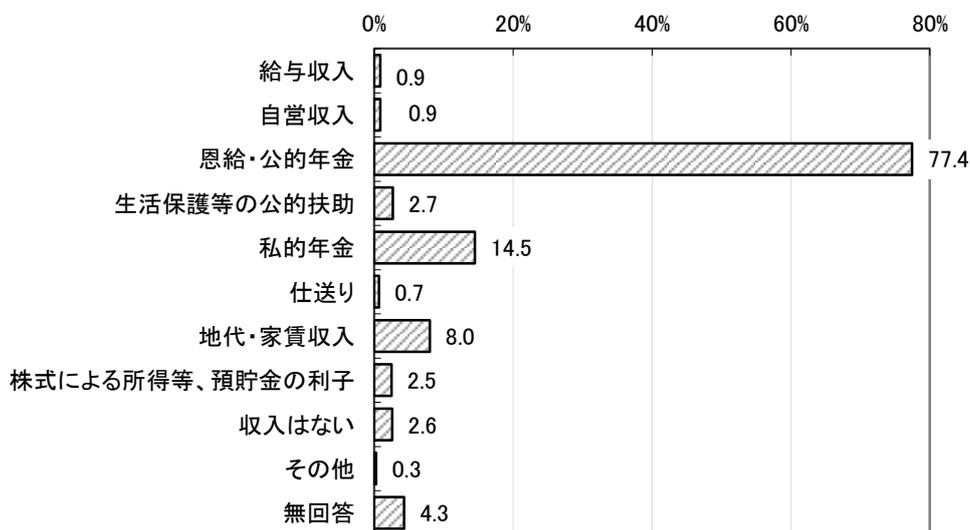
図表－182 今後利用したい訪問介護（ホームヘルプサービス）の具体的内容（複数回答）（n=276）



(9) 収入源 (Q27)

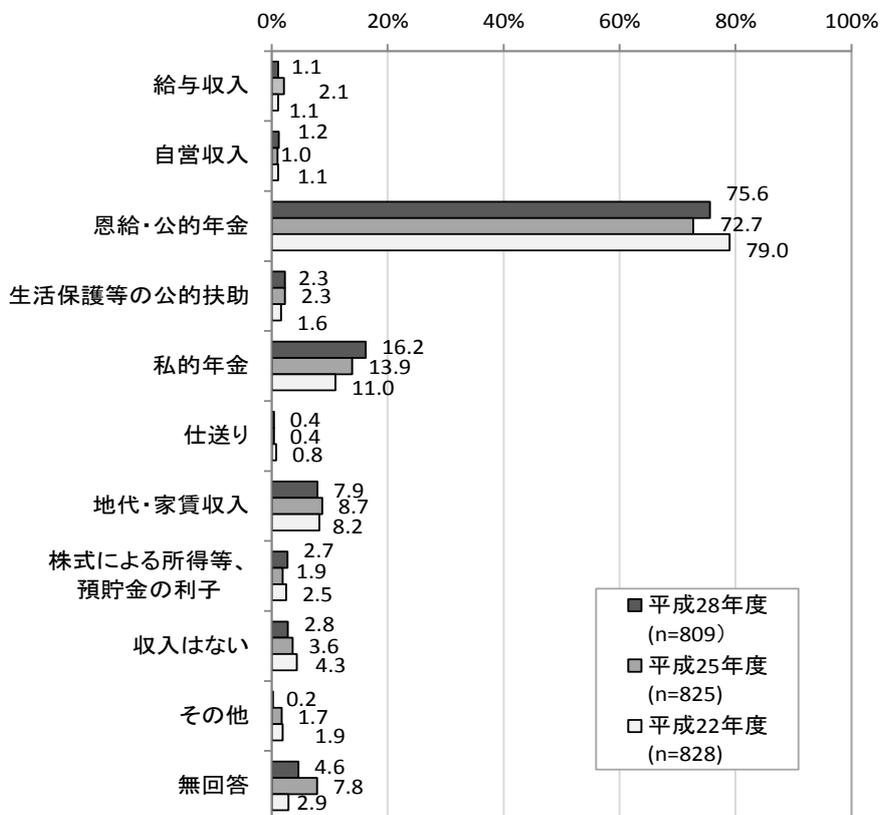
収入源は、大半が「恩給・公的年金」(77.4%)で、その他では「私的年金」(14.5%)、「地代・家賃収入」(8.0%)などとなっています。

図表-183 収入源(複数回答) (n=1,170)



在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

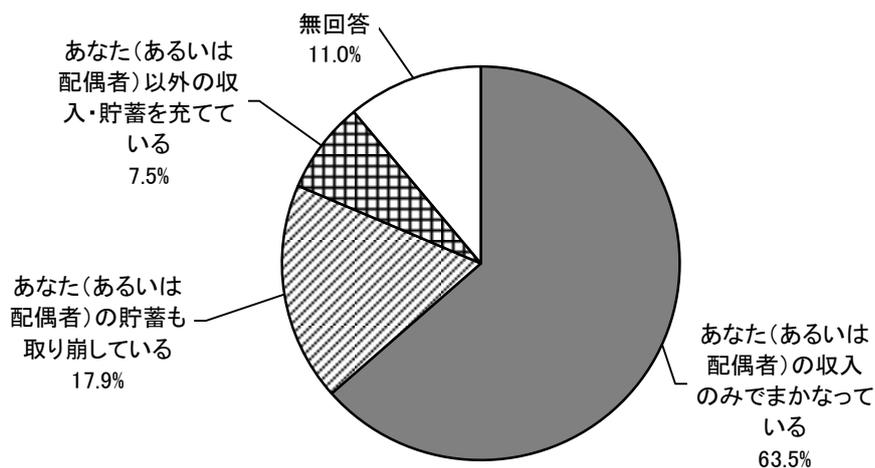
図表-184 【在宅介護】収入源(複数回答)



(10) 介護費用の負担状況 (Q28)

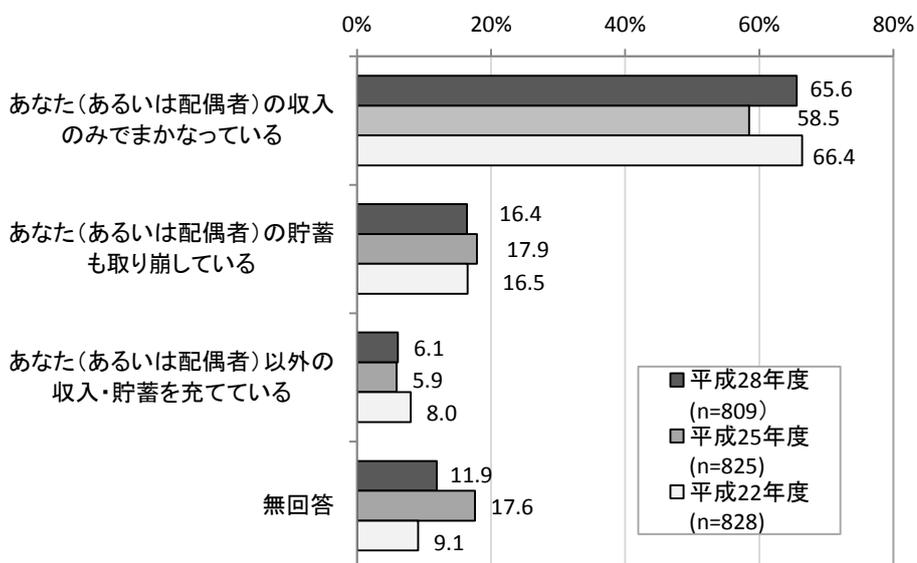
介護費用の負担については、「あなた(あるいは配偶者)の収入のみでまかなっている」(63.5%)が6割強となっています。「あなた(あるいは配偶者)の貯蓄も取り崩している」が17.9%、「あなた(あるいは配偶者)以外の収入・貯蓄を充てている」が7.5%となっています。

図表-185 介護費用の負担状況 (n=1,170)



在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、大きな差異は見られません。

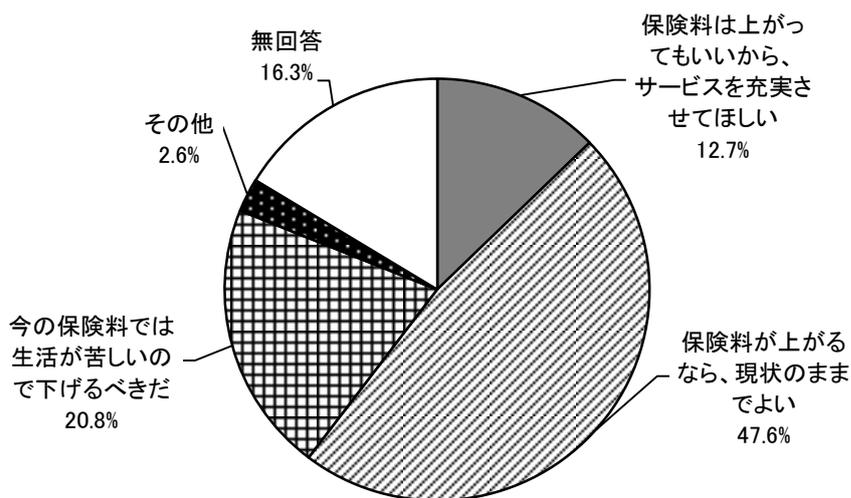
図表-186 【在宅介護】 介護費用の負担状況



(11) 介護保険料について (Q29)

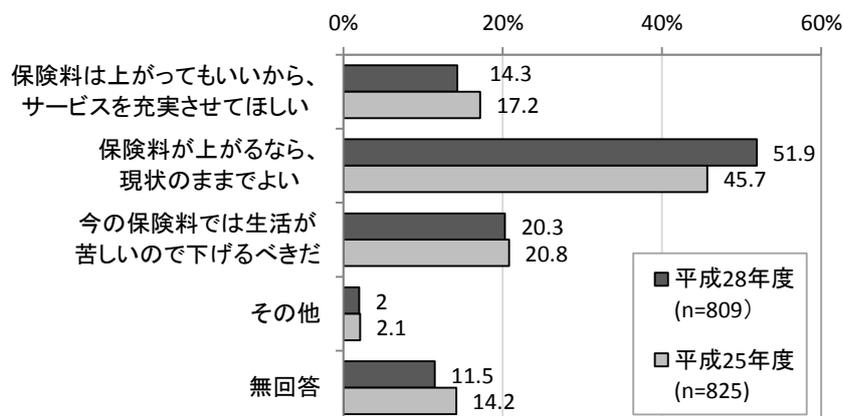
介護保険料についてどのように感じているか聞いたところ、「保険料が上がるなら、現状のままでよい」(47.6%) が最も高く、次いで「今の保険料では生活が苦しいので下げるべきだ」(20.8%) となっています。一方、「保険料は上がってもいいから、サービスを充実させてほしい」は12.7%となっています。

図表-187 介護保険料について (n=1,170)



在宅介護について前回調査と比較すると、「保険料が上がるなら、現状のままでよい」の割合が高くなっています。

図表-188 【在宅介護】 介護保険料について



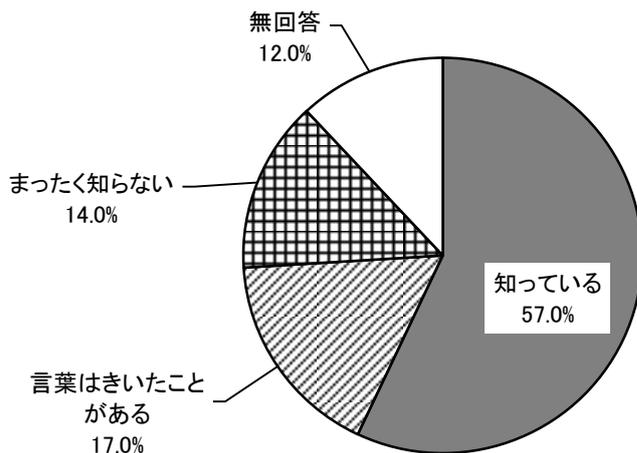
(12) 「地域包括支援センター」の認知度 (Q30)

「地域包括支援センター」の認知については、「知っている」が57.0%、「言葉は聞いたことがある」が17.0%、「まったく知らない」が14.0%となっています。

要介護度別にみると、要介護度の低い方で「知っている」割合が高くなっています。

在宅施設等別では、「在宅介護」で「知っている」割合が高くなっています。

図表-189 「地域包括支援センター」の認知度 (n=1,170)



図表-190 要介護度別・在宅施設等別 「地域包括支援センター」の認知度

(単位: %)

		全体 (n=)	知っている	言葉は聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体		1,170	57.0	17.0	14.0	12.0
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	590	66.3	16.6	12.7	4.4
	要介護 2、3	271	51.7	17.7	16.6	14.0
	要介護 4、5	253	43.5	16.6	14.2	25.7
	無回答	56	46.4	19.6	14.3	19.6
在宅施設等別	在宅介護	809	64.3	18.3	12.2	5.2
	施設等入所	347	39.8	13.8	18.4	28.0
	無回答	14	64.3	21.4	7.1	7.1

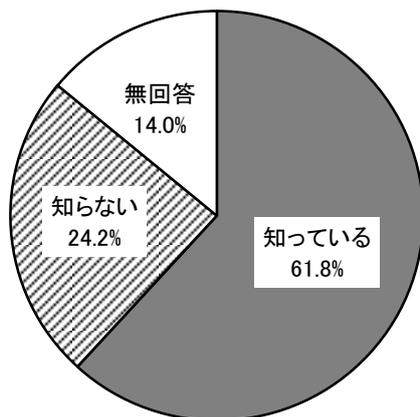
(13) 住まいの地域を担当している地域包括支援センターの認知度 (Q31)

住まいの地域を担当している地域包括支援センターを知っているか聞いたところ、「知っている」が61.8%、「知らない」が24.2%となっています。

要介護度別にみると、要介護度の低い方で「知っている」割合が高くなっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」で「知っている」割合が高く、7割強となっています。

図表-191 住まいの地域を担当している地域包括支援センターの認知度 (n=1,170)



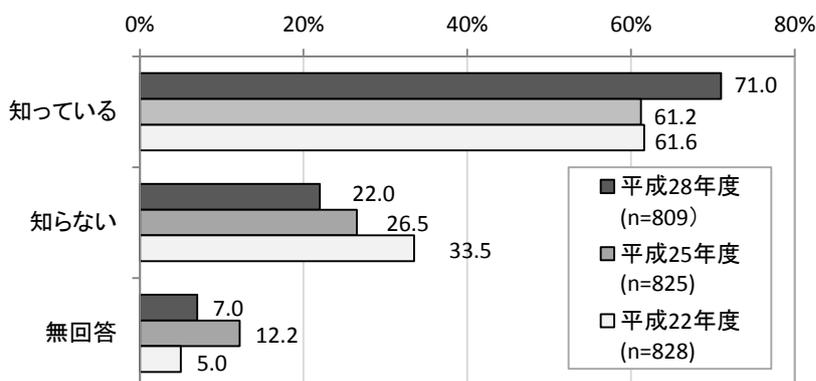
図表-192 要介護度別 住まいの地域を担当している地域包括支援センターの認知度

(単位: %)

		全体 (n=)	知っている	知らない	無回答
全体		1,170	61.8	24.2	14.0
要介護度別	要支援 1、2 と要介護 1	590	73.1	20.5	6.4
	要介護 2、3	271	57.2	26.6	16.2
	要介護 4、5	253	43.1	29.2	27.7
	無回答	56	50.0	28.6	21.4
在宅施設等別	在宅介護	809	71.0	22.0	7.0
	施設等入所	347	40.6	29.7	29.7
	無回答	14	57.1	14.3	28.6

在宅介護について前回、前々回調査と比較すると、「知っている」の割合が高くなっています。

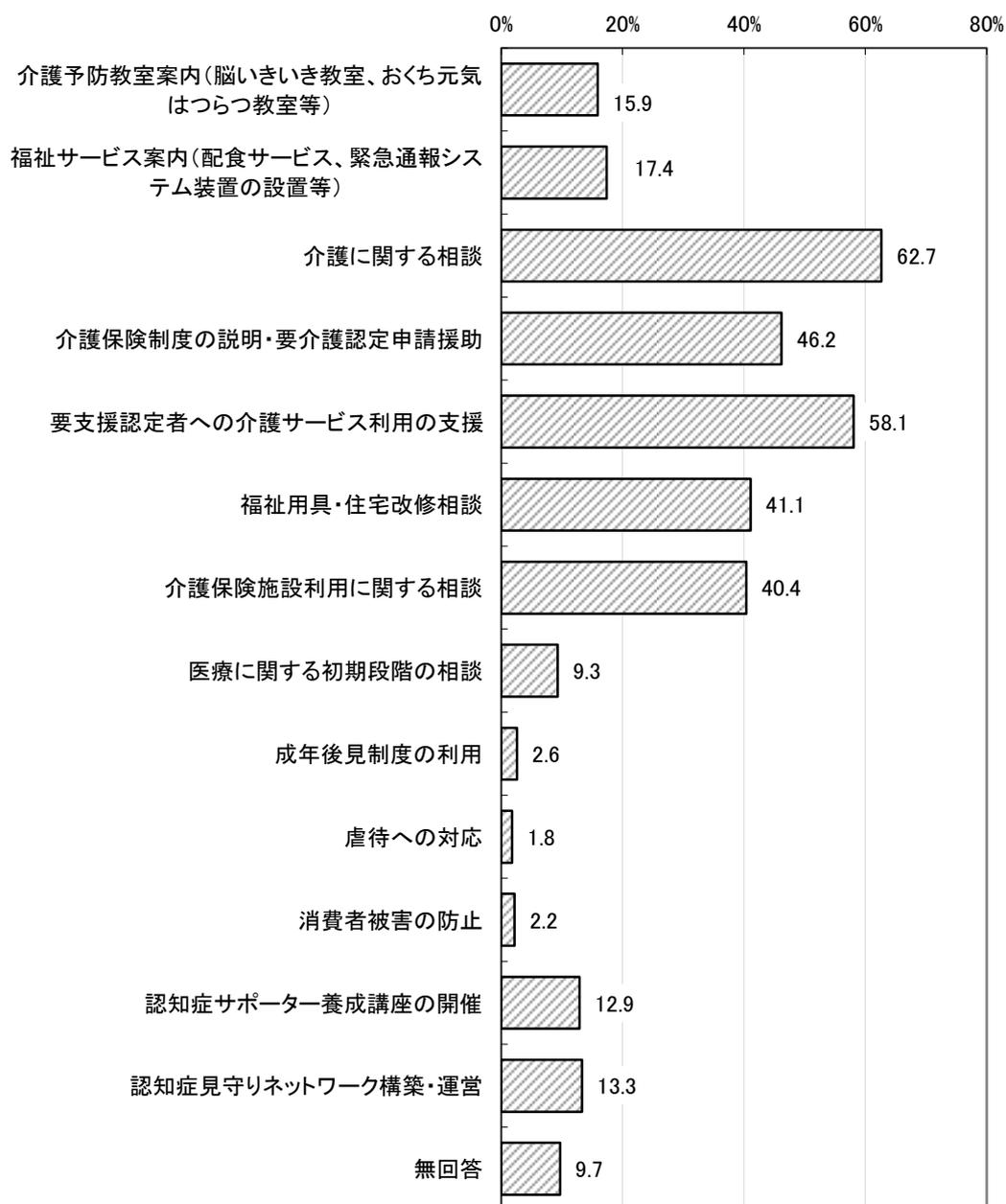
図表-193 【在宅介護】 住まいの地域を担当している地域包括支援センターの認知度



(14) 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務の認知度 (Q31-1)

住まいの地域を担当している地域包括支援センターを「知っている」と回答した人に、高齢者に対する各業務について知っているかきいたところ、「介護に関する相談」(62.7%)が最も高く、次いで「要支援認定者への介護サービス利用の支援」(58.1%)、「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」(46.2%)、「福祉用具・住宅改修相談」(41.1%)、「介護保険施設利用に関する相談」(40.4%)となっています。

図表-194 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務で知っているもの(複数回答) (n=723)



要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」では「要支援認定者への介護サービス利用の支援」介護に関する相談」が他よりやや高くなっています。「要介護 2、3」では、「介護に関する相談」「福祉用具・住宅改修相談」「介護予防教室案内」「医療に関する初期段階の相談」が他より高くなっています。「要介護 4、5」では「介護保険施設利用に関する相談」「認知症サポーター養成講座の開催」「認知症見守りネットワーク構築・運営」が高くなっています。

図表－195 要介護度別 在宅施設等別 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務で知っているもの
(複数回答)
(単位:%)

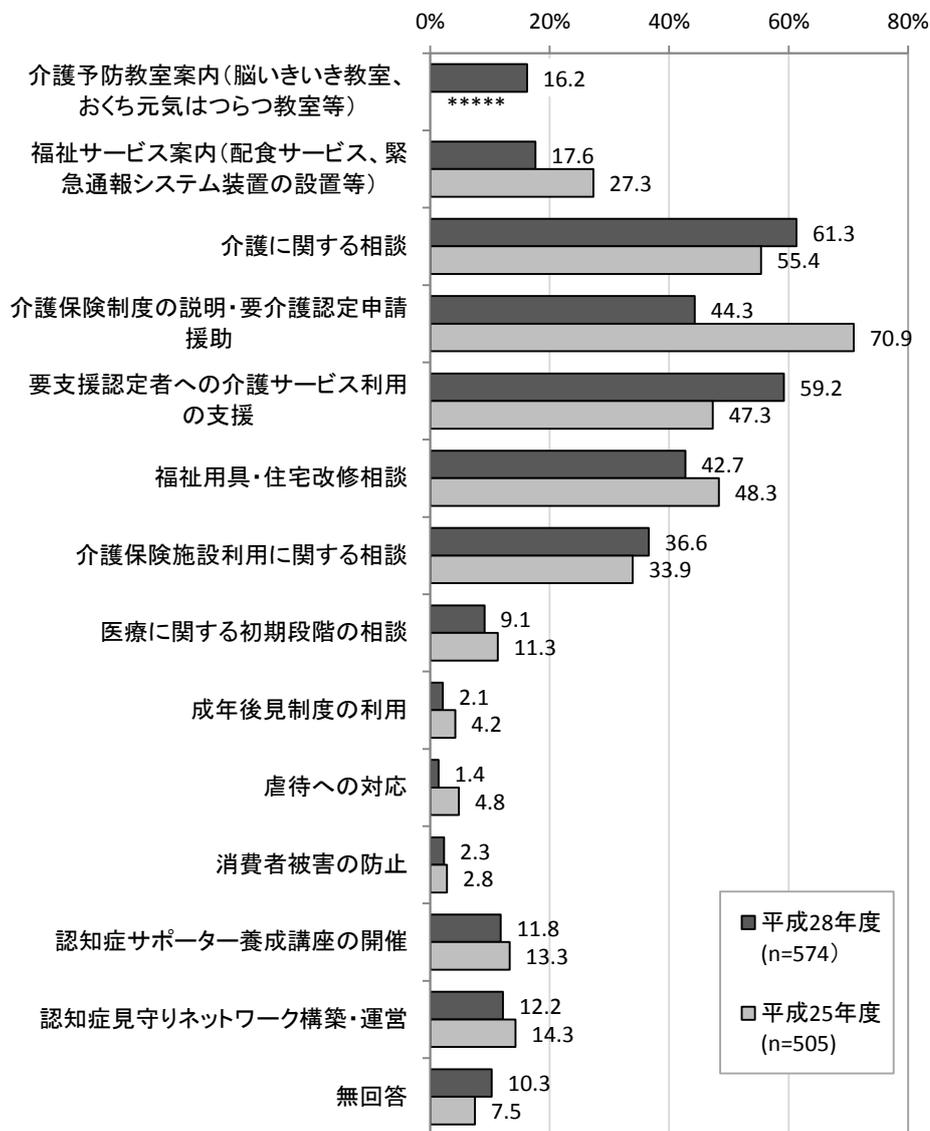
	全体 (n=)	介護予防教室案内 (脳いきいき教室、おうち 元気はつらつ教室等)	福祉サービス案内(配食 サービス、緊急通報シス テム装置の設置等)	介護に関する相談	介護保険制度の説明・要 介護認定申請援助	要支援認定者への介護サ ービス利用の支援	福祉用具・住宅改修相談	介護保険施設利用に 関する相談	
全体	723	15.9	17.4	62.7	46.2	58.1	41.1	40.4	
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	431	14.8	16.7	58.5	41.1	60.3	39.7	33.6
	要介護 2、3	155	18.1	19.4	71.0	57.4	52.9	48.4	49.7
	要介護 4、5	109	17.4	16.5	70.6	52.3	59.6	37.6	58.7
	無回答	28	14.3	21.4	50.0	39.3	46.4	35.7	21.4
在宅施設等別	在宅介護	574	16.2	17.6	61.3	44.3	59.2	42.7	36.6
	施設等入所	141	14.9	15.6	69.5	54.6	55.3	34.8	56.0
	無回答	8	12.5	37.5	37.5	37.5	25.0	37.5	37.5

	全体 (n=)	医療に関する初期段階 の相談	成年後見制度の利用	虐待への対応	消費者被害の防止	認知症サポーター養成 講座の開催	認知症見守りネットワー ク構築・運営	無回答	
全体	723	9.3	2.6	1.8	2.2	12.9	13.3	9.7	
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	431	8.4	2.8	1.2	2.3	8.8	9.3	10.0
	要介護 2、3	155	12.9	3.2	3.2	2.6	16.8	18.1	8.4
	要介護 4、5	109	7.3	1.8	2.8	0.9	22.9	22.0	6.4
	無回答	28	10.7	-	-	3.6	14.3	14.3	25.0
在宅施設等別	在宅介護	574	9.1	2.1	1.4	2.3	11.8	12.2	10.3
	施設等入所	141	9.2	5.0	3.5	2.1	17.7	18.4	6.4
	無回答	8	25.0	-	-	-	-	-	25.0

在宅介護について前回調査と比較すると、「介護に関する相談」「要支援認定者への介護サービス利用の支援」の割合が高くなっています。

その他のほとんどの項目では前回より低くなっていますが、特に「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」が低くなっています。

図表－196 【在宅介護】 地域包括支援センターの高齢者に対する各業務で知っているもの（複数回答）



※「介護予防教室案内」は平成25年度の調査項目にありません。

4. 介護保険サービス以外の保健・福祉サービスについて

C 介護保険サービス以外の保健・福祉サービスについてお尋ねします

(1) 保健・福祉サービスの今後の利用意向 (Q32)

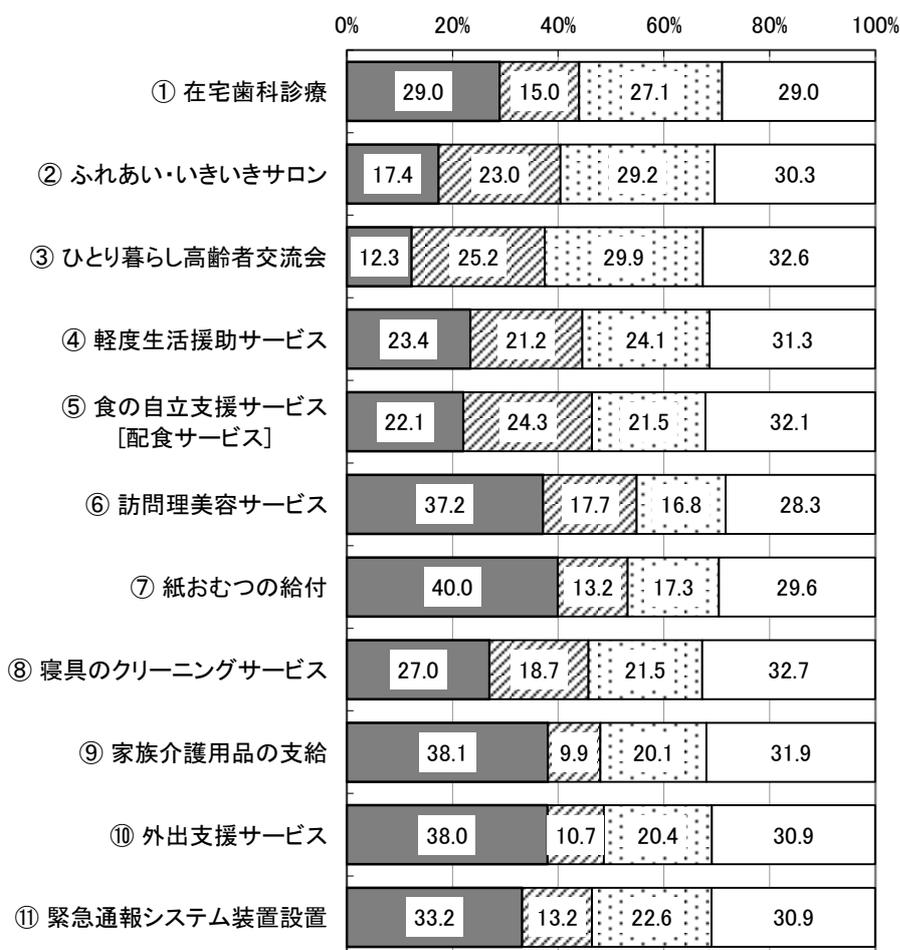
保健・福祉サービスの今後の利用意向について、「利用したい」ものは、「⑦紙おむつの給付」(40.0%)、「⑨家族介護用品の支給」(38.1%)、「⑩外出支援サービス」(38.0%)、「⑥訪問理美容サービス」(37.2%)、「⑪緊急通報システム装置設置」(33.2%)などが高くなっています。

一方、「利用したくない」は、「③ひとり暮らし高齢者交流会」(25.2%)、「⑤食の自立支援サービス[配食サービス]」(24.3%)、「②ふれあい・いきいきサロン」(23.0%)などが高くなっています。

また、「よくわからない」は「③ひとり暮らし高齢者交流会」(29.9%)、「②ふれあい・いきいきサロン」(29.2%)が高くなっています。

図表-197 保健・福祉サービスの今後の利用意向

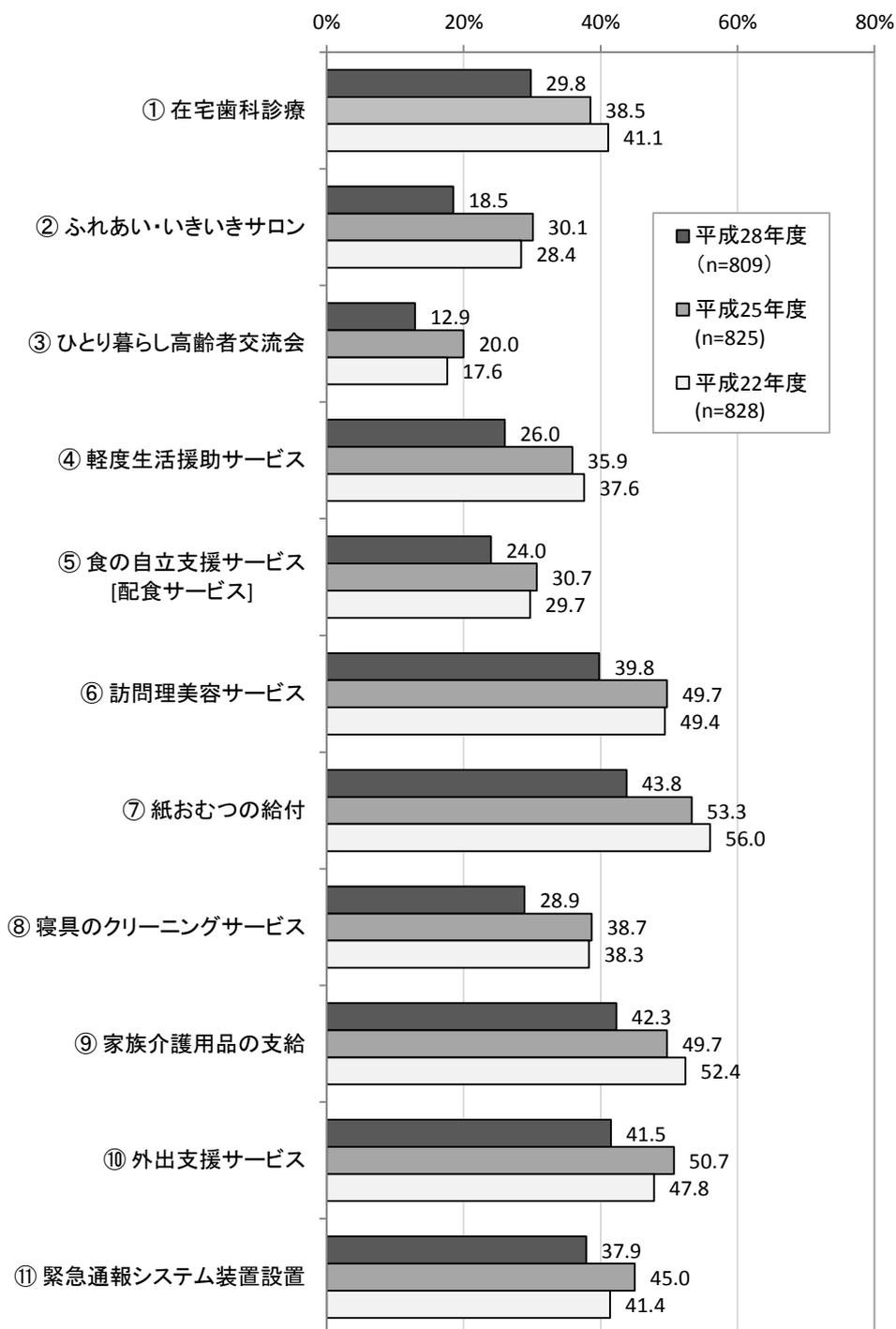
【平成 28 年度調査】 (n=1,170)



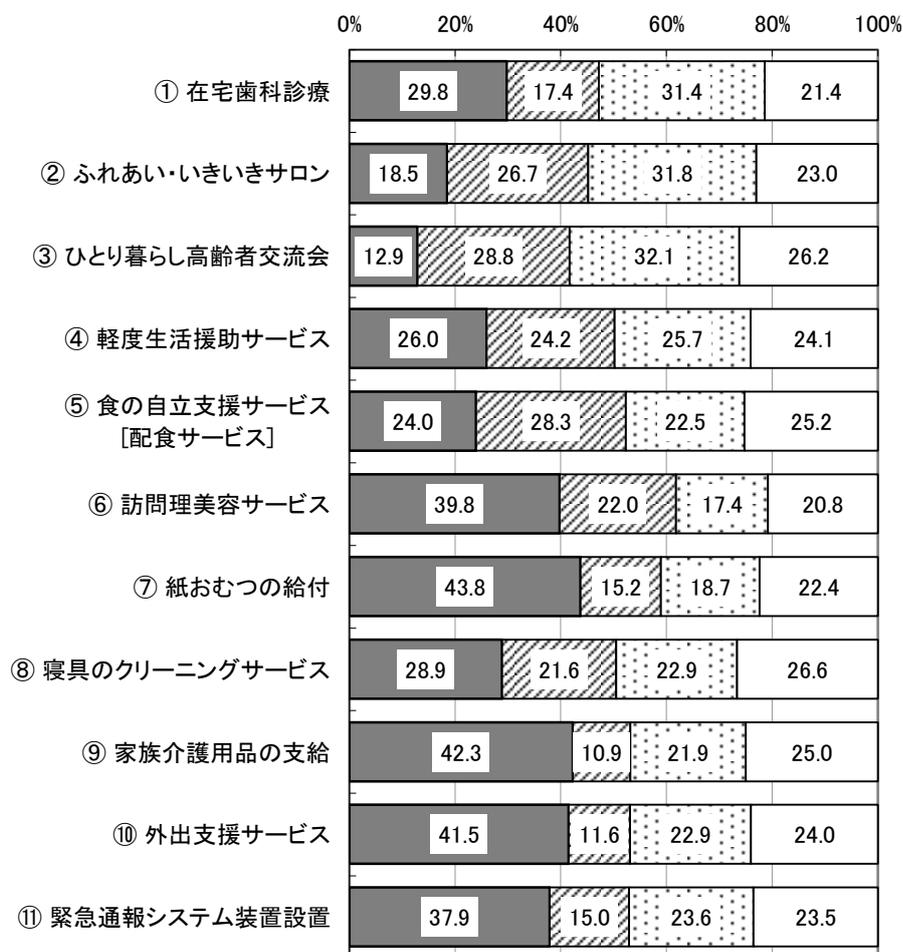
■利用したい □利用したくない □よくわからない □無回答

在宅介護について前回調査と比較すると、全ての項目で「利用したい」の割合が低くなり、「利用したくない」がやや高くなっています。

図表－198 【在宅介護】保健・福祉サービスの今後の利用意向「利用したい」のみ

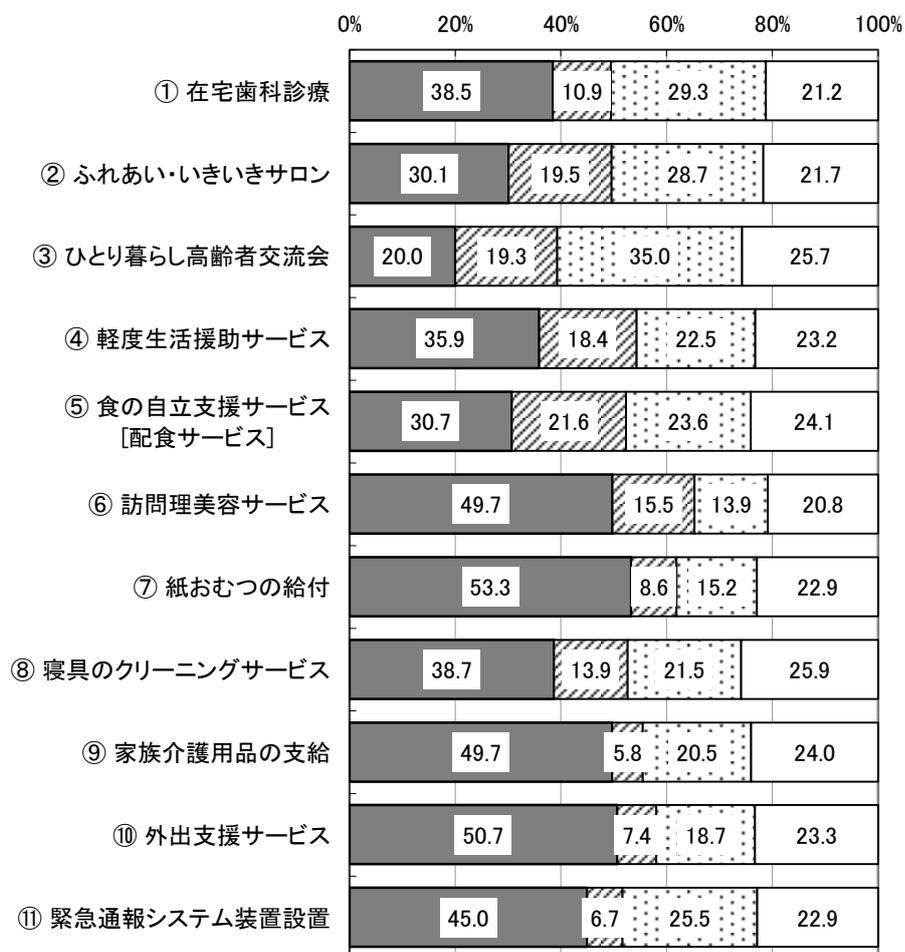


【平成 28 年度調査】（在宅介護:n=809）



■利用したい □利用したくない □よくわからない □無回答

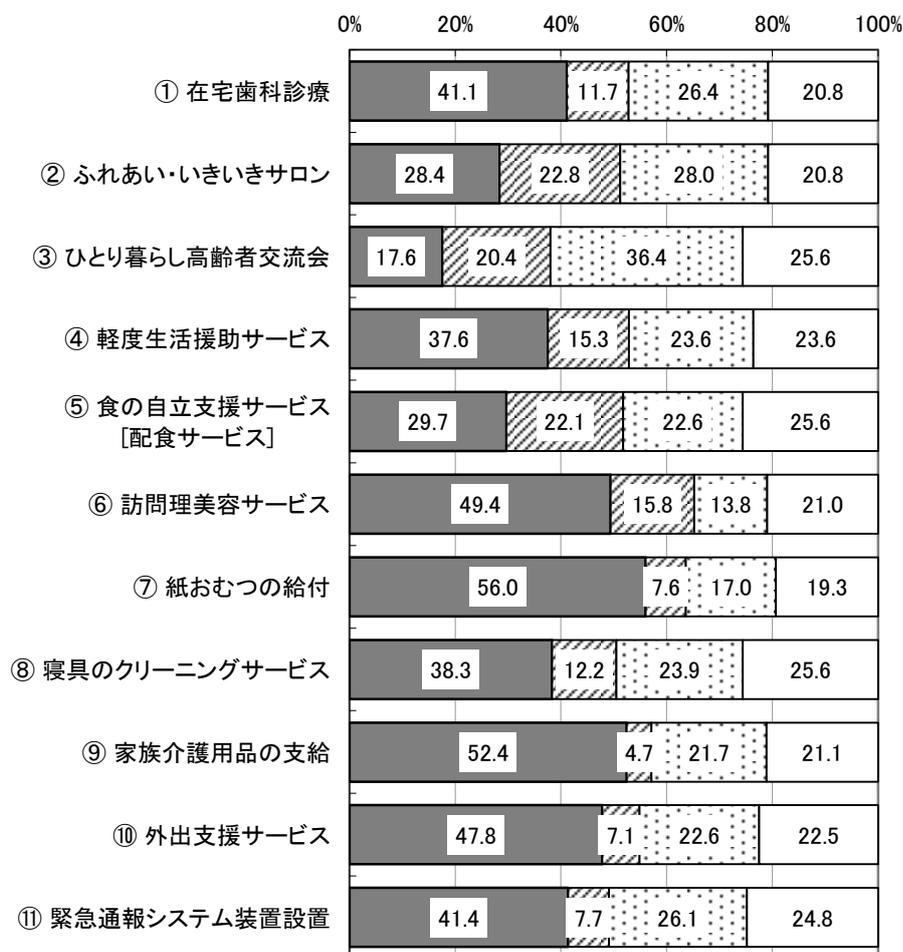
【平成 25 年度調査】 (n=825)



■利用したい □利用したくない □よくわからない □無回答

※平成 25 年度の結果では「家族介護者教室」はグラフから除きました。

【平成 22 年度調査】 (n=828)



■利用したい □利用したくない □よくわからない □無回答

※平成 22 年度の結果では「家族介護者教室」はグラフから除きました。

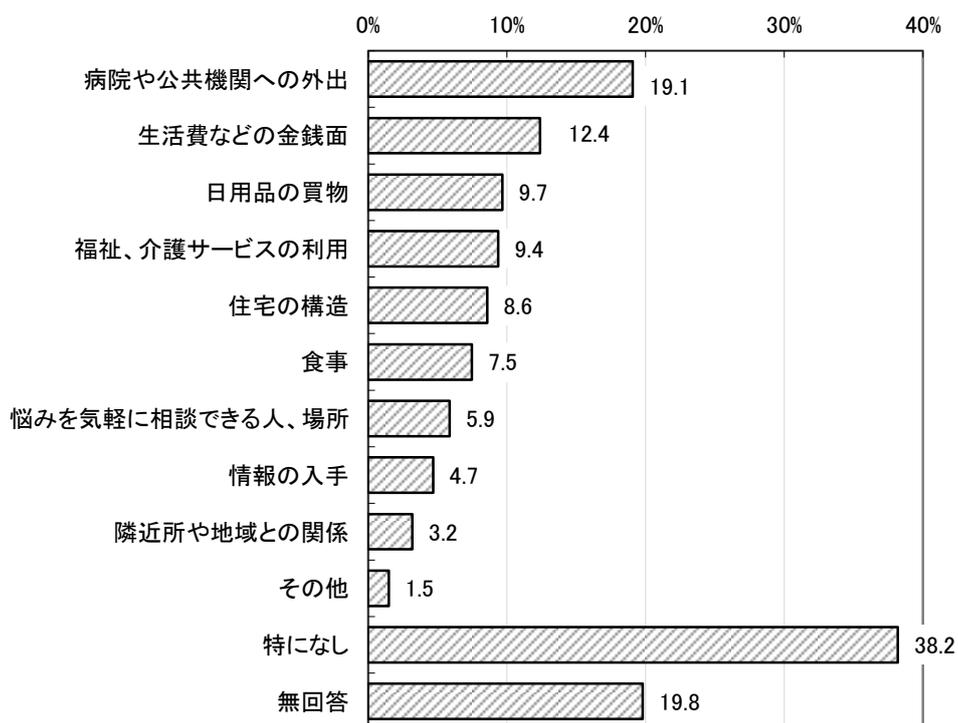
(2) 生活上で困っていること (Q33)

現在、生活するうえで困っていることについてきいたところ、「特になし（困っていることではない）」が38.2%となっています。

困っていることでは、「病院や公共機関への外出」(19.1%)が最も高く、次いで「生活費などの金銭面」(12.4%)、「日用品の買物」(9.7%)、「福祉、介護サービスの利用」(9.4%)、「住宅の構造」(8.6%)などとなっています。

在宅施設等別にみると、「病院や公共機関への外出」「日用品の買物」などほとんどの項目で「在宅介護」の方が高くなっています。

図表-199 生活上で困っていること(複数回答) (n=1,170)



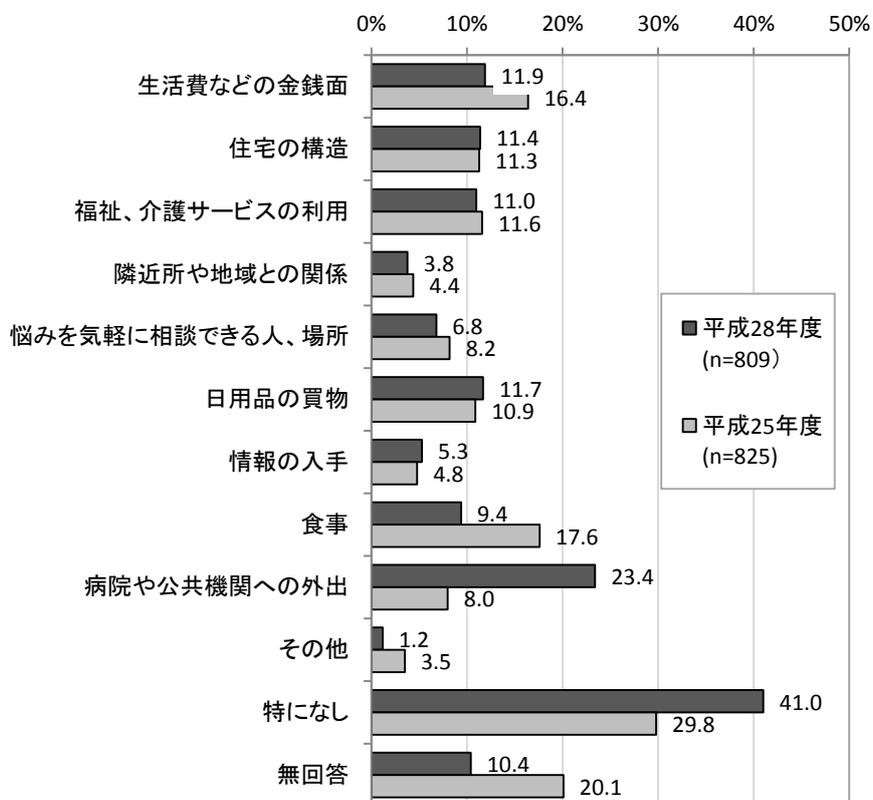
図表-200 在宅施設等別 生活上で困っていること(複数回答)

(単位: %)

	全体 (n=1,170)	生活費などの金銭面	住宅の構造	福祉、介護サービスの利用	隣近所や地域との関係	悩みを気軽に相談できる人、場所	日用品の買物	情報の入手	食事	病院や公共機関への外出	その他	なし	無回答
全体	1,170	12.4	8.6	9.4	3.2	5.9	9.7	4.7	7.5	19.1	1.5	38.2	19.8
在宅介護	809	11.9	11.4	11.0	3.8	6.8	11.7	5.3	9.4	23.4	1.2	41.0	10.4
施設等入所	347	13.3	2.6	5.2	1.7	3.5	4.0	3.2	2.9	8.6	1.7	32.6	42.1
無回答	14	21.4	-	21.4	7.1	14.3	28.6	7.1	14.3	28.6	7.1	14.3	14.3

在宅介護について前回調査と比較すると、「病院や公共機関への外出」と「特になし」が高くなっています。

図表－201 【在宅介護】生活上で困っていること(複数回答)



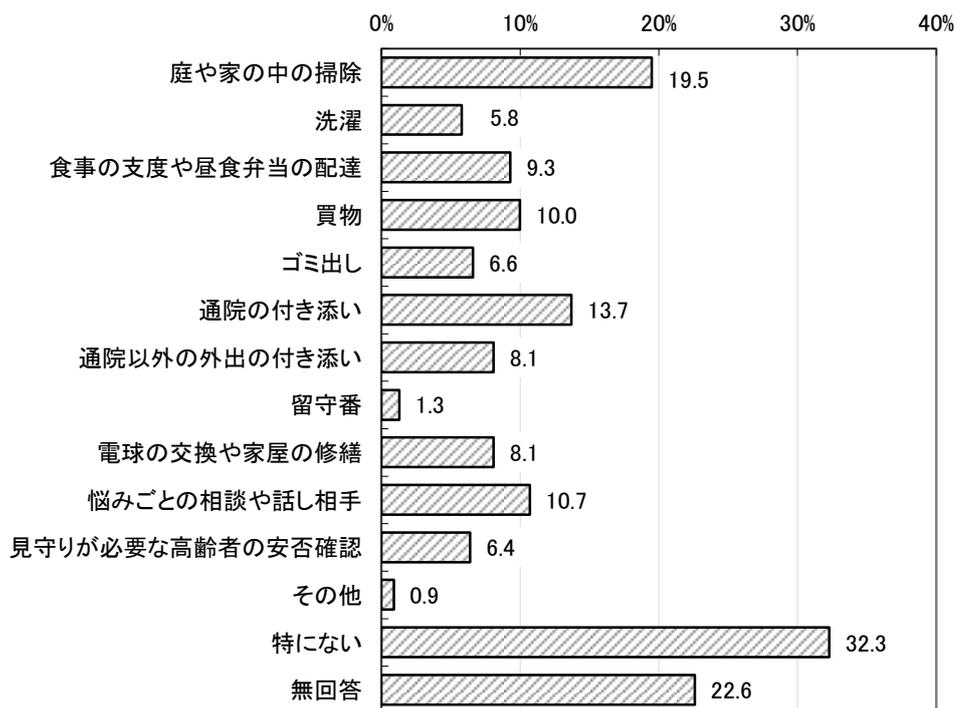
(3) ボランティアに手助けしてほしいこと (Q34)

ボランティアに手助けを求めたいこと(3つまで)をきいたところ、45.1%が何らかの項目をあげています。

「庭や家の中の掃除」(19.5%)が最も高く、次いで「通院の付き添い」(13.7%)、「悩みごとの相談やし相手」(10.7%)、「買物」(10.0%)などとなっています。

在宅施設別にみると、「在宅介護」では「庭や家の中の掃除」「特にない」がやや高くなっています。

図表-202 ボランティアに手助けしてほしいこと(3つまで) (n=1,170)



図表-203 在宅施設等別 ボランティアに手助けしてほしいこと(3つまで)

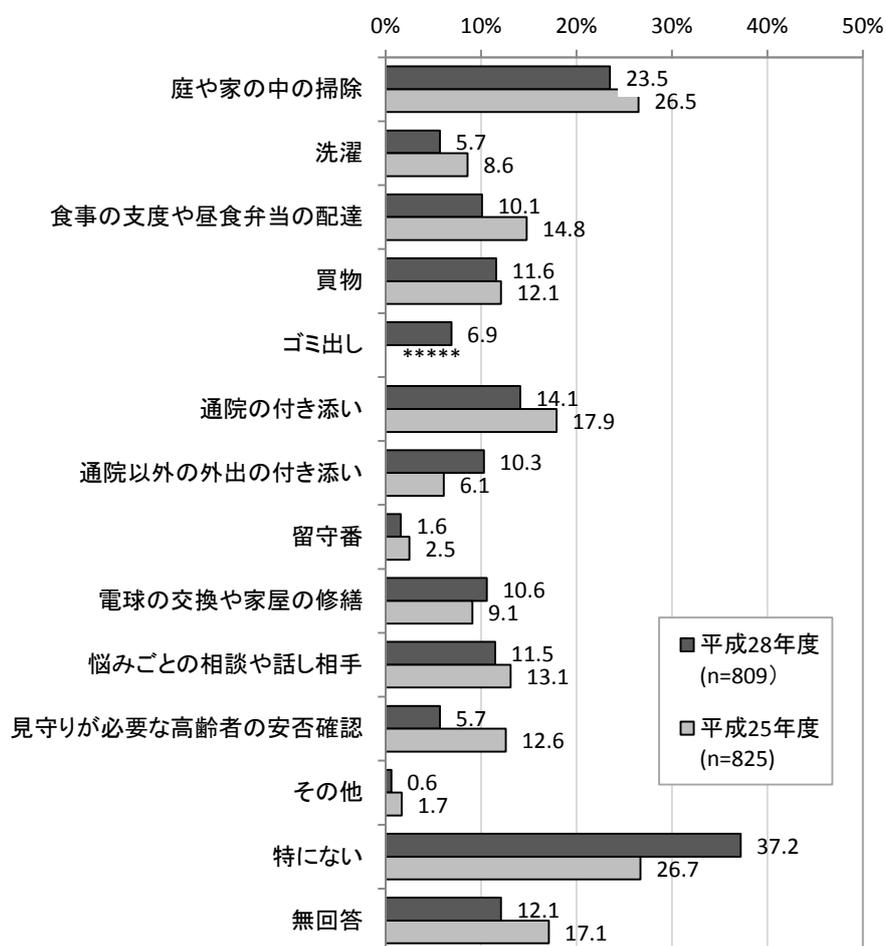
(単位: %)

	全体 (n=)	庭や家の中 の掃除	洗濯	食事の支度 や昼食弁当 の配達	買物	ゴミ出し	通院の付き 添い	通院以外 の外出の 付き添い
全体	1,170	19.5	5.8	9.3	10.0	6.6	13.7	8.1
在宅介護	809	23.5	5.7	10.1	11.6	6.9	14.1	10.3
施設等入所	347	9.8	5.5	6.6	6.1	5.2	12.4	3.5
無回答	14	28.6	21.4	28.6	14.3	21.4	21.4	-

	全体 (n=)	留守番	電球の交 換や家屋 の修繕	悩みごとの 相談やし相 手	見守りが必 要な高齢 者の安否 確認	その他	特にない	無回答
全体	1,170	1.3	8.1	10.7	6.4	0.9	32.3	22.6
在宅介護	809	1.6	10.6	11.5	5.7	0.6	37.2	12.1
施設等入所	347	0.6	2.3	9.2	8.4	1.7	21.9	47.3
無回答	14	-	7.1	-	-	-	7.1	14.3

在宅介護について、前回調査と比較すると、「特にない」が高くなっています。

図表-204 【在宅介護】 ボランティアに手助けしてほしいこと(3つまで)

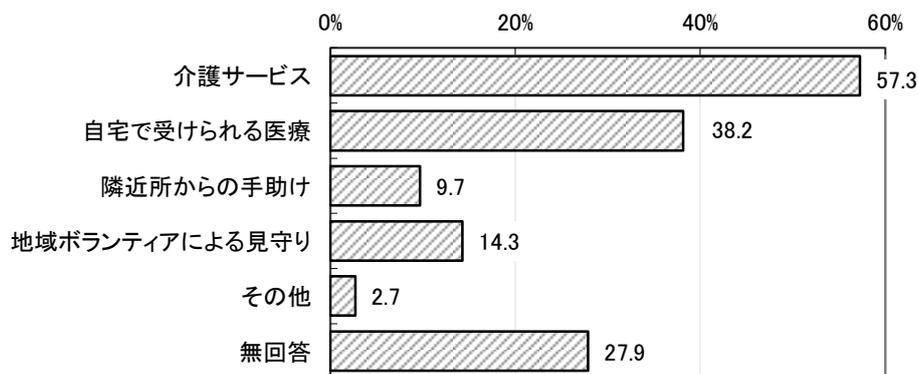


※「ゴミ出し」は平成 25 年度の調査項目にありません。

(4) 自宅で暮らし続けていくために、充実する必要があるもの (Q35)

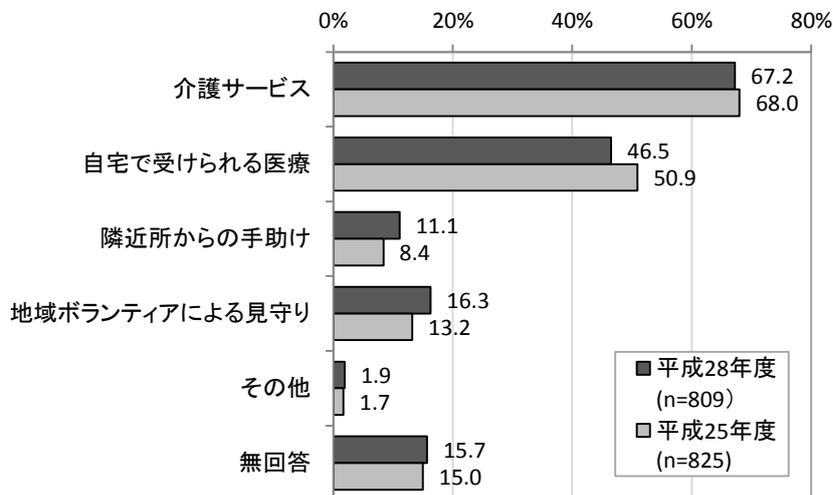
自宅で暮らし続けるために、より充実させていく必要があると思うものをきいたところ、「介護サービス」(57.3%)が最も高く、次いで「自宅で受けられる医療」(38.2%)となっています。

図表-205 自宅で暮らし続けていくために、充実する必要があるもの(複数回答) (n=1,170)



在宅介護について前回調査と比較すると、「自宅で受けられる医療」の割合がやや低くなっています。

図表-206 【在宅介護】 自宅で暮らし続けていくために、充実する必要があるもの(複数回答)

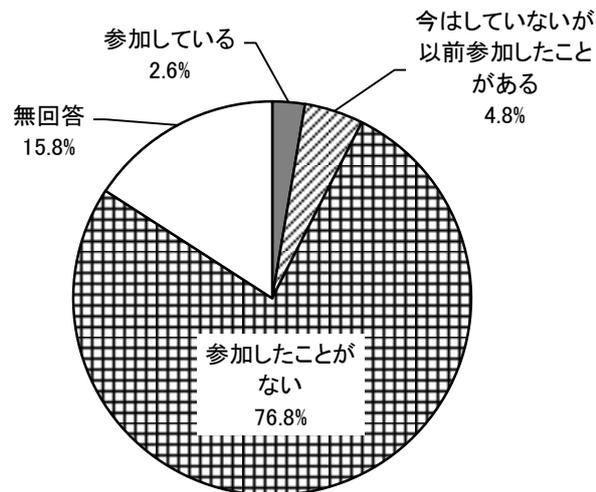


(5) 市内のサロンへの参加経験 (Q36)

市内のサロンに参加したことがあるか聞いたところ、「参加したことがない」が76.8%と8割近くを占めています。

「今はしていないが以前参加したことがある」は4.8%、「参加している」は2.6%となっています。

図表-207 市内のサロンへの参加経験 (n=1,170)

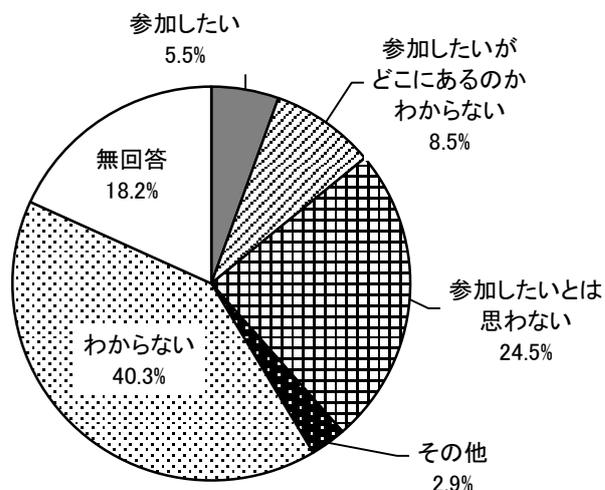


(6) 市内のサロンへの参加意向 (Q37)

市内のサロンへの参加意向は、「わからない」が40.3%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が24.5%となっています。

一方、参加意向がある人（「参加したい」(8.5%)と「参加したいがどこにあるのかわからない」(5.5%)の計)は14.0%です。

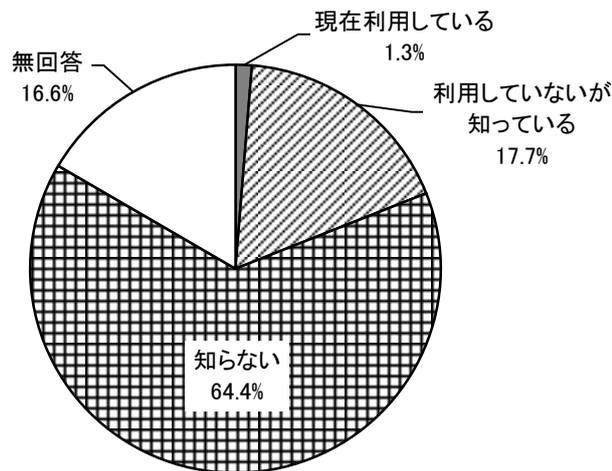
図表-208 市内のサロンへの参加意向 (n=1,170)



(7) 日常生活自立支援事業の利用・認知度 (Q38)

「日常生活自立支援事業」を知っているかきいたところ、「知らない」が 64.4%となっています。一方、知っている人（「利用していないが知っている」(17.7%) と「現在利用している」(1.3%) の計）は、19.0%です。

図表-209 日常生活自立支援事業の利用・認知度 (n=1,170)

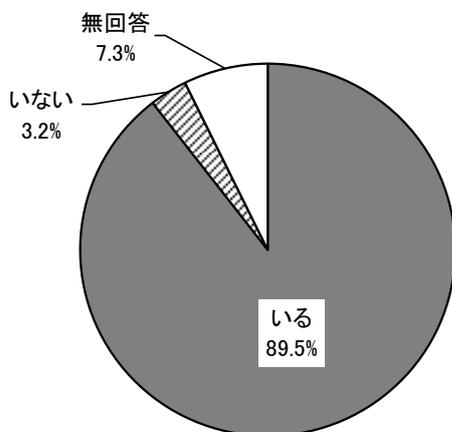


(8) かかりつけ医の有無と、かかりつけ医がない理由 (Q39、Q39-1)

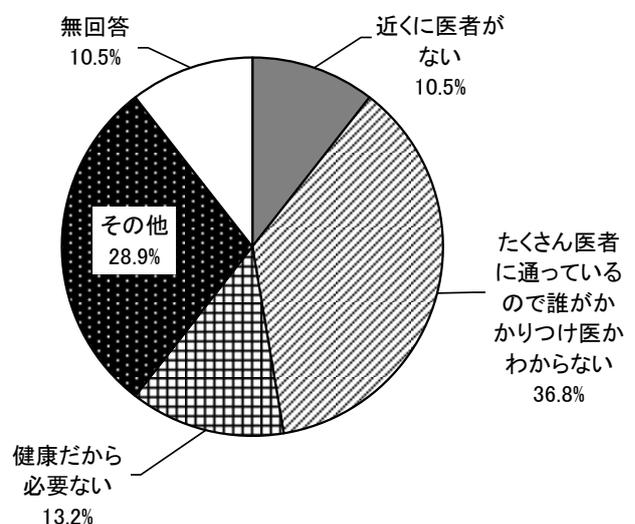
かかりつけ医の有無について、大半の人が「いる」(89.5%)としています。

かかりつけ医が「いない」人にその理由をきいたところ、「たくさん医者に通っているので誰がかかりつけ医かわからない」が 36.8%と最も高くなっています。「その他」は、介護施設に入所中、入院中、市民病院にかかっているためなどとなっています。

図表-210 <かかりつけ医の有無> (n=1,170)



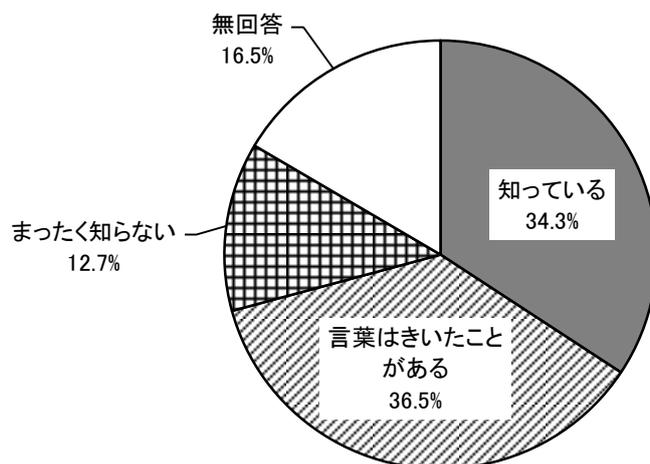
<かかりつけ医がない理由> (n=38)



(9) 在宅医療の認知度 (Q40)

「在宅医療」を知っているかきいたところ、「言葉はきいたことがある」が36.5%、「知っている」が34.3%となっています。一方、「まったく知らない」は12.7%となっています。

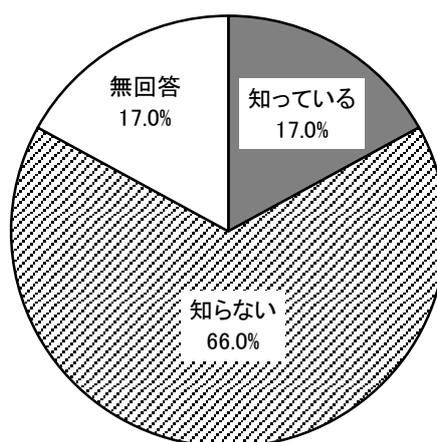
図表-211 在宅医療の認知度 (n=1,170)



(10) 在宅療養支援診療所の認知度 (Q41)

「在宅医療支援診療所」を知っているかきいたところ、「知らない」が66.0%、「知っている」が17.0%となっています。

図表-212 在宅医療支援診療所の認知度 (n=1,170)

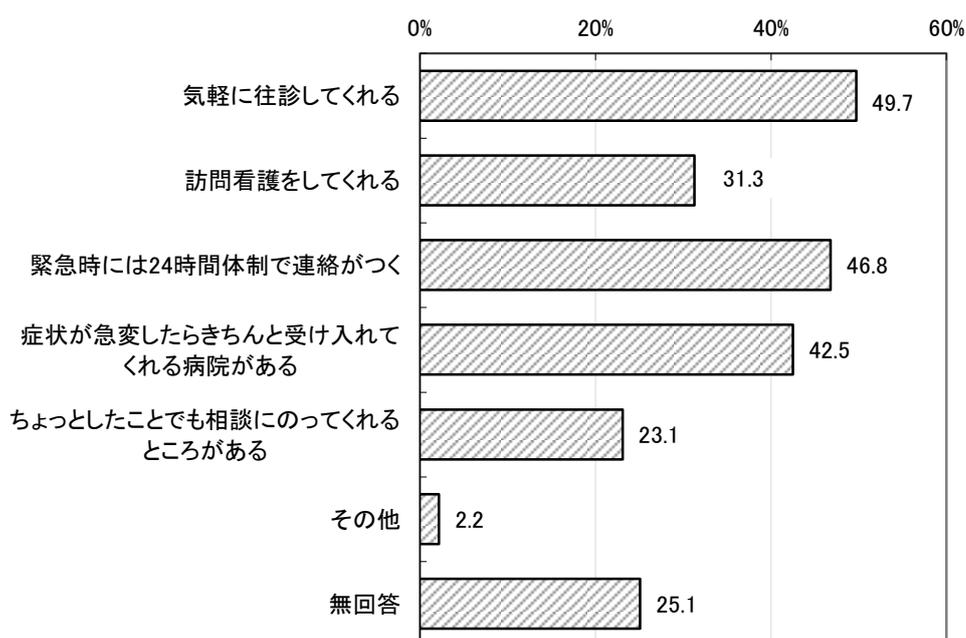


(11) 在宅医療利用にあたって整ってほしい環境 (Q42)

どのような環境を整えば在宅医療を利用したいと思うか聞いたところ、「気軽に往診してくれる」(49.7%)、「緊急時には24時間体制で連絡がつく」(46.8%)、「症状が急変したらきちんと受け入れてくれる病院がある」(42.5%)が高くなっています。

要介護度別にみると、「要支援1、2と要介護1」が、「気軽に往診してくれる」「緊急時には24時間体制で連絡がつく」「症状が急変したらきちんと受け入れてくれる病院がある」など、ほとんどの項目において高くなっています。

図表-213 在宅医療利用にあたって整ってほしい環境(複数回答) (n=1,170)



図表-214 要介護度別 在宅医療利用にあたって整ってほしい環境(複数回答)

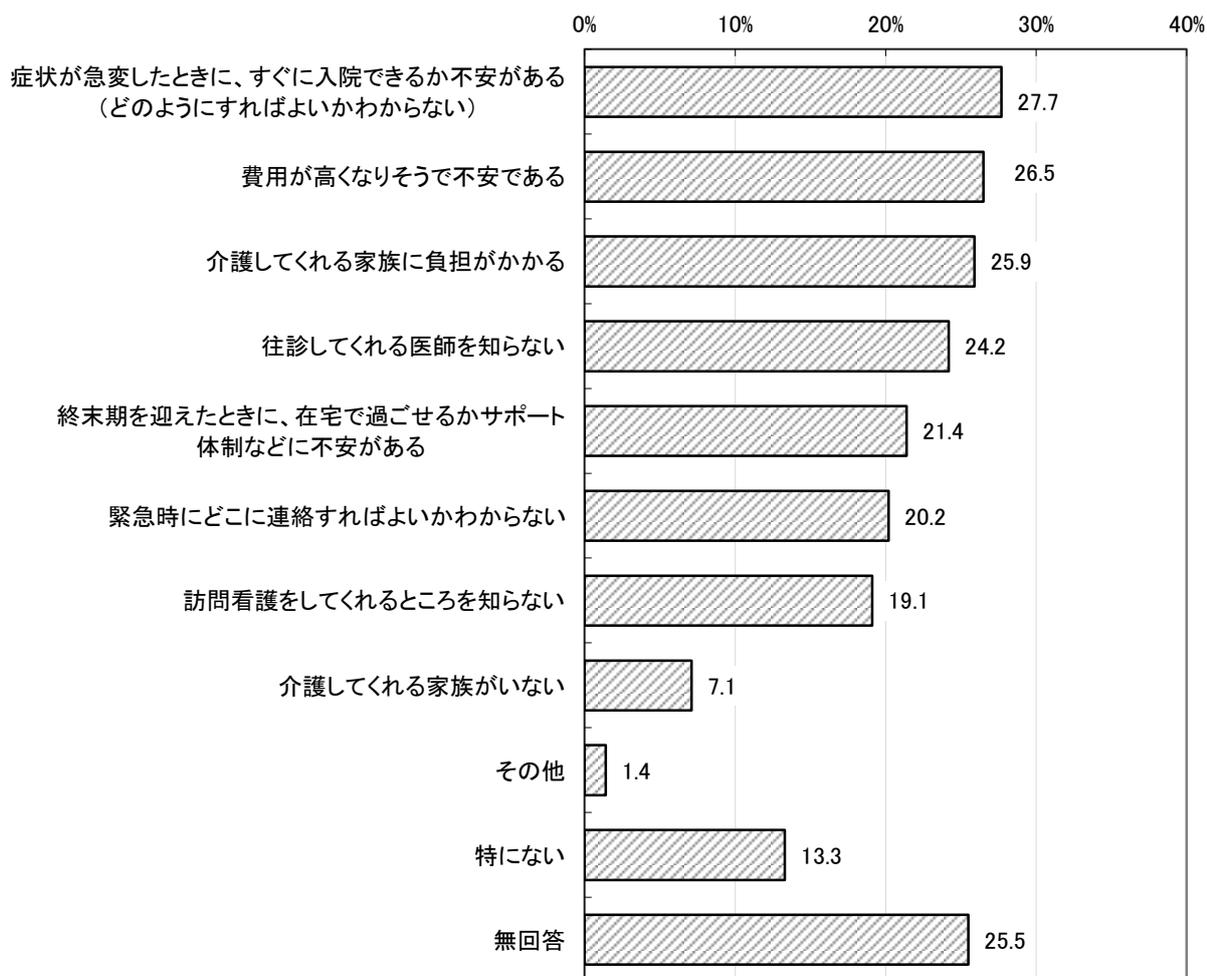
(単位:%)

	全体 (n=)	気軽に 往診して くれる	訪問看 護をして くれる	緊急時に は24時間 体制で連 絡がつく	症状が急 変したらき ちんと受け 入れてくれ る病院が ある	ちよつとし たことでも 相談にの つてくれ るところが ある	その他	無回答
全体	1,170	49.7	31.3	46.8	42.5	23.1	2.2	25.1
要支援1、2と要介護1	590	58.5	35.4	51.5	48.1	28.6	1.2	14.6
要介護2、3	271	48.0	31.7	46.5	45.4	22.1	2.6	26.6
要介護4、5	253	32.4	22.9	39.1	28.9	13.8	4.0	47.8
無回答	56	44.6	23.2	33.9	30.4	10.7	3.6	26.8

(12) 在宅医療を利用する場合の不安要素 (Q43)

自分や家族が在宅医療を利用する場合の不安についてきいたところ、「症状が急変したときに、すぐに入院できるか不安がある (どのようにすればよいかわからない)」(27.7%)、「費用が高くなりそうで不安である」(26.5%)、「介護してくれる家族に負担がかかる」(25.9%)、などが高くなっています。

図表-215 在宅医療を利用する場合の不安要素(複数回答) (n=1,170)



要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」が、ほとんどの項目で高くなっていますが、特に「費用が高くなりそうで不安である」「介護してくれる家族に負担がかかる」「症状が急変したときに、すぐに入院できるか不安がある（どのようにすればよいかわからない）」「症状が急変したときに、すぐに入院できるか不安がある（どのようにすればよいかわからない）」「往診してくれる医師を知らない」は、いずれも約3割となっています。

図表－216 要介護度別 在宅医療を利用する場合の不安要素(複数回答)

(単位:%)

	全体 (n=)	往診してく れる医師を 知らない	訪問看護を してくれると ころを知ら ない	介護してく れる家族 がいない	介護してく れる家族に 負担がか かる	費用が高く なりそうで 不安である	緊急時にど こに連絡す ればよいか わからない
全体	1,170	24.2	19.1	7.1	25.9	26.5	20.2
要支援 1、2 と要介護 1	590	29.8	25.6	8.6	30.8	31.5	24.7
要介護 2、3	271	22.5	17.0	7.7	25.8	27.3	20.3
要介護 4、5	253	13.8	9.1	3.2	17.4	16.2	10.3
無回答	56	19.6	7.1	5.4	12.5	16.1	16.1

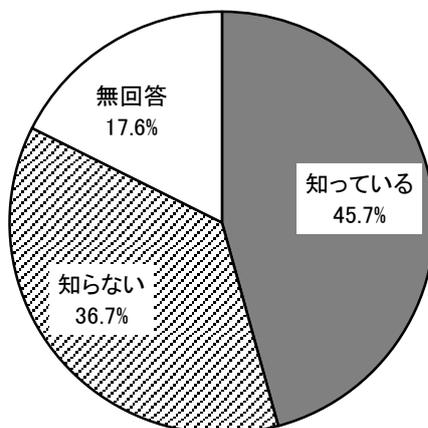
	全体 (n=)	症状が急変 したときに、 すぐに入院 できるか不 安がある(ど のようにす ればよいか わからない)	終末期を迎 えたときに、 在宅で過ご せるかサポ ート体制な どに不安が ある	その他	特にない	無回答
全体	1,170	27.7	21.4	1.4	13.3	25.5
要支援 1、2 と要介護 1	590	30.8	23.7	0.8	11.2	17.1
要介護 2、3	271	30.6	22.9	2.2	12.9	25.5
要介護 4、5	253	19.4	15.0	1.6	17.4	41.9
無回答	56	17.9	17.9	1.8	19.6	39.3

(13) 災害時の緊急避難場所の認知度 (Q44)

災害時の緊急避難場所を知っているか聞いたところ、「知っている」が45.7%、一方、「知らない」が36.7%となっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「知っている」が5割強となっています。

図表-217 災害時の緊急避難場所の認知度 (n=1,170)



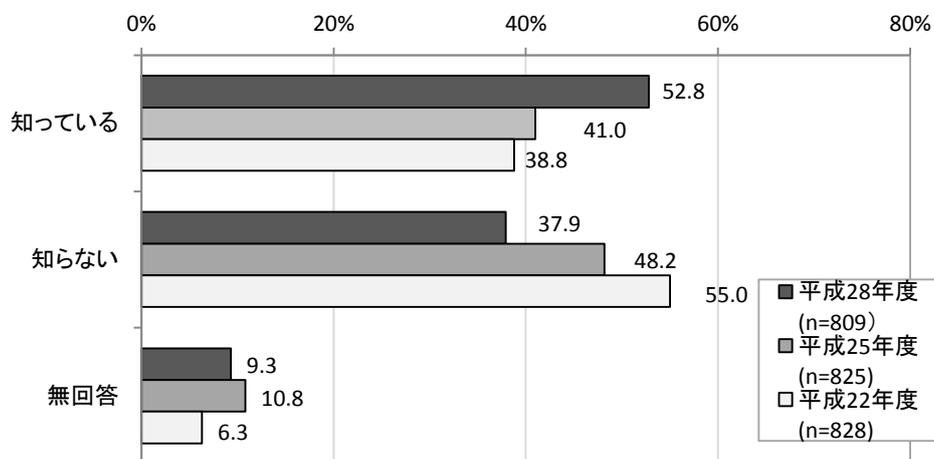
図表-218 在宅施設等別 災害時の緊急避難場所の認知度

(単位:%)

	全体 (n=)	知っている	知らない	無回答
全体	1,170	45.7	36.7	17.6
在宅介護	809	52.8	37.9	9.3
施設等入所	347	28.8	34.3	36.9
無回答	14	57.1	21.4	21.4

在宅介護について、前回、前々回調査と比較すると、「知っている」が継続して高くなっています。

図表-219 【在宅介護】 災害時の緊急避難場所の認知度



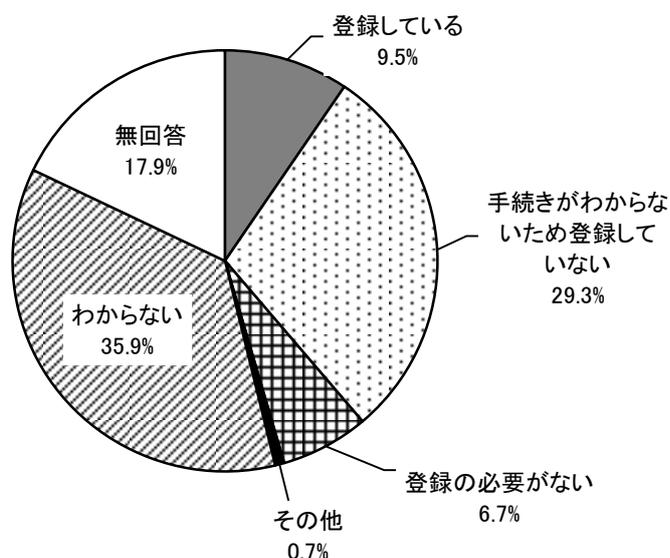
(14) 災害時の避難行動要支援者台帳への登録状況 (Q45)

災害時の避難行動要支援者台帳への登録をしているか聞いたところ、「わからない」(35.9%)が最も高くなっています。次いで「手続きがわからないため登録していない」(29.3%)となっています。

要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」では「手続きがわからないため登録していない」が、「要介護 2、3」では「登録している」が、他より高くなっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「手続きがわからないため登録していない」が約37%となっています。

図表-220 災害時の避難行動要支援者台帳への登録状況 (n=1,170)



図表-221 要介護度別 災害時の避難行動要支援者台帳への登録状況

(単位: %)

		全体 (n=)	登録して いる	手続きがわ からないた め登録して いない	登録の必 要がない	その他	わからない	無回答
全体		1,170	9.5	29.3	6.7	0.7	35.9	17.9
要 介 護 度 別	要支援 1、2 と要介護 1	590	8.0	36.8	4.9	0.8	39.0	10.5
	要介護 2、3	271	14.8	28.8	8.5	0.4	30.3	17.3
	要介護 4、5	253	8.3	14.2	7.5	0.8	36.0	33.2
	無回答	56	5.4	21.4	12.5	-	30.4	30.4
在 宅 施 設 等 別	居宅介護	809	11.6	36.5	5.8	0.6	35.4	10.1
	施設等入所	347	4.3	12.7	8.9	0.9	37.5	35.7
	無回答	14	14.3	28.6	-	-	28.6	28.6

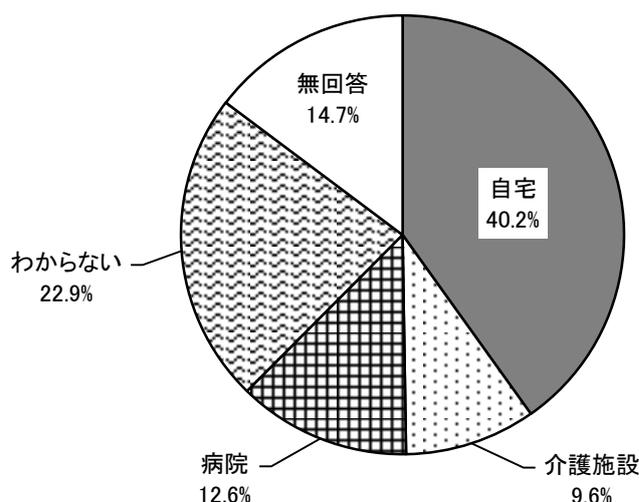
(15) 最期を迎えたい場所 (Q46)

最期をどこで迎えたいと思うかきいたところ、「自宅」が40.2%となっています。次いで「わからない」(22.9%)、「病院」(12.6%)、「介護施設」(9.6%)となっています。

要介護度別にみると、要介護度が低い方で「自宅」が、要介護度が高い方で「介護施設」の割合が高くなっています。

在宅施設等別にみると、「在宅介護」では「自宅」が、「施設等入所」では「介護施設」が高くなっています。

図表-222 最期を迎えたい場所 (n=1,170)



図表-223 要介護度別・在宅施設等別 最期を迎えたい場所

(単位:%)

		全体 (n=)	自宅	介護施設	病院	わからない	無回答
全体		1,170	40.2	9.6	12.6	22.9	14.7
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	590	49.3	3.2	16.1	23.6	7.8
	要介護 2、3	271	36.2	13.3	11.4	23.6	15.5
	要介護 4、5	253	23.7	20.9	6.3	20.2	28.9
	無回答	56	37.5	7.1	10.7	25.0	19.6
在宅施設等別	在宅介護	809	51.4	3.2	14.3	23.9	7.2
	施設等入所	347	13.3	24.8	8.1	21.3	32.6
	無回答	14	57.1	-	28.6	7.1	7.1

5. ケアマネジャー(居宅サービス計画をつくる人)について

D ケアマネジャー(居宅サービス計画を作る人)についてお尋ねします

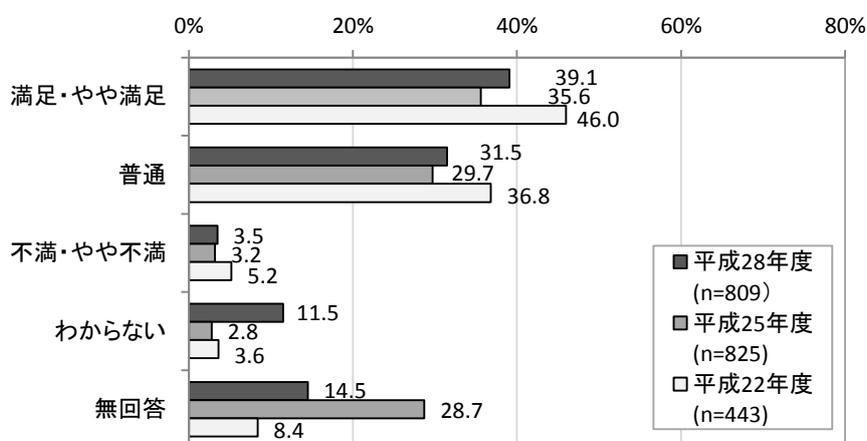
(*在宅介護のみ n=809)

(1) ケアマネジャー・居宅サービス計画に関する満足度 (Q47)

ケアマネジャーおよび居宅サービス計画に関する満足度は、「満足・やや満足」(39.1%)が最も高く、次いで「普通」(31.5%)となっています。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれ、「満足・やや満足」が高くなっています。前回、前々回調査と比較すると、「満足・やや満足」が前回と概ね同割合となっています。

図表-224 【在宅介護】ケアマネジャー・居宅サービス計画に関する満足度



図表-225 要介護度別 ケアマネジャー・居宅サービス計画に関する満足度

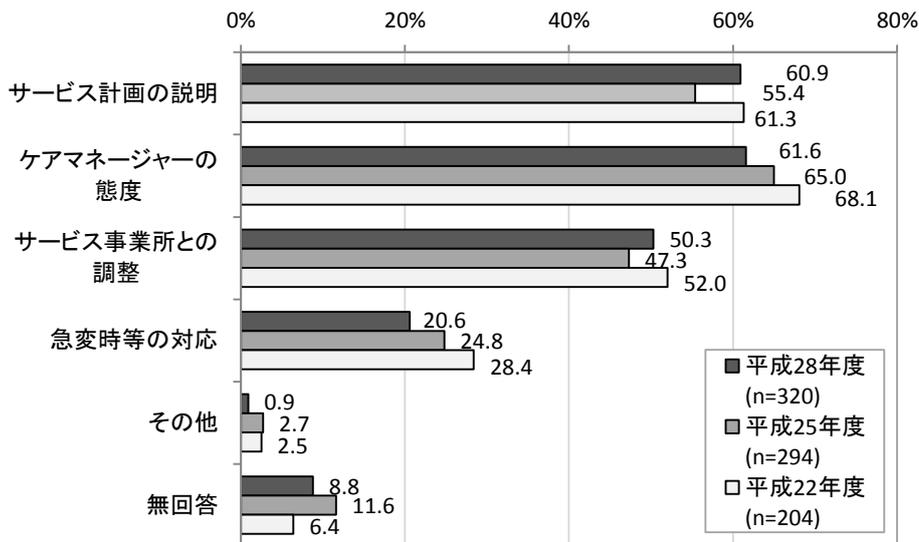
(単位: %)

	全体 (n=)	満足・やや満足	普通	不満・やや不満	わからない	無回答
全体	809	39.1	31.5	3.5	11.5	14.5
要支援 1、2 と要介護 1	532	35.5	33.6	2.8	13.9	14.1
要介護 2、3	159	50.3	28.3	5.0	6.3	10.1
要介護 4、5	73	52.1	28.8	4.1	4.1	11.0
無回答	45	20.0	22.2	4.4	13.3	40.0

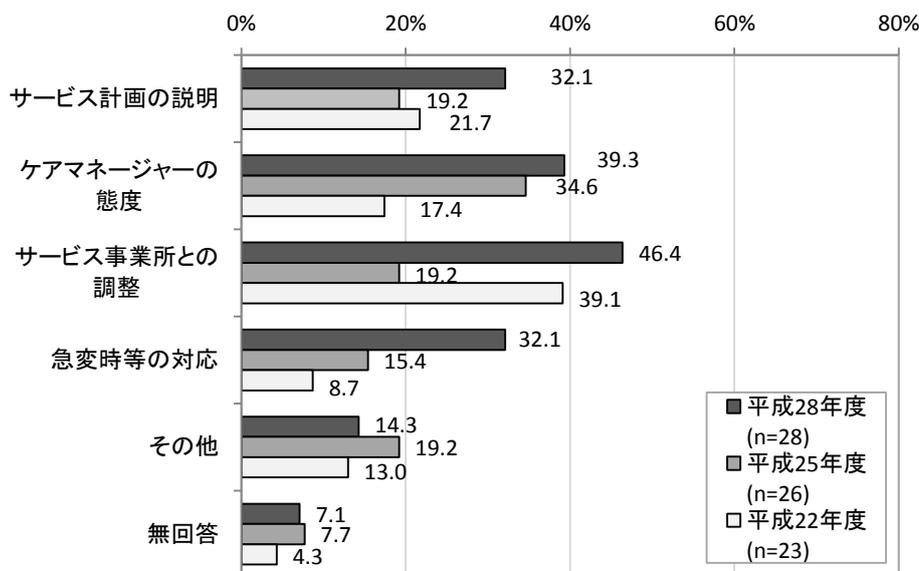
(2) ケアマネジャー・居宅サービス計画に「満足・やや満足」と思う理由 (Q47-1)

ケアマネジャーおよび居宅サービス計画に「満足・やや満足」と思う理由をきいたところ、「ケアマネジャーの態度」(61.6%)、「サービス計画の説明」(60.9%)が高くなっています。前回、前々回調査と比較すると、「ケアマネジャーの態度」と「急変時等の対応」が継続して低くなっています。

図表-226 【在宅介護】ケアマネジャー・在宅サービス計画に「満足・やや満足」と思う理由(複数回答) (n=320)



図表-227 【在宅介護】ケアマネジャー・在宅サービス計画に「不満・やや不満」と思う理由(複数回答) (n=28)



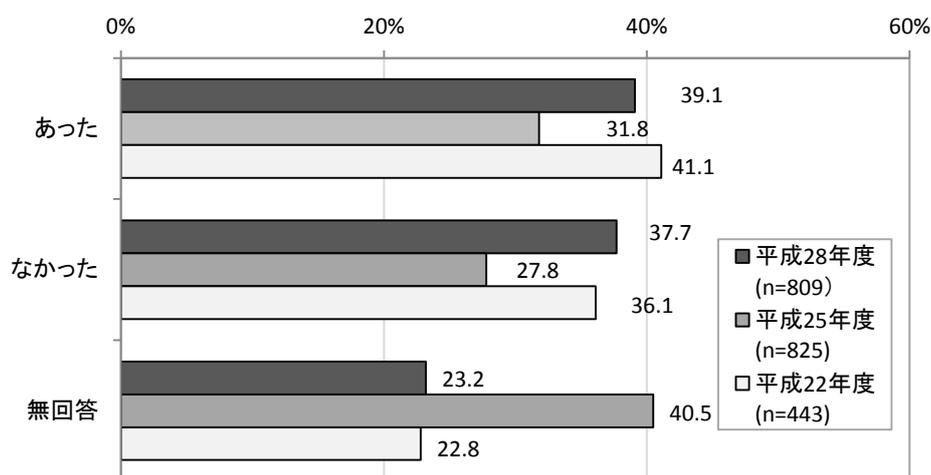
※サンプル数が少ないため、参考値

(3) ケアマネジャーによる、介護サービス以外の福祉サービスの提案有無 (Q48)

ケアマネジャーから、介護サービス以外の福祉サービスの提案があったかきいたところ、「あった」が39.1%、「なかった」が37.7%で、「あった」がやや高くなっています。

前回、前々回調査と比較すると、今回は「無回答」が多かったこともあり、「あった」「なかった」ともに、今回が高くなっています。前々回とは大きな差異は見られません。

図表-228 【在宅介護】ケアマネジャーによる、介護サービス以外の福祉サービスの提案有無

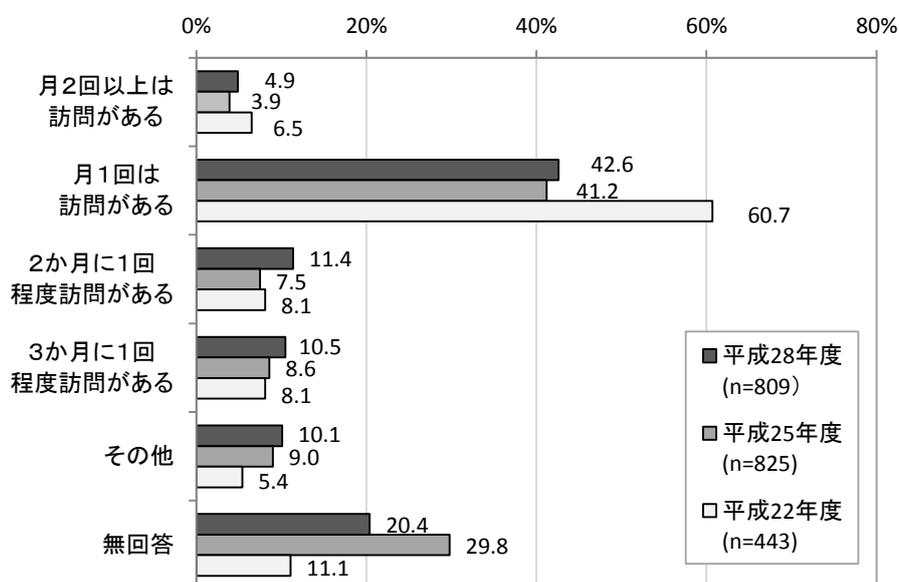


(4) ケアマネジャーの訪問頻度 (Q49)

ケアマネジャーが認定者本人の家を訪問する頻度は、「月に1回は訪問がある」が42.6%と最も高くなっています。「2か月に1回程度」が11.4%、「3か月に1回程度」が10.5%となっています。

前回、前々回調査と比較すると、「月1回は訪問がある」は前々回より低くなっているものの、前回とは大きな差異は見られません。

図表-229 【在宅介護】ケアマネジャーの訪問頻度



6. 主な家族介護者について

E 主に宛名の方を介護している家族の方にお尋ねします

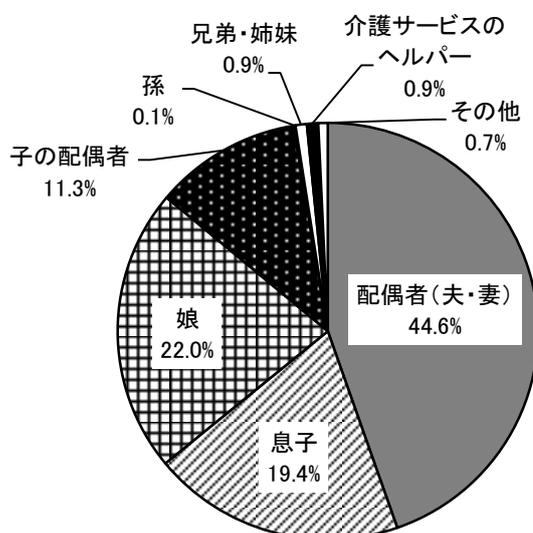
(*Q5の「介護保険施設に入所」、Q50「主な家族介護者と本人の続柄」の無記入者を除く n=690)

(1) 主な家族介護者と本人との続柄 (Q50)

主な家族介護者と本人との続柄は、「配偶者(夫・妻)」が44.6%と最も高く、次いで「娘」(22.0%)、「息子」(19.4%)、「子の配偶者」(11.3%)となっています。

主な介護者が「配偶者(夫・妻)」の内訳は、男性(夫)が37.3%、女性(妻)が61.7%となっています。「子の配偶者」は、全て女性(嫁)となっています。

図表-230 主な家族介護者と本人との続柄 (n=690)



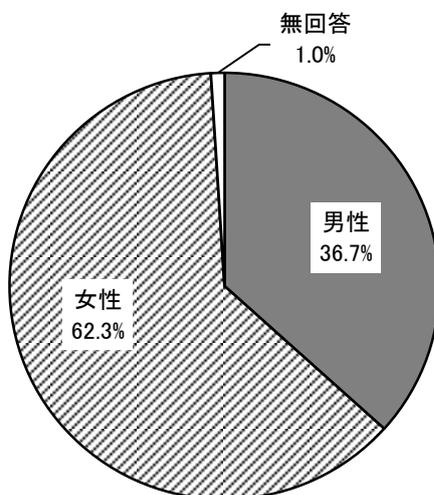
(単位: %)

	全体 (n=)	男性	女性	無回答
全体	690	36.7	62.3	1.0
配偶者(夫・妻)	308	37.3	61.7	1.0
息子	134	100.0	-	-
娘	152	-	100.0	-
子の配偶者	78	-	100.0	-
孫	1	-	100.0	-
兄弟・姉妹	6	33.3	50.0	16.7
介護サービスのヘルパー	6	16.7	33.3	50.0
その他	5	20.0	80.0	-

(2) 主な家族介護者の性別 (Q51)

主な家族介護者の性別は、「女性」が 62.3%、「男性」が 36.7%となっています。

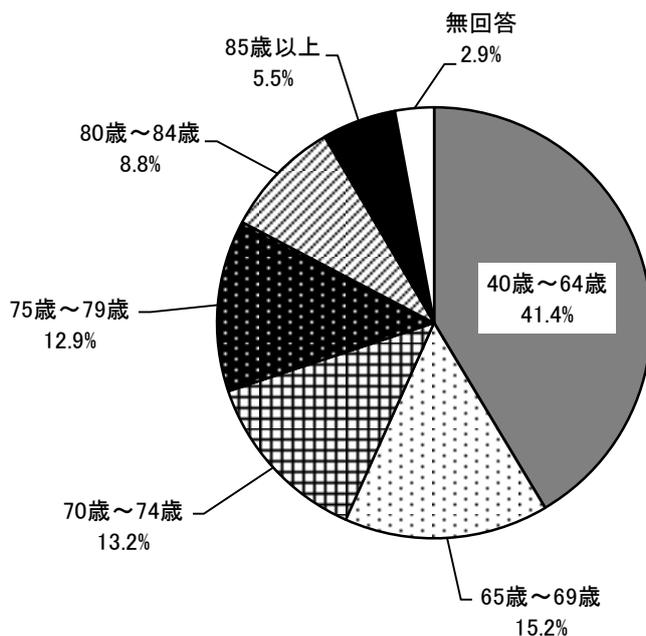
図表-231 主な家族介護者の性別 (n=690)



(3) 主な家族介護者の年齢 (Q52)

主な家族介護者の年齢は、「40歳～64歳」が 41.4%と最も高くなっています。次いで、「65歳～69歳」(15.2%)、「70歳～74歳」(13.2%)となっています。また、「75歳以上」は、27.2%となっています。

図表-232 主な家族介護者の年齢 (n=690)

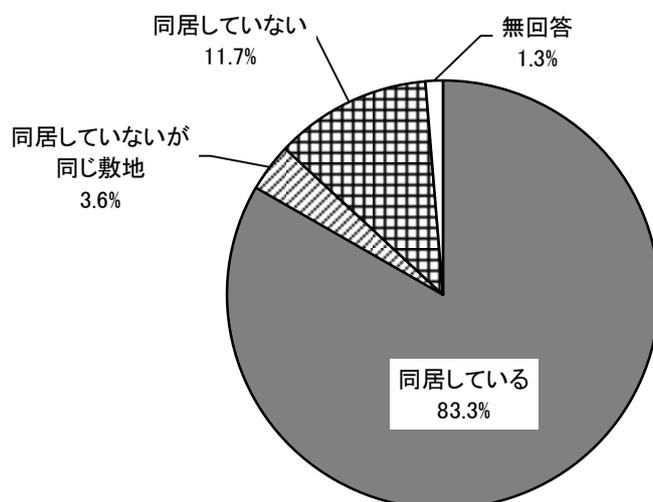


(4) 主な家族介護者と本人の同居状況 (Q53)

主な家族介護者と本人との同居状況は、「同居している」が83.3%となっています。一方、「同居していない」は11.7%です。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれ、「同居している」割合が高くなっています。

図表-233 主な家族介護者と本人の同居状況 (n=690)



図表-234 要介護度別 主な家族介護者と本人の同居状況

(単位:%)

	全体 (n=)	同居している	同居していない が同じ敷地	同居していない	無回答
全体	690	83.3	3.6	11.7	1.3
要支援 1、2と要介護 1	441	79.8	3.9	14.7	1.6
要介護 2、3	152	87.5	3.9	7.2	1.3
要介護 4、5	68	97.1	-	2.9	-
無回答	29	82.8	6.9	10.3	-

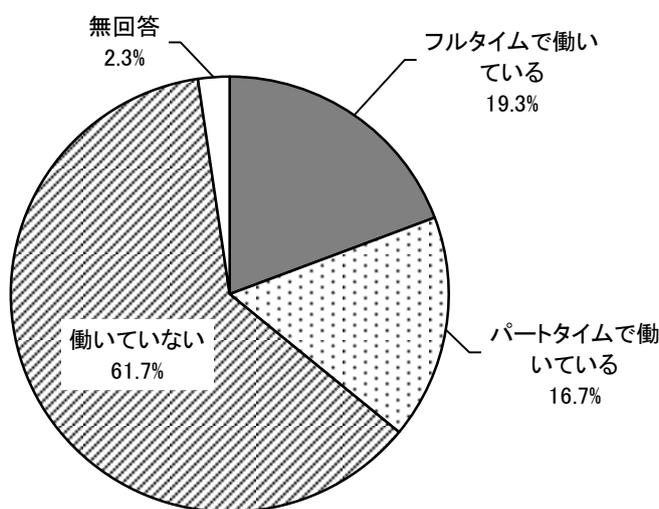
(5) 主な家族介護者の仕事の有無 (Q54)

主な家族介護者が、現在仕事をしているか聞いたところ、「働いていない」が 61.7%となっています。一方、「フルタイムで働いている」が 19.3%、「パートタイムで働いている」が 16.7%となっています。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれ、「フルタイムで働いている」割合が低く、「働いていない」割合が高くなっています。

また、続柄別にみると、何らかの仕事をしているのは、「配偶者（夫・妻）」が 15.3%であるのに対し、「息子」は 63.4%、「娘」は 50.7%、「子の配偶者」は 41.0%と、仕事をしている割合が高くなっています。

図表-235 主な家族介護者の仕事の有無 (n=690)



図表-236 要介護度別・続柄別 主な家族介護者の仕事の有無 (n=690)

(単位: %)

		全体 (n=)	フルタイムで 働いている	パートタイム で働いている	働いていない	無回答
全体		690	19.3	16.7	61.7	2.3
要 介 護 度 別	要支援 1、2と要介護 1	441	22.0	16.8	58.5	2.7
	要介護 2、3	152	12.5	18.4	67.8	1.3
	要介護 4、5	68	13.2	16.2	69.1	1.5
	無回答	29	27.6	6.9	62.1	3.4
続 柄 別	配偶者(夫・妻)	308	6.5	8.8	82.5	2.3
	息子	134	48.5	14.9	35.8	0.7
	娘	152	20.4	30.3	46.7	2.6
	子の配偶者	78	17.9	23.1	57.7	1.3
	その他	18	16.7	22.2	44.4	16.7

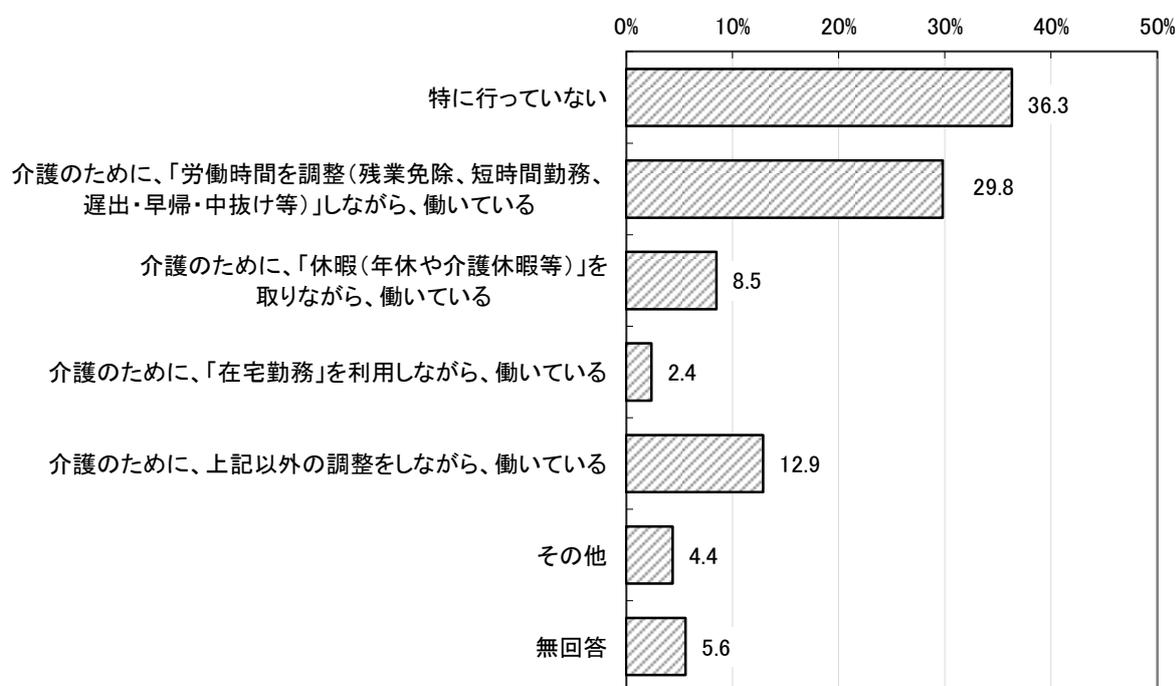
(6) 介護のための、働き方の調整状況 (Q54-1)

仕事をしている主な家族介護者に、介護をするにあたって、働き方の調整をしているかきいたところ、何らかの調整を行っている人は、58.0%となっています。調整の内容としては、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が29.8%となっています。

要介護度別にみると、「要支援 1、2 と要介護 1」では約4割が働き方の調整を「特に行っていない」としてはいますが、「要介護 2、3」以上では「特に行っていない」は約2割程度と低くなり、8割近くの人何らかの調整をしています。「要介護 4、5」では介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が7割となっています。

続柄別にみると、「娘」や「子の配偶者」では、何らかの調整を行っている人が、「配偶者（夫・妻）」や「息子」に比べて高くなっています。

図表-237 介護のための、働き方の調整状況 (n=248)



図表－238 要介護度別・続柄別 介護のための、働き方の調整状況

(単位: %)

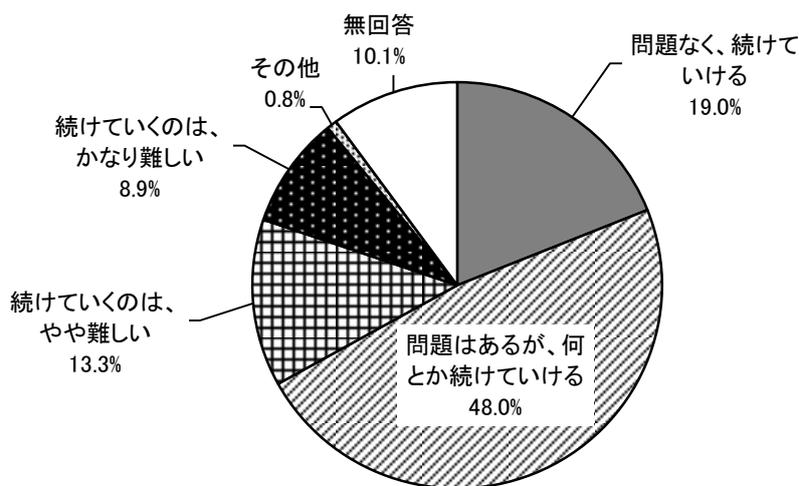
		全体 (n=)	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている	介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、前述以外の調整をしながら、働いている	その他	無回答
全体		248	36.3	29.8	8.5	2.4	12.9	4.4	5.6
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	171	41.5	22.8	9.9	2.9	11.1	5.3	6.4
	要介護 2、3	47	21.3	38.3	8.5	2.1	21.3	4.3	4.3
	要介護 4、5	20	20.0	70.0	-	-	10.0	-	-
	無回答	10	50.0	30.0	-	-	10.0	-	10.0
続柄別	配偶者(夫・妻)	47	29.8	25.5	4.3	4.3	23.4	8.5	4.3
	息子	85	49.4	24.7	9.4	2.4	7.1	1.2	5.9
	娘	77	31.2	35.1	11.7	0	15.6	2.6	3.9
	子の配偶者	32	28.1	37.5	6.3	6.3	6.3	9.4	6.3
	その他	7	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6

(7) 今後、働きながら介護を続けられるか (Q54-2)

仕事をしている主な家族介護者に、今後も働きながら介護を続けていけそうかきいたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」(48.0%)が最も高くなっており、「問題なく、続けていける」(19.0%)と合わせると、67.0%が続けていけるとしています。一方、「続けていくのは難しい(やや13.3%+かなり8.9%)」が22.2%となっています。

続柄別にみると、「娘」や「子の配偶者」は「問題はあるが、何とか続けていける」割合が、「配偶者(夫・妻)」に比べてやや高くなっています。

図表-239 今後、働きながら介護を続けられるか (n=248)



図表-240 続柄別 今後、働きながら介護を続けられるか

(単位:%)

	全体 (n=)	問題なく、 続けていける	問題はあるが、 何とか続けていける	続けていくのは、 やや難しい	続けていくのは、 かなり難しい	その他	無回答
全体	248	19.0	48.0	13.3	8.9	0.8	10.1
配偶者(夫・妻)	47	27.7	36.2	10.6	14.9	-	10.6
息子	85	21.2	51.8	8.2	7.1	2.4	9.4
娘	77	11.7	53.2	18.2	6.5	-	10.4
子の配偶者	32	15.6	53.1	15.6	12.5	-	3.1
その他	7	28.6	-	28.6	-	-	42.9

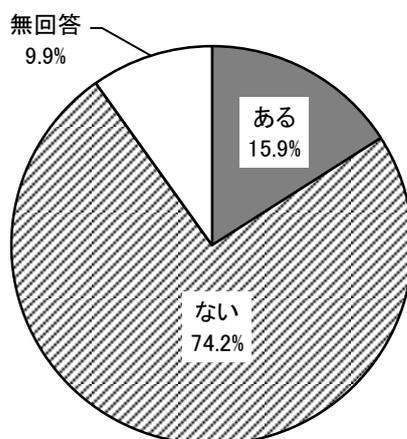
(8) 介護のために離職・転職した経験の有無 (Q55)

主な介護者が、これまでに介護のために仕事を辞めたり、転職した経験があるかについてきいたところ、「ない」が74.2%となっています。一方、「ある」は15.9%となっています。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれ、離職・転職した経験が「ある」割合が高くなっており、「要介護4、5」では「ある」は25%となっています。

続柄別にみると、「娘」は離職・転職した経験が「ある」割合が27%と、他に比べて高くなっています。

図表-241 介護のために離職・転職した経験の有無 (n=690)



図表-242 要介護度別・続柄別 介護のために離職・転職した経験の有無

(単位:%)

		全体(n=)	ある	ない	無回答
全体		690	15.9	74.2	9.9
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	441	12.7	78.0	9.3
	要介護 2、3	152	22.4	66.4	11.2
	要介護 4、5	68	25.0	72.1	2.9
	無回答	29	10.3	62.1	27.6
続柄別	配偶者(夫・妻)	308	11.7	75.6	12.7
	息子	134	12.7	80.6	6.7
	娘	152	27.0	66.4	6.6
	子の配偶者	78	17.9	79.5	2.6
	その他	18	11.1	44.4	44.4

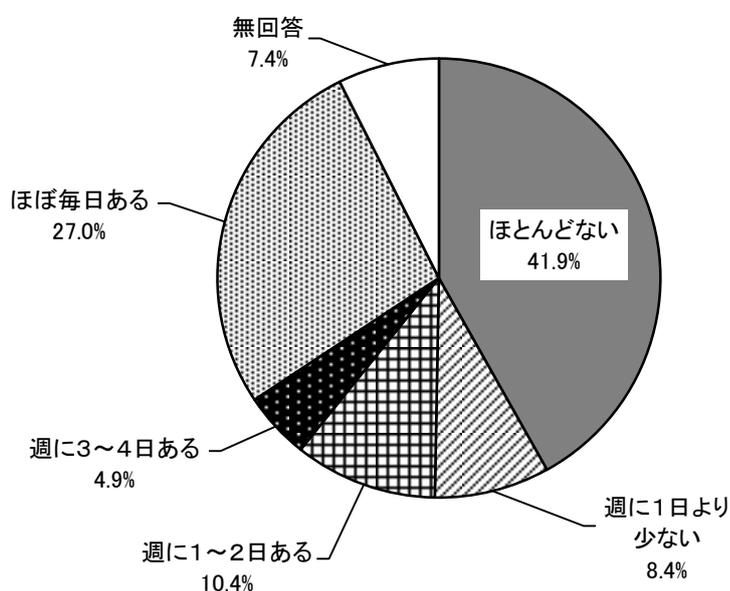
(9) 家族や親族による介護頻度（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）
 (Q56)

家族や親族による介護（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）は、「ほとんどない」が41.9%と最も高くなっています。一方、「ほぼ毎日ある」は27.0%となっています。

要介護度別にみると、「要介護2、3」は、「ほとんどない」が47.4%、「要介護4、5」が45.6%となっています。また「要介護4、5」は、「ほぼ毎日ある」が38.2%となっています。

主な介護者の就労状況別にみると、「ほぼ毎日ある」割合は、「フルタイム」では22.6%、「パートタイム」では25.2%、「働いていない」では29.6%と就労時間が短いほど高くなっています。一方「ほとんどない」は、就労状況別で大きな差異はみられません。

図表-243 家族や親族による介護頻度 (n=690)



図表-244 要介護度別・主な介護者の就労状況別 家族や親族による介護頻度

(単位:%)

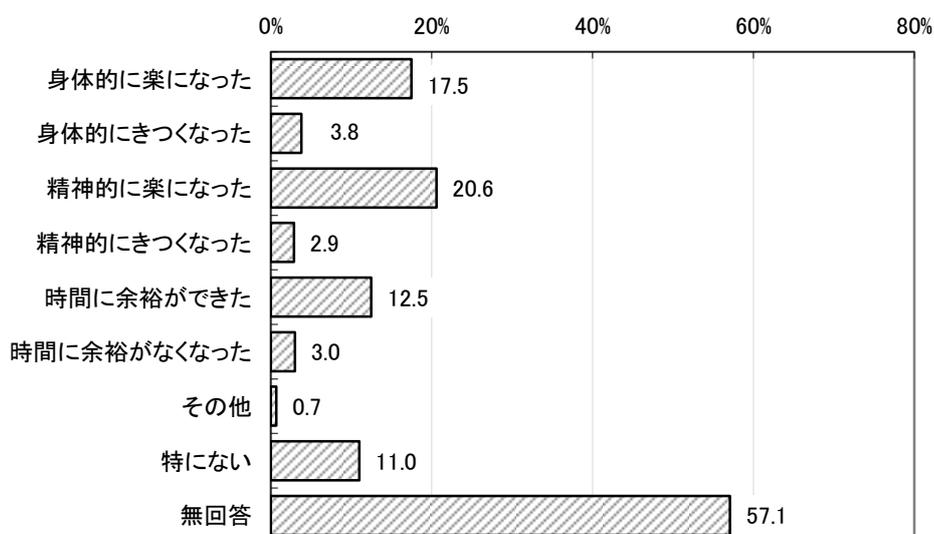
		全体 (n=)	ほとんど ない	週に1日 より少ない	週に1~2日 ある	週に3~4日 ある	ほぼ毎日 ある	無回答
全体		690	41.9	8.4	10.4	4.9	27.0	7.4
要 介 護 度 別	要支援 1、2 と要介護 1	441	39.5	9.5	11.3	5.0	27.0	7.7
	要介護 2、3	152	47.4	7.2	9.2	5.9	23.0	7.2
	要介護 4、5	68	45.6	5.9	5.9	2.9	38.2	1.5
	無回答	29	41.4	3.4	13.8	3.4	20.7	17.2
就 労 状 況 別	フルタイムで働いている	133	42.1	12.8	12.8	5.3	22.6	4.5
	パートタイムで働いている	115	43.5	11.3	9.6	7.0	25.2	3.5
	働いていない	426	41.3	6.6	9.9	4.2	29.6	8.5
	無回答	16	43.8	-	12.5	6.3	6.3	31.3

(10) 居宅サービス利用による、主な家族介護者の生活の変化 (Q57)

居宅サービスを利用することで、主な家族介護者の生活にどのような変化があったかきたところ、「精神的に楽になった」(20.6%)、「身体的に楽になった」(17.5%)などが比較的高くなっています。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれ、「身体的に楽になった」や「精神的に楽になった」の割合が高く、「要介護4、5」では「身体的に楽になった」が約34%となっています。

図表-245 居宅サービス利用による、主な家族介護者の生活の変化 (n=690)



図表-246 要介護度別 居宅サービス利用による、主な家族介護者の生活の変化

(単位: %)

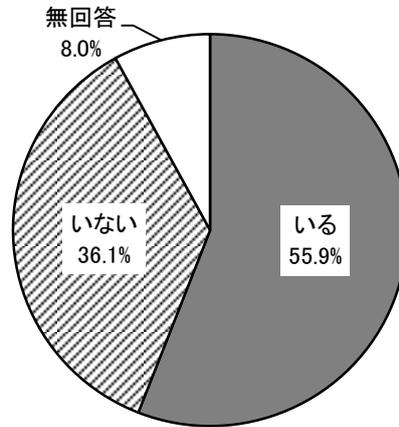
	全体 (n=)	身体的に楽になった	身体的にきつくなった	精神的に楽になった	精神的にきつくなった	時間に余裕ができた
全体	690	17.5	3.8	20.6	2.9	12.5
要支援1、2と要介護1	441	12.9	2.3	18.1	1.6	9.5
要介護2、3	152	24.3	6.6	25.7	4.6	20.4
要介護4、5	68	33.8	7.4	27.9	8.8	16.2
無回答	29	13.8	3.4	13.8	-	6.9

	全体 (n=)	時間に余裕がなくなった	その他	特にない	無回答
全体	690	3.0	0.7	11.0	57.1
要支援1、2と要介護1	441	2.0	0.2	11.1	65.1
要介護2、3	152	3.9	2.0	11.8	42.1
要介護4、5	68	7.4	-	10.3	36.8
無回答	29	3.4	3.4	6.9	62.1

(11) 介護を身近にサポートしてくれる人の有無 (Q58)

主な家族介護者が介護を行ううえで、身近にサポートしてくれる人がいるかきいたところ、「いる」が55.9%、「いない」が36.1%となっています。

図表-247 介護を身近にサポートしてくれる人の有無 (n=690)

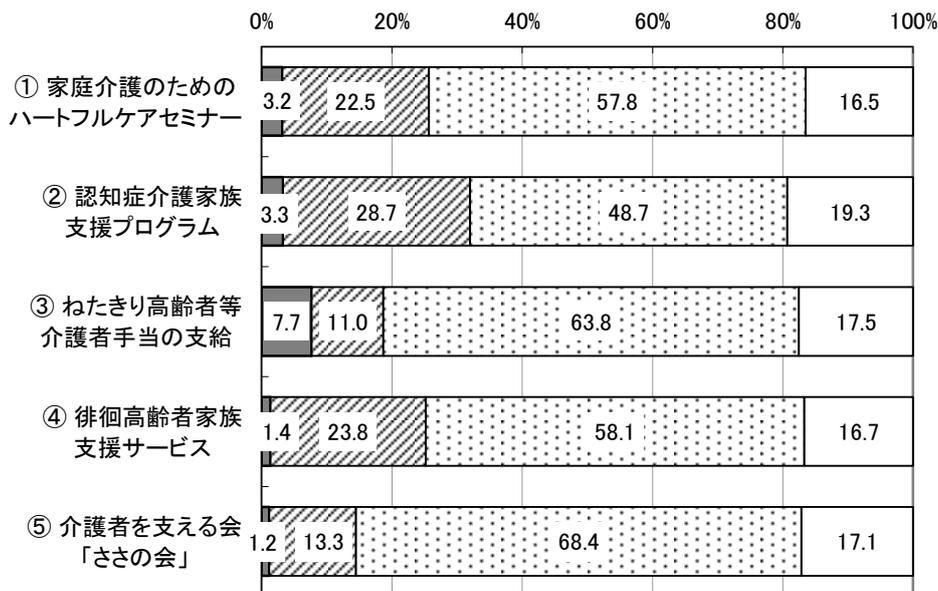


(12) 介護者向けサービスや活動の、現在の利用状況と今後の利用意向 (Q59)

介護者向けサービスや活動について、現在の利用状況をきいたところ、「利用したことがある」のは各項目とも少ないですが、「③ねたきり高齢者等介護者手当の支給」(7.7%)が最も高くなっています。

「知っているが利用したことはない」は、「②認知症介護家族支援プログラム」(28.7%)が最も高く、次いで「④徘徊高齢者家族支援サービス」(23.8%)、「①家族介護のためのハートフルケアセミナー」(22.5%)となっています。

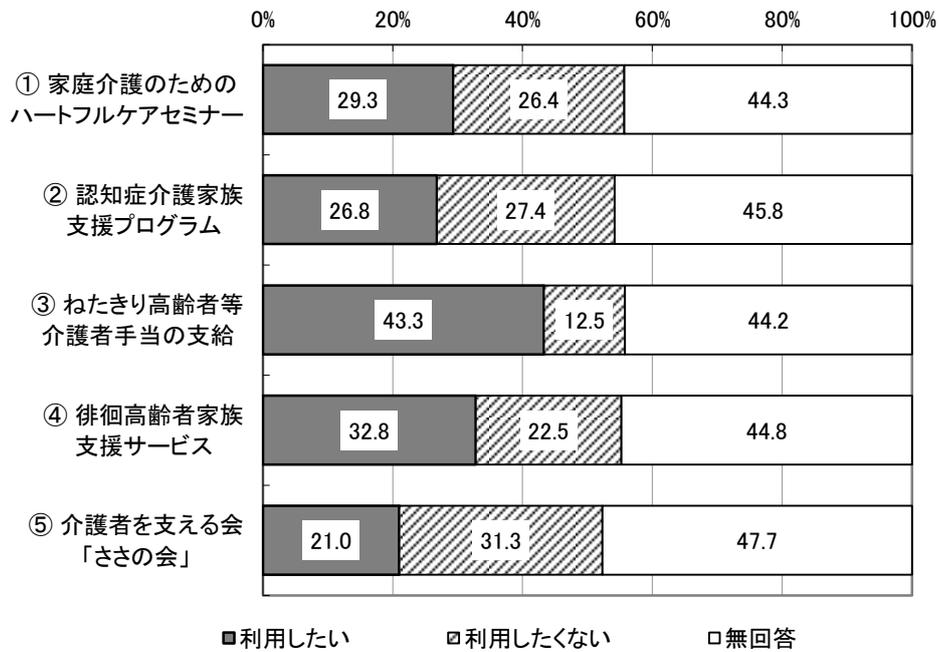
図表-248 介護者向けサービスの、現在の利用状況(n=690)



■利用したことがある □知っているが利用したことはない □知らない □無回答

介護者向けサービスや活動について、今後の利用意向をきいたところ、「利用したい」では、「③ねたきり高齢者等介護者手当の支給」(43.3%)が最も高くなっています。次いで、「④徘徊高齢者家族支援サービス」(32.8%)、「①家族介護のためのハートフルケアセミナー」(29.3%)、「②認知症介護家族支援プログラム」(26.8%)となっています。

図表-249 介護者向けサービスの、今後の利用意向(n=690)



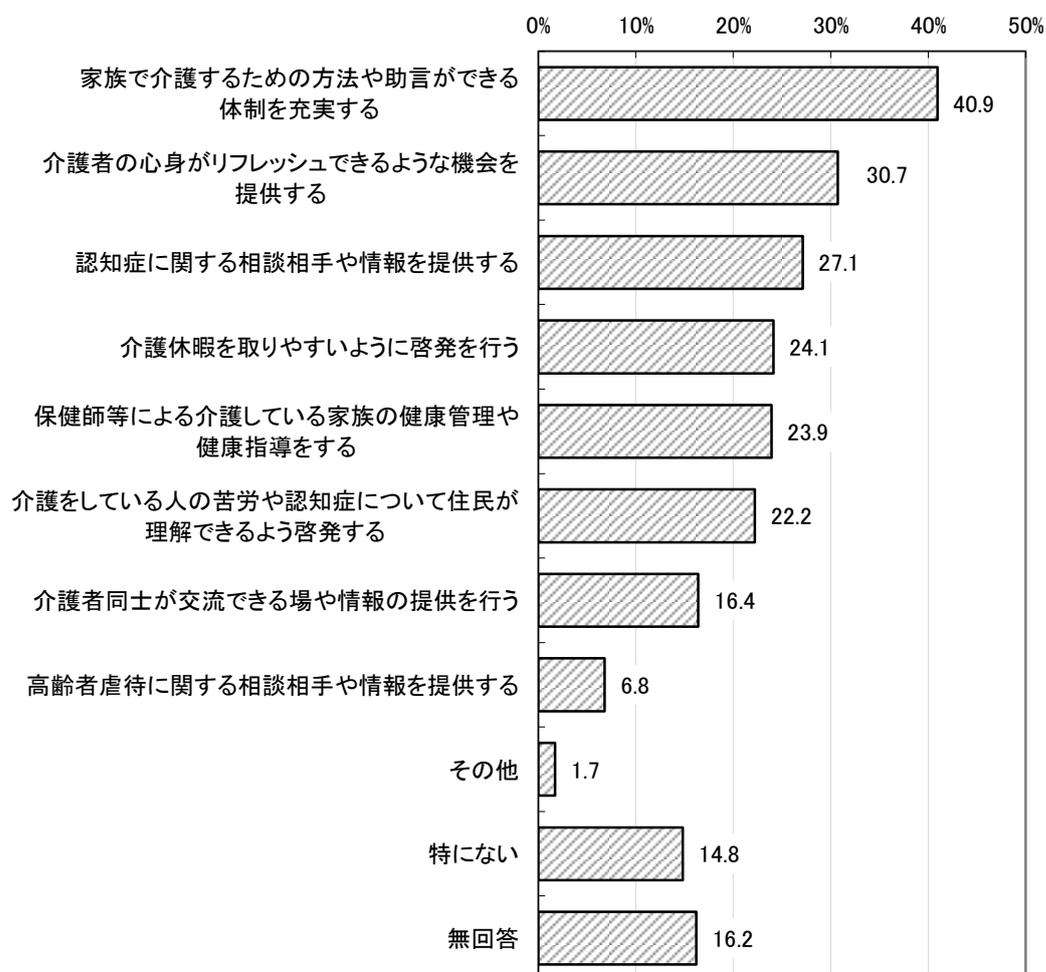
(13) 介護者に必要な支援 (Q60)

今後、介護者に対してどのような支援が必要か聞いたところ、「家族で介護するための方法や助言ができる体制を充実する」(40.9%)が最も高く、次いで「介護者の心身がリフレッシュできるような機会を提供する」(30.7%)、「認知症に関する相談相手や情報を提供する」(27.1%)となっています。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれ、「家族で介護するための方法や助言ができる体制を充実する」や「保健師等による介護している家族の健康管理や健康指導をする」の割合が高くなっています。一方、要介護度が低い方では「認知症に関する相談相手や情報を提供する」が高くなっています。

続柄別にみると、上位にあがっているものに大きな違いはみられないものの、「配偶者(夫・妻)」は「保健師等による介護している家族の健康管理や健康指導をする」を、「娘」は「介護休暇を取りやすいように啓発を行う」をあげる割合が他に比べて高くなっています。

図表-250 介護者に必要な支援 (n=1,170) (複数回答)



図表－251 要介護度別・続柄別 介護者に必要な支援

(単位:%)

		全体 (n=)	家族で介護するための方法や助言ができる体制を充実する	保健師等による介護している家族の健康管理や健康指導をする	認知症に関する相談相手や情報を提供する	高齢者虐待に関する相談相手や情報を提供する	介護者同士が交流できる場や情報の提供を行う	介護者の心身がリフレッシュできるような機会を提供する
全体		690	40.9	23.9	27.1	6.8	16.4	30.7
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	441	39.9	22.7	28.8	6.8	16.1	29.3
	要介護 2、3	152	40.1	24.3	24.3	7.2	18.4	38.2
	要介護 4、5	68	50.0	29.4	22.1	5.9	11.8	25.0
	無回答	29	37.9	27.6	27.6	6.9	20.7	27.6
続柄別	配偶者(夫・妻)	308	43.2	29.9	28.6	6.5	20.8	33.4
	息子	134	43.3	17.2	26.1	5.2	10.4	25.4
	娘	152	37.5	21.1	29.6	9.9	16.4	30.3
	子の配偶者	78	41	21.8	23.1	6.4	12.8	35.9
	その他	18	11.1	5.6	5.6	-	-	5.6

		全体 (n=)	介護をしている人の苦労や認知症について住民が理解できるよう啓発する	介護休暇を取りやすいように啓発を行う	その他	特にない	無回答
全体		690	22.2	24.1	1.7	14.8	16.2
要介護度別	要支援 1、2と要介護 1	441	20.6	23.4	1.6	14.7	16.1
	要介護 2、3	152	27.0	26.3	1.3	15.8	16.4
	要介護 4、5	68	20.6	23.5	4.4	17.6	10.3
	無回答	29	24.1	24.1	-	3.4	31.0
続柄別	配偶者(夫・妻)	308	24.7	19.2	1.3	12.3	19.2
	息子	134	23.9	24.6	0.7	15.7	13.4
	娘	152	17.8	32.9	3.3	15.1	13.8
	子の配偶者	78	21.8	28.2	1.3	17.9	7.7
	その他	18	5.6	11.1	5.6	33.3	44.4